

ひらかたし しょうがいしゃけいかく だい じ
枚方市 障害者計画 (第4次)

ひらかたししょうがいふくしけいかく だい き
枚方市 障害福祉計画 (第6期)

ひらかたししょうがいじふくしけいかく だい き さくてい
枚方市障害児福祉計画 (第2期) 策定のための

ちょう さ けつ か ほうこくしよ
アンケート 調査結果報告書

れいわ ねん がつ
令和3年3月

ひ ら か た し
枚 方 市

もくじ 目次

だい しょう ちょうさ がいよう	第1章 調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査期間と調査方法	1
3	調査対象と回収状況	1
4	報告書の見方	2
だい しょう さいいじょう ちょうさけっか	第2章 「18歳以上」調査結果	3
1	属性	3
2	障害の状況	5
3	住まいや暮らし	11
4	日中活動や就労	22
5	障害福祉サービス等の利用	37
6	相談相手	50
7	権利擁護	54
8	災害時の避難等	60
だい しょう さいいみまん ちょうさけっか	第3章 「18歳未満」調査結果	68
1	属性	68
2	障害の状況	70
3	住まいや暮らし	76
4	日中活動や就労	83
5	障害福祉サービス等の利用	91
6	相談相手	100
7	権利擁護	102
8	災害時の避難等	105
9	保護者への設問	112
だい しょう ていきょうじぎょうしょ ちょうさけっか	第4章 「サービス提供事業所」調査結果	115
1	提供しているサービスについて	115
2	事業所の運営や支援について	123

だい	しょう	しょうがいしゃだんたい	ちょうさけつ	か	
第5章		「障害者団体」	調査結果	138
1	じゆういけん	自由意見		138
2	しょうがいしゃふくし	障害者福祉サービスについて		165

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、令和3年度から8年度を計画期間とする枚方市障害者計画（第4次）、および、令和3年度から5年度を計画期間とする「枚方市障害福祉計画（第6期）」・「枚方市障害児福祉計画（第2期）」の策定にあたって、障害者（児）やその保護者、障害福祉サービス事業所、障害児支援事業所、障害者団体を対象にアンケート調査を行い、福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識・意向、また、生活実態や、事業所・団体の運営状況・ニーズなどを把握し、計画策定および施策推進の基礎資料とするために実施したものです。

2 調査期間と調査方法

●調査期間

「18歳以上」「18歳未満」：令和2年7月17日から令和2年7月31日まで
 「サービス提供事業所」：令和2年7月17日から令和2年8月7日まで
 「障害者団体」：令和2年7月21日から令和2年8月7日まで

●調査方法

「18歳以上」「18歳未満」「サービス提供事業所」：郵送による配布・回収
 「障害者団体」：直接配布・郵送による配付、郵送による回収

3 調査対象と回収状況

調査種類	調査対象	配付数	有効回収数	有効回収率
18歳以上	18歳以上の障害者手帳所持者	1,991	845	42.4%
18歳未満	18歳未満の障害者手帳所持者	300	116	38.7%
サービス提供事業所	枚方市在住の障害者（児）を対象に障害福祉サービスを提供している事業所	300	214	71.3%
障害者団体	ラポールひらかた登録団体のうち障害者関係	63	38	60.3%

■【参考：枚方市の障害種別手帳所持者数】

調査対象	18歳未満	18～64歳	65歳以上	合計
身体障害者手帳所持者	265	3,606	10,944	14,815
療育手帳所持者	1,022	2,335	149	3,506
精神障害者保健福祉手帳所持者	332	3,379	722	4,433
合計	1,619	9,320	11,815	22,754

※障害種別重複あり

■【参考：障害種別実施数】

調査対象	18歳未満	18～64歳	65歳以上	合計
身体障害者手帳所持者	80	595	219	894
療育手帳所持者	140	447	60	647
精神障害者保健福祉手帳所持者	80	550	120	750
合計	300	1,592	399	2,291

4 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において、「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- 図表等の「N (number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。

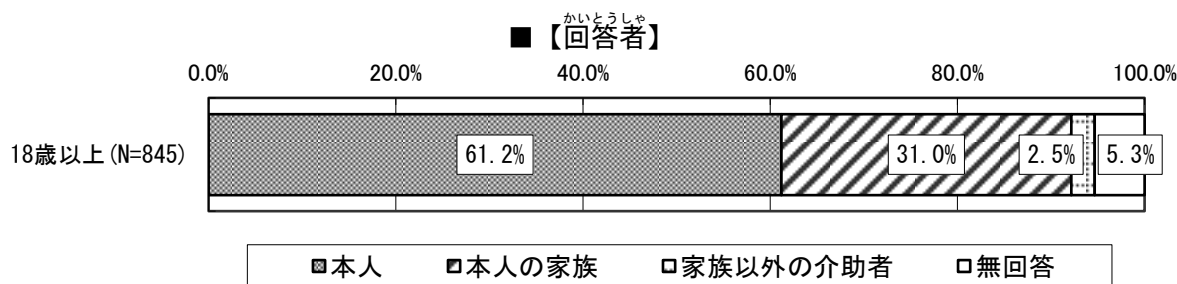
第2章 「18歳以上」調査結果

1 属性

(1) 回答者

問1 お答えいただくのは、どなたですか。(〇は1つだけ)

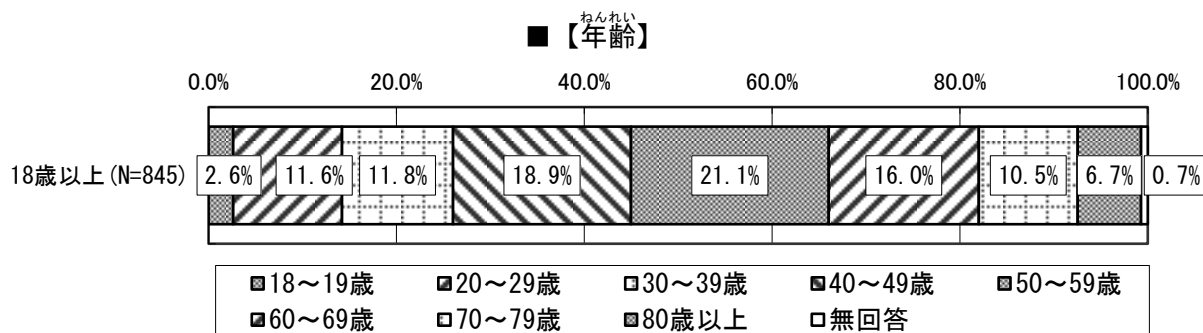
回答者は、「本人(この調査票が郵送された宛名の方)」が61.2%、「本人の家族」が31.0%、「家族以外の介助者」が2.5%となっています。



(2) 年齢 (令和2年7月1日現在)

問2 あなたの年齢をお答えください。(令和2年7月1日現在)

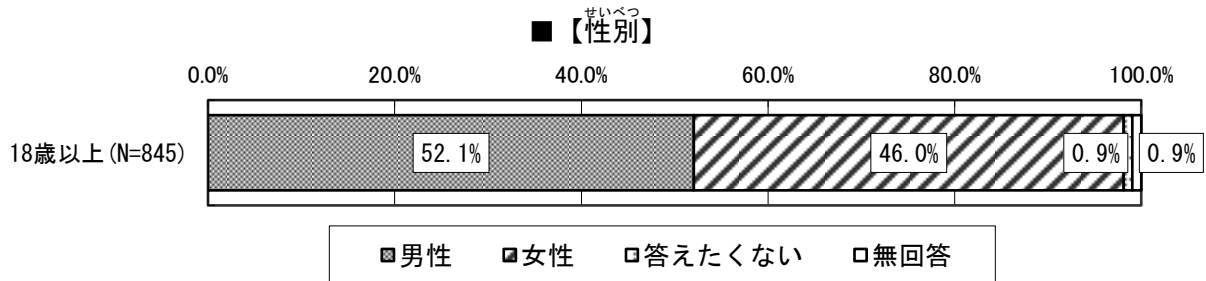
回答者の年齢は、「50～59歳」が21.1%と最も多く、次いで、「40～49歳」が18.9%、「60～69歳」が16.0%となっています。



(3) 性別

問3 あなたが思う性別をお答えください。(○は1つだけ)

回答者の性別構成は、「男性」が52.1%、「女性」が46.0%となっています。



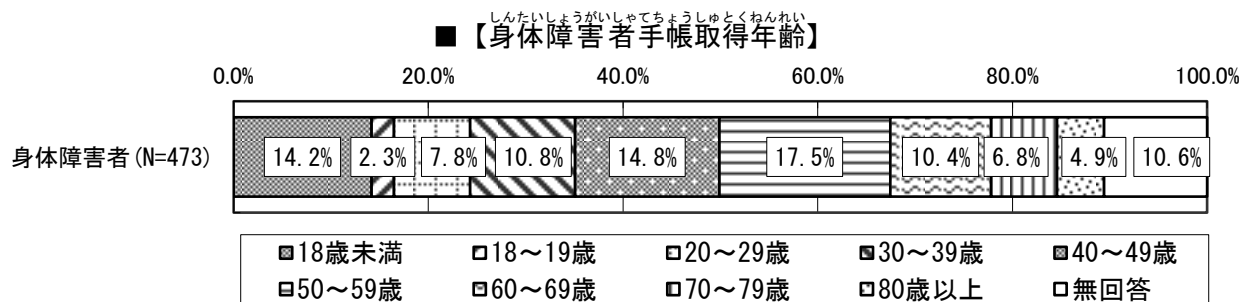
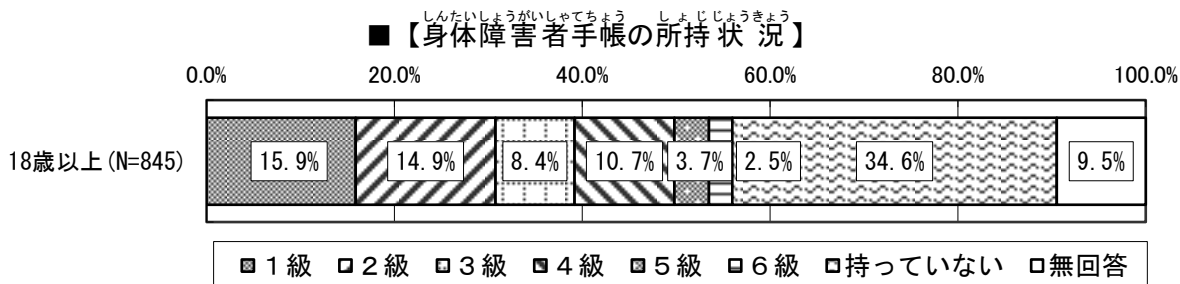
2 障害の状況

(1) 身体障害者手帳の所持状況

問4 あなたは身体障害者手帳をお持ちですか。(〇は総合等級に応じた1つだけ)
また、手帳を取得された時の年齢をお答えください。

身体障害者手帳の有無については、「1級」～「6級」を合わせた『持っている』が56.0%、「持っていない」が34.6%となっています。また、身体障害者等級表による級別は、「1級」が15.9%と最も多く、次いで、「2級」が14.9%、「4級」が10.7%、「3級」が8.4%となっています。

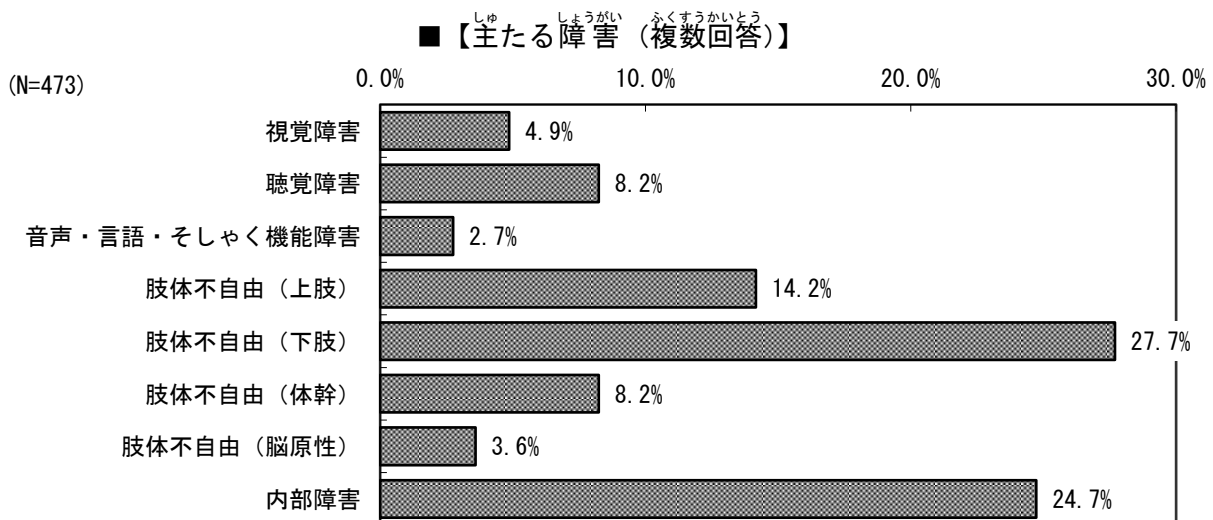
身体障害者手帳をお持ちの方の、手帳を取得した年齢については、「50～59歳」が17.5%と最も多く、次いで、「40～49歳以上」が14.8%、「18歳未満」が14.2%となっています。



(2) 主たる障害

問5 身体障害者手帳をお持ちの場合、主たる障害をお答えください。(複数の障害認定を受けている場合は、等級が最も高いものに○をつけてください)

身体障害者手帳をお持ちの方の、身体障害の障害名については、「肢体不自由(下肢)」が27.7%と最も多く、次いで、「内部障害」が24.7%、「肢体不自由(上肢)」が14.2%、「聴覚障害」「肢体不自由(体幹)」がともに8.2%などとなっています。

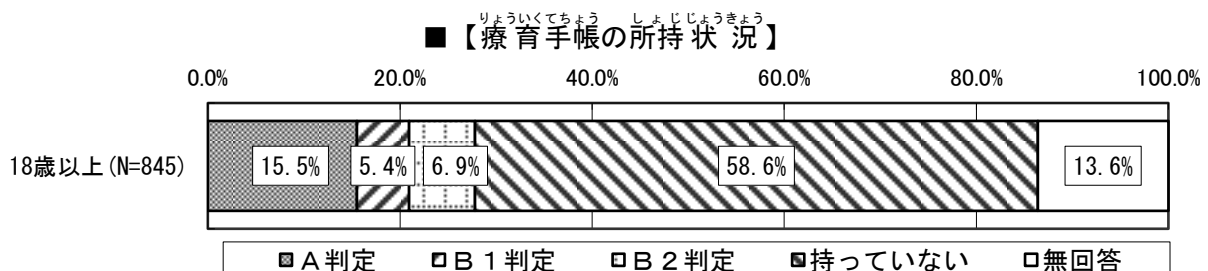


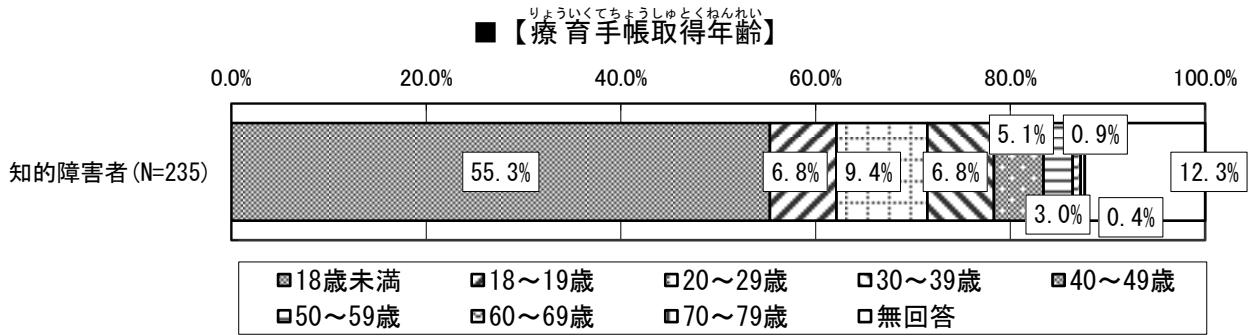
(3) 療育手帳の所持状況

問6 あなたは療育手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)
また、手帳を取得された時の年齢をお答えください。

療育手帳の有無については、「A判定」「B1判定」「B2判定」を合わせた『持っている』が27.8%、「持っていない」が58.6%となっています。また、療育手帳所持者の総合判定は、「A判定」が15.5%と最も多く、次いで、「B2判定」が6.9%、「B1判定」が5.4%となっています。

療育手帳をお持ちの方の、手帳を取得した年齢については、「18歳未満」が55.3%と約半数を占めています。



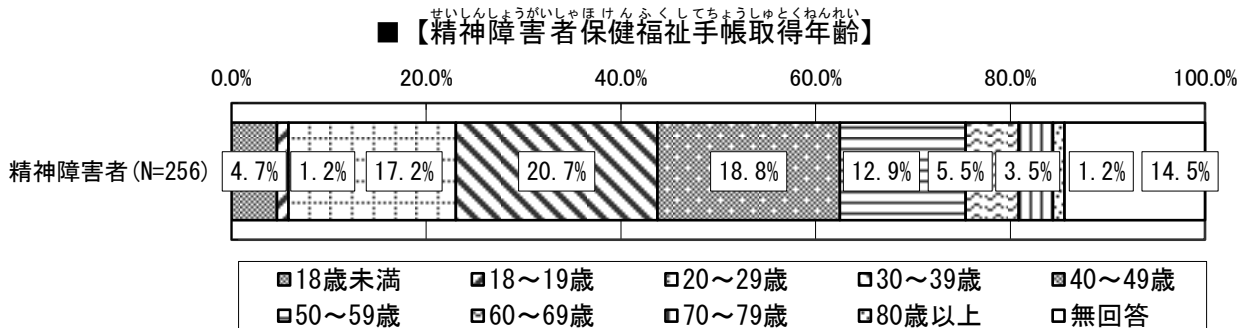
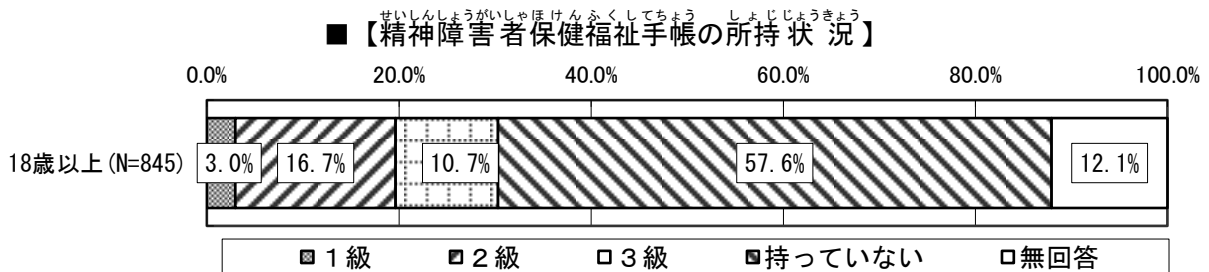


(4) 精神障害者保健福祉手帳の所持状況

問7 あなたは精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)
また、手帳を取得された時の年齢をお答えください。

精神障害者保健福祉手帳の有無については、「1級」「2級」「3級」を合わせた『持っている』が30.3%、「持っていない」が57.6%となっています。また、精神障害者保健福祉手帳所持者の等級は、「2級」が16.7%と最も多く、次いで、「3級」が10.7%、「1級」が3.0%となっています。

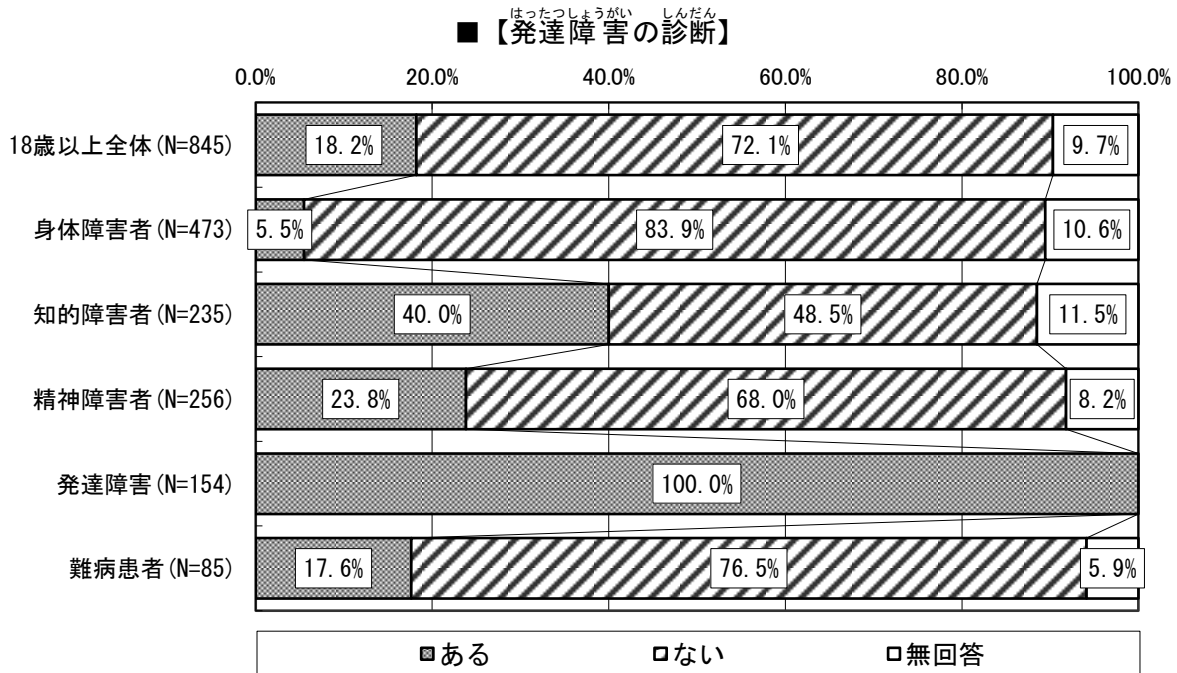
精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方の、手帳を取得した年齢については、「30～39歳」が20.7%と最も多く、次いで、「40～49歳未満」が18.8%、「20～29歳」が17.2%となっています。



(5) 発達障害の診断

問8 あなたは発達障害として診断されたことがありますか。(○は1つだけ)

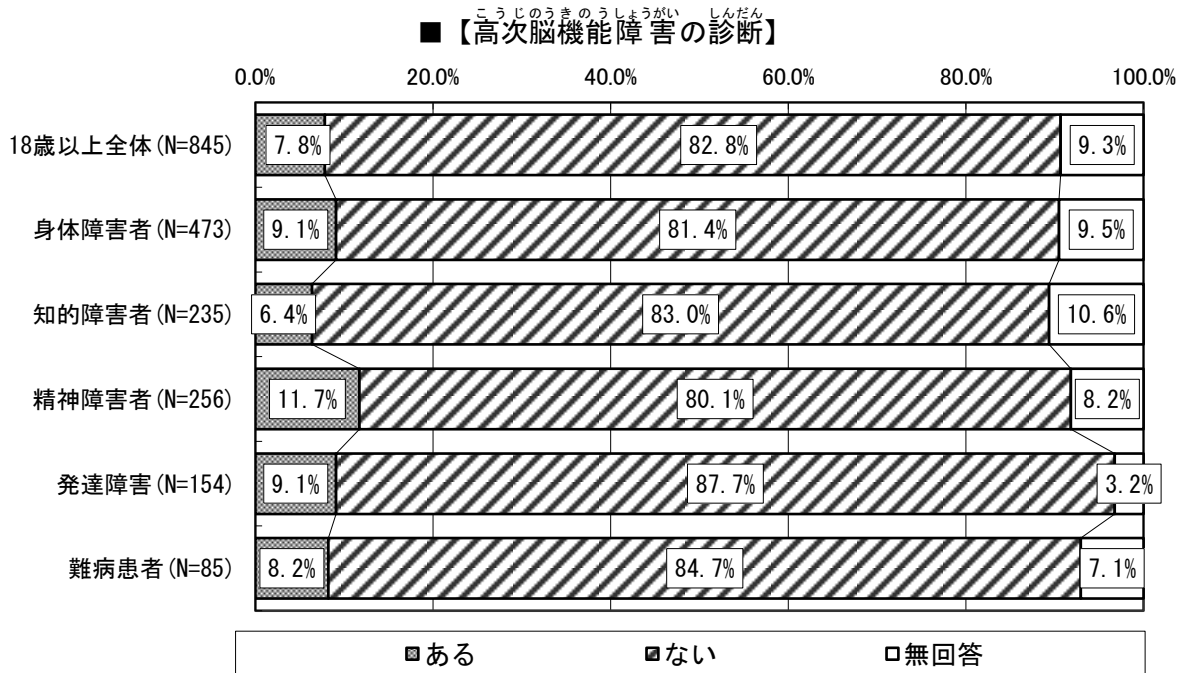
発達障害と診断されたことがあるかについては、「ある」が18.2%、「ない」が72.1%となっています。知的障害者では「ある」が40.0%と4割を占めています。



(6) 高次脳機能障害の診断

問9 あなたは高次脳機能障害として診断されたことがありますか。(〇は1つだけ)

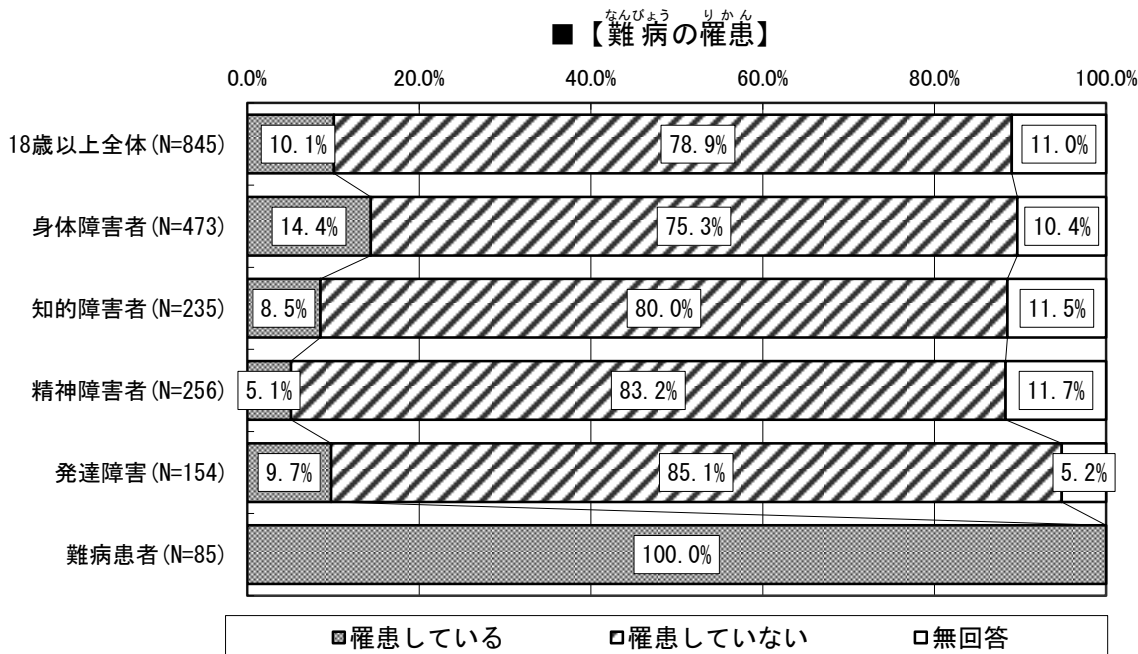
高次脳機能障害と診断されたことがあるかについては、「ある」が7.8%、「ない」が82.8%となっています。精神障害者では「ある」が11.7%と1割を超えています。



(7) 難病の罹患

問10 あなたは難病に罹患していますか。(○は1つだけ)

難病に罹患しているかについては、「罹患している」が10.1%、「罹患していない」が78.9%となっています。



(8) 現在受けている医療ケア

問11 あなたが現在受けている医療ケアをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

現在受けている医療ケアについては、「服薬管理」が22.7%と最も多く、次いで、「透析」が3.9%となっています。

■【現在受けている医療ケア (複数回答)】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
気管切開	3	0.4%	3	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.2%
人工呼吸器 (レスピレーター)	4	0.5%	4	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.4%
吸入	3	0.4%	2	0.4%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
吸引	6	0.7%	5	1.1%	1	0.4%	1	0.4%	0	0.0%	2	2.4%
胃ろう・腸ろう	10	1.2%	8	1.7%	1	0.4%	2	0.8%	0	0.0%	3	3.5%
鼻腔経管栄養	3	0.4%	2	0.4%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	1	1.2%
中心静脈栄養 (IVH)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
透析	33	3.9%	33	7.0%	1	0.4%	2	0.8%	1	0.6%	2	2.4%
カテーテル留置	12	1.4%	11	2.3%	1	0.4%	1	0.4%	0	0.0%	3	3.5%
ストマ (人工肛門・人工膀胱)	15	1.8%	14	3.0%	1	0.4%	1	0.4%	0	0.0%	1	1.2%
服薬管理	192	22.7%	103	21.8%	51	21.7%	70	27.3%	29	18.8%	33	38.8%
その他	62	7.3%	41	8.7%	10	4.3%	18	7.0%	8	5.2%	18	21.2%
有効回答数	845	100.0%	473	100.0%	235	100.0%	256	100.0%	154	100.0%	85	100.0%

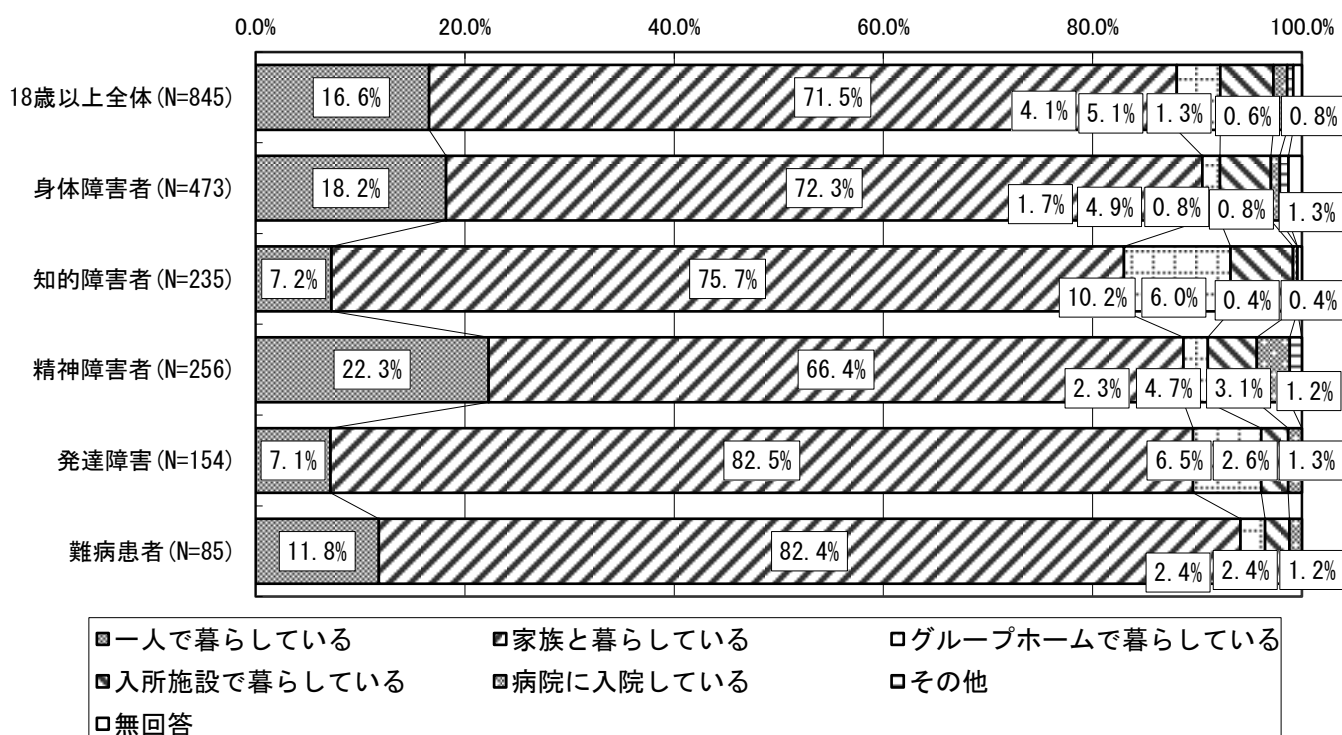
3 す 住まいや暮らし

(1) げんざい 現在の暮らし

問12 あなたは、現在どのように暮らしていますか。(〇は1つだけ)

現在の暮らしについては、「家族と暮らしている」が71.5%と最も多くなっています。知的障害者では「グループホーム」が10.2%と約1割を占めています。

■ 【現在の暮らし】



(2) 同居家族

問13 家族の誰と一緒に暮らしていますか。(あてはまるものすべてに○)

回答者の同居家族は、「母」が51.8%と最も多く、次いで、「配偶者」が39.4%、「父」が39.2%、「兄弟姉妹」が22.0%となっています。

■【同居家族（複数回答）】

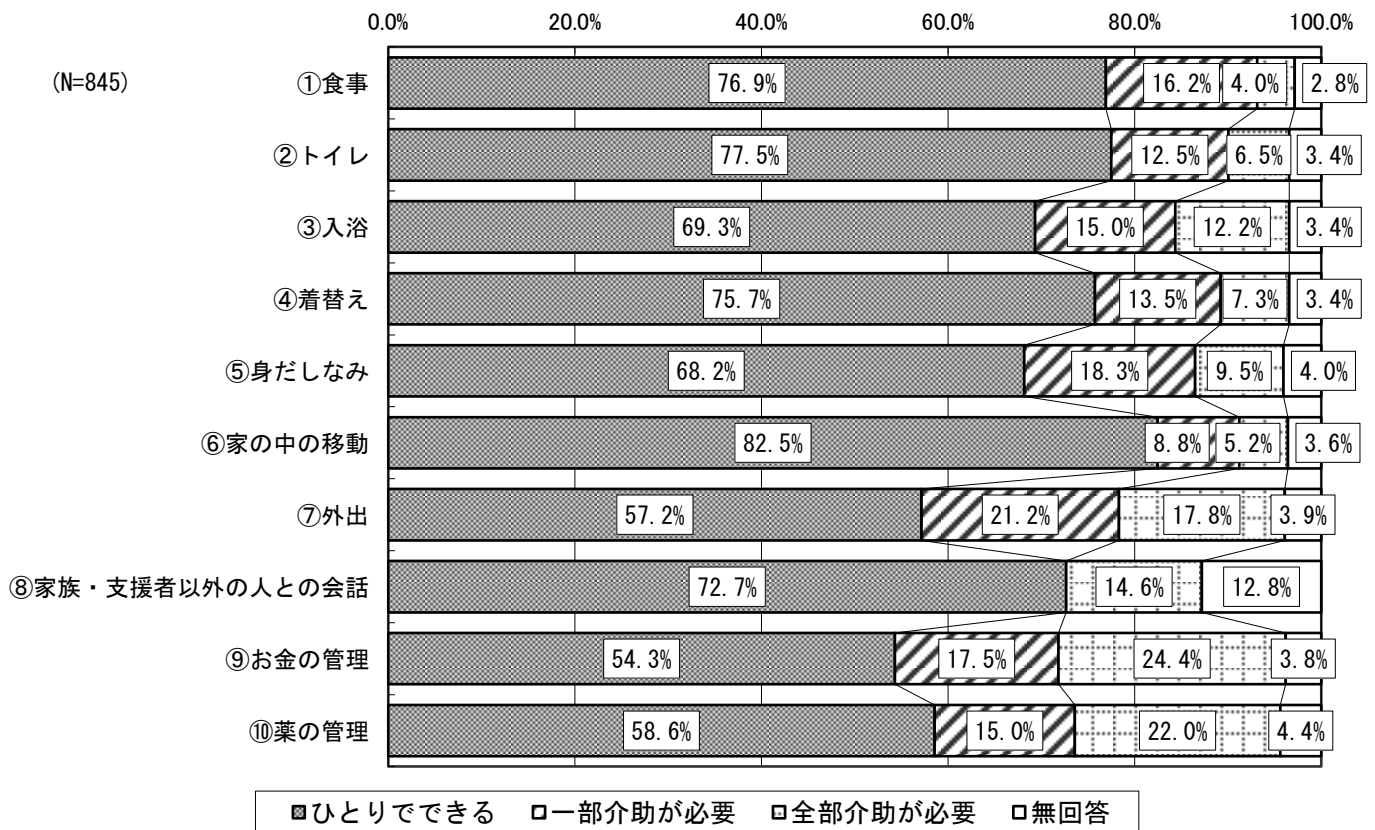
	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
父	237	39.2%	84	24.6%	124	69.7%	79	46.5%	93	73.2%	26	37.1%
母	313	51.8%	119	34.8%	157	88.2%	104	61.2%	113	89.0%	33	47.1%
祖父母	16	2.6%	7	2.0%	8	4.5%	3	1.8%	6	4.7%	1	1.4%
兄弟姉妹	133	22.0%	50	14.6%	78	43.8%	37	21.8%	54	42.5%	13	18.6%
配偶者	238	39.4%	192	56.1%	5	2.8%	51	30.0%	7	5.5%	31	44.3%
子ども	118	19.5%	95	27.8%	2	1.1%	27	15.9%	3	2.4%	11	15.7%
その他	10	1.7%	7	2.0%	3	1.7%	2	1.2%	0	0.0%	1	1.4%
有効回答数	604	100.0%	342	100.0%	178	100.0%	170	100.0%	127	100.0%	70	100.0%

(3) 日常生活の状況

問14 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。①から⑩のそれぞれにお答えください。(①から⑩それぞれに○を1つ)

日常生活におけるさまざまな行動について、①食事、②トイレ、④衣服の着脱、⑥家の中の移動、⑧家族・支援者以外の人との会話の5項目は「ひとりでする」が7割以上と多く、とくに、⑥家の中の移動は82.5%と最も多くなっています。介助が必要（「一部介助が必要」と「全部介助が必要」の合計）は⑨お金の管理では41.9%と4割を超えています。

■【日常生活の状況】



(4) 主な介護者

問15 あなたを介助してくれる方は主に誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

主な介護・介護者については、「母」が46.4%と最も多く、次いで、「施設やグループホームの指導員など」が23.3%、「父」が22.2%、「配偶者」が20.9%となっています。

■【主な介護者（複数回答）】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
父	99	22.2%	40	19.8%	63	34.8%	20	14.9%	38	35.5%	16	30.2%
母	207	46.4%	64	31.7%	135	74.6%	52	38.8%	84	78.5%	28	52.8%
祖父母	3	0.7%	1	0.5%	1	0.6%	2	1.5%	1	0.9%	1	1.9%
兄弟姉妹	54	12.1%	24	11.9%	34	18.8%	15	11.2%	13	12.1%	5	9.4%
配偶者	93	20.9%	65	32.2%	2	1.1%	32	23.9%	5	4.7%	17	32.1%
子ども	39	8.7%	32	15.8%	1	0.6%	9	6.7%	0	0.0%	7	13.2%
施設やグループホームの指導員など	104	23.3%	38	18.8%	60	33.1%	20	14.9%	30	28.0%	7	13.2%
ホームヘルパーなどサービス事業所の人	56	12.6%	35	17.3%	18	9.9%	14	10.4%	13	12.1%	10	18.9%
その他	27	6.1%	11	5.4%	4	2.2%	16	11.9%	3	2.8%	3	5.7%
有効回答数	446	100.0%	202	100.0%	181	100.0%	134	100.0%	107	100.0%	53	100.0%

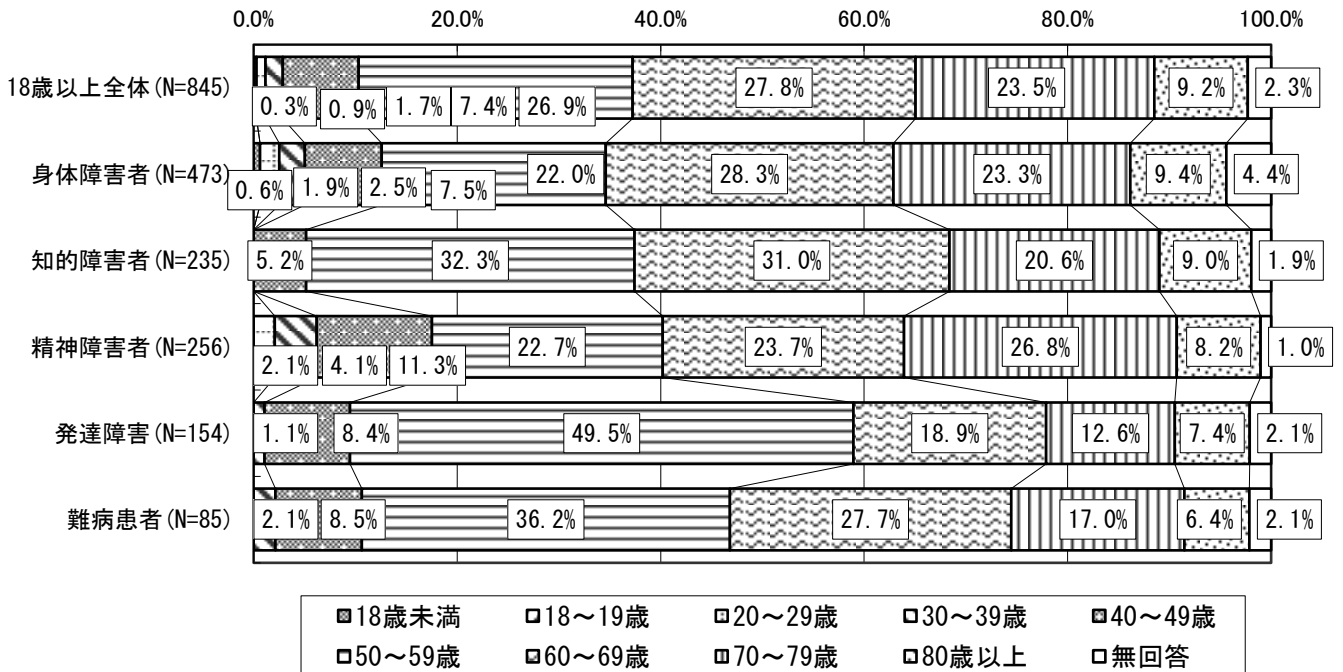
(5) 介助者の状態

問16 あなたを介助してくれる家族で、特に中心となっている方についてお答えください。

① 年齢
 ② 性別 (〇は1つだけ)
 ③ 健康状態 (〇は1つだけ)

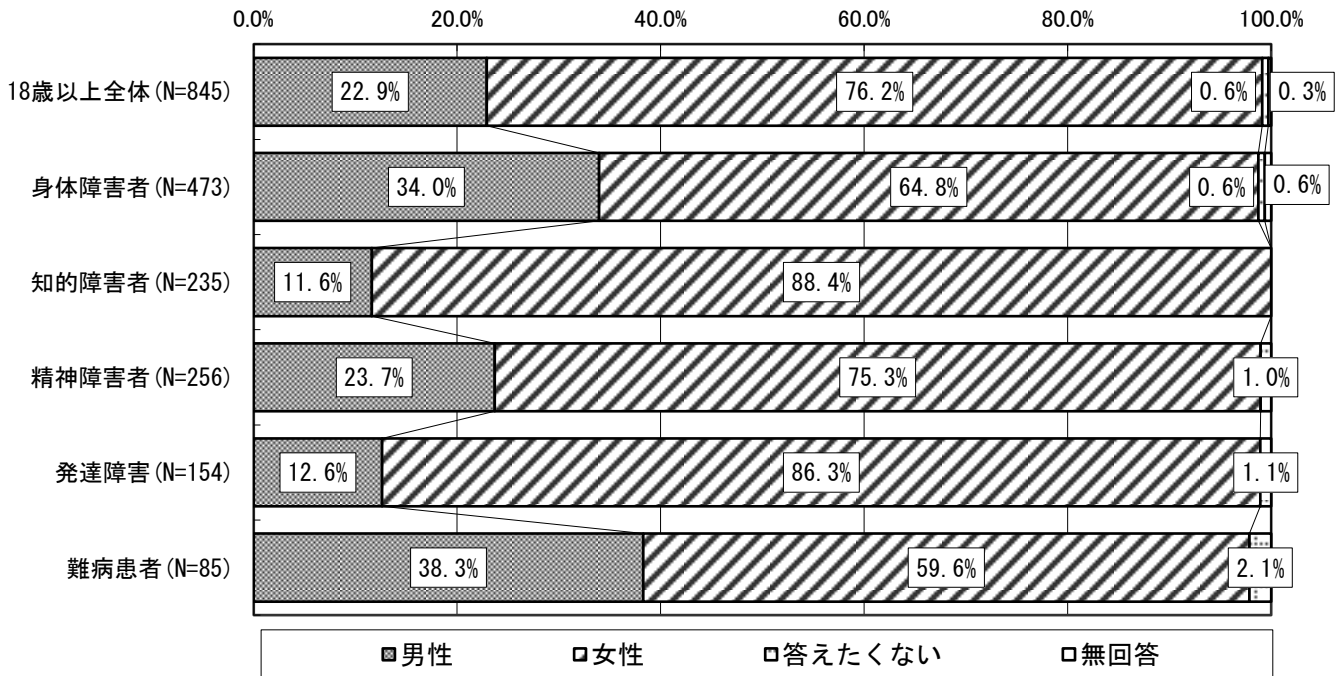
主な介助者の年齢については、「60～69歳」が27.8%と最も多く、次いで、「50～59歳」が26.9%、「70～79歳」が23.5%で、60歳以上が約6割を占めています。

■ 【介助者の年齢】

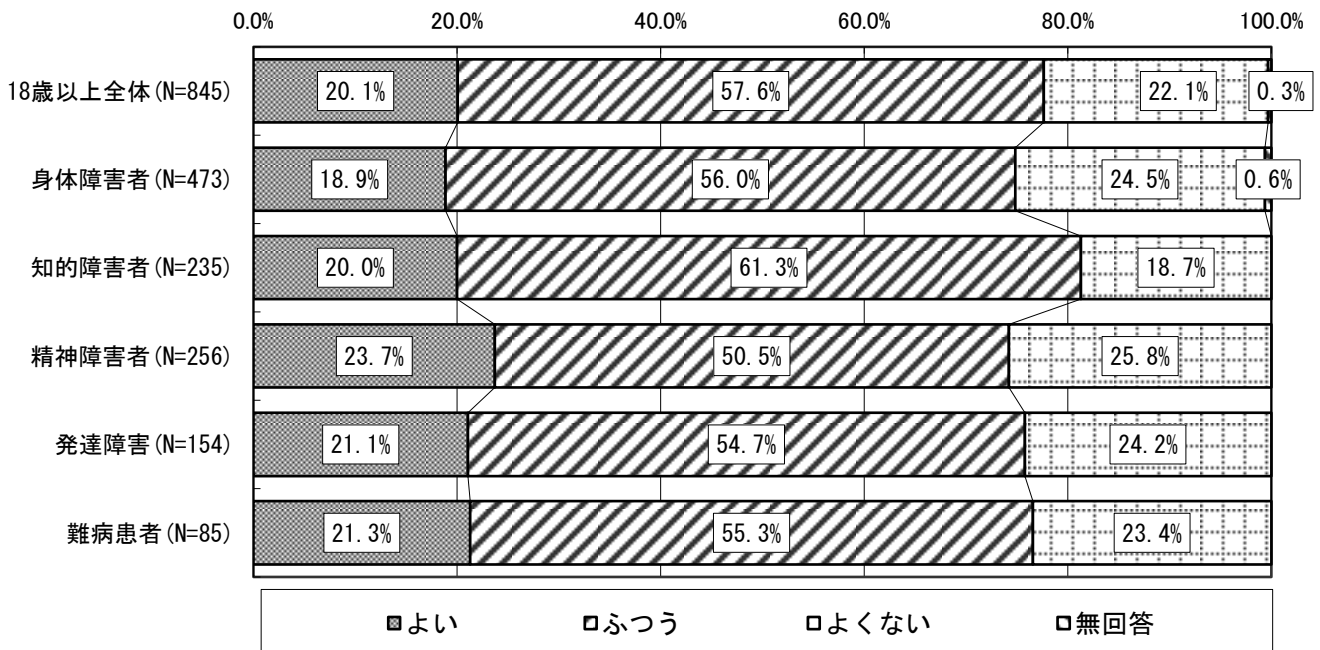


おも かいじょしゃ せいべつ
 主な介助者の性別については、「女性」が76.2%、「男性」が22.9%となっています。
 おも かいじょしゃ けんこうじょうたい
 主な介助者の健康状態については、「ふつう」が57.6%で最も多く、次いで「よくない」が22.1%となっています。

■ 【介助者の性別】



■ 【介助者の健康状態】

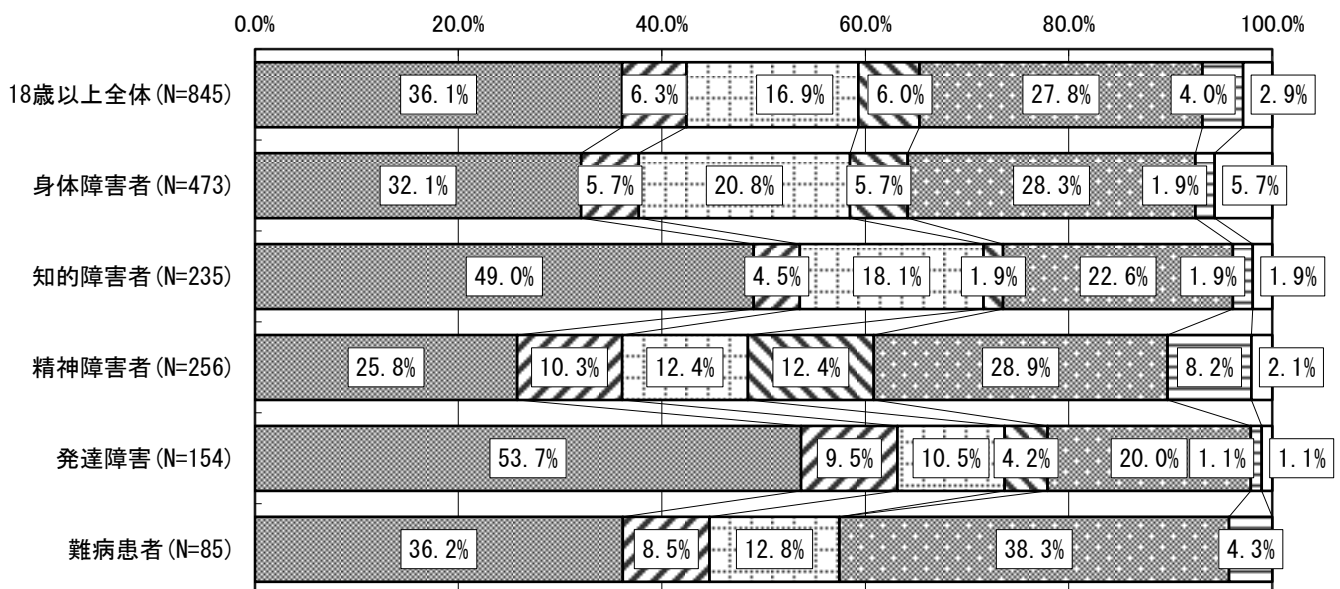


(6) 介助者が一時的に介助ができなくなった場合の対応

問16④ 主に介助をしている方が病気・事故・休養等で一時的に介助ができなくなった場合の対応についてどのようにされますか。(〇は1つだけ)

主に介助をしている方が病気・事故・休養等で一時的に介助ができなくなった場合には、「他の家族が介助する」が36.1%と最も多く、次いで、「対応できず困る」が27.8%、「短期入所サービスや日中一時支援事業を利用する」が16.9%となっています。精神障害者・難病患者では「対応できず困る」が最も多くなっています。

■【介助者が一時的に介助ができなくなった場合の対応】



- 他の家族が介助する
- 近くの親族や知り合いなどが介助する
- 短期入所サービスや日中一時支援事業を利用する
- 一人でできる（あまり困らない）
- 対応できず困る
- その他
- 無回答

(7) 介助で困っていること

問16⑤ 介助で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

介助で困っていることについては、「精神的負担が大きい」が50.4%と最も多く、次いで、「身体的負担が大きい」が35.0%、「経済的負担が大きい」が23.8%となっています。

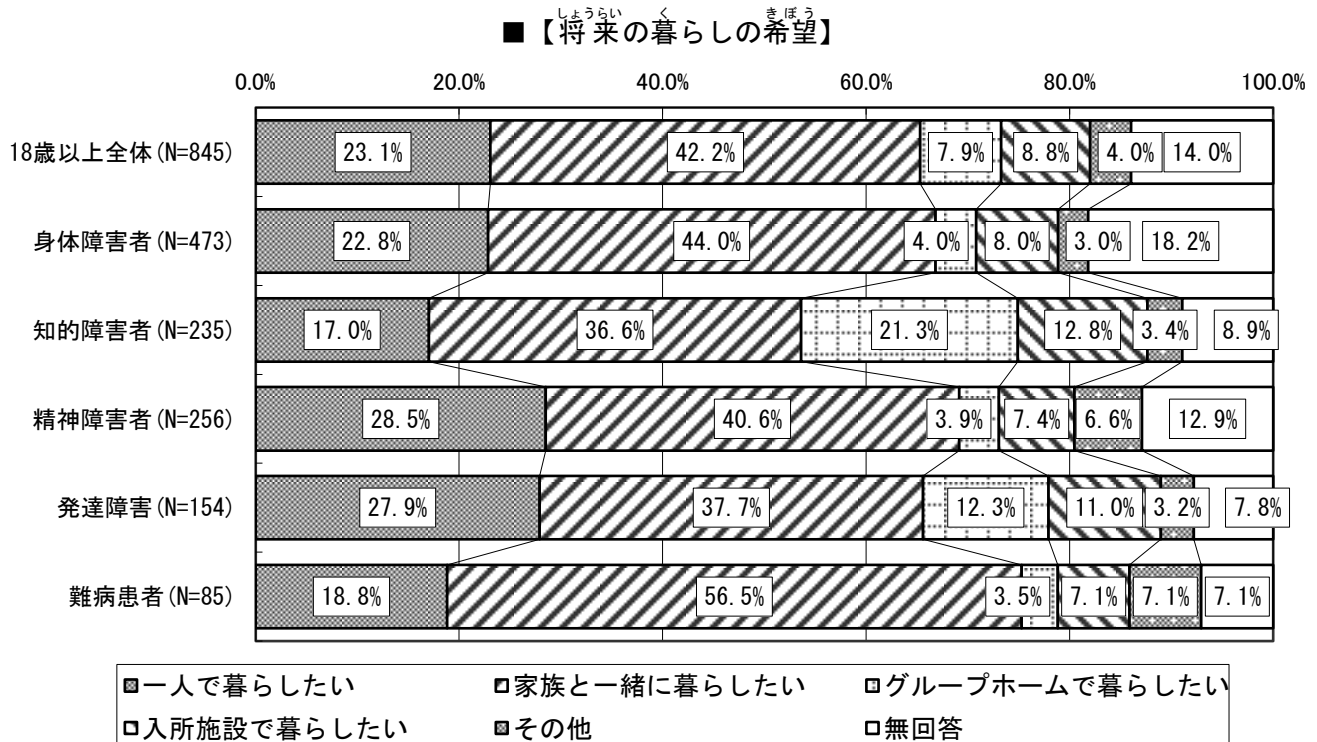
■【介助で困っていること（複数回答）】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
精神的負担が大きい	176	50.4%	75	47.2%	84	54.2%	56	57.7%	52	54.7%	24	51.1%
経済的負担が大きい	83	23.8%	46	28.9%	29	18.7%	28	28.9%	22	23.2%	9	19.1%
身体的負担が大きい	122	35.0%	64	40.3%	57	36.8%	30	30.9%	30	31.6%	18	38.3%
協力がいない(手伝ってくれる人がいない)	78	22.3%	37	23.3%	36	23.2%	20	20.6%	19	20.0%	11	23.4%
その他	20	5.7%	7	4.4%	8	5.2%	7	7.2%	4	4.2%	2	4.3%
有効回答数	349	100.0%	159	100.0%	155	100.0%	97	100.0%	95	100.0%	47	100.0%

(8) 将来の暮らしの希望

問17 あなたは将来どのように暮らしたいと思いますか。(〇は1つだけ)

将来どのように暮らしたいかについては、「家族と一緒に暮らしたい」が42.2%と最も多く、次いで、「一人で暮らしたい」が23.1%となっています。



(9) 通院時や医療を受けるにあたって困っていること

問18 通院時や医療を受けるにあたって困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

通院時や医療を受けるにあたって困っていることについては、「公共交通機関(バス・電車等)を利用することが困難」が24.7%で最も多く、次いで「医者や看護師とのコミュニケーション」が22.7%となっています。知的障害者・発達障害では「医者や看護師とのコミュニケーション」が4割以上と多くなっています。

【通院時や医療を受けるにあたって困っていること(複数回答)】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
公共交通機関(バス・電車等)を利用することが困難	209	24.7%	119	25.2%	64	27.2%	63	24.6%	35	22.7%	27	31.8%
支援者を見つけることが困難	99	11.7%	43	9.1%	54	23.0%	22	8.6%	34	22.1%	14	16.5%
医者や看護師とのコミュニケーション	192	22.7%	71	15.0%	104	44.3%	45	17.6%	66	42.9%	22	25.9%
感染症に感染することが不安なため通院ができなくなった	60	7.1%	36	7.6%	17	7.2%	17	6.6%	14	9.1%	14	16.5%
その他	82	9.7%	35	7.4%	28	11.9%	33	12.9%	16	10.4%	12	14.1%
有効回答数	845	100.0%	473	100.0%	235	100.0%	256	100.0%	154	100.0%	85	100.0%

(10) 地域で生活するために必要な支援

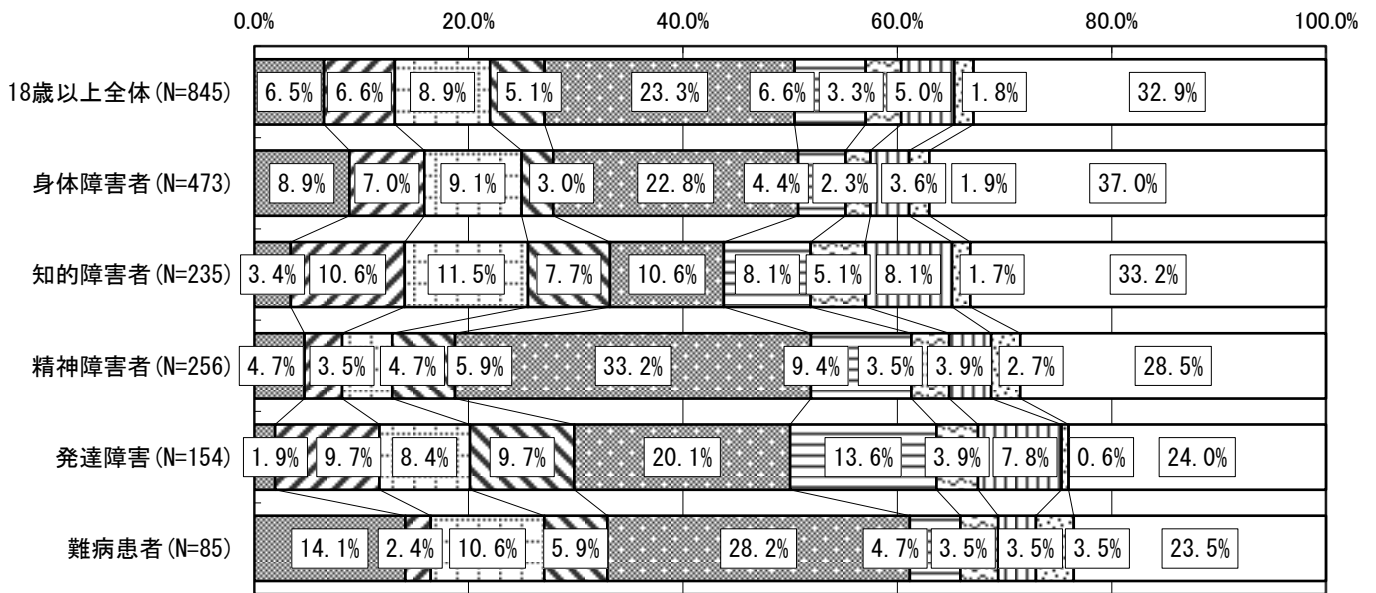
問19 地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思うかについては、「経済的な負担の軽減」が50.2%と最も多く、次いで、「相談対応等の充実」が36.0%、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が33.8%、「障害者に適した住居の確保」が28.4%などとなっています。知的障害者や発達障害では「相談対応等の充実」や「コミュニケーションについての支援」が4割以上と高くなっています。

【地域で生活するために必要な支援(複数回答)】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
在宅で医療ケアなどが適切に受けられること	226	26.7%	142	30.0%	60	25.5%	48	18.8%	34	22.1%	38	44.7%
障害者に適した住居の確保	240	28.4%	142	30.0%	80	34.0%	61	23.8%	47	30.5%	24	28.2%
必要な在宅サービスが適切に利用できること	286	33.8%	164	34.7%	98	41.7%	65	25.4%	51	33.1%	39	45.9%
自立生活(一人暮らし、結婚生活等)が体験できる場の確保	148	17.5%	54	11.4%	49	20.9%	61	23.8%	53	34.4%	13	15.3%
経済的な負担の軽減	424	50.2%	221	46.7%	108	46.0%	151	59.0%	92	59.7%	55	64.7%
相談対応等の充実	304	36.0%	132	27.9%	111	47.2%	104	40.6%	80	51.9%	34	40.0%
地域住民等の理解	191	22.6%	71	15.0%	88	37.4%	62	24.2%	57	37.0%	23	27.1%
コミュニケーションについての支援	201	23.8%	72	15.2%	98	41.7%	62	24.2%	63	40.9%	19	22.4%
その他	29	3.4%	14	3.0%	8	3.4%	13	5.1%	2	1.3%	4	4.7%
有効回答数	845	100.0%	473	100.0%	235	100.0%	256	100.0%	154	100.0%	85	100.0%

■【地域で生活するために必要な支援（最も必要なもの）】



- 在宅で医療ケアなどが適切に受けられること
- 障害者に適した住居の確保
- 必要な在宅サービスが適切に利用できること
- 自立生活（一人暮らし、結婚生活等）が体験できる場の確保
- 経済的な負担の軽減
- 相談対応等の充実
- 地域住民等の理解
- コミュニケーションについての支援
- その他
- 無回答

4 日中活動や就労

(1) 外出の目的

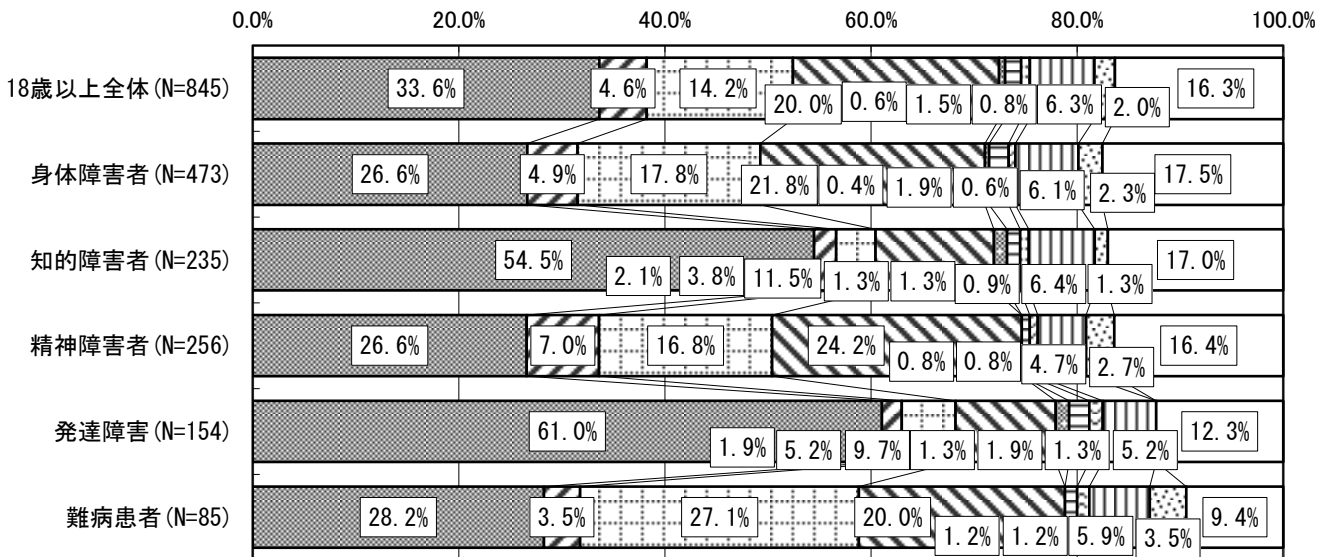
問20 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。
(あてはまるものすべてに○)

外出する目的については、「買い物に行く」と「医療機関への受診」がともに66.4%で最も多く、次いで、「通園・通所・通学・通勤」が43.8%、「散歩に行く」が33.1%などとなっています。

■【外出の目的（複数回答）】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
通園・通所・通学・通勤	370	43.8%	169	35.7%	162	68.9%	88	34.4%	114	74.0%	34	40.0%
訓練やリハビリに行く	93	11.0%	61	12.9%	18	7.7%	28	10.9%	11	7.1%	7	8.2%
医療機関への受診	538	63.7%	317	67.0%	123	52.3%	173	67.6%	87	56.5%	63	74.1%
買い物に行く	538	63.7%	300	63.4%	148	63.0%	159	62.1%	99	64.3%	44	51.8%
友人・知人に会う	158	18.7%	100	21.1%	34	14.5%	35	13.7%	31	20.1%	15	17.6%
趣味やスポーツをする	152	18.0%	80	16.9%	42	17.9%	44	17.2%	43	27.9%	13	15.3%
グループ活動に参加する	63	7.5%	29	6.1%	21	8.9%	15	5.9%	11	7.1%	6	7.1%
散歩に行く	280	33.1%	145	30.7%	91	38.7%	79	30.9%	57	37.0%	25	29.4%
その他	35	4.1%	17	3.6%	13	5.5%	14	5.5%	7	4.5%	5	5.9%
有効回答数	845	100.0%	473	100.0%	235	100.0%	256	100.0%	154	100.0%	85	100.0%

■【外出の目的（最も多いもの）】

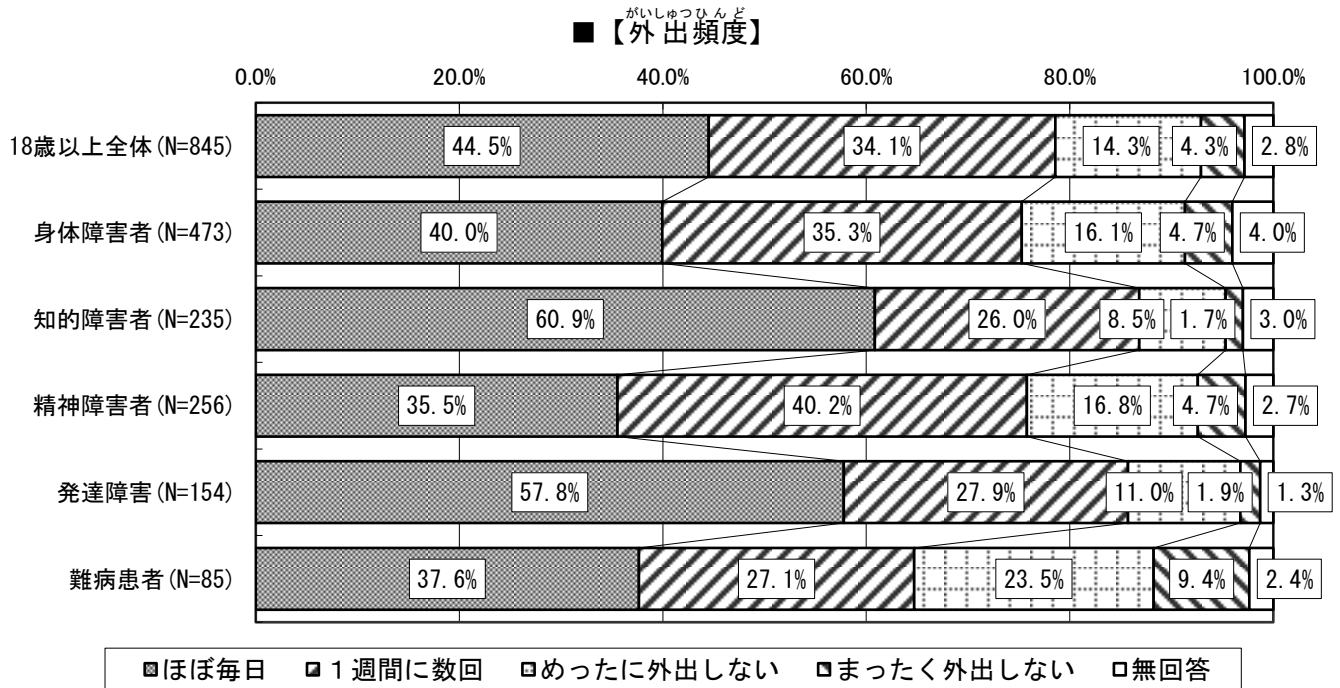


- 通園・通所・通学・通勤
- 買い物に行く
- グループ活動に参加する
- 散歩に行く
- 無回答
- 訓練やリハビリに行く
- 友人・知人に会う
- 趣味やスポーツをする
- 医療機関への受診
- その他

(2) がいしゅつひんど 外出頻度

問21 あなたは1週間にどの程度の外出をしますか。(〇は1つだけ)

外出頻度については、「ほぼ毎日」が44.5%で最も多く、次いで、「1週間に数回」が34.1%となっています。難病患者では「めったに外出しない」が23.5%、「まったく外出しない」が9.4%と他の障害に比べて多くなっています。



(3) 外出について困ること

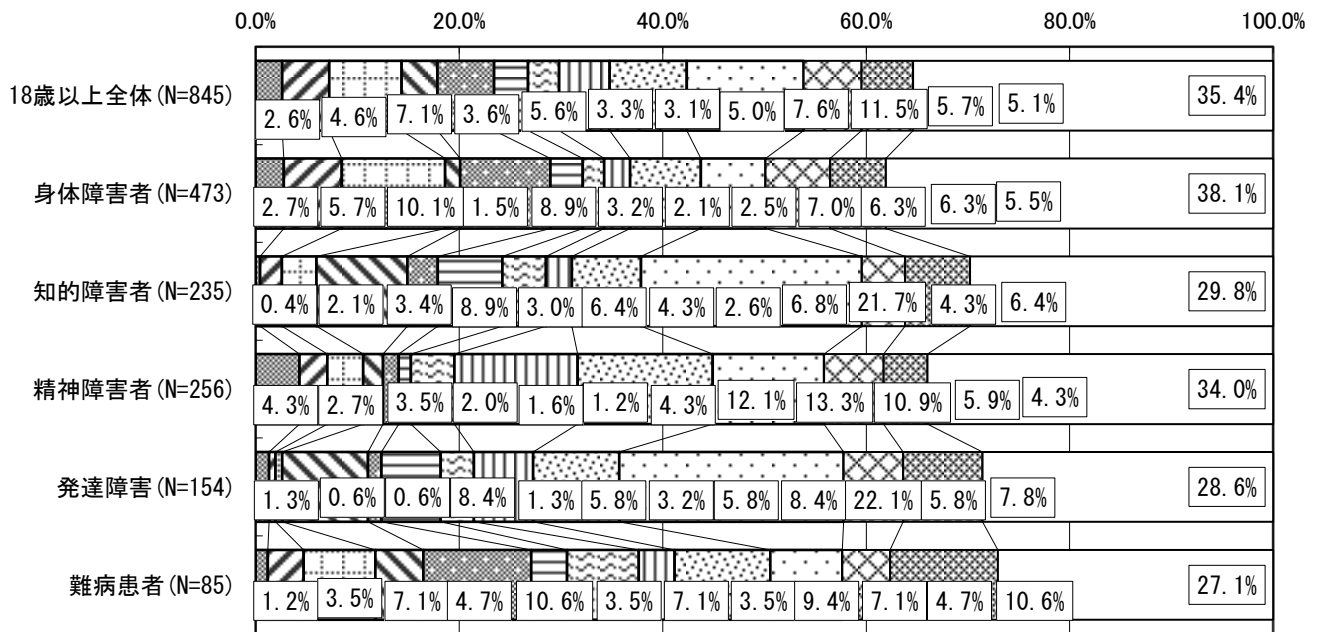
問22 外出について困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

外出について困ることについては、「困った時にどうすればいいの心配」が27.6%と最も多く、次いで、「休憩できる場所が少ない」が22.6%、「道路や駅に階段や段差が多い」が19.4%などとなっています。身体障害者では「道路や駅に階段や段差が多い」が26.8%で最も多くなっています。

【外出について困ること（複数回答）】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
公共交通機関が少ない（ない）	66	7.8%	40	8.5%	13	5.5%	23	9.0%	7	4.5%	4	4.7%
列車やバスの乗り降りが困難	138	16.3%	93	19.7%	32	13.6%	27	10.5%	13	8.4%	15	17.6%
道路や駅に階段や段差が多い	164	19.4%	127	26.8%	27	11.5%	28	10.9%	9	5.8%	19	22.4%
切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい	106	12.5%	26	5.5%	74	31.5%	19	7.4%	36	23.4%	12	14.1%
外出先の建物の設備が不便（通路、トイレ、エレベーター等）	124	14.7%	99	20.9%	26	11.1%	14	5.5%	7	4.5%	18	21.2%
介助者が確保できない	83	9.8%	35	7.4%	46	19.6%	12	4.7%	22	14.3%	9	10.6%
外出にお金がかかる（ヘルパーの利用料など）	92	10.9%	47	9.9%	31	13.2%	33	12.9%	22	14.3%	14	16.5%
周囲の目が気になる	123	14.6%	47	9.9%	41	17.4%	59	23.0%	36	23.4%	15	17.6%
発作等突然の身体の変化が心配	133	15.7%	78	16.5%	32	13.6%	57	22.3%	24	15.6%	16	18.8%
困った時にどうすればいいの心配	233	27.6%	85	18.0%	105	44.7%	73	28.5%	70	45.5%	23	27.1%
休憩できる場所が少ない	191	22.6%	115	24.3%	45	19.1%	56	21.9%	28	18.2%	18	21.2%
その他	61	7.2%	31	6.6%	22	9.4%	20	7.8%	16	10.4%	13	15.3%
有効回答数	845	100.0%	473	100.0%	235	100.0%	256	100.0%	154	100.0%	85	100.0%

■【外出について困ること（最も困ること）】



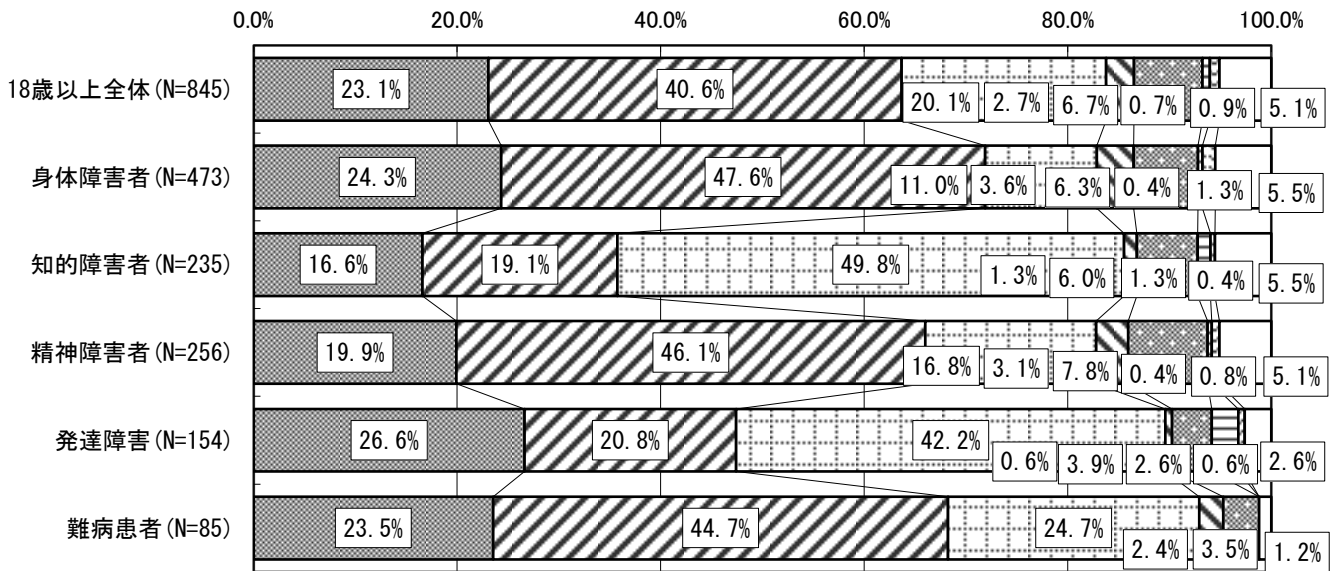
- 公共交通機関が少ない（ない）
- 列車やバスの乗り降りが困難
- 道路や駅に階段や段差が多い
- 切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい
- 外出先の建物の設備が不便（通路、トイレ、エレベーター等）
- 介助者が確保できない
- 外出にお金がかかる（ヘルパーの利用料など）
- 周囲の目が気になる
- 発作等突然の身体の変化が心配
- 困った時にどうすればいいのかが心配
- 休憩できる場所が少ない
- その他
- 無回答

(4) 平日日中の過ごし方

問23 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(〇は1つだけ)

平日の日中の過ごし方については、「自宅で過ごしている」が40.6%と最も多く、次いで、「会社勤めや、自営業、家業等で収入を得て仕事をしている」が23.1%、「福祉施設、通所事業所等に通っている(就労継続支援A型を含む)」が20.1%などとなっています。知的障害者と発達障害では「福祉施設、通所事業所等に通っている(就労継続支援A型を含む)」が最も多くなっています。

■【平日日中の過ごし方】

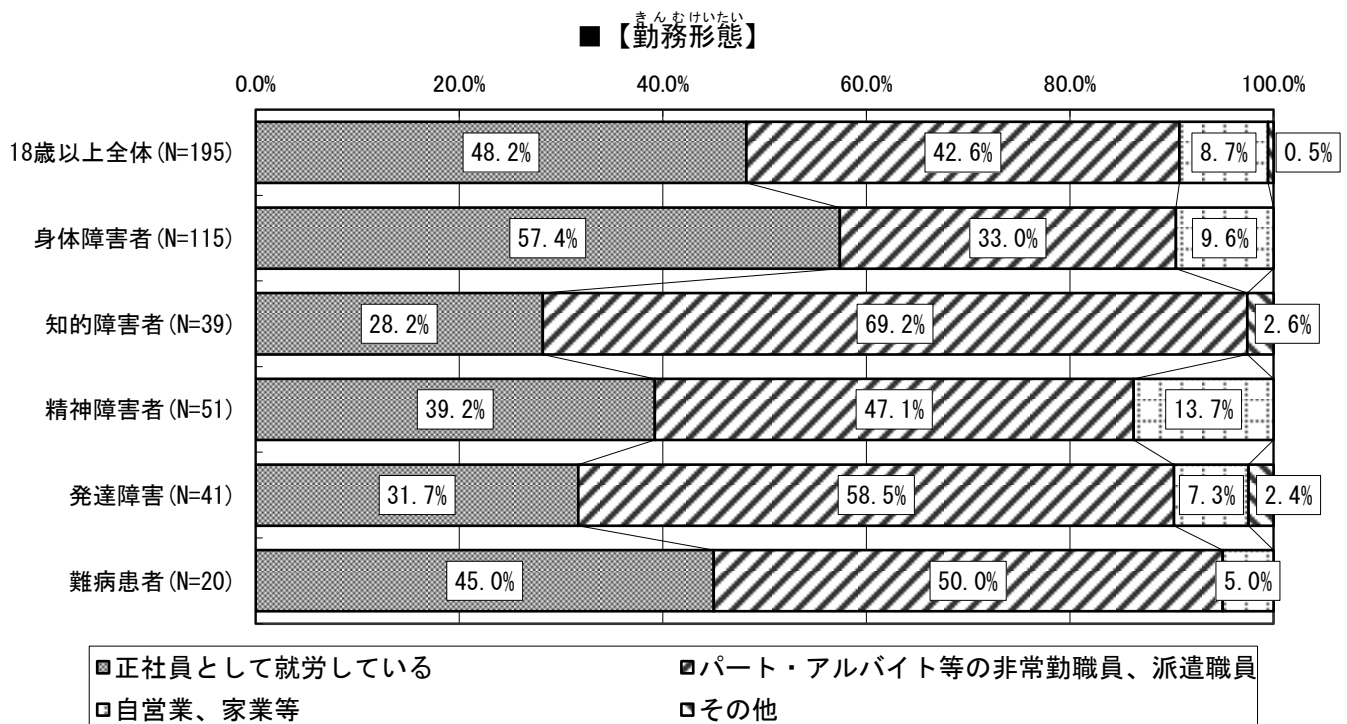


- 会社勤めや、自営業、家業等で収入を得て仕事をしている
- 自宅で過ごしている
- 福祉施設、通所事業所等に通っている(就労継続支援A型を含む)
- 病院などのデイケア、リハビリテーションを受けている
- 入所している施設や病院等で過ごしている
- 大学、専門学校、職業訓練校等に通っている
- その他
- 無回答

(5) 勤務形態

問24 どのような勤務形態で働いていますか。(〇は1つだけ)

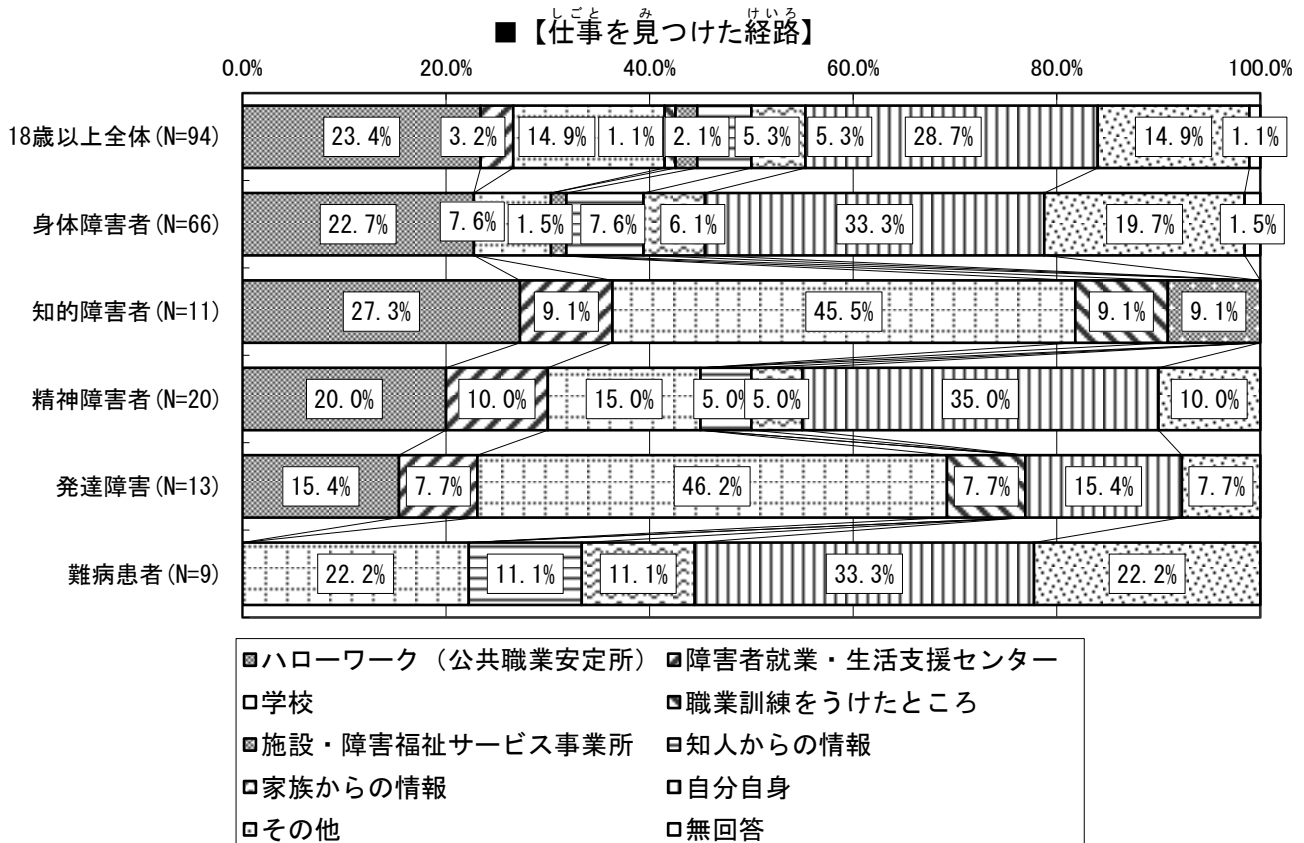
収入を得て仕事をしている方について、どのような勤務形態で働いているかについては、「正社員として就労している」が48.2%と最も多く、次いで、「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」が42.6%、「自営業、家業等」が8.7%となっています。



(6) 仕事を見つけた経路

問25 あなたは今の仕事をどちらを通じて見つけましたか。(〇は1つだけ)

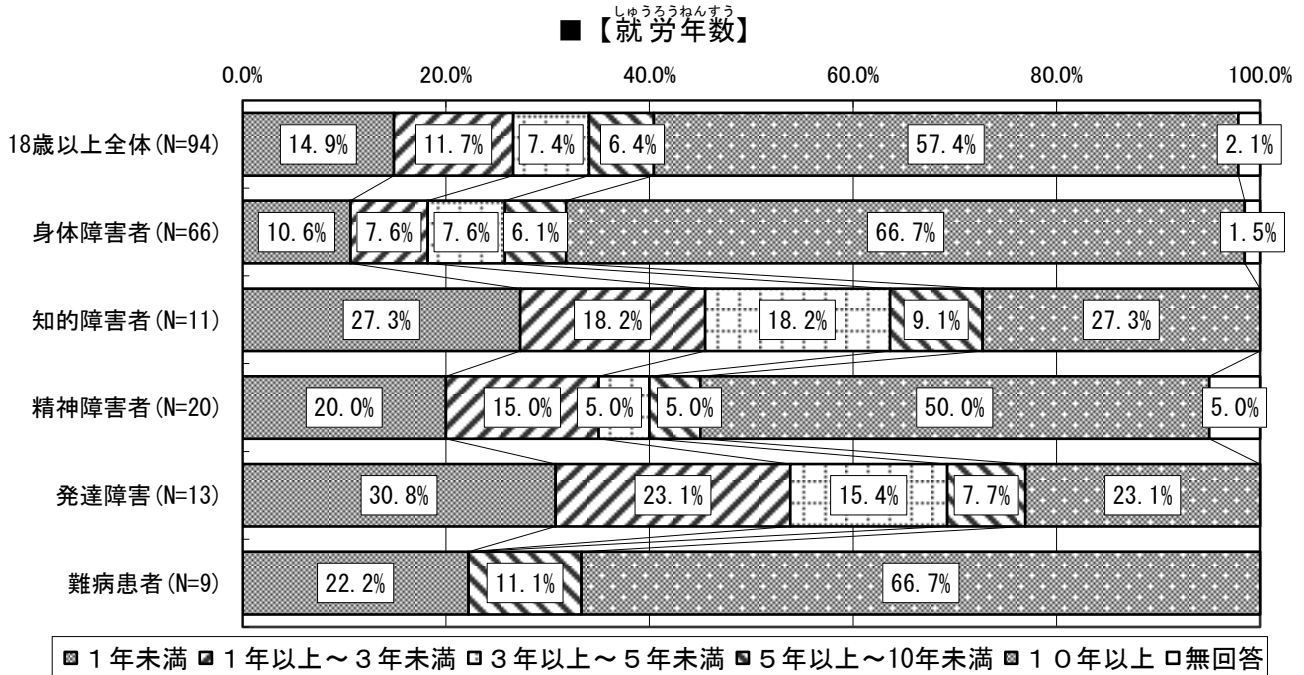
正社員として就労している方について、今の仕事を見つけた経路については、「自分自身」が28.7%と最も多く、次いで、「ハローワーク(公共職業安定所)」が23.4%となっています。知的障害者と発達障害では「学校」が最も多くなっています。



(7) 就労年数

問26 あなたは今の仕事を始めて何年ですか。(〇は1つだけ)

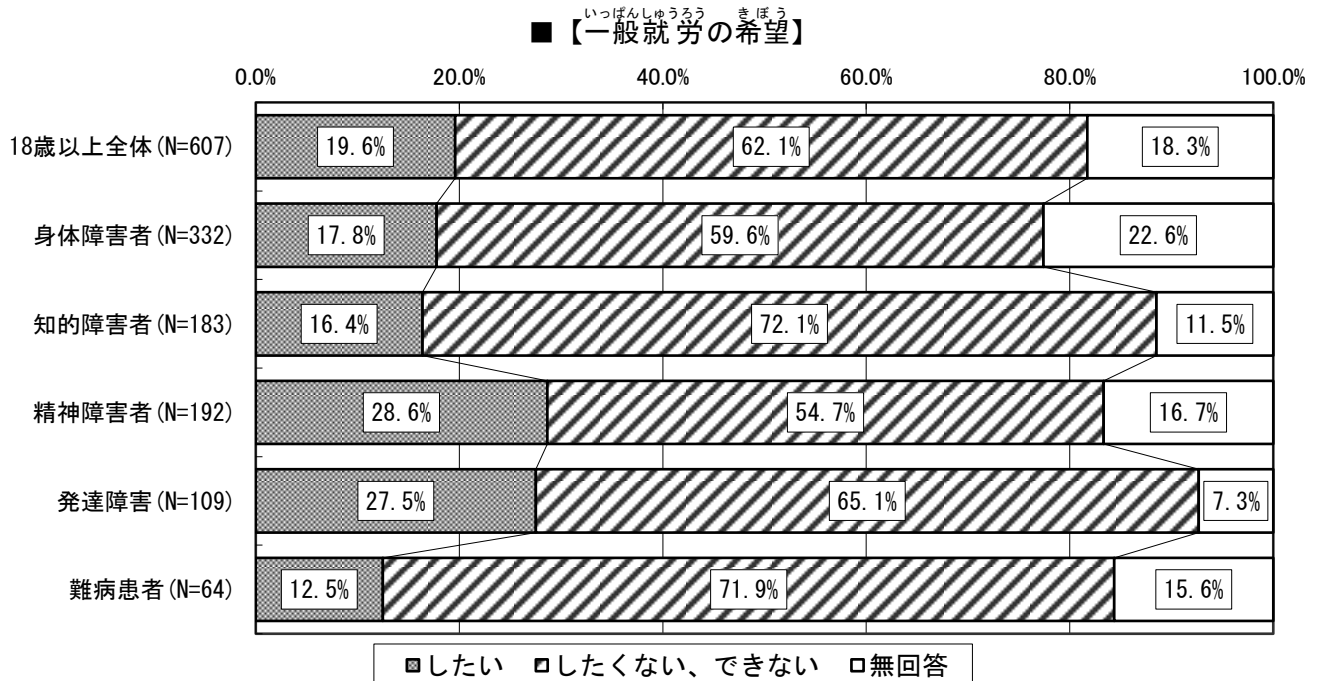
正社員として就労している方の、今の仕事の就労年数については、「10年以上」が57.4%と最も多く、次いで、「1年未満」が14.9%となっています。



(8) 一般就労の希望

問27 あなたは今後、一般就労をしたいと思いますか。(〇は1つだけ)

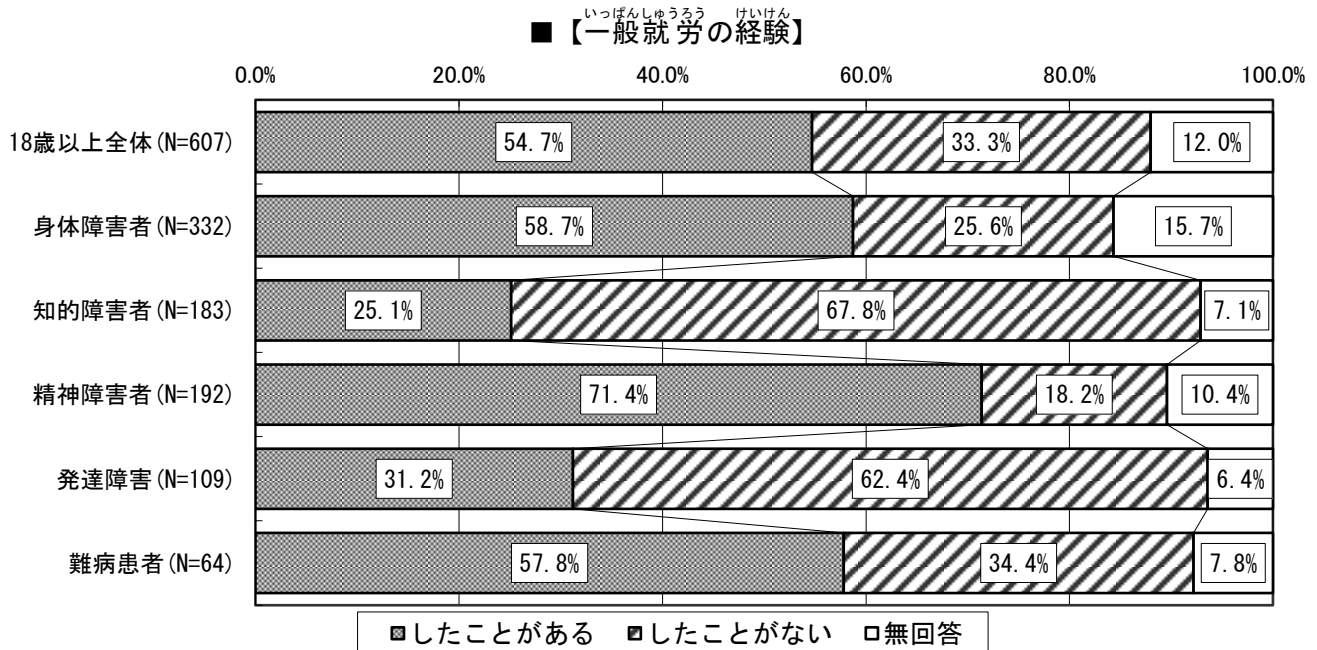
一般就労(会社勤めや自営業など)をしていない方の、今後の就労意向については、「したい」が19.6%、「したくない、できない」が62.1%となっています。精神障害者と発達障害では「したい」が2割以上と多くなっています。



(9) 一般就労の経験

問28 今までに一般就労をしたことはありますか。(〇は1つだけ)

一般就労(会社勤めや自営業など)をしていない方の、今までの一般就労の経験については、「したことがある」が54.7%、「したことがない」が33.3%となっています。
精神障害者では「したことがある」が71.4%と7割を超えています。



(10) 仕事を辞めた理由

問29 仕事を辞められた主な理由について、お聞きします。(あてはまるものすべてに○)

今までに一般就労をしたことがある方の、仕事を辞めた理由については、「体調悪化により仕事を続けることが難しくなったため」が36.4%と最も多く、次いで、「仕事の契約期間が終了した」が21.7%、「職場の人間関係が原因で辞めた」が20.5%などとなっています。知的障害者では「職場の人間関係が原因で辞めた」が32.6%で最も多くなっています。

■【仕事を辞めた理由（複数回答）】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
仕事の契約期間が終了した	72	21.7%	44	22.6%	7	15.2%	27	19.7%	3	8.8%	7	18.9%
職場の人間関係が原因で辞めた	68	20.5%	27	13.8%	15	32.6%	41	29.9%	14	41.2%	6	16.2%
仕事が合わなかったため	46	13.9%	15	7.7%	12	26.1%	27	19.7%	10	29.4%	2	5.4%
作業内容や勤務場所が変わったため	10	3.0%	7	3.6%	1	2.2%	4	2.9%	2	5.9%	1	2.7%
仕事を続けることはできたが、自分や家庭の事情で辞めた	46	13.9%	27	13.8%	3	6.5%	24	17.5%	3	8.8%	1	2.7%
会社の都合で辞めさせられた	52	15.7%	27	13.8%	9	19.6%	25	18.2%	6	17.6%	7	18.9%
障害に対する周囲の理解や配慮が得られなかったため	47	14.2%	18	9.2%	11	23.9%	27	19.7%	9	26.5%	4	10.8%
通勤や仕事中の移動が大変だったため	15	4.5%	9	4.6%	2	4.3%	6	4.4%	3	8.8%	3	8.1%
コロナウイルス感染症関係で退職	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
体調悪化により仕事を続けることが難しくなったため	121	36.4%	70	35.9%	8	17.4%	61	44.5%	10	29.4%	17	45.9%
その他	38	11.4%	22	11.3%	5	10.9%	17	12.4%	3	8.8%	6	16.2%
有効回答数	332	100.0%	195	100.0%	46	100.0%	137	100.0%	34	100.0%	37	100.0%

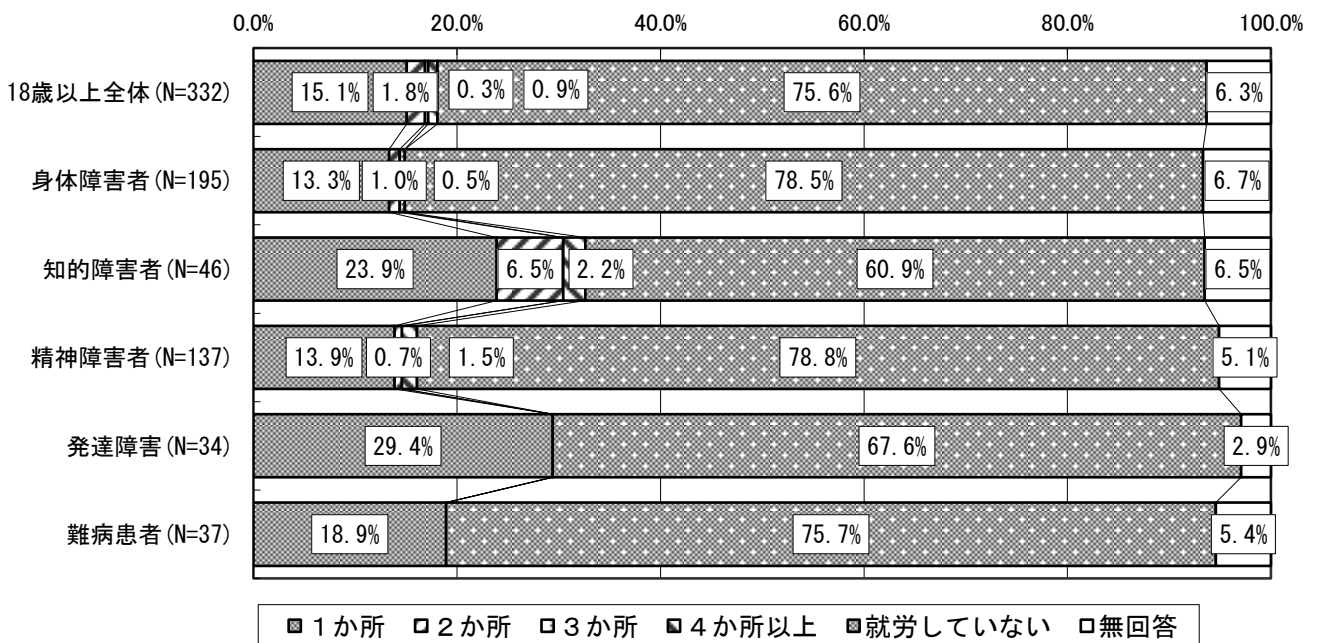
(11) 平成30年10月1日から令和2年6月30日までの間に就労した

箇所

問30 平成30年10月1日から令和2年6月30日までの間に何か所で就労しましたか。(〇は1つだけ)

今までに一般就労をしたことがある方の、過去3年間の就労か所については、「就労していない」が75.6%と最も多くなっています。

■【平成30年10月1日から令和2年6月30日までの間に就労した箇所】



(12) 障害者の就労支援として必要なこと

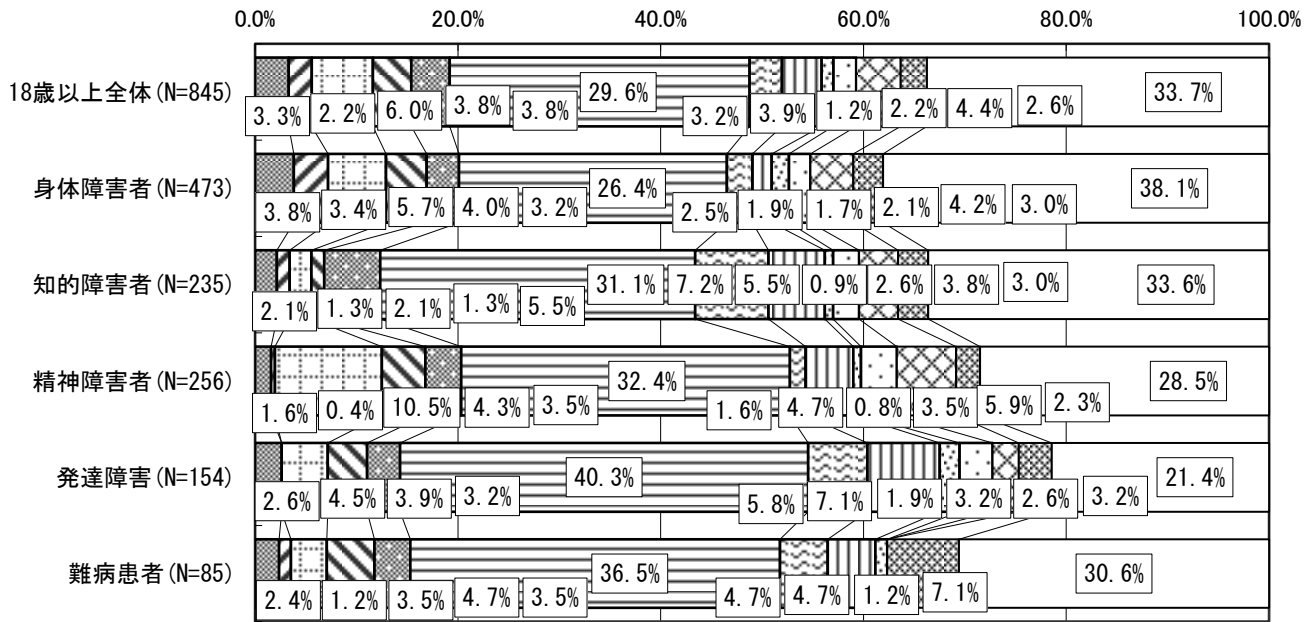
問31 あなたは、障害者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

障害者の就労支援として必要なことについては、「職場の上司や同僚に障害の理解があること」が57.0%と最も多く、次いで、「短時間勤務や勤務日数等の配慮」が34.6%、「家族の理解、協力」が29.7%などとなっています。「仕事についての職場外での相談対応、支援」は知的障害者・精神障害者・発達障害では3割以上と多くなっています。

■【障害者の就労支援として必要なこと（複数回答）】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
通勤手段の確保	234	27.7%	145	30.7%	74	31.5%	46	18.0%	43	27.9%	30	35.3%
勤務場所におけるバリアフリー等の配慮	168	19.9%	122	25.8%	38	16.2%	29	11.3%	14	9.1%	21	24.7%
短時間勤務や勤務日数等の配慮	292	34.6%	146	30.9%	74	31.5%	110	43.0%	59	38.3%	33	38.8%
在宅勤務の拡充	174	20.6%	105	22.2%	29	12.3%	62	24.2%	32	20.8%	25	29.4%
介助者（ヘルパー等）の利用	160	18.9%	72	15.2%	80	34.0%	36	14.1%	42	27.3%	14	16.5%
職場の上司や同僚に障害の理解があること	482	57.0%	244	51.6%	140	59.6%	159	62.1%	110	71.4%	49	57.6%
職場の職員による介助や援助等が受けられること	194	23.0%	91	19.2%	79	33.6%	52	20.3%	55	35.7%	23	27.1%
就労後のフォローなど職場と支援機関の連携（ジョブコーチなど）	218	25.8%	77	16.3%	98	41.7%	75	29.3%	78	50.6%	23	27.1%
企業ニーズに合った就労訓練（能力向上のための取組み）	161	19.1%	77	16.3%	57	24.3%	49	19.1%	46	29.9%	18	21.2%
仕事についての職場外での相談対応、支援	236	27.9%	104	22.0%	82	34.9%	89	34.8%	67	43.5%	21	24.7%
家族の理解、協力	251	29.7%	123	26.0%	64	27.2%	91	35.5%	52	33.8%	24	28.2%
その他	34	4.0%	21	4.4%	11	4.7%	8	3.1%	8	5.2%	9	10.6%
有効回答数	845	100.0%	473	100.0%	235	100.0%	256	100.0%	154	100.0%	85	100.0%

■【障害者の就労支援として必要なこと（最も必要なもの）】



- 通勤手段の確保
- 勤務場所におけるバリアフリー等の配慮
- 短時間勤務や勤務日数等の配慮
- 在宅勤務の拡充
- 介助者（ヘルパー等）の利用
- 職場の上司や同僚に障害の理解があること
- 職場の職員による介助や援助等が受けられること
- 就労後のフォローなど職場と支援機関の連携（ジョブコーチなど）
- 企業ニーズに合った就労訓練（能力向上のための取り組み）
- 仕事についての職場外での相談対応、支援
- 家族の理解、協力
- その他
- 無回答

(13) 余暇活動をするために必要なこと

問32 あなたが余暇にしたい活動をするために何が必要ですか。(あてはまるものすべてに○)

余暇にしたい活動をするために必要なことについては、「特にない」を除いて、「いつでも気軽に立ち寄り、仲間達と過ごすことのできる場所」が25.6%と最も多く、次いで、「介助者や支援者の付き添い」が16.3%、「見に行きたいと思うスポーツや芸術文化イベントの開催」が15.6%などとなっています。

■【余暇活動をするために必要なこと(複数回答)】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
スポーツや趣味の講習会	107	12.7%	57	12.1%	33	14.0%	33	12.9%	23	14.9%	13	15.3%
より高い資格・能力を身につけるための講座・教室	102	12.1%	60	12.7%	15	6.4%	38	14.8%	25	16.2%	10	11.8%
活動を応援するボランティアの養成	61	7.2%	23	4.9%	39	16.6%	8	3.1%	21	13.6%	7	8.2%
いつでも気軽に立ち寄り、仲間達と過ごすことのできる場所	216	25.6%	95	20.1%	92	39.1%	61	23.8%	51	33.1%	19	22.4%
スポーツ大会や文化祭など練習の成果を発表する場所	36	4.3%	13	2.7%	19	8.1%	9	3.5%	10	6.5%	3	3.5%
見に行きたいと思うスポーツや芸術文化イベントの開催	132	15.6%	74	15.6%	36	15.3%	37	14.5%	23	14.9%	17	20.0%
介助者や支援者の付き添い	138	16.3%	58	12.3%	88	37.4%	17	6.6%	47	30.5%	19	22.4%
交通機関や公共施設の改善	110	13.0%	74	15.6%	21	8.9%	21	8.2%	15	9.7%	13	15.3%
イベントなどの情報が簡単にわかる仕組み	104	12.3%	47	9.9%	45	19.1%	26	10.2%	24	15.6%	10	11.8%
手話通訳者派遣などのコミュニケーションの支援	17	2.0%	12	2.5%	4	1.7%	2	0.8%	3	1.9%	1	1.2%
特にない	251	29.7%	151	31.9%	44	18.7%	88	34.4%	37	24.0%	24	28.2%
その他	34	4.0%	16	3.4%	11	4.7%	15	5.9%	5	3.2%	2	2.4%
有効回答数	845	100.0%	473	100.0%	235	100.0%	256	100.0%	154	100.0%	85	100.0%

(14) 健康のために取り組んでいる活動

問33 あなたが健康のために取り組んでいる活動はありますか。(あてはまるものすべてに○)

健康のために取り組んでいる活動については、「特に何もしていない」を除いて、「できるだけ体を動かす機会を増やしている」が32.4%と最も多く、次いで、「定期的に健康診断を受けている」が30.7%となっています。

■【健康のために取り組んでいる活動(複数回答)】

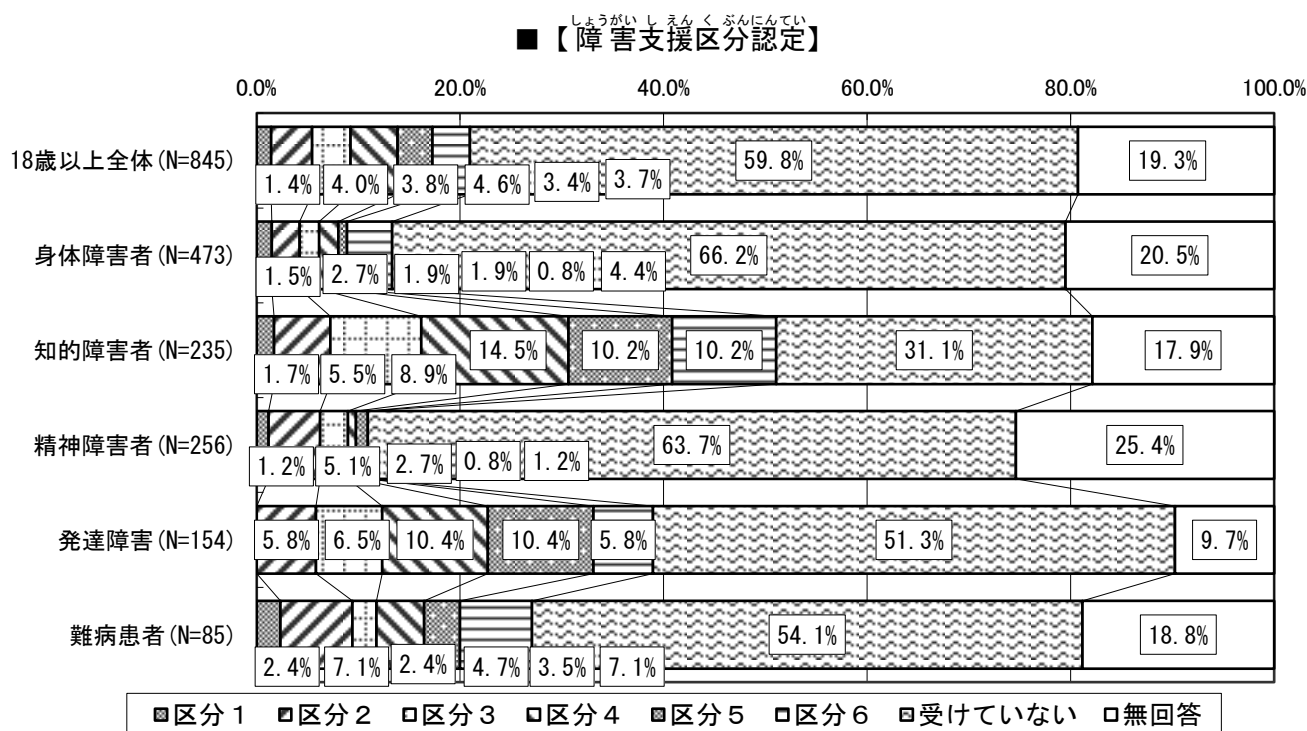
	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
定期的にスポーツをする	68	8.0%	31	6.6%	23	9.8%	16	6.3%	17	11.0%	8	9.4%
できるだけ体を動かす機会を増やしている	274	32.4%	156	33.0%	59	25.1%	85	33.2%	53	34.4%	24	28.2%
定期的に健康診断を受けている	259	30.7%	151	31.9%	83	35.3%	67	26.2%	44	28.6%	18	21.2%
特に何もしていない	297	35.1%	158	33.4%	92	39.1%	90	35.2%	60	39.0%	30	35.3%
その他	67	7.9%	37	7.8%	18	7.7%	28	10.9%	9	5.8%	12	14.1%
有効回答数	845	100.0%	473	100.0%	235	100.0%	256	100.0%	154	100.0%	85	100.0%

5 障害福祉サービス等の利用

(1) 障害支援区分認定

問34 あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。(〇は1つだけ)

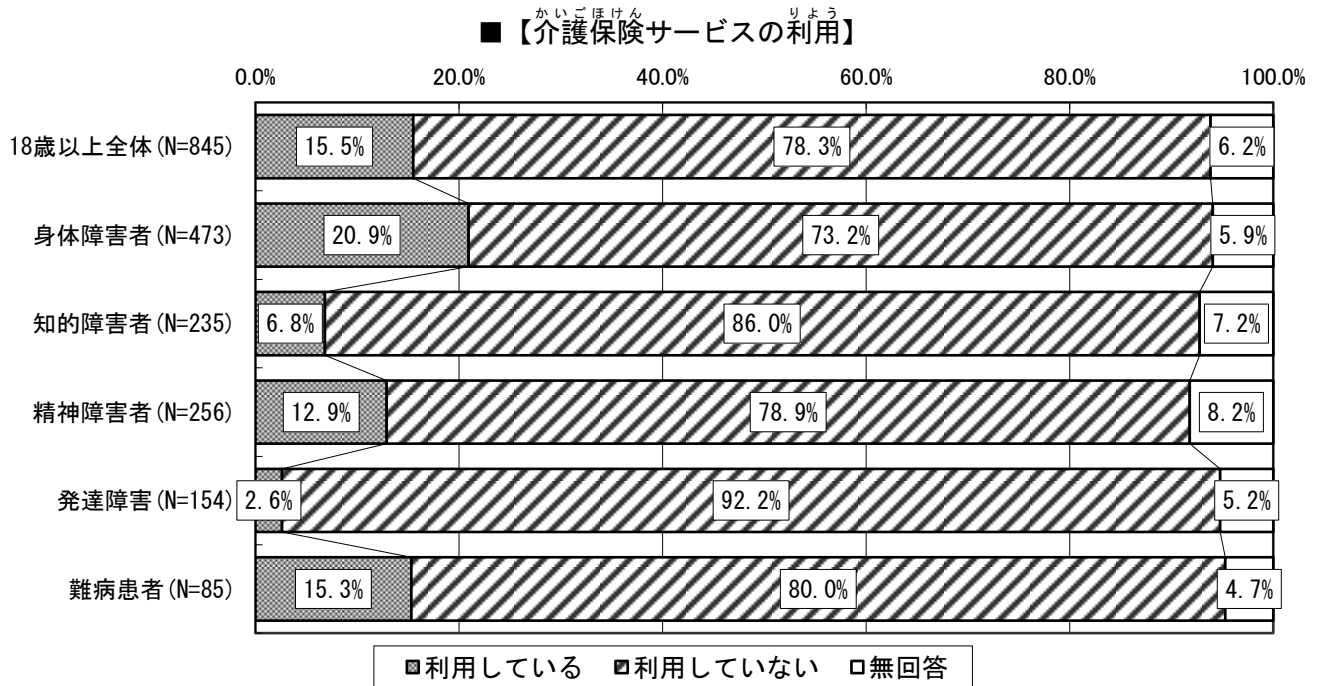
障害程度(支援)区分の認定については、「受けていない」が59.8%と最も多く、「区分1」～「区分6」を合わせた『受けている』は20.9%となっています。『受けている』は知的障害者(51.1%)や発達障害(39.0%)、難病患者(27.1%)で多くなっています。



(2) 介護保険サービスの利用

問35 あなたは介護保険によるサービスを利用していますか。(〇は1つだけ)

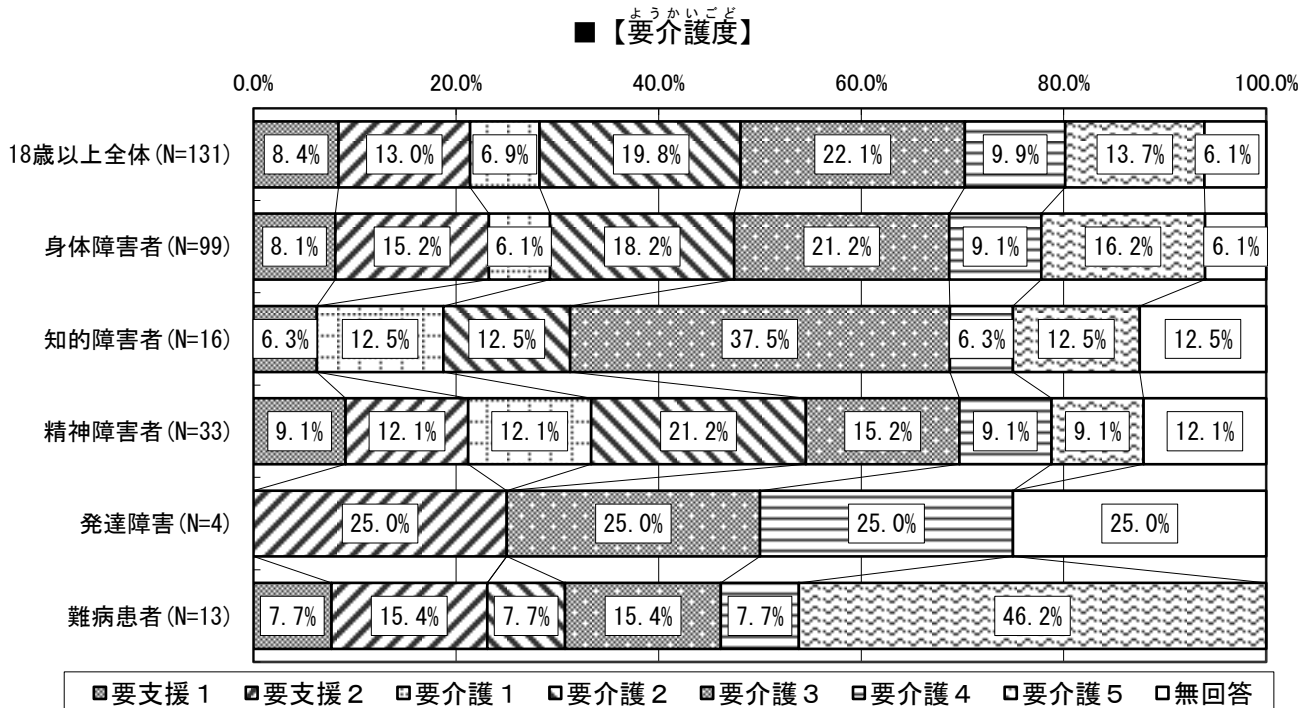
介護保険によるサービスの利用の有無について、「利用している」が15.5%、「利用していない」が78.3%となっています。身体障害者では「利用している」が20.9%と2割を超えています。



(3) ようかいごと 要介護度

問36 該当する要介護度はどれですか。(〇は1つだけ)

介護保険サービスを利用している方の、要介護度については、「要介護3」が22.1%と最も多く、次いで、「要介護2」が19.8%、「要介護5」が13.7%などとなっています。



(4) サービスの利用状況と今後の利用意向

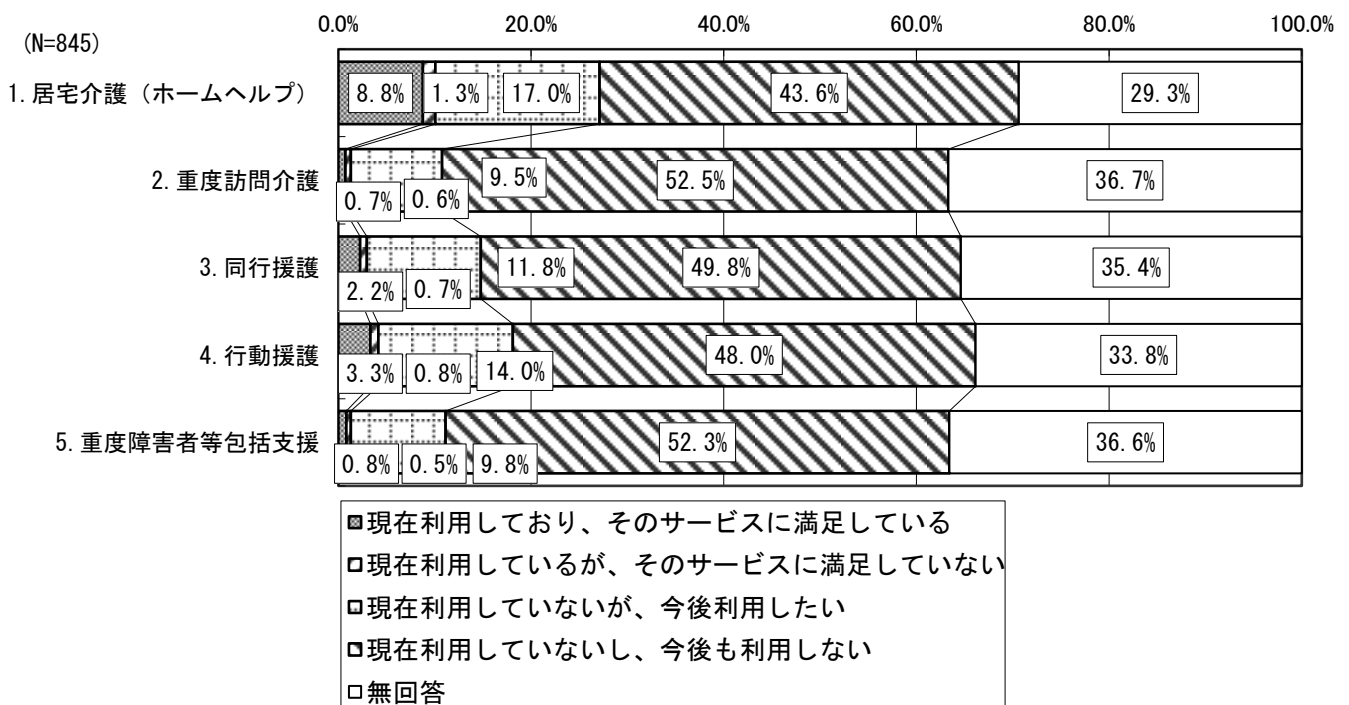
問37 あなたは、次のサービスを利用していますか。また、今後利用したいと考えますか。①から⑤について、現在利用しているサービスはそのサービスの評価を、現在利用していないサービスはそのサービスを今後利用したいかを、回答（1・2・3・4のいずれか一つに○）してください。

訪問系サービス

訪問系サービスの利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は、居宅介護（ホームヘルプ）で10.1%、重度訪問介護で1.3%、同行援護で3.0%、行動援護で4.1%、重度障害者等包括支援で1.3%となっています。

また、訪問系サービスを現在利用していない理由については、「利用しなくても本人のことは本人ができるから」が49.9%と最も多く、次いで、「利用しなくても家族の介助があるから」が31.8%となっています。

■ 【訪問系サービスの利用状況と今後の利用意向】



■【訪問系サービスを利用しない理由（複数回答）】

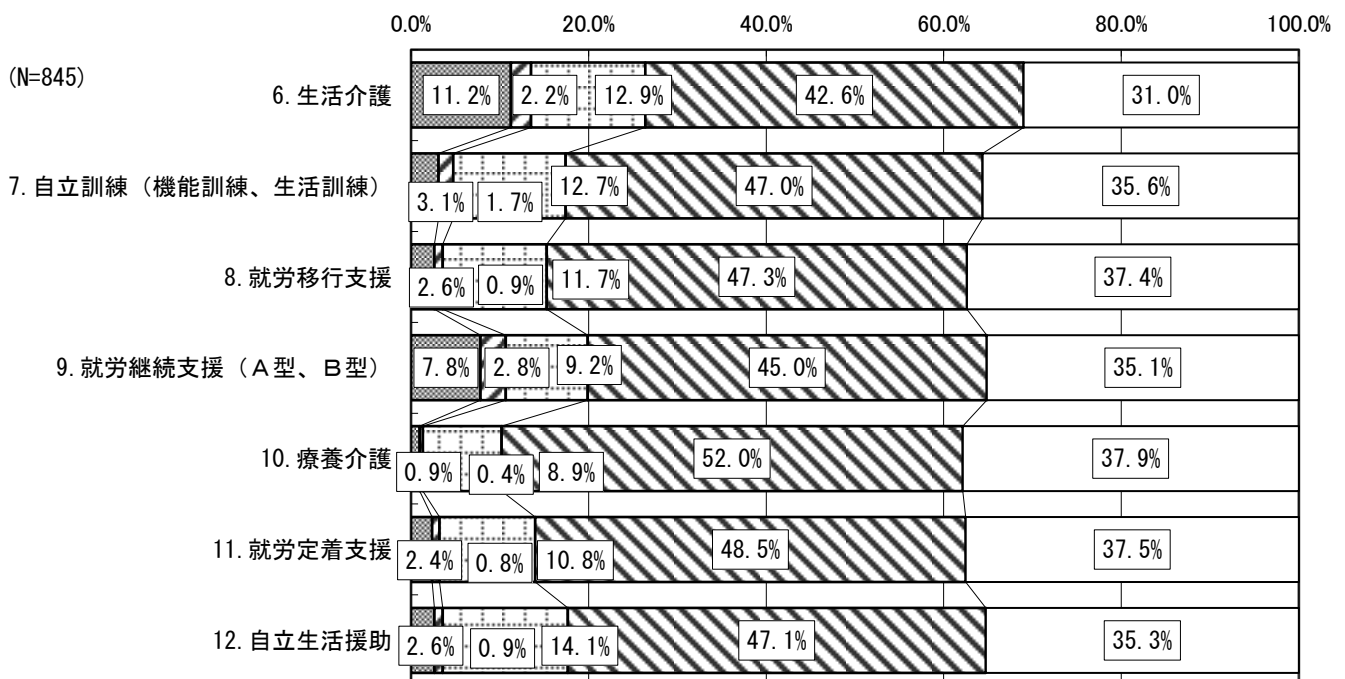
	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
利用しなくても本人のことは本人ができるから	284	49.9%	171	56.1%	41	25.5%	94	55.3%	47	40.9%	32	50.8%
利用しなくても家族の介助があるから	181	31.8%	82	26.9%	84	52.2%	43	25.3%	51	44.3%	23	36.5%
どんなサービスも知らないから	101	17.8%	42	13.8%	40	24.8%	31	18.2%	29	25.2%	14	22.2%
利用したくても費用負担が大きいから	59	10.4%	33	10.8%	10	6.2%	23	13.5%	5	4.3%	7	11.1%
その他	65	11.4%	37	12.1%	19	11.8%	19	11.2%	9	7.8%	9	14.3%
有効回答数	569	100.0%	305	100.0%	161	100.0%	170	100.0%	115	100.0%	63	100.0%

日中活動系サービス

日中活動系サービスの利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は、生活介護で13.5%、自立訓練（機能訓練、生活訓練）で4.7%、就労移行支援で3.6%、就労継続支援（A型、B型）で10.7%、療養介護で1.3%、就労定着支援で3.2%、自立生活援助で3.6%となっています。

また、日中活動系サービスを現在利用していない理由については、「通う必要を感じないから」が44.8%と最も多く、次いで、「昼間、通う場所が別にあるから」が24.5%となっています。

■【日中活動系サービスの利用状況と今後の利用意向】



- 現在利用しており、そのサービスに満足している
- 現在利用しているが、そのサービスに満足していない
- 現在利用していないが、今後利用したい
- 現在利用していないし、今後も利用しない
- 無回答

■【日中活動系サービスを利用しない理由（複数回答）】

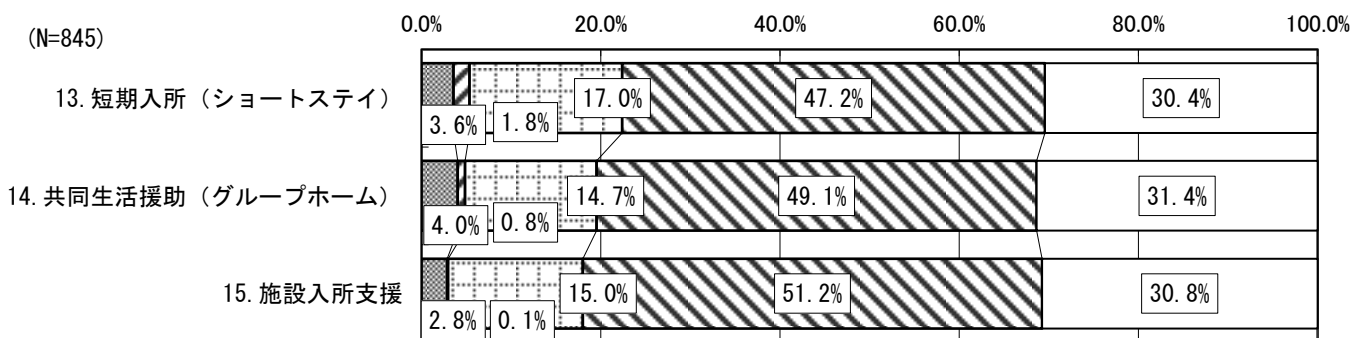
	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
昼間、通う場所が別にあるから	136	24.5%	58	19.5%	66	45.5%	32	18.8%	37	34.3%	15	25.4%
通う必要を感じないから	248	44.8%	160	53.7%	36	24.8%	69	40.6%	32	29.6%	24	40.7%
どんなサービスか知らないから	111	20.0%	55	18.5%	27	18.6%	44	25.9%	22	20.4%	10	16.9%
利用したくても費用負担が大きいから	41	7.4%	20	6.7%	3	2.1%	22	12.9%	4	3.7%	4	6.8%
利用したくても空きがないから	10	1.8%	6	2.0%	1	0.7%	6	3.5%	3	2.8%	0	0.0%
利用したくても事業所が見つからないから	28	5.1%	16	5.4%	9	6.2%	9	5.3%	6	5.6%	1	1.7%
その他	74	13.4%	39	13.1%	14	9.7%	31	18.2%	15	13.9%	11	18.6%
有効回答数	554	100.0%	298	100.0%	145	100.0%	170	100.0%	108	100.0%	59	100.0%

きよじゅうけい 居住系サービス

きよじゅうけい 居住系サービスの利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は短期入所（ショートステイ）で5.3%、共同生活援助（グループホーム）で4.9%、施設入所支援で3.0%となっています。

また、きよじゅうけい 居住系サービスを現在利用していない理由については、「家族の支援があり、自宅で生活できるから」が49.9%と最も多く、次いで、「自分ひとりで生活することができるから」が35.3%となっています。

■【居住系サービスの利用状況と今後の利用意向】



- 現在利用しており、そのサービスに満足している
- 現在利用しているが、そのサービスに満足していない
- 現在利用していないが、今後利用したい
- 現在利用していないし、今後も利用しない
- 無回答

■【居住系サービスを利用しない理由（複数回答）】

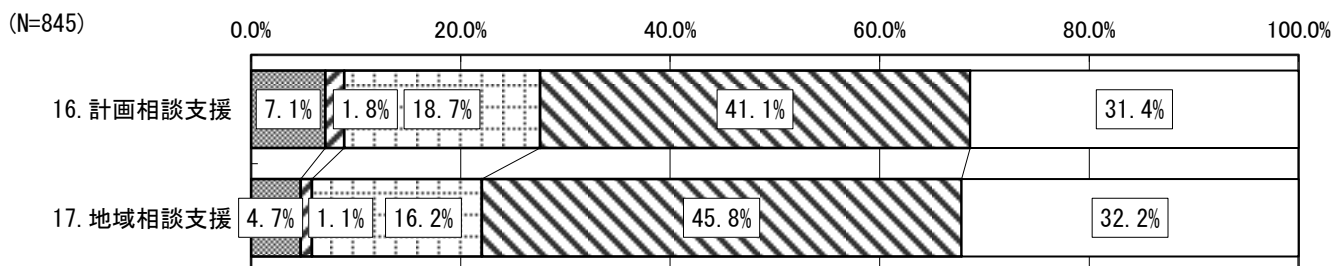
	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
自分ひとりで生活することができるから	208	35.3%	138	43.8%	22	13.5%	59	34.1%	23	19.5%	19	30.2%
家族の支援があり、自宅で生活できるから	294	49.9%	146	46.3%	98	60.1%	87	50.3%	71	60.2%	41	65.1%
どんなサービスか知らないから	64	10.9%	33	10.5%	11	6.7%	25	14.5%	13	11.0%	3	4.8%
利用したくても費用負担が大きいため	55	9.3%	25	7.9%	16	9.8%	24	13.9%	10	8.5%	8	12.7%
利用したくても空きがないから	39	6.6%	11	3.5%	29	17.8%	5	2.9%	21	17.8%	3	4.8%
利用する必要性を感じないから	69	11.7%	42	13.3%	8	4.9%	23	13.3%	10	8.5%	9	14.3%
その他	51	8.7%	19	6.0%	24	14.7%	13	7.5%	12	10.2%	7	11.1%
有効回答数	589	100.0%	315	100.0%	163	100.0%	173	100.0%	118	100.0%	63	100.0%

相談支援
相談支援

相談支援の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は、計画相談支援で8.9%、地域相談支援で5.8%となっています。

また、相談支援を現在利用していない理由については、「利用しなくても困らないから」が43.6%と最も多く、次いで、「どんな内容を相談すればよいか、わからないから」が26.0%となっています。

■【相談支援の利用状況と今後の利用意向】



- 現在利用しており、そのサービスに満足している
- 現在利用しているが、そのサービスに満足していない
- 現在利用していないが、今後利用したい
- 現在利用していないし、今後も利用しない
- 無回答

■【相談支援を利用しない理由（複数回答）】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
利用しなくても困らないから	237	43.6%	136	46.7%	50	33.6%	69	43.7%	43	35.8%	31	50.8%
相談する内容がないから	130	23.9%	75	25.8%	29	19.5%	37	23.4%	27	22.5%	15	24.6%
どんな内容を相談すればよいか、わからないから	141	26.0%	63	21.6%	49	32.9%	46	29.1%	41	34.2%	16	26.2%
どんなサービスか知らないから	134	24.7%	57	19.6%	42	28.2%	49	31.0%	46	38.3%	10	16.4%
その他	46	8.5%	23	7.9%	14	9.4%	16	10.1%	9	7.5%	3	4.9%
有効回答数	543	100.0%	291	100.0%	149	100.0%	158	100.0%	120	100.0%	61	100.0%

移動支援（ガイドヘルパー）

移動支援の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は13.1%で、知的障害者では32.3%と特に多くなっています。

また、移動支援を現在利用していない理由については、「自分ひとりで外出することができるから」が56.5%と最も多く、次いで、「家族の支援で外出することができるから」が34.8%となっています。

■【移動支援の利用状況と今後の利用意向】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
現在利用しており、そのサービスに満足している	95	11.2%	34	7.2%	63	26.8%	13	5.1%	30	19.5%	13	15.3%
現在利用しているが、そのサービスに満足していない	24	2.8%	11	2.3%	13	5.5%	5	2.0%	7	4.5%	4	4.7%
現在利用していないが、今後利用したい	159	18.8%	94	19.9%	59	25.1%	33	12.9%	31	20.1%	22	25.9%
現在利用していないし、今後も利用しない	367	43.4%	201	42.5%	58	24.7%	132	51.6%	64	41.6%	31	36.5%
無回答	200	23.7%	133	28.1%	42	17.9%	73	28.5%	22	14.3%	15	17.6%
合計	845	100.0%	473	100.0%	235	100.0%	256	100.0%	154	100.0%	85	100.0%

■【移動支援を利用しない理由（複数回答）】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
自分ひとりで外出することができるから	297	56.5%	173	58.6%	43	36.8%	104	63.0%	51	53.7%	27	50.9%
家族の支援で外出することができるから	183	34.8%	95	32.2%	59	50.4%	46	27.9%	39	41.1%	26	49.1%
どんなサービスか知らないから	66	12.5%	35	11.9%	10	8.5%	24	14.5%	8	8.4%	7	13.2%
利用したくても費用負担が大きいから	40	7.6%	22	7.5%	7	6.0%	16	9.7%	2	2.1%	2	3.8%
利用したくても事業所が見つからないから	24	4.6%	11	3.7%	11	9.4%	5	3.0%	5	5.3%	3	5.7%
その他	50	9.5%	26	8.8%	19	16.2%	13	7.9%	8	8.4%	2	3.8%
有効回答数	526	100.0%	295	100.0%	117	100.0%	165	100.0%	95	100.0%	53	100.0%

日中一時支援

日中一時支援の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は、5.2%で、知的障害者では11.5%、発達障害では11.0%と1割を超えています。

また、日中一時支援を現在利用していない理由については、「利用しなくても本人のことは本人ができるから」が56.2%と最も多く、次いで、「利用しなくても家族の介助があるから」が29.1%となっています。

【日中一時支援の利用状況と今後の利用意向】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
現在利用しており、そのサービスに満足している	35	4.1%	17	3.6%	22	9.4%	6	2.3%	13	8.4%	2	2.4%
現在利用しているが、そのサービスに満足していない	9	1.1%	4	0.8%	5	2.1%	3	1.2%	4	2.6%	1	1.2%
現在利用していないが、今後利用したい	141	16.7%	79	16.7%	64	27.2%	27	10.5%	38	24.7%	19	22.4%
現在利用していないし、今後もしも利用しない	395	46.7%	209	44.2%	77	32.8%	132	51.6%	66	42.9%	38	44.7%
無回答	265	31.4%	164	34.7%	67	28.5%	88	34.4%	33	21.4%	25	29.4%
合計	845	100.0%	473	100.0%	235	100.0%	256	100.0%	154	100.0%	85	100.0%

【日中一時支援事業を利用しない理由（複数回答）】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
利用しなくても本人のことは本人でできるから	301	56.2%	179	62.2%	45	31.9%	99	62.3%	49	47.1%	30	52.6%
利用しなくても家族の介助があるから	156	29.1%	80	27.8%	55	39.0%	38	23.9%	39	37.5%	18	31.6%
通う場所が別にあるから	39	7.3%	14	4.9%	23	16.3%	9	5.7%	9	8.7%	3	5.3%
どんなサービスか知らないから	94	17.5%	44	15.3%	23	16.3%	33	20.8%	17	16.3%	10	17.5%
利用したくても費用負担が大きいため	33	6.2%	20	6.9%	4	2.8%	13	8.2%	1	1.0%	3	5.3%
利用したくても事業所が見つからないから	24	4.5%	11	3.8%	17	12.1%	4	2.5%	12	11.5%	5	8.8%
その他	46	8.6%	21	7.3%	18	12.8%	12	7.5%	10	9.6%	3	5.3%
有効回答数	536	100.0%	288	100.0%	141	100.0%	159	100.0%	104	100.0%	57	100.0%

意思疎通支援事業

意思疎通支援事業の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は2.0%となっています。

また、意思疎通支援事業を現在利用していない理由については、「利用しなくても困らないから」が60.8%と最も多くなっています。

【意思疎通支援事業の利用状況と今後の利用意向】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
現在利用しており、そのサービスに満足している	15	1.8%	11	2.3%	4	1.7%	4	1.6%	4	2.6%	1	1.2%
現在利用しているが、そのサービスに満足していない	2	0.2%	2	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
現在利用していないが、今後利用したい	100	11.8%	55	11.6%	35	14.9%	25	9.8%	21	13.6%	16	18.8%
現在利用していないし、今後も利用しない	495	58.6%	258	54.5%	137	58.3%	144	56.3%	97	63.0%	48	56.5%
無回答	233	27.6%	147	31.1%	59	25.1%	83	32.4%	32	20.8%	20	23.5%
合計	845	100.0%	473	100.0%	235	100.0%	256	100.0%	154	100.0%	85	100.0%

【意思疎通支援事業を利用しない理由（複数回答）】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
利用しなくても困らないから	362	60.8%	204	65.2%	66	38.4%	122	72.2%	63	53.4%	34	53.1%
利用しなくても家族の支援があるから	125	21.0%	64	20.4%	50	29.1%	29	17.2%	27	22.9%	23	35.9%
どんなサービスか知らないから	120	20.2%	44	14.1%	53	30.8%	35	20.7%	34	28.8%	12	18.8%
その他	34	5.7%	18	5.8%	11	6.4%	7	4.1%	5	4.2%	2	3.1%
有効回答数	595	100.0%	313	100.0%	172	100.0%	169	100.0%	118	100.0%	64	100.0%

地域活動支援センター事業

地域活動支援センター事業の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は4.8%となっています。

また、地域活動支援センター事業を現在利用していない理由については、「どんなサービスか知らないから」が42.6%と最も多く、次いで、「通う場所が別にあるから」が28.3%となっています。

【地域活動支援センター事業の利用状況と今後の利用意向】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
現在利用しており、そのサービスに満足している	37	4.4%	16	3.4%	16	6.8%	10	3.9%	5	3.2%	2	2.4%
現在利用しているが、そのサービスに満足していない	3	0.4%	1	0.2%	1	0.4%	1	0.4%	1	0.6%	1	1.2%
現在利用していないが、今後利用したい	112	13.3%	55	11.6%	43	18.3%	31	12.1%	30	19.5%	14	16.5%
現在利用していないし、今後もしない	421	49.8%	234	49.5%	99	42.1%	125	48.8%	78	50.6%	42	49.4%
無回答	272	32.2%	167	35.3%	76	32.3%	89	34.8%	40	26.0%	26	30.6%
合計	845	100.0%	473	100.0%	235	100.0%	256	100.0%	154	100.0%	85	100.0%

【地域活動支援センターでの創作や作業を利用しない理由（複数回答）】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
通う場所が別にあるから	151	28.3%	65	22.5%	65	45.8%	43	27.6%	39	36.1%	14	25.0%
どんなサービスか知らないから	227	42.6%	121	41.9%	57	40.1%	68	43.6%	50	46.3%	31	55.4%
自分がしてみたいこととセンターでしていることが違うから	41	7.7%	22	7.6%	10	7.0%	15	9.6%	11	10.2%	2	3.6%
毎日、決まったことをしたいから	41	7.7%	23	8.0%	6	4.2%	14	9.0%	6	5.6%	2	3.6%
その他	82	15.4%	48	16.6%	17	12.0%	28	17.9%	13	12.0%	8	14.3%
有効回答数	533	100.0%	289	100.0%	142	100.0%	156	100.0%	108	100.0%	56	100.0%

補装具・日常生活用具

補装具・日常生活用具の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は10.2%で、難病患者では18.9%と利用が多くなっています。

【補装具・日常生活用具の利用状況と今後の利用意向】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
現在利用しており、そのサービスに満足している	61	7.2%	55	11.6%	12	5.1%	6	2.3%	2	1.3%	10	11.8%
現在利用しているが、そのサービスに満足していない	25	3.0%	23	4.9%	4	1.7%	1	0.4%	2	1.3%	6	7.1%
現在利用していないが、今後利用したい	82	9.7%	65	13.7%	15	6.4%	14	5.5%	4	2.6%	13	15.3%
現在利用していないし、今後もしない	354	41.9%	140	29.6%	107	45.5%	135	52.7%	102	66.2%	32	37.6%
無回答	323	38.2%	190	40.2%	97	41.3%	100	39.1%	44	28.6%	24	28.2%
合計	845	100.0%	473	100.0%	235	100.0%	256	100.0%	154	100.0%	85	100.0%

(5) サービスに満足していない理由

問38 問37で、一つでも「2. 現在利用しているがそのサービスに満足していない」と回答された方に、お聞きします。満足していない理由について回答してください。
 (サービスの種類の番号を書き、あてはまる回答欄の番号に○)(あてはまるものすべてに○)

サービスを利用しているが満足していない方の、満足していないサービスについては「補装具・日常生活用具」が14.4%と最も多く、次いで、「移動支援(ガイドヘルパー)」が12.6%となっています。

サービスに満足していない理由については、「サービスの提供内容」が39.6%と最も多く、次いで「職員の対応」が32.4%となっています。

■【満足していないサービス】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
居宅介護(ホームヘルプ)	5	4.5%	3	5.3%	2	4.3%	1	3.2%	0	0.0%	1	5.6%
重度訪問介護	3	2.7%	3	5.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	11.1%
同行援護	1	0.9%	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
行動援護	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
重度障害者等包括支援	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
生活介護	10	9.0%	1	1.8%	9	19.1%	0	0.0%	7	21.9%	1	5.6%
自立訓練(機能訓練、生活訓練)	2	1.8%	1	1.8%	1	2.1%	2	6.5%	0	0.0%	0	0.0%
就労移行支援	4	3.6%	1	1.8%	1	2.1%	3	9.7%	2	6.3%	0	0.0%
就労継続支援(A型、B型)	11	9.9%	5	8.8%	5	10.6%	5	16.1%	4	12.5%	1	5.6%
療養介護	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
就労定着支援	4	3.6%	1	1.8%	2	4.3%	2	6.5%	3	9.4%	1	5.6%
自立生活援助	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
短期入所(ショートステイ)	10	9.0%	3	5.3%	9	19.1%	1	3.2%	7	21.9%	2	11.1%
共同生活援助(グループホーム)	2	1.8%	0	0.0%	2	4.3%	0	0.0%	1	3.1%	0	0.0%
施設入所支援	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計画相談支援	8	7.2%	3	5.3%	2	4.3%	5	16.1%	1	3.1%	1	5.6%
地域相談支援	5	4.5%	1	1.8%	2	4.3%	2	6.5%	0	0.0%	0	0.0%
移動支援(ガイドヘルパー)	14	12.6%	6	10.5%	8	17.0%	3	9.7%	5	15.6%	4	22.2%
日中一時支援	5	4.5%	2	3.5%	5	10.6%	0	0.0%	4	12.5%	1	5.6%
意思疎通支援事業	1	0.9%	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
地域活動支援センター事業	2	1.8%	0	0.0%	1	2.1%	1	3.2%	1	3.1%	1	5.6%
補装具・日常生活用具	16	14.4%	16	28.1%	2	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	4	22.2%
無回答	40	36.0%	23	40.4%	12	25.5%	14	45.2%	8	25.0%	5	27.8%
合計	111	100.0%	57	100.0%	47	100.0%	31	100.0%	32	100.0%	18	100.0%

■【サービスに満足していない理由(複数回答)】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
サービスの提供内容	44	39.6%	19	33.3%	22	46.8%	9	29.0%	18	56.3%	10	55.6%
時間や日数、給付量	24	21.6%	14	24.6%	10	21.3%	7	22.6%	7	21.9%	3	16.7%
職員の対応	36	32.4%	12	21.1%	19	40.4%	12	38.7%	11	34.4%	5	27.8%
その他	38	34.2%	19	33.3%	19	40.4%	6	19.4%	14	43.8%	10	55.6%
有効回答数	111	100.0%	57	100.0%	47	100.0%	31	100.0%	32	100.0%	18	100.0%

6 6 そうだんあいて 相談相手

(1) なや こま そうだん あいて 悩みや困ったことを相談する相手

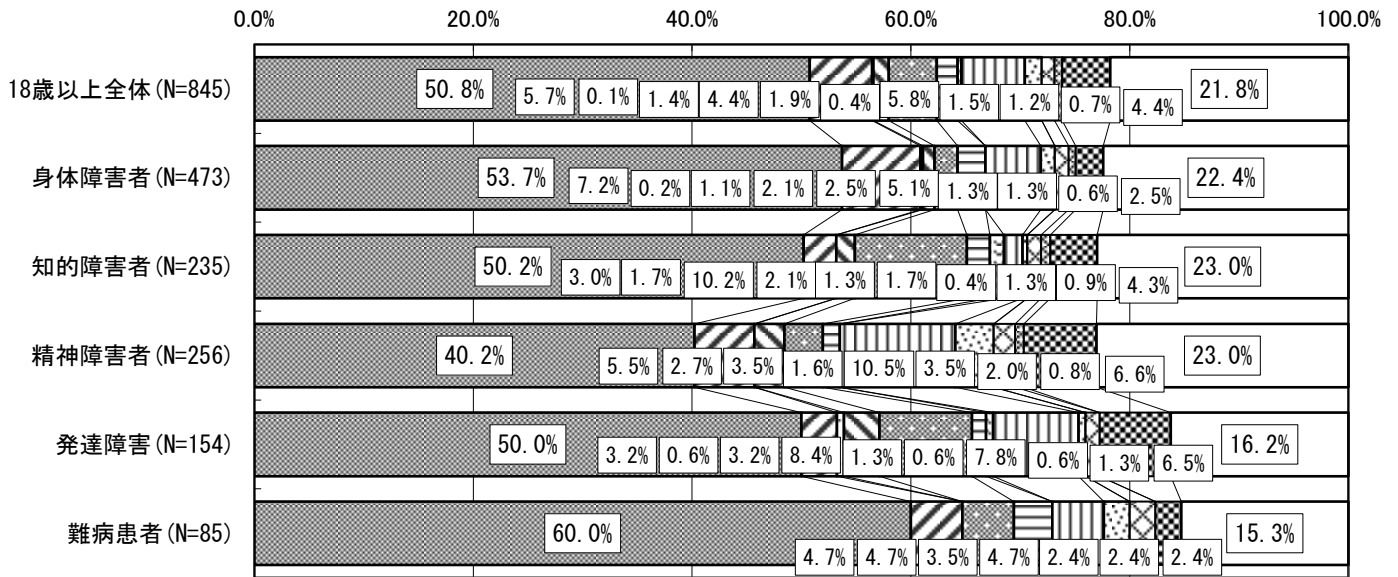
問39 あなたは、普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。
(あてはまるものすべてに○)

悩みや困ったことなどを相談する人については、「家族や親せき」が72.4%と最も多く、次いで、「友人・知人」が27.5%、「かかりつけの医師や看護師」が26.6%となっています。

■ 【悩みや困ったことを相談する相手（複数回答）】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
家族や親せき	612	72.4%	350	74.0%	169	71.9%	171	66.8%	115	74.7%	68	80.0%
友人・知人	232	27.5%	151	31.9%	39	16.6%	74	28.9%	39	25.3%	22	25.9%
近所の人	31	3.7%	22	4.7%	10	4.3%	7	2.7%	4	2.6%	3	3.5%
職場の上司や同僚	88	10.4%	42	8.9%	26	11.1%	30	11.7%	25	16.2%	6	7.1%
グループホームや施設の指導員など	97	11.5%	31	6.6%	62	26.4%	22	8.6%	32	20.8%	14	16.5%
ホームヘルパー等サービス事業所の人	66	7.8%	40	8.5%	19	8.1%	22	8.6%	11	7.1%	11	12.9%
障害者団体や家族会	25	3.0%	9	1.9%	12	5.1%	12	4.7%	7	4.5%	5	5.9%
かかりつけの医師や看護師	225	26.6%	107	22.6%	42	17.9%	108	42.2%	51	33.1%	25	29.4%
病院のケースワーカーや介護保険のケアマネージャー	57	6.7%	30	6.3%	8	3.4%	25	9.8%	5	3.2%	4	4.7%
民生委員・児童委員	7	0.8%	6	1.3%	2	0.9%	3	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
障害者相談支援センター等の民間の相談窓口	42	5.0%	17	3.6%	14	6.0%	21	8.2%	13	8.4%	3	3.5%
行政機関の相談窓口	42	5.0%	23	4.9%	15	6.4%	14	5.5%	8	5.2%	8	9.4%
その他	51	6.0%	16	3.4%	17	7.2%	22	8.6%	16	10.4%	2	2.4%
有効回答数	845	100.0%	473	100.0%	235	100.0%	256	100.0%	154	100.0%	85	100.0%

■【悩みや困ったことを相談する相手（最も相談する人）】



- 家族や親せき
- 友人・知人
- 近所の人
- 職場の上司や同僚
- グループホームや施設の指導員など
- ホームヘルパー等サービス事業所の人
- 障害者団体や家族会
- かかりつけの医師や看護師
- 病院のケースワーカーや介護保険のケアマネージャー
- 民生委員・児童委員
- 障害者相談支援センター等の民間の相談窓口
- 行政機関の相談窓口
- その他
- 無回答

(2) 障害や福祉サービス等に関する情報の入手先

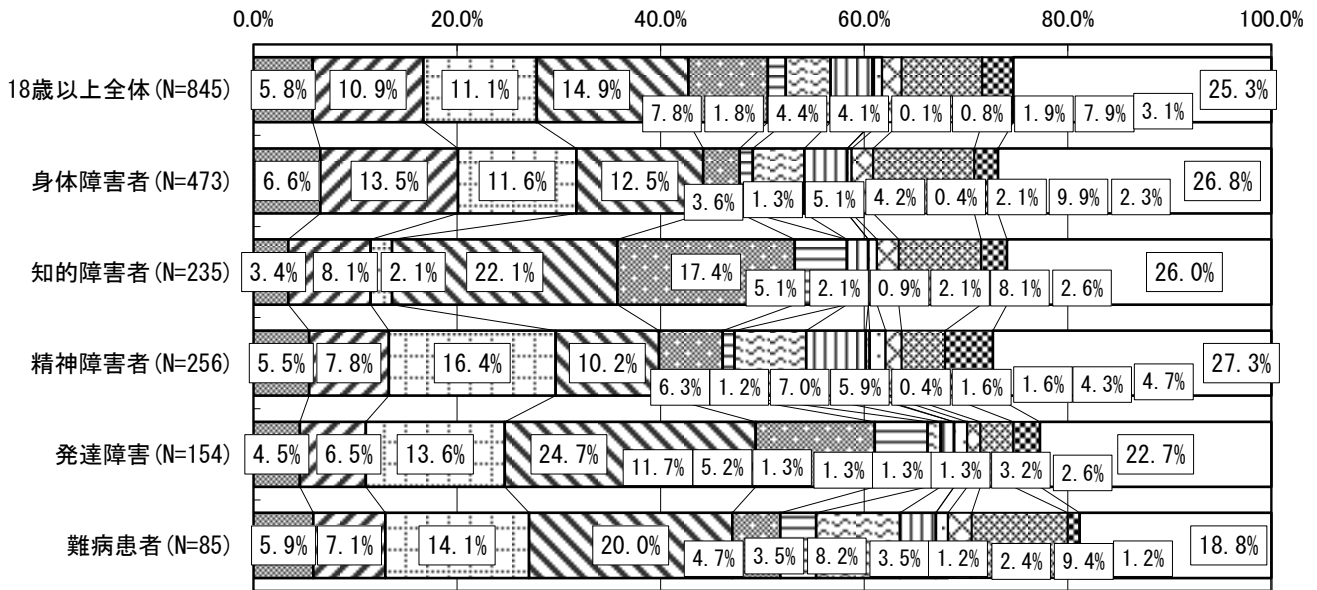
問40 あなたは障害のことや福祉サービス等に関する情報を、どこから知ることが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

障害や福祉サービス等に関する情報の入手先については、「広報ひらかた」が36.1%と最も多く、次いで、「家族や親せき、友人・知人」が30.5%、「インターネット」が24.9%となっています。知的障害者・発達障害・難病患者では「家族や親せき、友人・知人」、精神障害者では「インターネット」がそれぞれ最も多くなっています。

■【障害や福祉サービス等に関する情報の入手先（複数回答）】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース	180	21.3%	109	23.0%	38	16.2%	56	21.9%	37	24.0%	17	20.0%
広報ひらかた	305	36.1%	195	41.2%	75	31.9%	70	27.3%	50	32.5%	27	31.8%
インターネット	210	24.9%	130	27.5%	25	10.6%	77	30.1%	45	29.2%	29	34.1%
家族や親せき、友人・知人	258	30.5%	127	26.8%	98	41.7%	66	25.8%	72	46.8%	30	35.3%
サービス事業所の人や施設職員	144	17.0%	55	11.6%	81	34.5%	31	12.1%	42	27.3%	12	14.1%
障害者団体や家族会（団体の機関誌等）	46	5.4%	19	4.0%	25	10.6%	13	5.1%	17	11.0%	7	8.2%
かかりつけの医師や看護師	142	16.8%	69	14.6%	16	6.8%	78	30.5%	25	16.2%	17	20.0%
病院のケースワーカーや介護保険のケアマネージャー	83	9.8%	51	10.8%	10	4.3%	32	12.5%	4	2.6%	6	7.1%
民生委員・児童委員	4	0.5%	3	0.6%	0	0.0%	3	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
障害者相談支援センター等の民間の相談窓口	30	3.6%	12	2.5%	9	3.8%	14	5.5%	10	6.5%	3	3.5%
行政機関の相談窓口	52	6.2%	29	6.1%	16	6.8%	15	5.9%	12	7.8%	7	8.2%
福祉のてびき	198	23.4%	120	25.4%	65	27.7%	44	17.2%	41	26.6%	27	31.8%
その他	31	3.7%	14	3.0%	8	3.4%	14	5.5%	4	2.6%	1	1.2%
有効回答数	845	100.0%	473	100.0%	235	100.0%	256	100.0%	154	100.0%	85	100.0%

■【障害や福祉サービス等に関する情報の入手先（最も多いもの）】



- 本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース
- 広報ひらかた
- インターネット
- 家族や親せき、友人・知人
- サービス事業所の人や施設職員
- 障害者団体や家族会（団体の機関誌等）
- かかりつけの医師や看護師
- 病院のケースワーカーや介護保険のケアマネージャー
- 民生委員・児童委員
- 障害者相談支援センター等の民間の相談窓口
- 行政機関の相談窓口
- 福祉のてびき
- その他
- 無回答

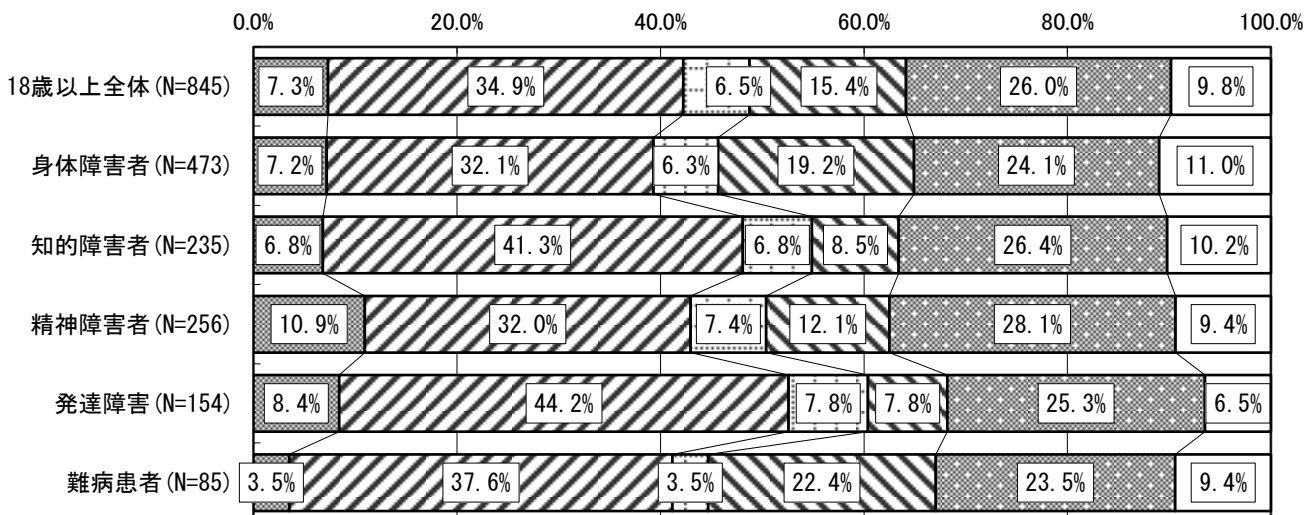
7 けんりようご 権利擁護

(1) 障害があることで差別や嫌な思いをすることが、この5年間で変わったように思うか

問41 あなたは、障害があることで差別や嫌な思いをすることは、この5年間で変わったように思いますか。(〇は1つだけ)

障害があることで差別や嫌な思いをすることについては、この5年間で「あまり変わらないと思う」が34.9%で最も多く、次いで、「わからない」が26.0%となっています。身体障害者・難病患者は「差別を感じたことがない、嫌な思いをしたことがない」が比較的多くなっています。

■【障害があることで差別や嫌な思いをすること】

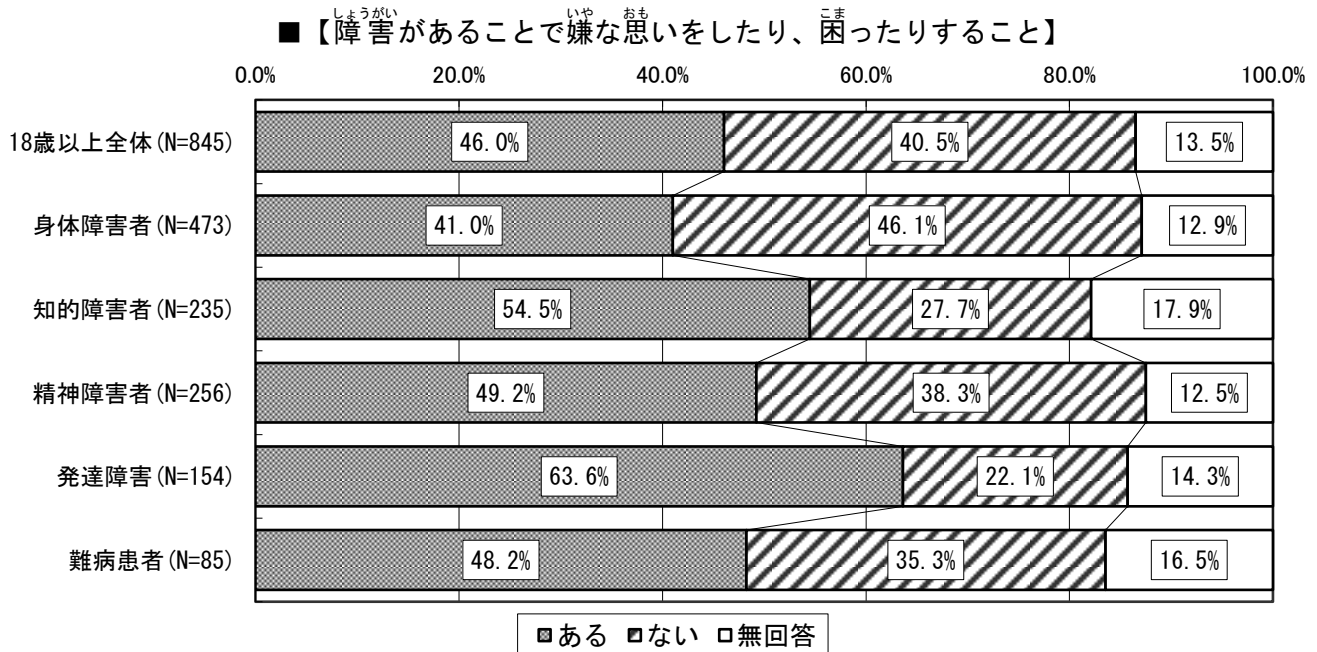


- 増えたと思う
- あまり変わらないと思う
- 減ったと思う
- 差別を感じたことがない、嫌な思いをしたことがない
- わからない
- 無回答

(2) 障害があることで嫌な思いをしたり、困ったりすること

問42 あなたは、障害があることで嫌な思いをしたり、困ったりすることは、ありますか。(○は1つだけ)

障害があることで嫌な思いをする(した)ことがあるかについては、「ある」が46.0%、「ない」が40.5%となっています。



(3) 嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容

問43 どのような場所で嫌な思いをしたり、困ったりしましたか。また、その嫌な思いをしたり、困ったりすることはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

障害があることで嫌な思いをしたり、困ったりすることがある方の、差別や嫌な思いをした内容については、学校では「無視されたり、仲間はずれにされる」、職場では「障害に配慮してもらえなかった」、仕事を探するときでは「障害を理由に断られた」、外出先・余暇を楽しむとき・公共交通機関・病院等の医療機関・住んでいる地域では「じろじろ見られた」がそれぞれ最も多くなっています。

■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容 (複数回答)】 1. 学校

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
自分だけ違う対応をされる	41	10.5%	17	8.8%	23	18.0%	9	7.1%	17	17.3%	4	9.8%
暴言や嫌味を言われる、暴力を受ける	35	9.0%	13	6.7%	21	16.4%	10	7.9%	17	17.3%	4	9.8%
無視されたり、仲間はずれにされる	43	11.1%	13	6.7%	27	21.1%	10	7.9%	21	21.4%	3	7.3%
じろじろ見られた	33	8.5%	18	9.3%	19	14.8%	7	5.6%	11	11.2%	2	4.9%
自分の意見をきいてもらえなかった	21	5.4%	10	5.2%	11	8.6%	5	4.0%	11	11.2%	2	4.9%
障害を理由に断られた	7	1.8%	2	1.0%	6	4.7%	0	0.0%	6	6.1%	1	2.4%
障害に配慮してもらえなかった	24	6.2%	12	6.2%	12	9.4%	3	2.4%	11	11.2%	3	7.3%
不親切・冷たい態度をとられた	31	8.0%	12	6.2%	16	12.5%	11	8.7%	20	20.4%	3	7.3%
その他	6	1.5%	2	1.0%	2	1.6%	3	2.4%	4	4.1%	0	0.0%
有効回答数	389	100.0%	194	100.0%	128	100.0%	126	100.0%	98	100.0%	41	100.0%

■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容 (複数回答)】 2. 職場

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
自分だけ違う対応をされる	32	8.2%	12	6.2%	7	5.5%	16	12.7%	10	10.2%	0	0.0%
暴言や嫌味を言われる、暴力を受ける	30	7.7%	11	5.7%	10	7.8%	15	11.9%	13	13.3%	2	4.9%
無視されたり、仲間はずれにされる	26	6.7%	8	4.1%	7	5.5%	15	11.9%	8	8.2%	1	2.4%
じろじろ見られた	16	4.1%	9	4.6%	4	3.1%	7	5.6%	6	6.1%	2	4.9%
自分の意見をきいてもらえなかった	29	7.5%	12	6.2%	7	5.5%	14	11.1%	8	8.2%	2	4.9%
障害を理由に断られた	16	4.1%	9	4.6%	2	1.6%	5	4.0%	2	2.0%	0	0.0%
障害に配慮してもらえなかった	71	18.3%	40	20.6%	10	7.8%	25	19.8%	14	14.3%	6	14.6%
不親切・冷たい態度をとられた	46	11.8%	18	9.3%	8	6.3%	26	20.6%	14	14.3%	1	2.4%
その他	12	3.1%	4	2.1%	2	1.6%	8	6.3%	6	6.1%	0	0.0%
有効回答数	389	100.0%	194	100.0%	128	100.0%	126	100.0%	98	100.0%	41	100.0%

■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答） 3. 仕事を探すとき】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
自分だけ違う対応をされる	19	4.9%	8	4.1%	1	0.8%	12	9.5%	3	3.1%	1	2.4%
暴言や嫌味を言われる、暴力を受ける	14	3.6%	6	3.1%	2	1.6%	8	6.3%	3	3.1%	2	4.9%
無視されたり、仲間はずれにされる	4	1.0%	1	0.5%	0	0.0%	4	3.2%	0	0.0%	0	0.0%
じろじろ見られた	14	3.6%	8	4.1%	5	3.9%	7	5.6%	6	6.1%	1	2.4%
自分の意見をきいてもらえなかった	18	4.6%	8	4.1%	3	2.3%	12	9.5%	5	5.1%	3	7.3%
障害を理由に断られた	36	9.3%	19	9.8%	5	3.9%	13	10.3%	3	3.1%	4	9.8%
障害に配慮してもらえなかった	30	7.7%	18	9.3%	0	0.0%	13	10.3%	2	2.0%	3	7.3%
不親切・冷たい態度をとられた	24	6.2%	11	5.7%	3	2.3%	13	10.3%	7	7.1%	2	4.9%
その他	7	1.8%	5	2.6%	1	0.8%	4	3.2%	1	1.0%	0	0.0%
有効回答数	389	100.0%	194	100.0%	128	100.0%	126	100.0%	98	100.0%	41	100.0%

■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答） 4. 外出先・余暇を楽しむとき】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
自分だけ違う対応をされる	26	6.7%	15	7.7%	4	3.1%	9	7.1%	5	5.1%	3	7.3%
暴言や嫌味を言われる、暴力を受ける	24	6.2%	13	6.7%	9	7.0%	4	3.2%	9	9.2%	2	4.9%
無視されたり、仲間はずれにされる	14	3.6%	7	3.6%	3	2.3%	4	3.2%	5	5.1%	3	7.3%
じろじろ見られた	119	30.6%	49	25.3%	66	51.6%	25	19.8%	40	40.8%	13	31.7%
自分の意見をきいてもらえなかった	17	4.4%	9	4.6%	5	3.9%	6	4.8%	5	5.1%	4	9.8%
障害を理由に断られた	22	5.7%	13	6.7%	8	6.3%	4	3.2%	5	5.1%	3	7.3%
障害に配慮してもらえなかった	56	14.4%	36	18.6%	15	11.7%	7	5.6%	10	10.2%	10	24.4%
不親切・冷たい態度をとられた	63	16.2%	36	18.6%	19	14.8%	14	11.1%	18	18.4%	6	14.6%
その他	25	6.4%	14	7.2%	4	3.1%	9	7.1%	4	4.1%	3	7.3%
有効回答数	389	100.0%	194	100.0%	128	100.0%	126	100.0%	98	100.0%	41	100.0%

■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答） 5. 公共交通機関】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
自分だけ違う対応をされる	13	3.3%	10	5.2%	3	2.3%	3	2.4%	3	3.1%	2	4.9%
暴言や嫌味を言われる、暴力を受ける	19	4.9%	11	5.7%	7	5.5%	5	4.0%	5	5.1%	2	4.9%
無視されたり、仲間はずれにされる	3	0.8%	3	1.5%	0	0.0%	1	0.8%	1	1.0%	2	4.9%
じろじろ見られた	99	25.4%	44	22.7%	49	38.3%	25	19.8%	32	32.7%	10	24.4%
自分の意見をきいてもらえなかった	5	1.3%	3	1.5%	2	1.6%	3	2.4%	2	2.0%	1	2.4%
障害を理由に断られた	3	0.8%	3	1.5%	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	1	2.4%
障害に配慮してもらえなかった	50	12.9%	34	17.5%	12	9.4%	9	7.1%	10	10.2%	7	17.1%
不親切・冷たい態度をとられた	53	13.6%	33	17.0%	16	12.5%	9	7.1%	18	18.4%	10	24.4%
その他	17	4.4%	9	4.6%	4	3.1%	8	6.3%	5	5.1%	1	2.4%
有効回答数	389	100.0%	194	100.0%	128	100.0%	126	100.0%	98	100.0%	41	100.0%

■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答） 6. 病院等の医療機関】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
自分だけ違う対応をされる	17	4.4%	7	3.6%	4	3.1%	8	6.3%	5	5.1%	0	0.0%
暴言や嫌味を言われる、暴力を受ける	9	2.3%	6	3.1%	1	0.8%	5	4.0%	2	2.0%	0	0.0%
無視されたり、仲間はずれにされる	3	0.8%	2	1.0%	1	0.8%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%
じろじろ見られた	52	13.4%	23	11.9%	29	22.7%	11	8.7%	21	21.4%	6	14.6%
自分の意見をきいてもらえなかった	15	3.9%	9	4.6%	3	2.3%	4	3.2%	2	2.0%	3	7.3%
障害を理由に断られた	15	3.9%	7	3.6%	9	7.0%	3	2.4%	5	5.1%	2	4.9%
障害に配慮してもらえなかった	39	10.0%	21	10.8%	13	10.2%	8	6.3%	9	9.2%	6	14.6%
不親切・冷たい態度をとられた	36	9.3%	21	10.8%	10	7.8%	13	10.3%	8	8.2%	1	2.4%
その他	9	2.3%	5	2.6%	2	1.6%	4	3.2%	1	1.0%	1	2.4%
有効回答数	389	100.0%	194	100.0%	128	100.0%	126	100.0%	98	100.0%	41	100.0%

■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答） 7. 住んでいる地域】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
自分だけ違う対応をされる	13	3.3%	1	0.5%	6	4.7%	5	4.0%	5	5.1%	0	0.0%
暴言や嫌味を言われる、暴力を受ける	15	3.9%	4	2.1%	6	4.7%	7	5.6%	6	6.1%	0	0.0%
無視されたり、仲間はずれにされる	17	4.4%	3	1.5%	5	3.9%	9	7.1%	5	5.1%	0	0.0%
じろじろ見られた	60	15.4%	28	14.4%	30	23.4%	13	10.3%	21	21.4%	11	26.8%
自分の意見をきいてもらえなかった	10	2.6%	3	1.5%	3	2.3%	6	4.8%	2	2.0%	1	2.4%
障害を理由に断られた	3	0.8%	0	0.0%	3	2.3%	0	0.0%	2	2.0%	0	0.0%
障害に配慮してもらえなかった	21	5.4%	11	5.7%	7	5.5%	8	6.3%	5	5.1%	3	7.3%
不親切・冷たい態度をとられた	30	7.7%	6	3.1%	13	10.2%	13	10.3%	10	10.2%	1	2.4%
その他	9	2.3%	4	2.1%	3	2.3%	4	3.2%	2	2.0%	0	0.0%
有効回答数	389	100.0%	194	100.0%	128	100.0%	126	100.0%	98	100.0%	41	100.0%

■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答）

8. 福祉サービス（通所事業所・グループホーム・施設）など】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
自分だけ違う対応をされる	8	2.1%	5	2.6%	2	1.6%	4	3.2%	2	2.0%	1	2.4%
暴言や嫌味を言われる、暴力を受ける	11	2.8%	5	2.6%	7	5.5%	4	3.2%	6	6.1%	1	2.4%
無視されたり、仲間はずれにされる	5	1.3%	2	1.0%	2	1.6%	2	1.6%	2	2.0%	0	0.0%
じろじろ見られた	7	1.8%	4	2.1%	2	1.6%	2	1.6%	2	2.0%	0	0.0%
自分の意見をきいてもらえなかった	11	2.8%	7	3.6%	4	3.1%	4	3.2%	3	3.1%	2	4.9%
障害を理由に断られた	2	0.5%	0	0.0%	2	1.6%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%
障害に配慮してもらえなかった	11	2.8%	8	4.1%	3	2.3%	4	3.2%	2	2.0%	2	4.9%
不親切・冷たい態度をとられた	11	2.8%	6	3.1%	6	4.7%	5	4.0%	4	4.1%	2	4.9%
その他	9	2.3%	3	1.5%	5	3.9%	3	2.4%	3	3.1%	1	2.4%
有効回答数	389	100.0%	194	100.0%	128	100.0%	126	100.0%	98	100.0%	41	100.0%

■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答） 9. 住まいを探すとき】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
自分だけ違う対応をされる	3	0.8%	2	1.0%	0	0.0%	1	0.8%	1	1.0%	1	2.4%
暴言や嫌味を言われる、暴力を受ける	1	0.3%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無視されたり、仲間はずれにされる	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
じろじろ見られた	6	1.5%	4	2.1%	1	0.8%	1	0.8%	2	2.0%	0	0.0%
自分の意見をきいてもらえなかった	1	0.3%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
障害を理由に断られた	9	2.3%	7	3.6%	2	1.6%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%
障害に配慮してもらえなかった	5	1.3%	5	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.4%
不親切・冷たい態度をとられた	9	2.3%	7	3.6%	3	2.3%	2	1.6%	1	1.0%	2	4.9%
その他	6	1.5%	2	1.0%	3	2.3%	3	2.4%	2	2.0%	0	0.0%
有効回答数	389	100.0%	194	100.0%	128	100.0%	126	100.0%	98	100.0%	41	100.0%

■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答） 10. その他】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
自分だけ違う対応をされる	3	0.8%	1	0.5%	2	1.6%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%
暴言や嫌味を言われる、暴力を受ける	4	1.0%	2	1.0%	1	0.8%	1	0.8%	2	2.0%	1	2.4%
無視されたり、仲間はずれにされる	1	0.3%	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%
じろじろ見られた	4	1.0%	3	1.5%	1	0.8%	0	0.0%	1	1.0%	1	2.4%
自分の意見をきいてもらえなかった	3	0.8%	1	0.5%	2	1.6%	0	0.0%	2	2.0%	1	2.4%
障害を理由に断られた	2	0.5%	1	0.5%	1	0.8%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%
障害に配慮してもらえなかった	4	1.0%	3	1.5%	1	0.8%	0	0.0%	1	1.0%	2	4.9%
不親切・冷たい態度をとられた	6	1.5%	3	1.5%	3	2.3%	0	0.0%	3	3.1%	1	2.4%
その他	14	3.6%	5	2.6%	5	3.9%	7	5.6%	5	5.1%	0	0.0%
有効回答数	389	100.0%	194	100.0%	128	100.0%	126	100.0%	98	100.0%	41	100.0%

(4) 成年後見制度を利用の際の不安、または利用を考えていない理由

問44 成年後見制度を利用している場合や利用を考えておられる場合、不安に考えておられること、また、利用を考えておられない理由はなんですか。（あてはまるものすべてに○）

成年後見制度の利用にあたって不安なこと・利用を考えない理由については、「制度がよくわからない」が30.7%と最も多く、次いで、「本人に代わって財産等を管理できる親族がいるから」が20.6%、「後見人等を見ず知らずの人がすることに不安があるから」が13.4%などとなっています。

■【成年後見制度を利用の際の不安、または利用を考えていない理由（複数回答）】

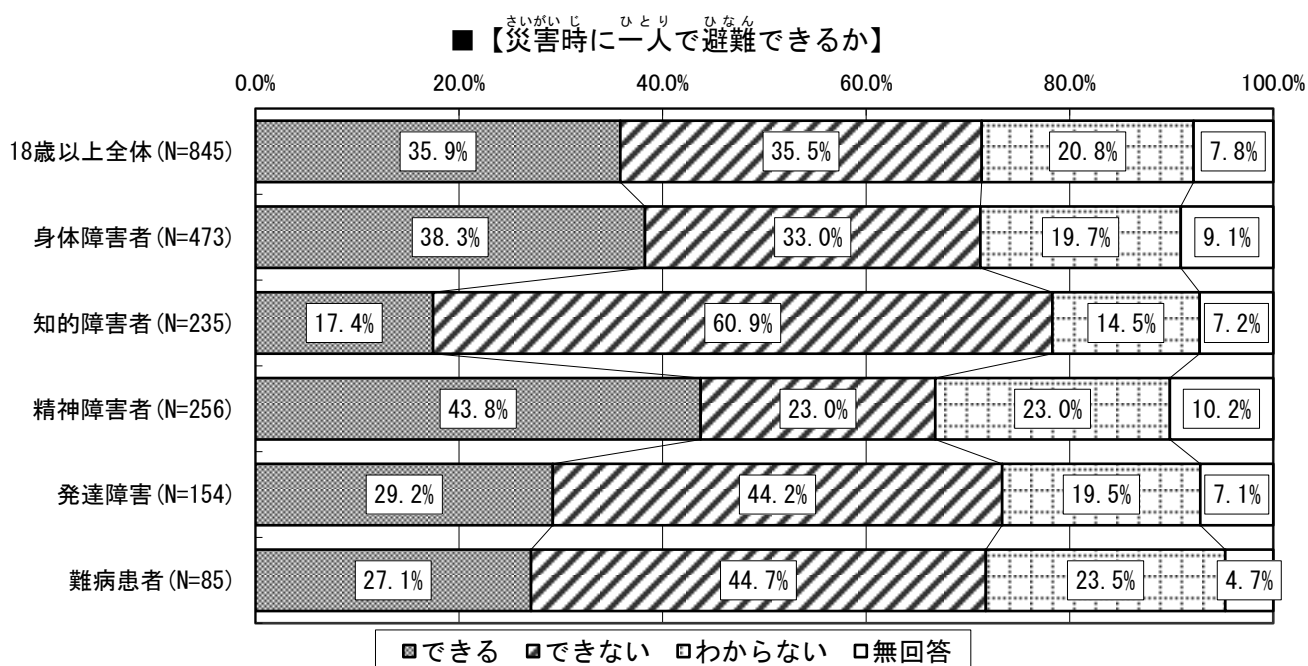
	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
制度がよくわからない	259	30.7%	120	25.4%	81	34.5%	84	32.8%	67	43.5%	24	28.2%
本人が契約行為等を行うことができるから	104	12.3%	75	15.9%	6	2.6%	28	10.9%	15	9.7%	14	16.5%
本人に代わって財産等を管理できる親族がいるから	174	20.6%	93	19.7%	76	32.3%	41	16.0%	37	24.0%	17	20.0%
後見人等を見ず知らずの人がすることに不安があるから	113	13.4%	42	8.9%	66	28.1%	21	8.2%	45	29.2%	10	11.8%
後見人等に支払う報酬の負担ができないから	71	8.4%	22	4.7%	42	17.9%	18	7.0%	28	18.2%	6	7.1%
手続きが複雑そうでわからないから	99	11.7%	43	9.1%	54	23.0%	18	7.0%	33	21.4%	10	11.8%
本人の意志で物事を決められなくなるから	66	7.8%	29	6.1%	30	12.8%	21	8.2%	22	14.3%	6	7.1%
その他	26	3.1%	15	3.2%	8	3.4%	8	3.1%	3	1.9%	3	3.5%
有効回答数	845	100.0%	473	100.0%	235	100.0%	256	100.0%	154	100.0%	85	100.0%

8 さいがいじ ひなんとう 災害時の避難等

(1) さいがいじ ひとり ひなん 災害時に一人で避難できるか

問45 あなたは、地震等の災害時に一人で避難できますか。(○は1つだけ)

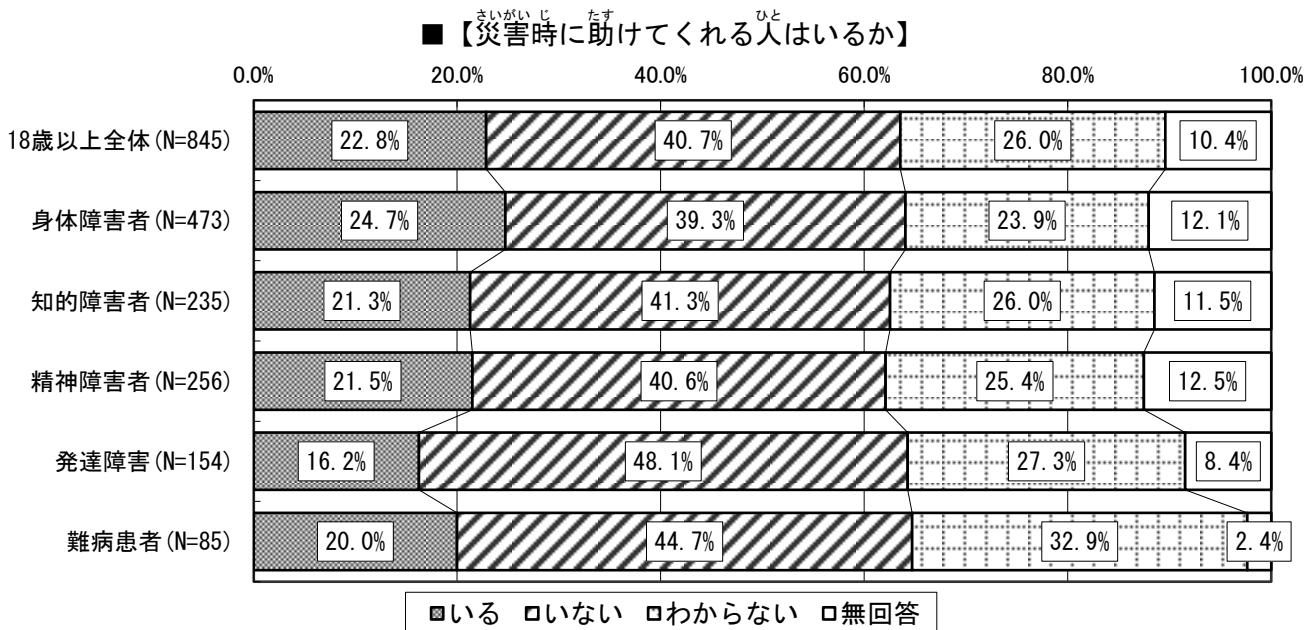
地震等の災害時に一人で避難できるかについては、「できる」が35.9%、「できない」が35.5%、「わからない」が20.8%となっています。知的障害者では「できない」が60.9%と6割を超えています。



(2) 災害時に助けてくれる人はいるか

問46 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、災害時に避難する時、あなたを助けてくれる人はいますか。(〇は1つだけ)

家族が不在の場合や一人暮らしの場合、災害時に避難する時、助けてくれる人がいるかについては、「いる」が22.8%、「いない」が40.7%、「わからない」が26.0%となっています。



(3) 災害時に助けてくれる人

問47 助けてくれる人は誰ですか。(あてはまるものすべてに〇)

助けてくれる人がいる方の、助けてくれる相手については、「近所の人」が44.0%と最も多く、次いで、「ヘルパーなど事業所の職員」が32.6%、「友人・知人」が22.3%となっています。

■【災害時に助けてくれる人 (複数回答)】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
近所の人	85	44.0%	56	47.9%	20	40.0%	18	32.7%	9	36.0%	7	41.2%
ヘルパーなど事業所の職員	63	32.6%	30	25.6%	25	50.0%	18	32.7%	12	48.0%	6	35.3%
病院の職員	13	6.7%	10	8.5%	1	2.0%	7	12.7%	3	12.0%	2	11.8%
友人・知人	43	22.3%	26	22.2%	6	12.0%	14	25.5%	5	20.0%	2	11.8%
その他	14	7.3%	12	10.3%	1	2.0%	5	9.1%	1	4.0%	1	5.9%
有効回答数	193	100.0%	117	100.0%	50	100.0%	55	100.0%	25	100.0%	17	100.0%

(4) 災害時の避難や避難生活で困ることや不安

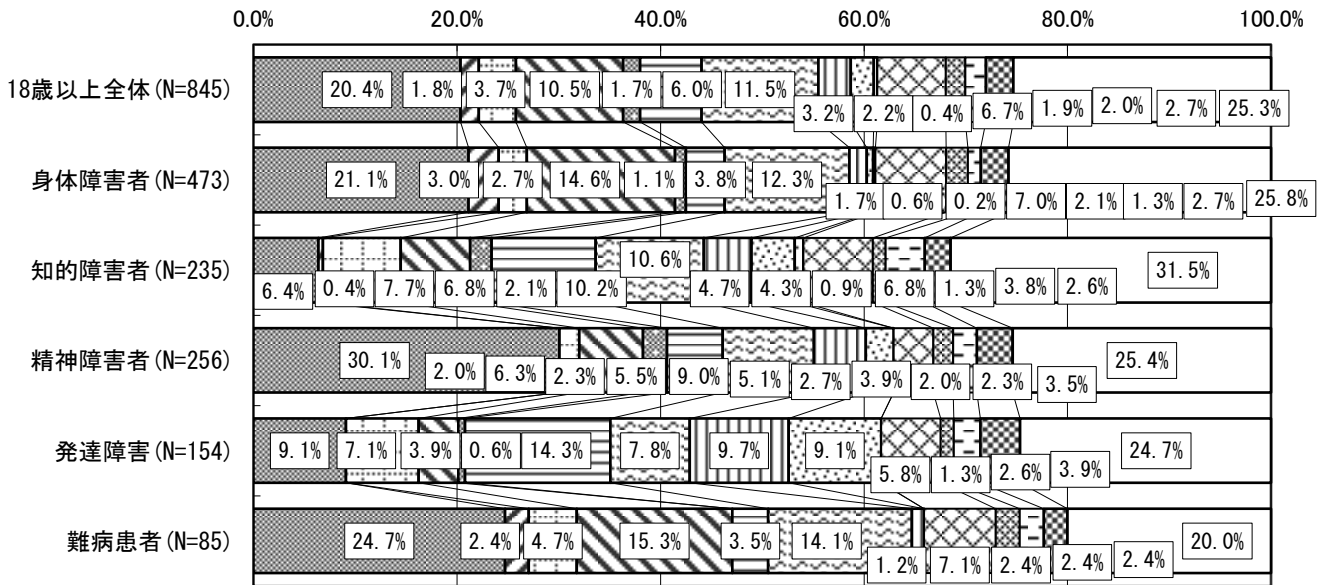
問48 地震等の災害時に避難する時や避難生活で困ること、不安に思うことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

地震等の災害時に避難する時や避難生活で困ること、不安に思うことについては、「投薬や治療が受けられない」が49.6%と最も多く、次いで、「避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安」が47.6%、「コロナウイルス感染症などへの感染が不安」が43.2%となっています。

■【災害時の避難や避難生活で困ることや不安(複数回答)】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
投薬や治療が受けられない	419	49.6%	232	49.0%	84	35.7%	155	60.5%	64	41.6%	52	61.2%
補装具の使用が困難になる(入手が困難になるなども含む)	79	9.3%	71	15.0%	12	5.1%	6	2.3%	2	1.3%	10	11.8%
救助を求めることができない	198	23.4%	94	19.9%	96	40.9%	41	16.0%	59	38.3%	29	34.1%
安全なところまで、迅速に避難することができない	346	40.9%	204	43.1%	121	51.5%	70	27.3%	58	37.7%	46	54.1%
被害状況、避難場所などの情報が入手できない	198	23.4%	87	18.4%	87	37.0%	48	18.8%	49	31.8%	26	30.6%
周囲とコミュニケーションがとれない	248	29.3%	94	19.9%	126	53.6%	65	25.4%	78	50.6%	25	29.4%
避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安	402	47.6%	232	49.0%	116	49.4%	103	40.2%	74	48.1%	46	54.1%
避難場所の雑音、騒音に耐えられない	193	22.8%	78	16.5%	68	28.9%	76	29.7%	64	41.6%	16	18.8%
他の避難者から叱られると思うと不安(大声をあげる等をする事により)	118	14.0%	33	7.0%	71	30.2%	28	10.9%	58	37.7%	5	5.9%
配給のお弁当が食べられない	53	6.3%	31	6.6%	19	8.1%	11	4.3%	16	10.4%	9	10.6%
コロナウイルス感染症などへの感染が不安	365	43.2%	207	43.8%	95	40.4%	107	41.8%	73	47.4%	45	52.9%
プライバシーの配慮がされない	271	32.1%	147	31.1%	71	30.2%	88	34.4%	68	44.2%	33	38.8%
避難する場所がわからない	149	17.6%	58	12.3%	71	30.2%	35	13.7%	39	25.3%	16	18.8%
その他	40	4.7%	22	4.7%	9	3.8%	16	6.3%	9	5.8%	3	3.5%
有効回答数	845	100.0%	473	100.0%	235	100.0%	256	100.0%	154	100.0%	85	100.0%

■【災害時の避難や避難生活で困ることや不安（最も困るもの）】

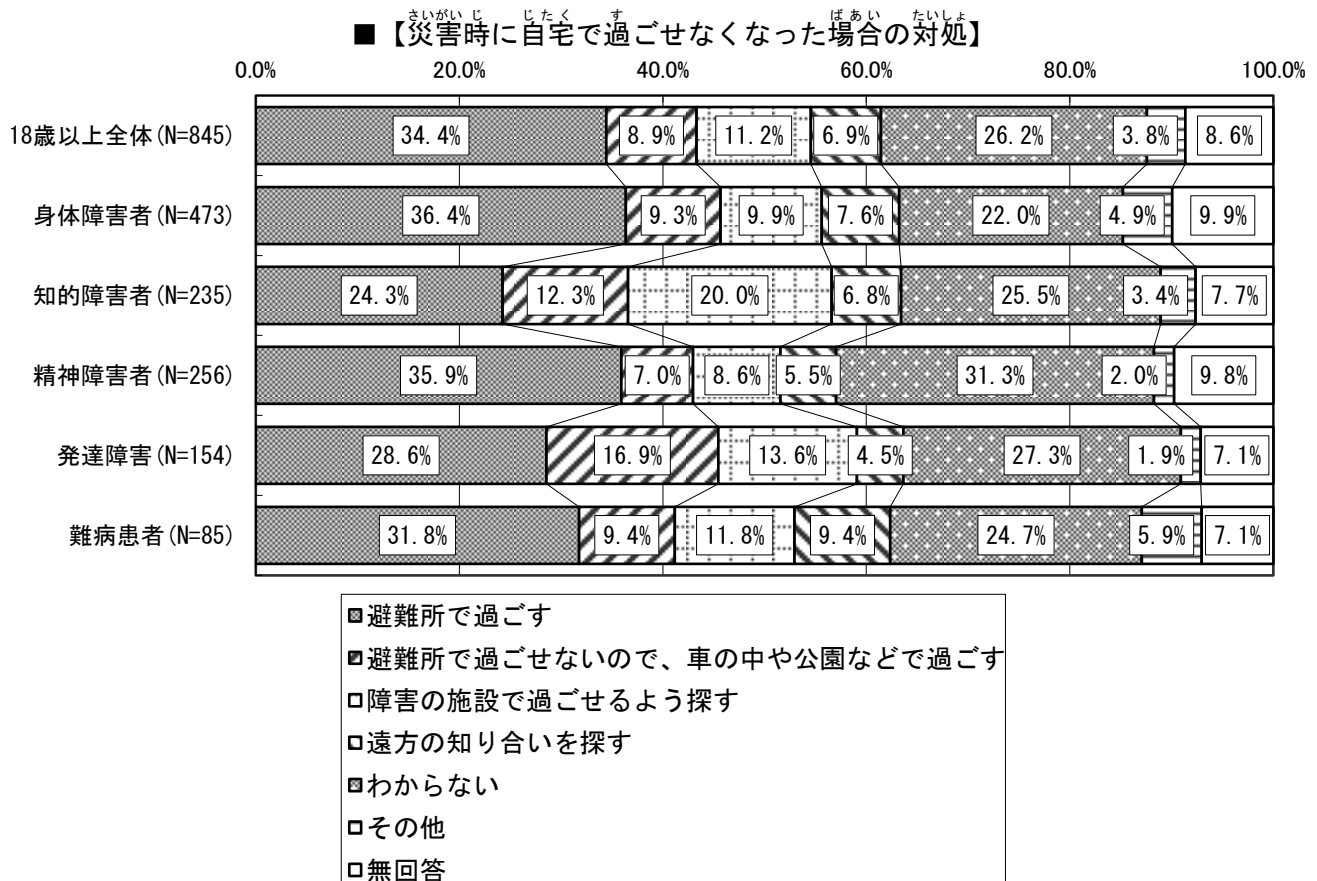


- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 投薬や治療が受けられない | <input checked="" type="checkbox"/> 補装具の使用が困難になる |
| <input type="checkbox"/> 救助を求めることができない | <input type="checkbox"/> 安全なところまで、迅速に避難することができない |
| <input checked="" type="checkbox"/> 被害状況、避難場所などの情報が入手できない | <input type="checkbox"/> 周囲とコミュニケーションがとれない |
| <input checked="" type="checkbox"/> 避難場所の設備や生活環境が不安 | <input type="checkbox"/> 避難場所の雑音、騒音に耐えられない |
| <input type="checkbox"/> 他の避難者から叱られると思うと不安 | <input type="checkbox"/> 配給のお弁当が食べられない |
| <input checked="" type="checkbox"/> コロナウイルス感染症などへの感染が不安 | <input checked="" type="checkbox"/> プライバシーの配慮がされない |
| <input type="checkbox"/> 避難する場所がわからない | <input checked="" type="checkbox"/> その他 |
| <input type="checkbox"/> 無回答 | |

(5) 災害時に自宅で過ごせなくなった場合の対処

問49 災害時に自宅で過ごせなくなった場合、あなたはどのようにされますか。(〇は1つだけ)

災害時に自宅で過ごせなくなった場合、どのようにするかについては、「避難所で過ごす」が34.4%と最も多く、次いで、「障害の施設で過ごせるよう探す」が11.2%、「避難所で過ごせないので、車の中や公園などで過ごす」が8.9%、「遠方の知り合いを探す」が6.9%となっています。一方で、「わからない」という回答も26.2%と多くみられます。また、発達障害では「避難所で過ごせないので、車の中や公園などで過ごす」が16.9%と多くなっています。



(6) 避難場所があれば、役に立つ、障害特性に配慮していると思われる

る品物

問50 避難場所があれば、役に立つ、障害特性に配慮していると思われる品物がありますか。(あてはまるものすべてに○)

避難場所があれば、役に立つ、障害特性に配慮していると思われる品物については、「自分だけの空間を作る簡易な装置(段ボール箱の区切り等)」が55.5%と最も多く、次いで、「何らかの支援が必要なことがわかるカード、バンダナなど」が21.7%、「車いすで使用できるトイレ」が20.0%、「騒音、雑音を遮断する耳あて(イヤーマフ等)」が16.6%、「避難所での連絡事項などが文字により伝えられる装置」が16.0%となっています。

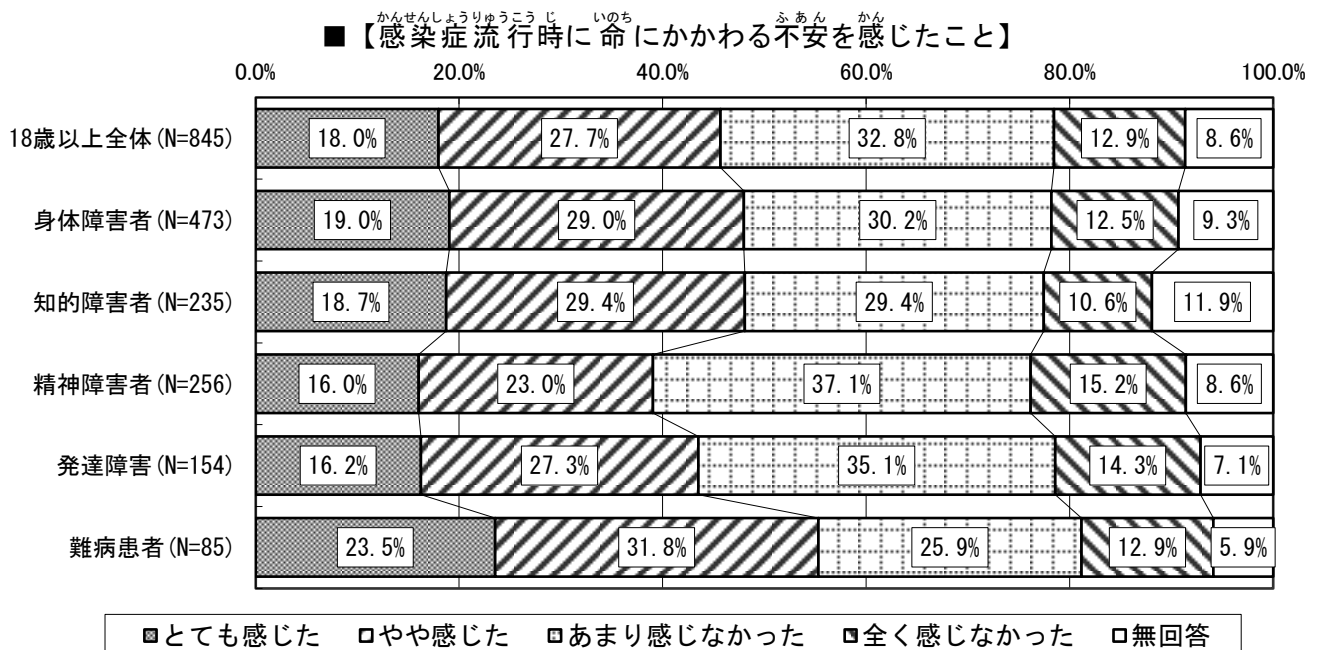
■【避難場所があれば、役に立つ、障害特性に配慮していると思われる品物(複数回答)】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
車いすで使用できるトイレ	169	20.0%	136	28.8%	29	12.3%	32	12.5%	13	8.4%	26	30.6%
騒音、雑音を遮断する耳あて(イヤーマフ等)	140	16.6%	66	14.0%	38	16.2%	58	22.7%	34	22.1%	10	11.8%
ストマ装具	28	3.3%	22	4.7%	3	1.3%	9	3.5%	2	1.3%	2	2.4%
自分だけの空間を作る簡易な装置(段ボール箱の区切り等)	469	55.5%	246	52.0%	133	56.6%	145	56.6%	93	60.4%	43	50.6%
避難所での連絡事項などが音声により伝えられる装置	97	11.5%	51	10.8%	33	14.0%	23	9.0%	13	8.4%	11	12.9%
避難所での連絡事項などが文字により伝えられる装置	135	16.0%	84	17.8%	25	10.6%	38	14.8%	21	13.6%	15	17.6%
利用している医療機器を充分に利用(充電)できるだけの電源	101	12.0%	64	13.5%	16	6.8%	30	11.7%	14	9.1%	13	15.3%
絵カードなどのコミュニケーション支援のための道具	60	7.1%	24	5.1%	29	12.3%	12	4.7%	20	13.0%	5	5.9%
何らかの支援が必要なことがわかるカード、バンダナなど	183	21.7%	101	21.4%	59	25.1%	50	19.5%	43	27.9%	24	28.2%
その他	54	6.4%	29	6.1%	17	7.2%	16	6.3%	8	5.2%	5	5.9%
有効回答数	845	100.0%	473	100.0%	235	100.0%	256	100.0%	154	100.0%	85	100.0%

(7) 感染症流行時に命にかかわる不安を感じたこと

問51 新型コロナウイルスなど、感染症流行時、命にかかわる不安を感じたことはありましたか。(〇は1つだけ)

感染症流行時に命にかかわる不安を感じたことについては、「とても感じた」が18.0%、「やや感じた」が27.7%で、45.7%が不安を感じています。難病患者では5割以上が不安を感じています。



(8) 感染症流行時の不安

問52 具体的にどのようなことに不安を感じましたか。(あてはまるものすべてに○)

感染症流行時に命にかかわる不安を感じた方の、具体的な不安については、「外出ができなかった」が52.1%と最も多く、次いで、「介助者（家族やヘルパー）との感染対策」が31.6%、「感染に関することへの理解が難しい、わからない」が27.2%などとなっています。

■【感染症流行時の不安（複数回答）】

	全体		身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害		難病患者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
介助者（家族やヘルパー）との感染対策	122	31.6%	78	34.4%	46	40.7%	22	22.0%	24	35.8%	20	42.6%
外出ができなかった	201	52.1%	115	50.7%	60	53.1%	49	49.0%	39	58.2%	16	34.0%
いつも利用しているサービス（ホームヘルプやガイドヘルパーなど）が利用できなかった	46	11.9%	24	10.6%	27	23.9%	8	8.0%	14	20.9%	6	12.8%
いつも行っているところ（会社や通所事業所など）に行くことができなかった	54	14.0%	25	11.0%	26	23.0%	15	15.0%	18	26.9%	6	12.8%
通院ができなかった	78	20.2%	57	25.1%	17	15.0%	17	17.0%	13	19.4%	10	21.3%
情報が入手できない	38	9.8%	28	12.3%	4	3.5%	10	10.0%	3	4.5%	2	4.3%
感染に関することへの理解が難しい、わからない	105	27.2%	45	19.8%	53	46.9%	24	24.0%	28	41.8%	8	17.0%
その他	58	15.0%	36	15.9%	8	7.1%	23	23.0%	9	13.4%	12	25.5%
有効回答数	386	100.0%	227	100.0%	113	100.0%	100	100.0%	67	100.0%	47	100.0%

第3章

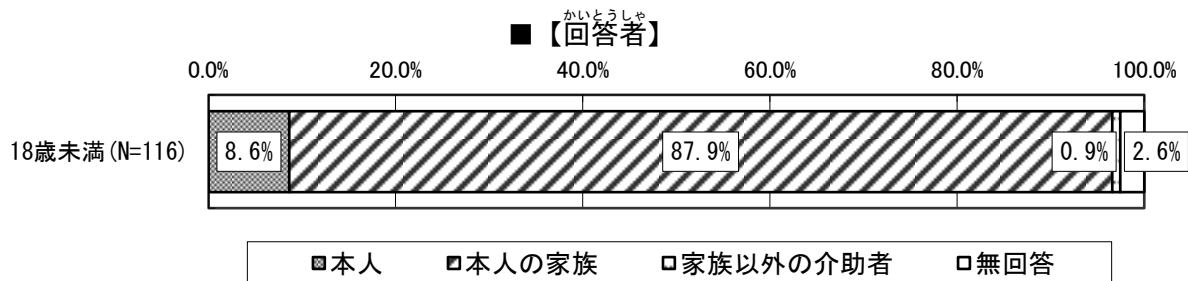
「18歳未満」調査結果

1 属性

(1) 回答者

問1 お答えいただくのは、どなたですか。(〇は1つだけ)

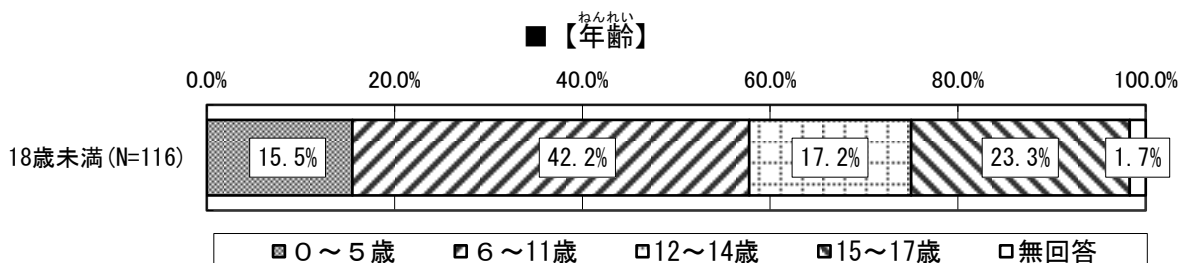
回答者は、「本人（この調査票が郵送された宛名の方）」が8.6%、「本人の家族」が87.9%、「家族以外の介助者」が0.9%となっています。



(2) 年齢（令和2年7月1日現在）

問2 あなたの年齢をお答えください。(令和2年7月1日現在)

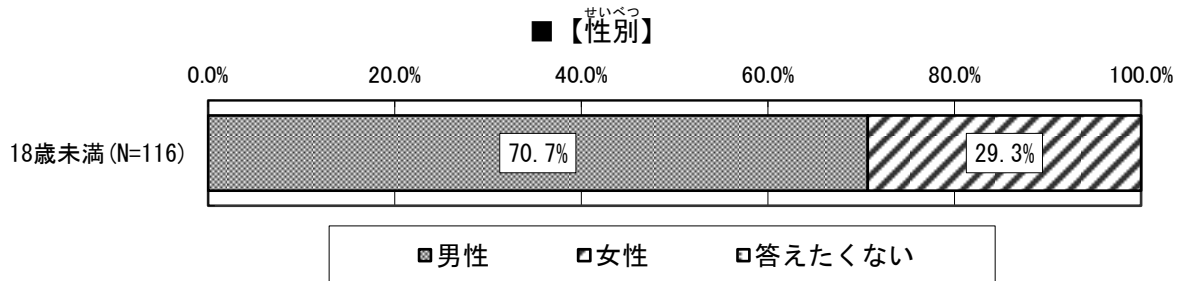
年齢は、「6～11歳」が42.2%と最も多く、次いで、「15～17歳」が23.3%、「12～14歳」が17.2%となっています。



(3) 性別

問3 あなたが思う性別をお答えください。(○は1つだけ)

性別は、「男性」が70.7%、「女性」が29.3%となっています。



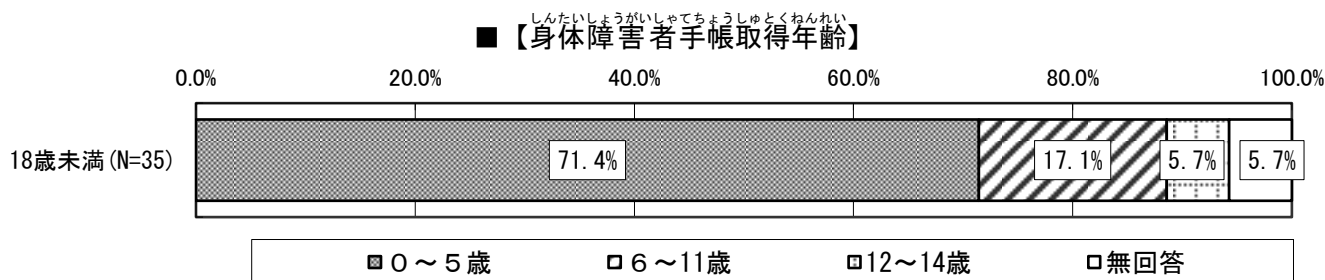
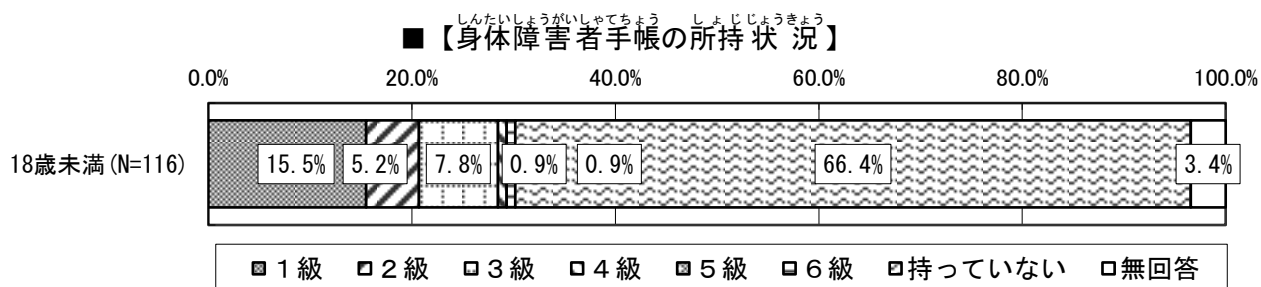
2 障害の状況

(1) 身体障害者手帳の所持状況

問4 あなたは身体障害者手帳をお持ちですか。(〇は総合等級に応じた1つだけ)
また、手帳を取得された時の年齢をお答えください。

身体障害者手帳の有無については、「1級」～「6級」を合わせた『持っている』が30.2%、「持っていない」が66.4%となっています。また、身体障害者等級表による級別は、「1級」が15.5%と最も多く、次いで、「3級」が7.8%となっています。

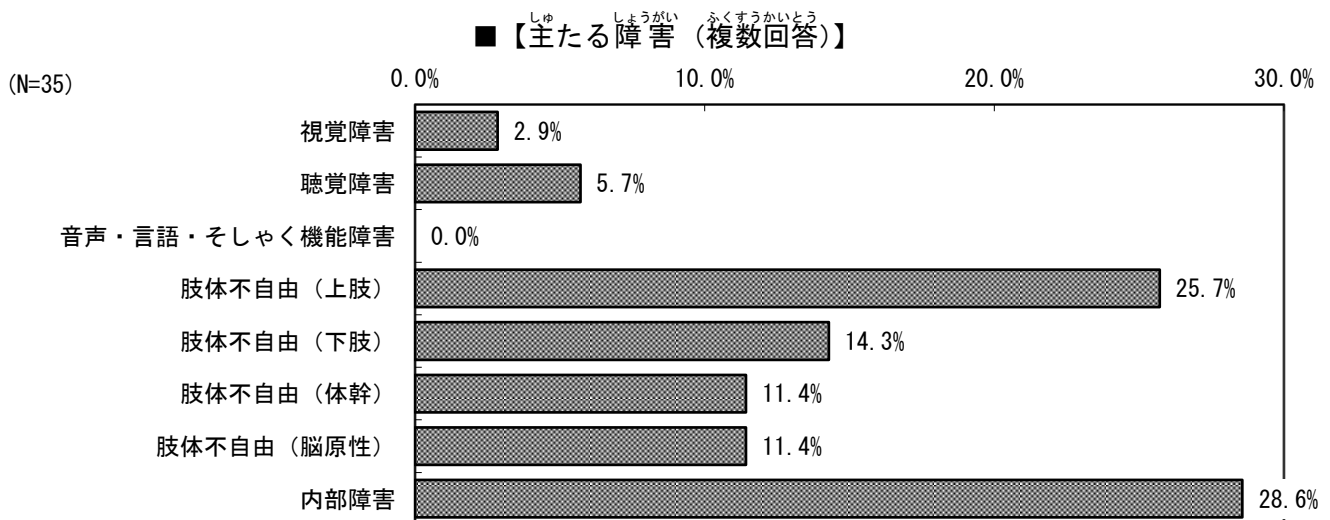
身体障害者手帳をお持ちの方の、手帳を取得した年齢については、「0～5歳」が71.4%と最も多く、次いで、「6～11歳以上」が17.1%、「12～14歳」が5.7%となっています。



(2) 主たる障害

問5 身体障害者手帳をお持ちの場合、主たる障害をお答えください。(複数の障害に認定を受けている場合は、等級が最も高いものに○をつけてください)

身体障害者手帳をお持ちの方の、身体障害の障害名については、「内部障害」が28.6%と最も多く、次いで、「肢体不自由（上肢）」が25.7%、「肢体不自由（下肢）」14.3%などとなっています。

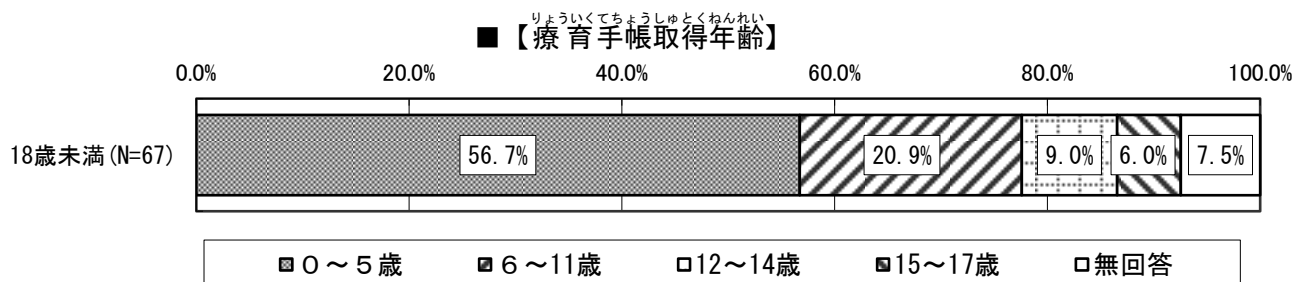
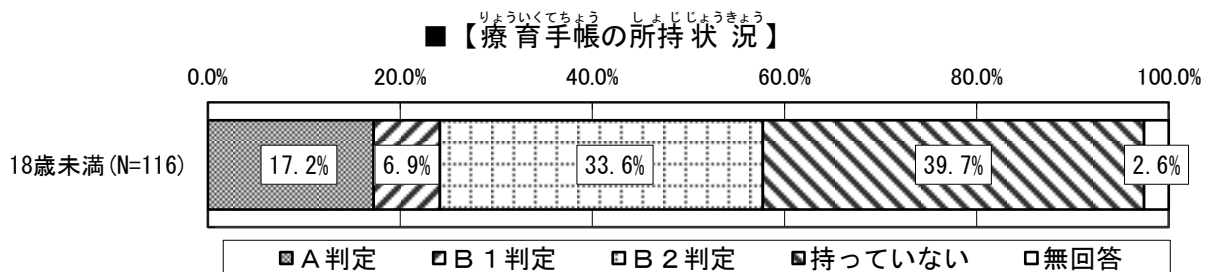


(3) 療育手帳の所持状況

問6 あなたは療育手帳をお持ちですか。(〇は1つだけ) また、手帳を取得された時の年齢をお答えください。

療育手帳の有無については、「A判定」「B1判定」「B2判定」を合わせた『持っている』が57.8%、「持っていない」が39.7%となっています。また、療育手帳所持者の総合判定は、「B2判定」が33.6%と最も多く、次いで、「A判定」が17.2%、「B1判定」が6.9%となっています。

療育手帳をお持ちの方の、手帳を取得した年齢については、「0～5歳」が56.7%と約半数を占めています。

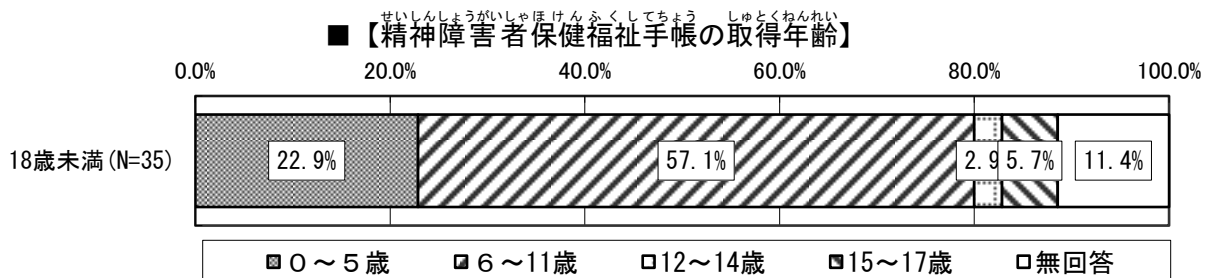
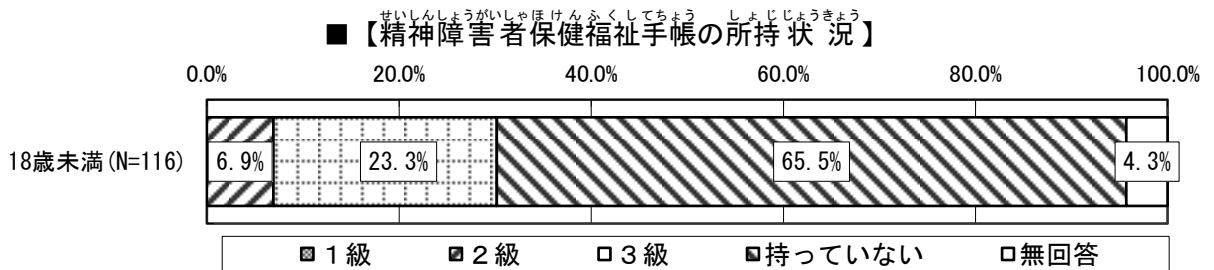


(4) 精神障害者保健福祉手帳の所持状況

問7 あなたは精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。(〇は1つだけ) また、手帳を取得された時の年齢をお答えください。

精神障害者保健福祉手帳の有無については、「1級」「2級」「3級」を合わせた『持っている』が30.2%、「持っていない」が65.5%となっています。また、精神障害者保健福祉手帳所持者の等級は、「3級」が23.3%と最も多くなっています。

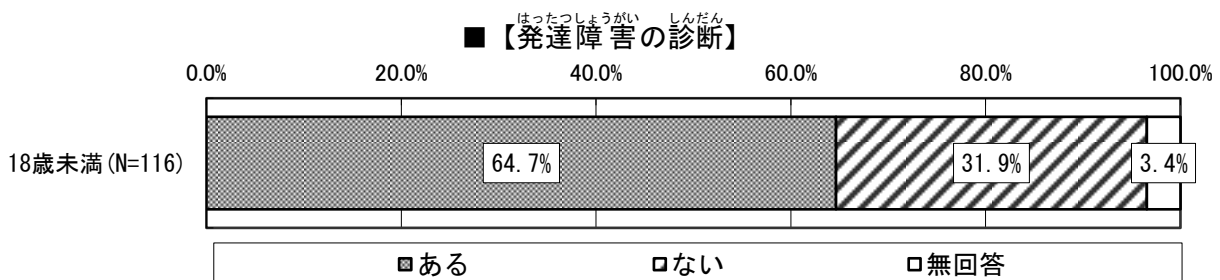
精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方の、手帳を取得した年齢については、「6～11歳」が57.1%と最も多く、次いで、「0～5歳」が22.9%、「15～17歳」が5.7%となっています。



(5) 発達障害の診断

問8 あなたは発達障害として診断されたことがありますか。(〇は1つだけ)

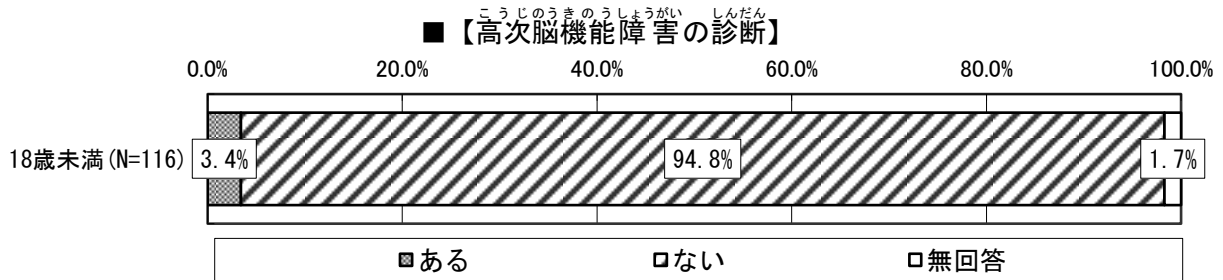
発達障害と診断されたことがあるかについては、「ある」が64.7%、「ない」が31.9%となっています。



(6) 高次脳機能障害の診断

問9 あなたは高次脳機能障害として診断されたことがありますか。(〇は1つだけ)

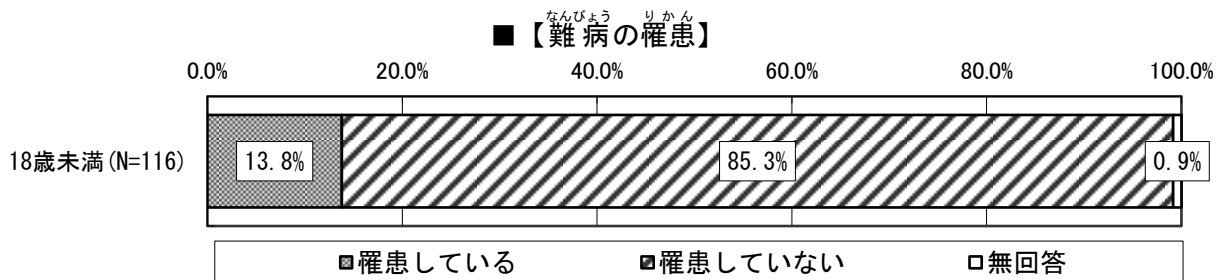
高次脳機能障害と診断されたことがあるかについては、「ある」が3.4%、「ない」が94.8%となっています。



(7) 難病の罹患

問10 あなたは難病に罹患していますか。(〇は1つだけ)

難病に罹患しているかについては、「罹患している」が13.8%、「罹患していない」が85.3%となっています。

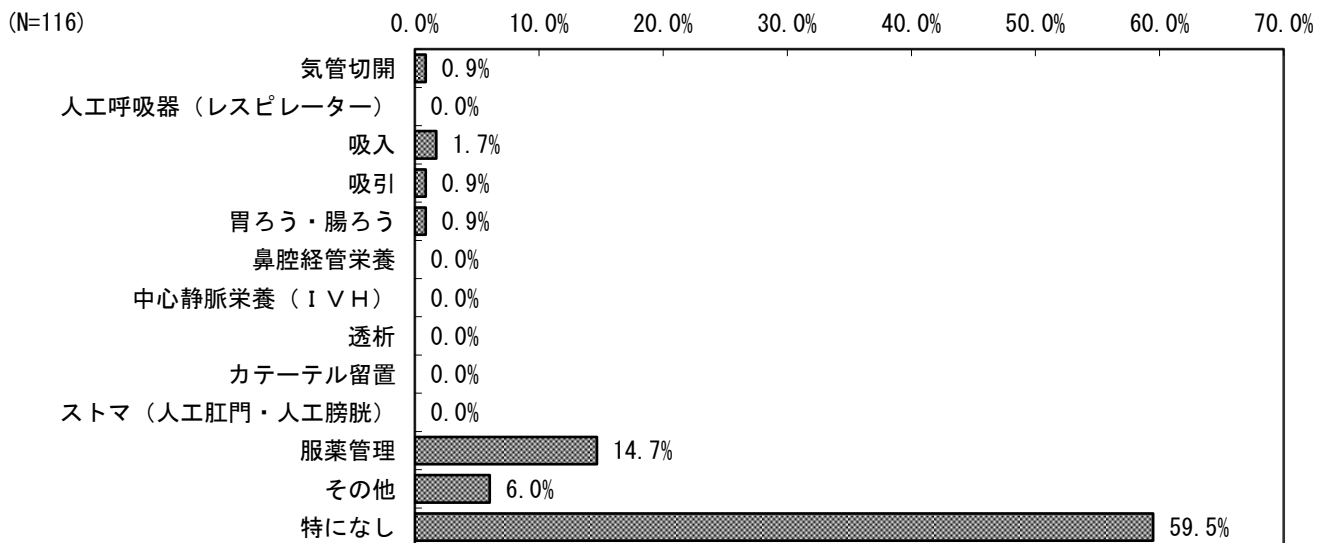


(8) 現在受けている医療ケア

問11 あなたが現在受けている医療ケアをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

現在受けている医療ケアについては、「特になし」を除いて、「服薬管理」が14.7%と最も多くなっています。

■【現在受けている医療ケア (複数回答)】

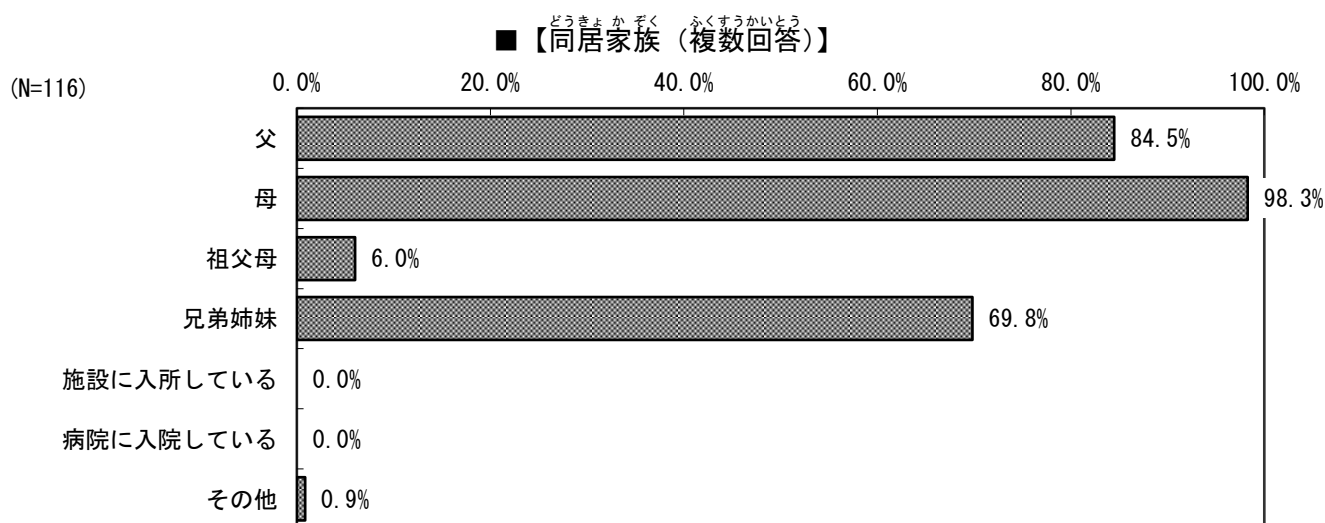


3 す 住まいや暮らし

(1) どうきよかぞく 同居家族

問12 とい げんざい 現在、あなたが一緒に暮らしいっしょくている人は、どなたですか。
(あてはまるものすべてに○)

かいとうしや どうきよかぞく はは もっと おお つ ちち きょうだい
回答者の同居家族は、「母」が98.3%と最も多く、次いで「父」が84.5%、「兄弟姉妹」が69.8%となっています。



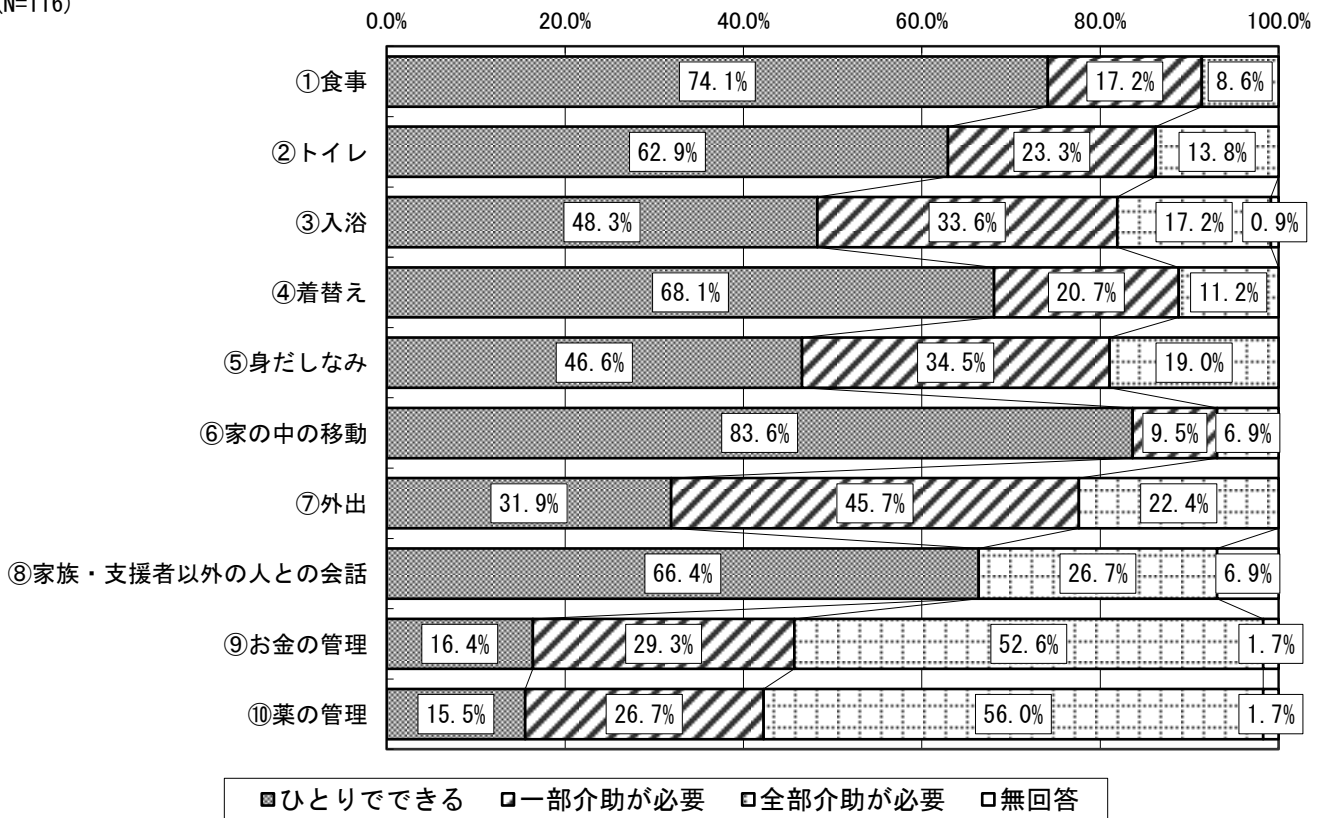
(2) 日常生活の状況

問13 あなたは日常生活で、次のことをどのようにしていますか。①から⑩のそれぞれにお答えください。(①から⑩それぞれに○を1つ)

日常生活におけるさまざまな行動について、①食事、②トイレ、④着替え、⑥家の中の移動、⑧家族・支援者以外の人との会話の5項目は「ひとりでできる」が6割以上と多く、とくに、⑥家の中の移動は83.6%と最も多くなっています。介助が必要(「一部介助が必要」と「全部介助が必要」の合計)が最も多いのは⑦外出で68.1%、次いで⑤身だしなみで53.5%となっています。

■【日常生活の状況】

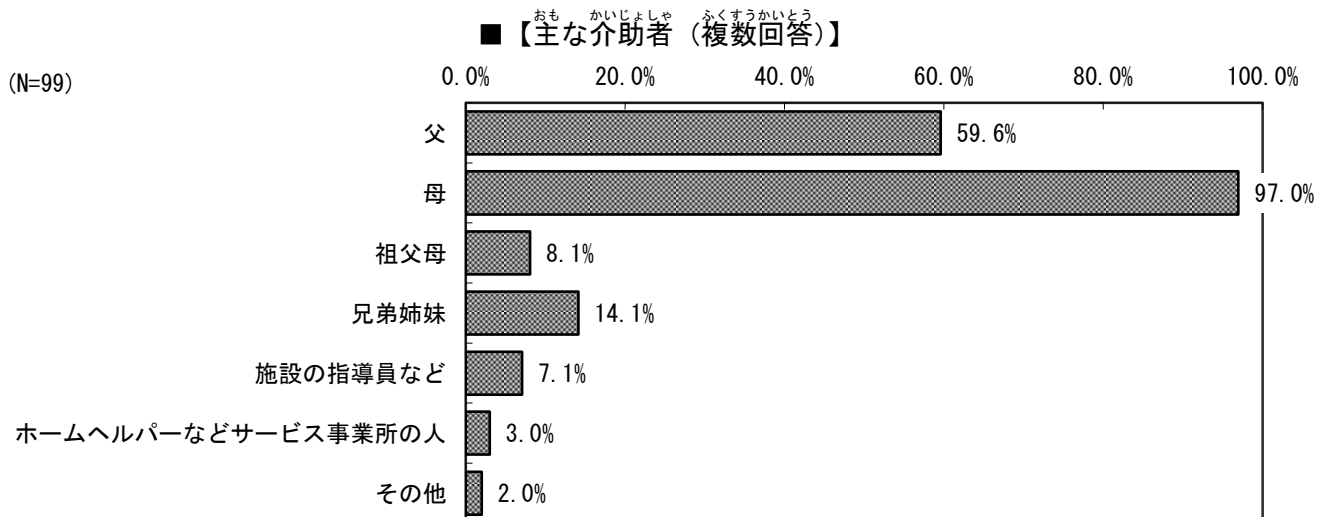
(N=116)



(3) 主な介助者

問14 あなたを介助してくれる方は主に誰(だれ)ですか。(あてはまるものすべてに○)

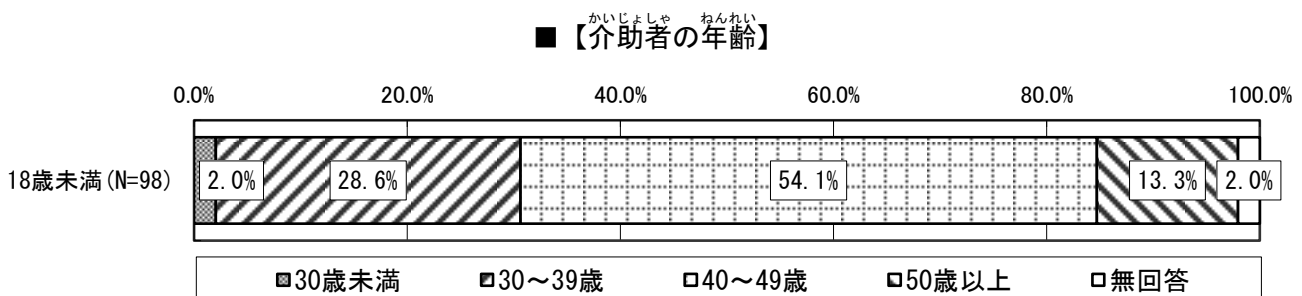
主な介助・介護者については、「母」が97.0%と最も多く、次いで、「父」が59.6%、「兄弟姉妹」が14.1%となっています。



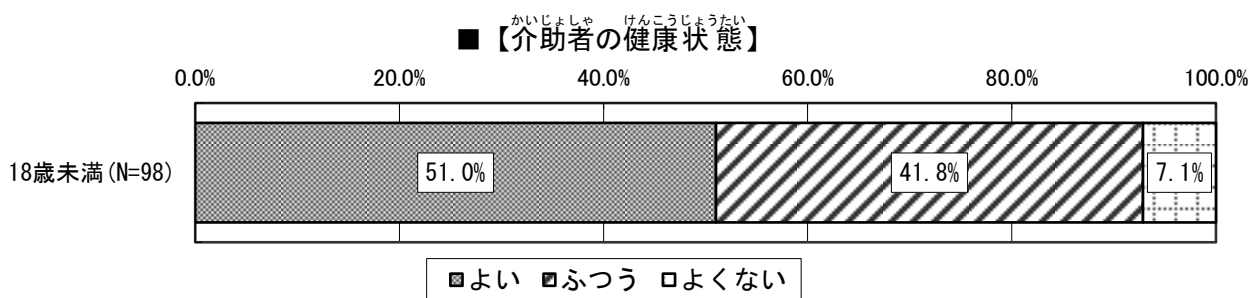
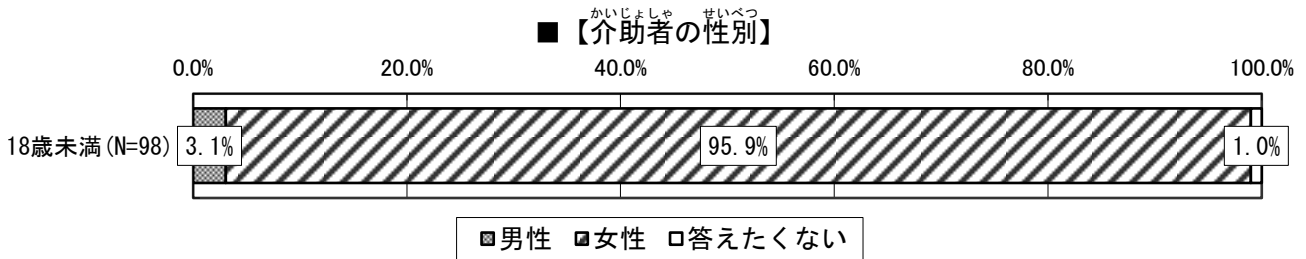
(4) 介助者の状況

問15 あなたを介助してくれる家族で、特に中心となっている方についてお答えください。
 ① 年齢 (令和2年7月1日現在)
 ② 性別 (○は1つだけ)
 ③ 健康状態 (○は1つだけ)

主な介助者の年齢については、「40～49歳」が54.1%と最も多く、次いで、「30～39歳」が28.6%で、30～40歳代が約8割を占めています。



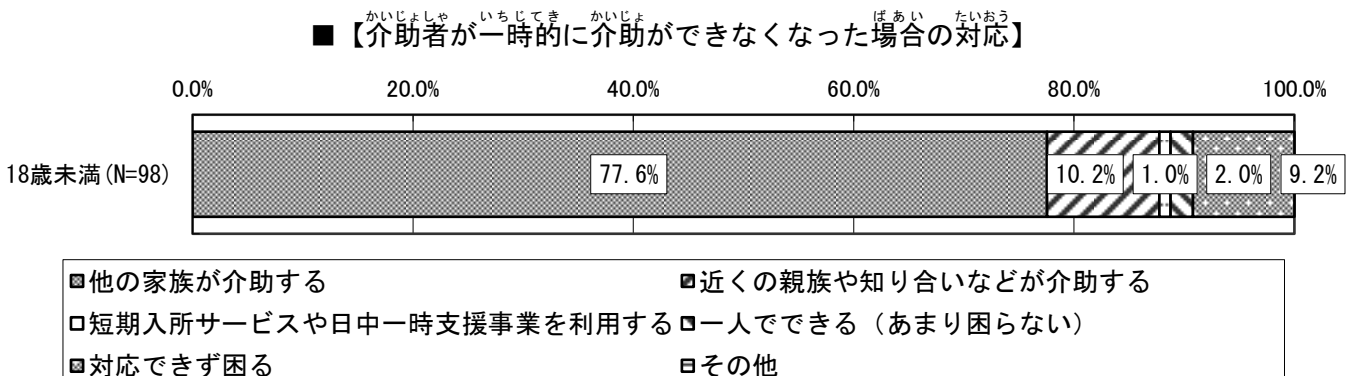
おも かいじょしゃ せいべつ じょせい だんせい
 主な介助者の性別については、「女性」が95.9%、「男性」が3.1%となっています。
 おも かいじょしゃ けんこうじょうたい もっと おお っ
 主な介助者の健康状態については、「よい」が51.0%で最も多く、次いで「ふつう」
 が41.8%となっています。



(5) 介助者が一時的に介助ができなくなった場合の対応

とい 15④ おも かいじょ かつ びょうき じ こ きゅうようとう いちじてき かいじょ
 主に介助をしている方が病気・事故・休養等で一時的に介助ができなくなった
 場合の対応についてどのようにされますか。(○は1つだけ)

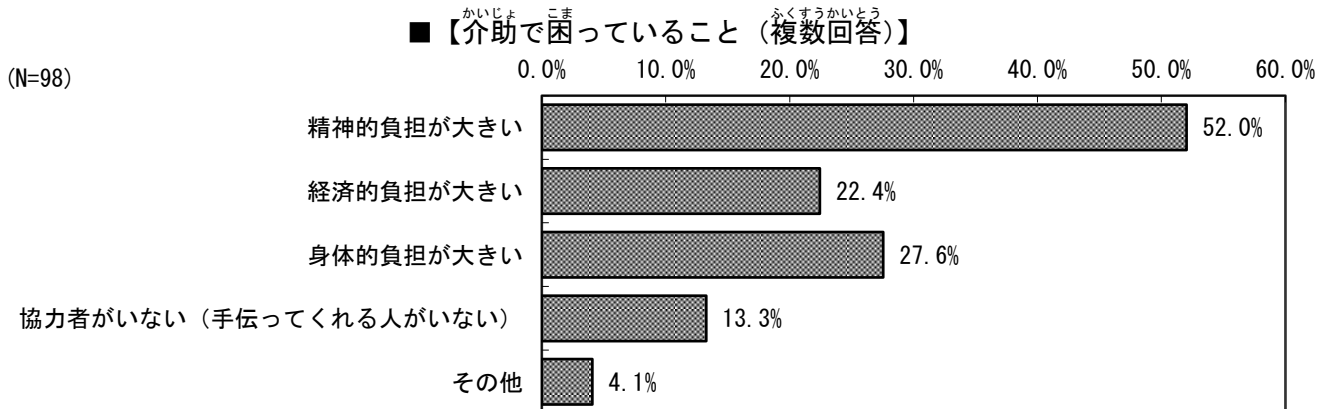
おも かいじょ かつ びょうき じ こ きゅうようとう いちじてき かいじょ ぼあい
 主に介助をしている方が病気・事故・休養等で一時的に介助ができなくなった場合に
 ついては、「他の家族が介助する」が77.6%と最も多く、次いで、「近くの親族や知り
 あ かいじょ たいおう こま
 合いなどが介助する」が10.2%、「対応できず困る」が9.2%となっています。



(6) 介護で困っていること

問15⑤ 介護で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

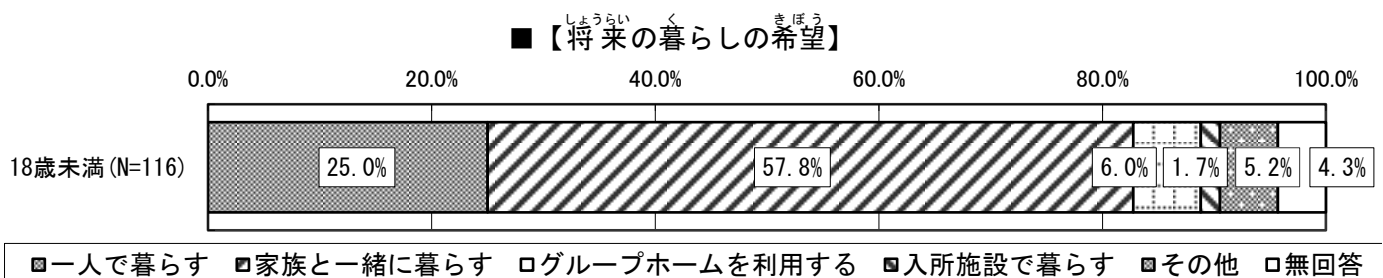
介護で困っていることについては、「精神的負担が大きい」が52.0%と最も多く、次いで、「身体的負担が大きい」が27.6%、「経済的負担が大きい」が22.4%となっています。



(7) 将来の暮らしの希望

問16 あなたは将来どのように暮らしたらよいと思いますか。(○は1つだけ)

将来どのように暮らしたいかについては、「家族と一緒に暮らす」が57.8%と最も多く、次いで、「一人で暮らす」が25.0%、「グループホームを利用する」が6.0%などとなっています。

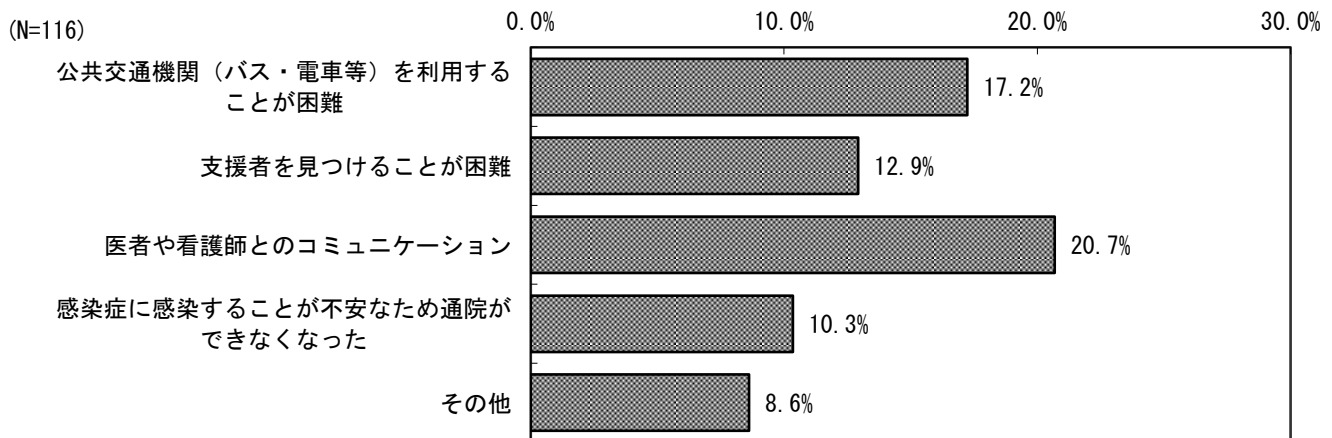


(8) 通院時や医療を受けるにあたって困っていること

問17 あなたの通院時や医療を受けるにあたって困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

通院時や医療を受けるにあたって困っていることについては、「医者や看護師とのコミュニケーション」が20.7%と最も多く、次いで「公共交通機関（バス・電車等）を利用することが困難」が17.2%となっています。

■【通院時や医療を受けるにあたって困っていること（複数回答）】



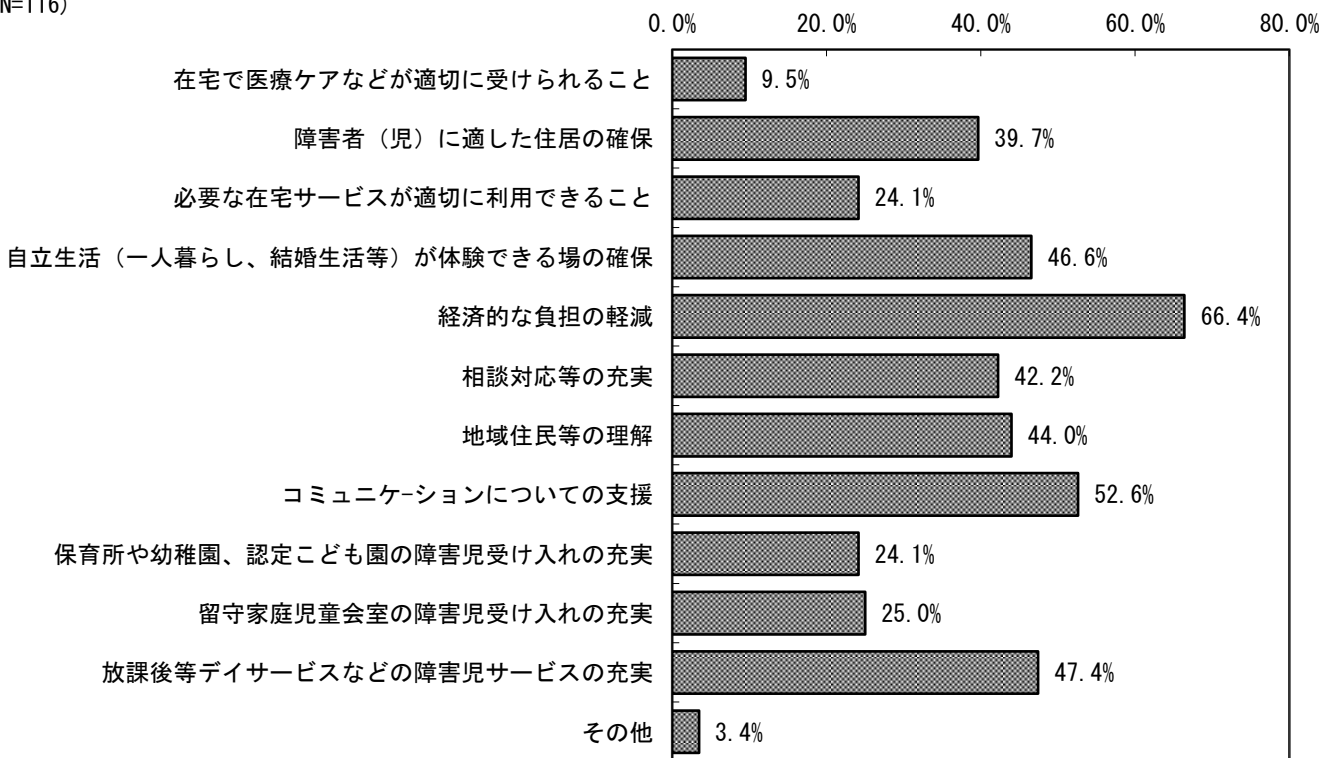
(9) 地域で生活するために必要な支援

問18 あなたが地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

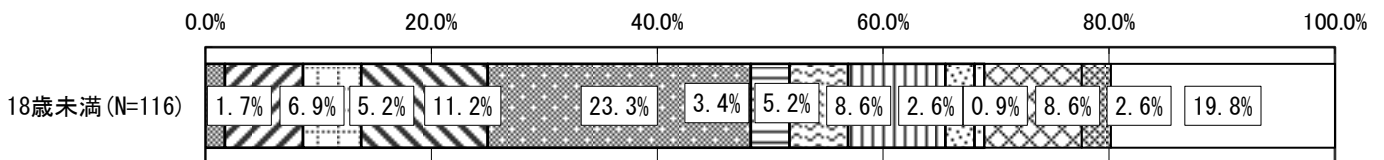
地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思うかについては、「経済的な負担の軽減」が66.4%と最も多く、次いで、「コミュニケーションについての支援」が52.6%、「放課後等デイサービスなどの障害児サービスの充実」が47.4%などとなっています。

■【地域で生活するために必要な支援（複数回答）】

(N=116)



■【地域で生活するために必要な支援（最も必要なもの）】



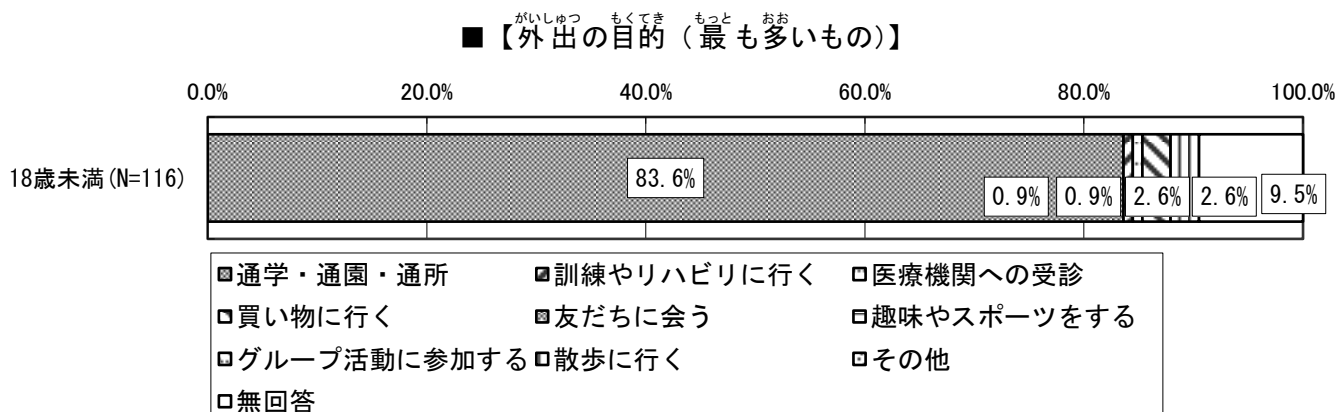
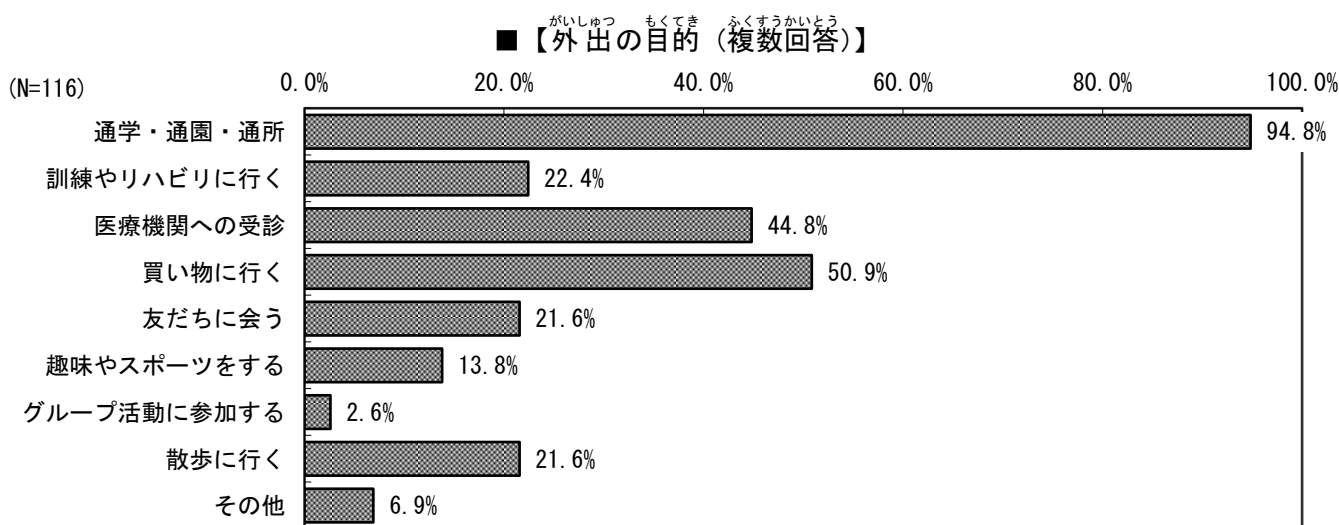
- 在宅で医療ケアなどが適切に受けられること
- 障害者（児）に適した住居の確保
- 必要な在宅サービスが適切に利用できること
- 自立生活が体験できる場の確保
- 経済的な負担の軽減
- 相談対応等の充実
- 地域住民等の理解
- コミュニケーションについての支援
- 保育所や幼稚園、認定こども園の障害児受け入れの充実
- 留守家庭児童会室の障害児受け入れの充実
- 放課後等デイサービスなどの障害児サービスの充実
- その他
- 無回答

4 日中活動や就労

(1) 外出の目的

問19 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。
(あてはまるものすべてに○)

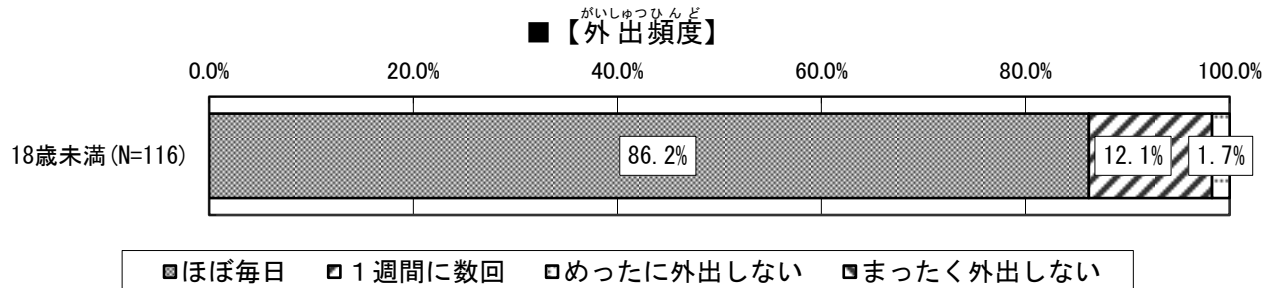
外出する目的については、「通学・通園・通所」が94.8%で最も多く、次いで、「買い物に行く」が50.9%、「医療機関への受診」が44.8%などとなっています。



(2) 外出頻度

問20 あなたは1週間にどの程度の外出をしますか。(〇は1つだけ)

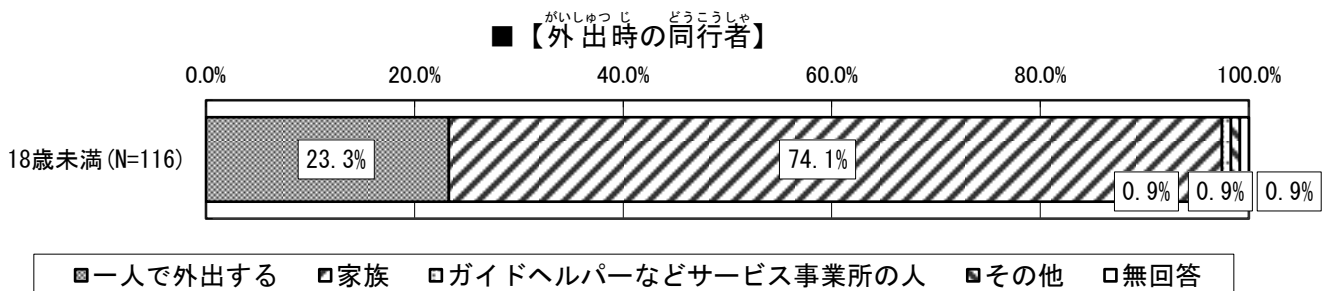
外出頻度については、「ほぼ毎日」が86.2%で最も多く、次いで、「1週間に数回」が12.1%となっています。



(3) 外出時の同行者

問21 あなたが外出する時、最も多く一緒に外出する方の番号を記入してください。(〇は1つだけ)

外出時の同行者については、「家族」が74.1%で最も多く、次いで、「一人で外出する」が23.3%となっています。

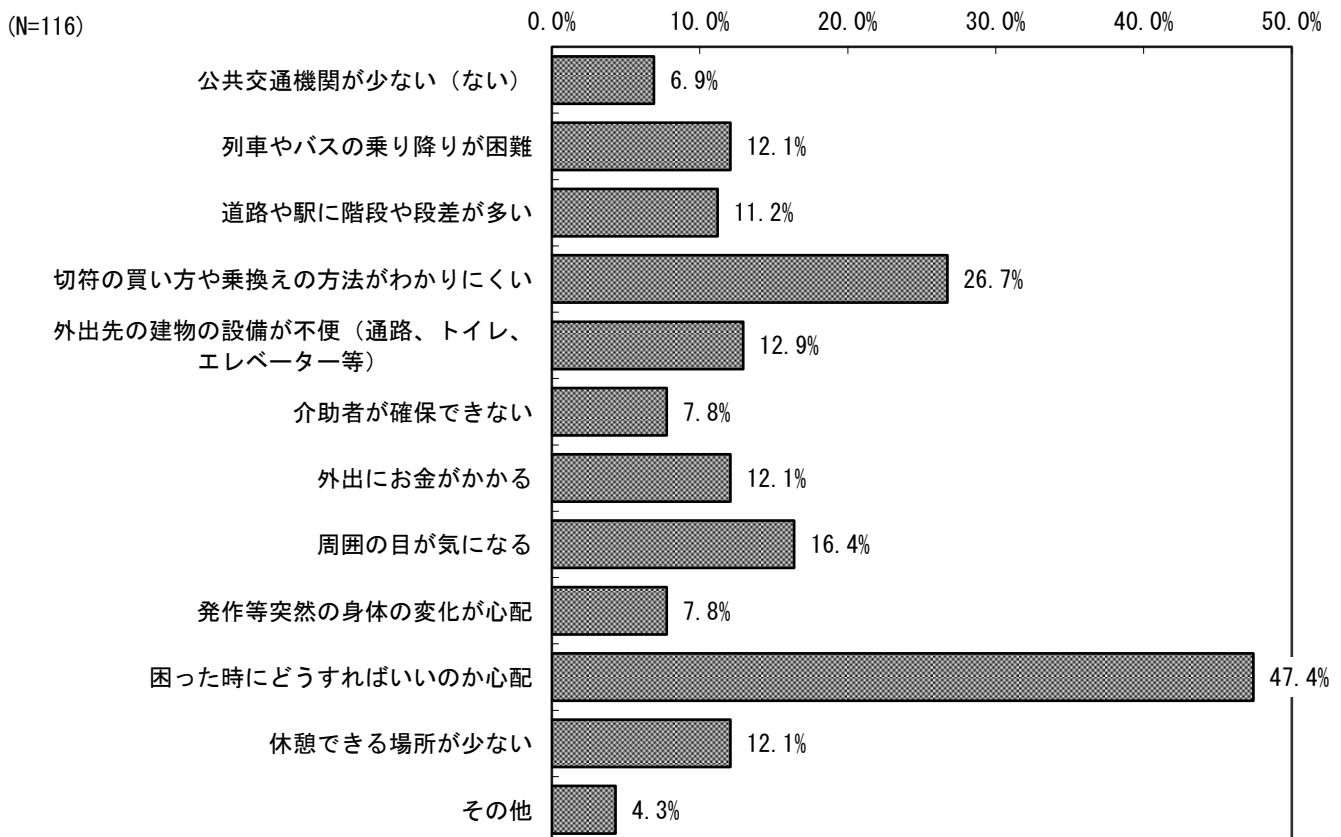


(4) 外出について困ること

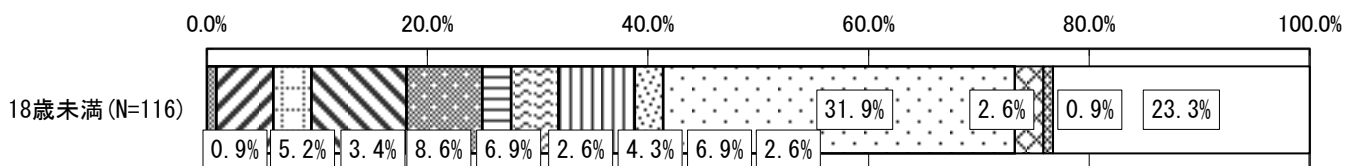
問22 外出について困ることとは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

外出について困ることについては、「困った時にどうすればいいのか心配」が47.4%と最も多く、次いで、「切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい」が26.7%、「周囲の目が気になる」が16.4%などとなっています。

■【外出について困ること（複数回答）】



■【外出について困ること（最も困るもの）】

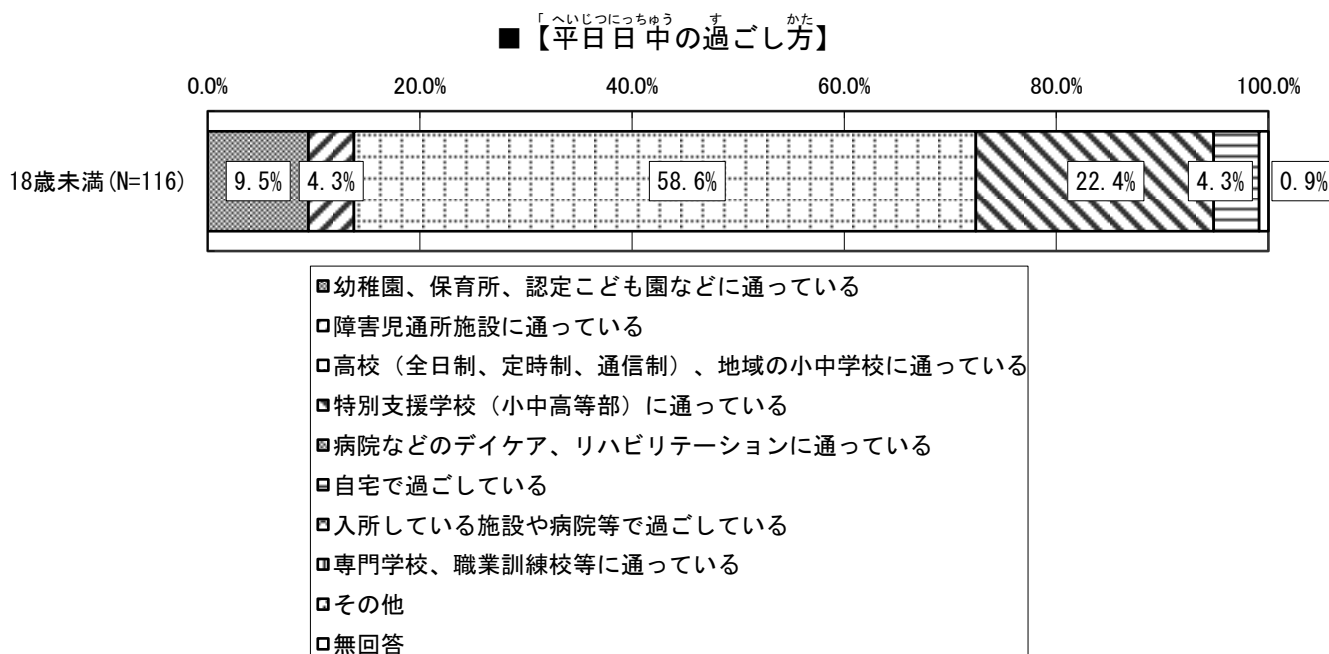


- 公共交通機関が少ない(ない)
- 列車やバスの乗り降りが困難
- 道路や駅に階段や段差が多い
- 切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい
- 外出先の建物の設備が不便
- 介助者が確保できない
- 外出にお金がかかる
- 周囲の目が気になる
- 発作等突然の身体の変化が心配
- 困った時にどうすればいいのか心配
- 休憩できる場所が少ない
- その他
- 無回答

(5) 平日日中の過ごし方

問23 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(○は1つだけ)

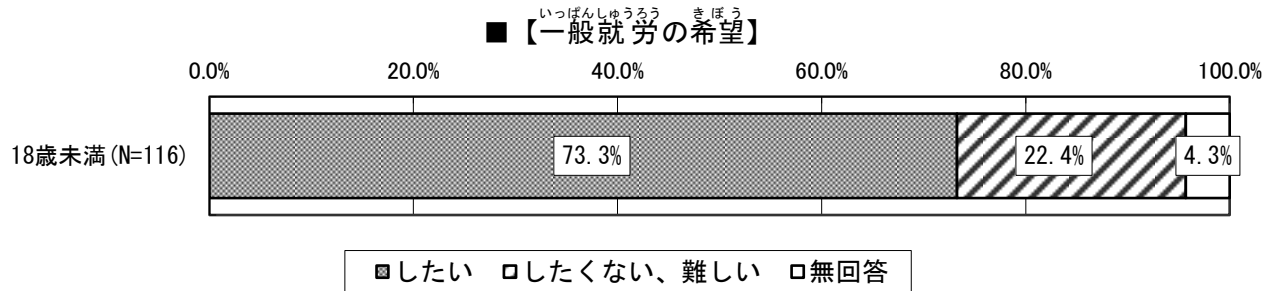
平日の日中の過ごし方については、「高校(全日制、定時制、通信制)、地域の小中学校に通っている」が58.6%と最も多く、次いで、「特別支援学校(小中高等部)に通っている」が22.4%、「幼稚園、保育所、認定こども園などに通っている」が9.5%などとなっています。



(6) 一般就労の希望

問24 あなたは今後、一般就労をしたいと思いますか。(〇は1つだけ)

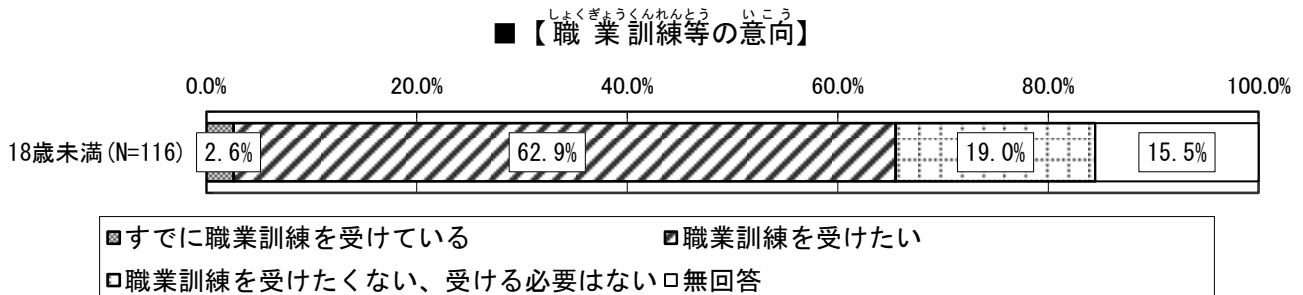
今後の就労意向については、「したい」が73.3%、「したくない、できない」が22.4%となっています。



(7) 職業訓練等の意向

問25 一般就労をするために、職業訓練等を受けたいと思いますか。(〇は1つだけ)

職業訓練等の意向については、「職業訓練を受けたい」が62.9%と最も多く、次いで、「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が19.0%となっています。

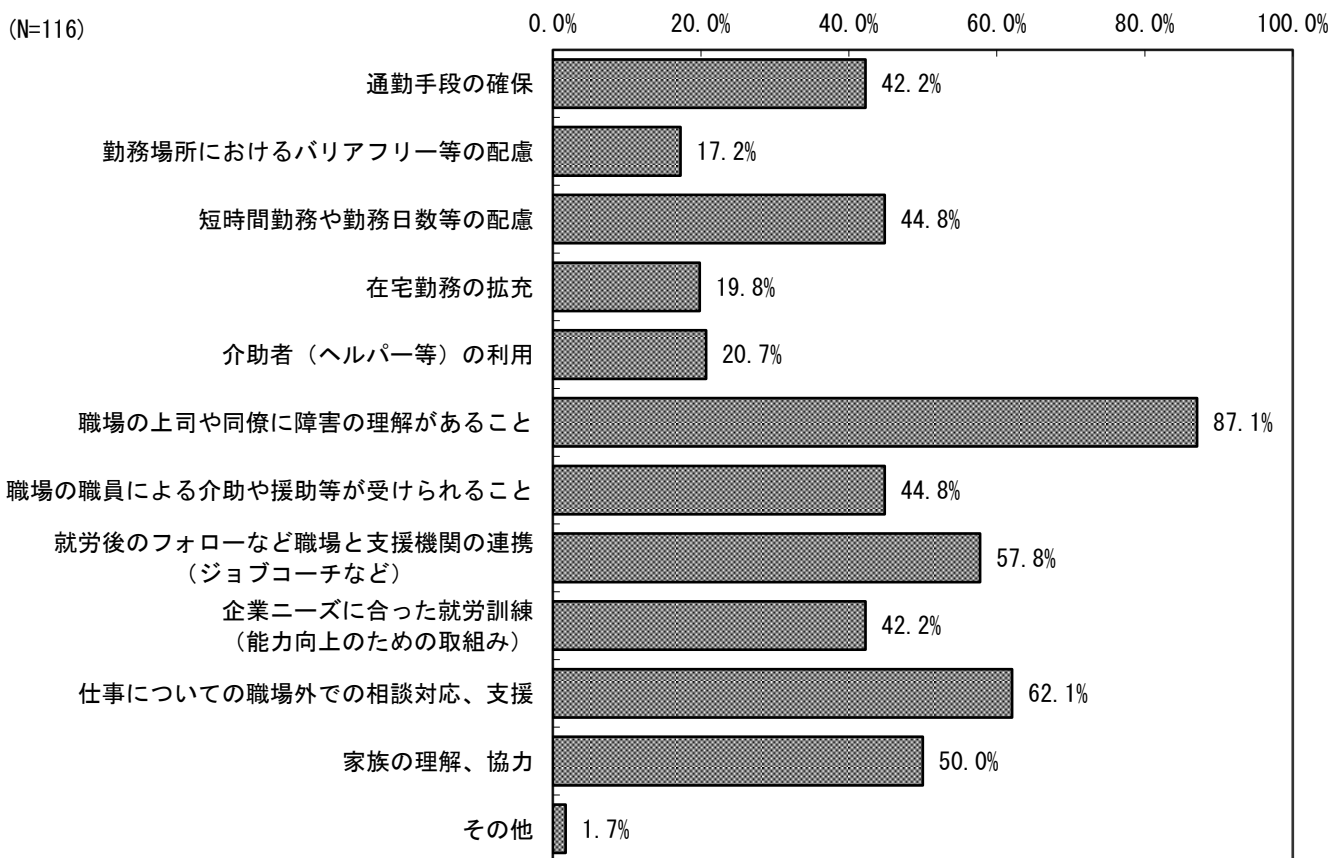


(8) 障害者の就労支援として必要なこと

問26 あなたは、障害者の就労支援として、どのようなことが必要だと思えますか。
(あてはまるものすべてに○)

障害者の就労支援として必要なことについては、「職場の上司や同僚に障害の理解があること」が87.1%と最も多く、次いで、「仕事についての職場外での相談対応、支援」が62.1%、「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携（ジョブコーチなど）」が57.8%などとなっています。

■【障害者の就労支援として必要なこと（複数回答）】

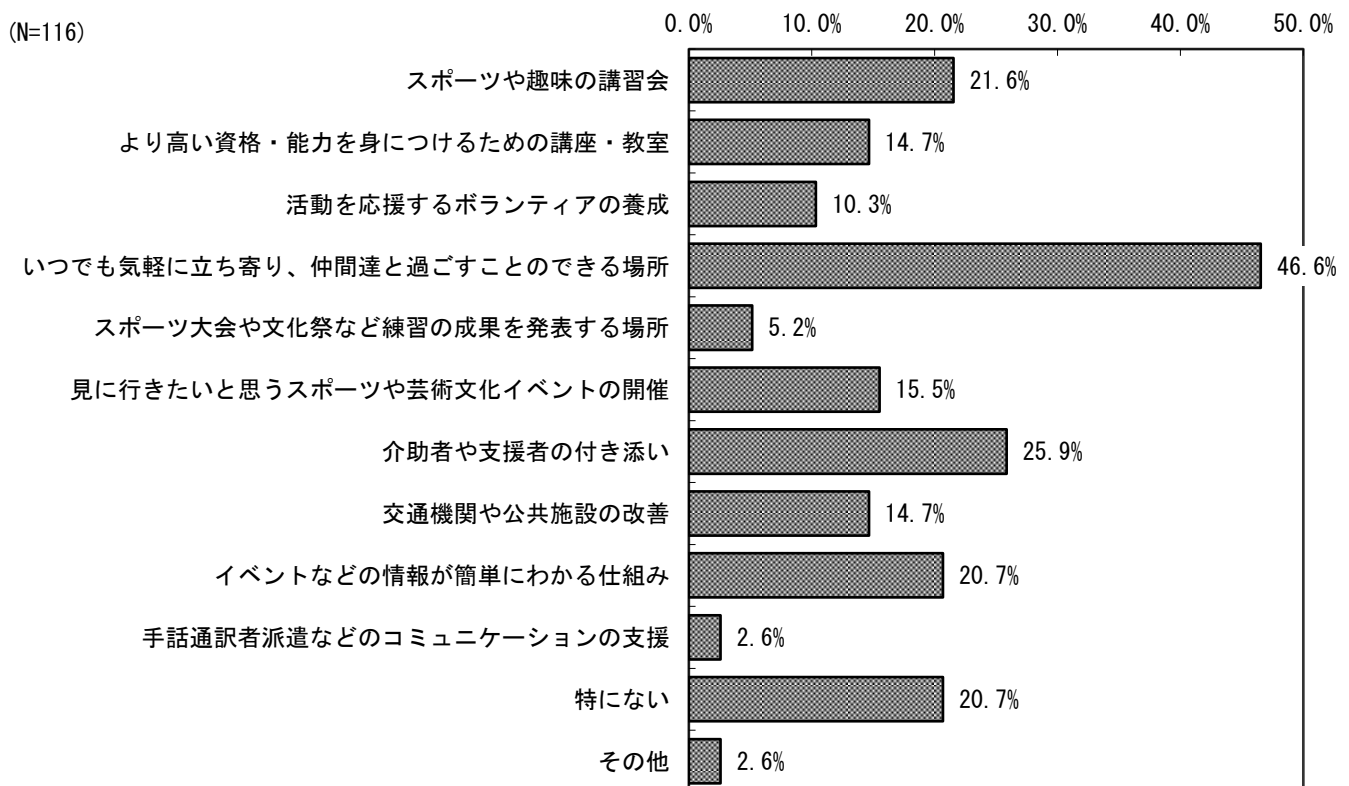


(9) 余暇活動をするために必要なこと

問27 あなたが余暇にしたい活動をするために何が必要ですか。(あてはまるものすべてに○)

余暇にしたい活動をするために必要なことについては、「特にない」を除いて、「いつでも気軽に立ち寄り、仲間達と過ごすことのできる場所」が46.6%と最も多く、次いで、「介助者や支援者の付き添い」が25.9%、「スポーツや趣味の講習会」が21.6%などとなっています。

■【余暇活動をするために必要なこと（複数回答）】



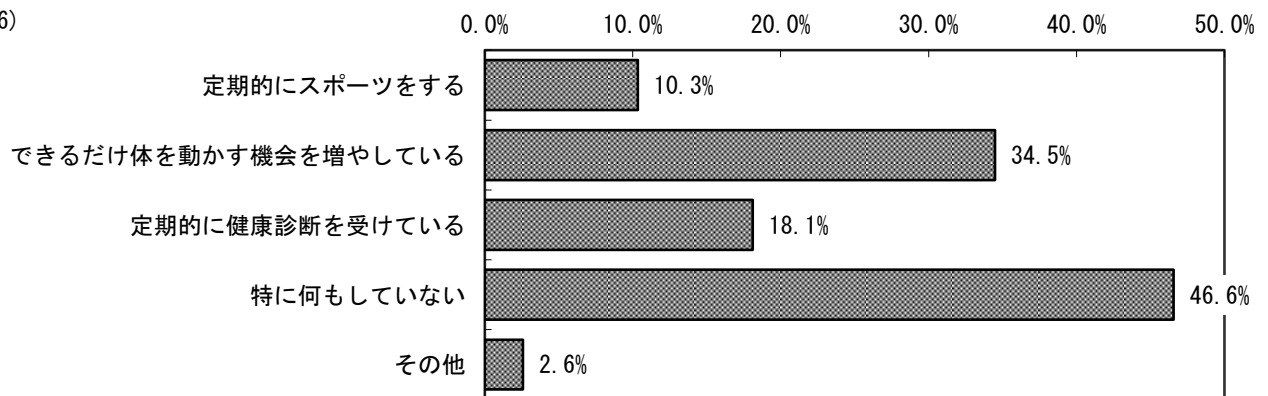
(10) 健康のために取り組んでいる活動

問28 あなたが健康のために取り組んでいる活動はありますか。(あてはまるものすべてに○)

健康のために取り組んでいる活動については、「特に何もしていない」を除いて、「できるだけ体を動かす機会を増やしている」が34.5%と最も多く、次いで、「定期的に健康診断を受けている」が18.1%となっています。

■【健康のために取り組んでいる活動（複数回答）】

(N=116)



5 障害福祉サービス等の利用

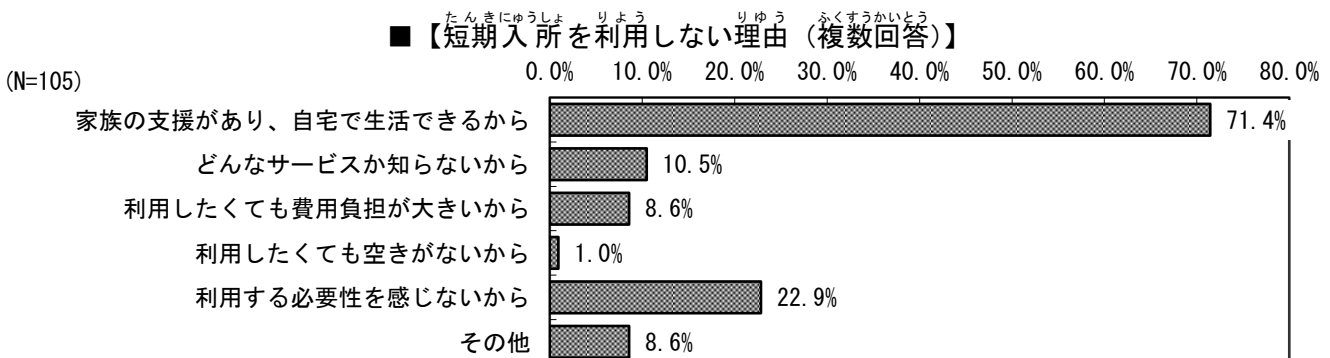
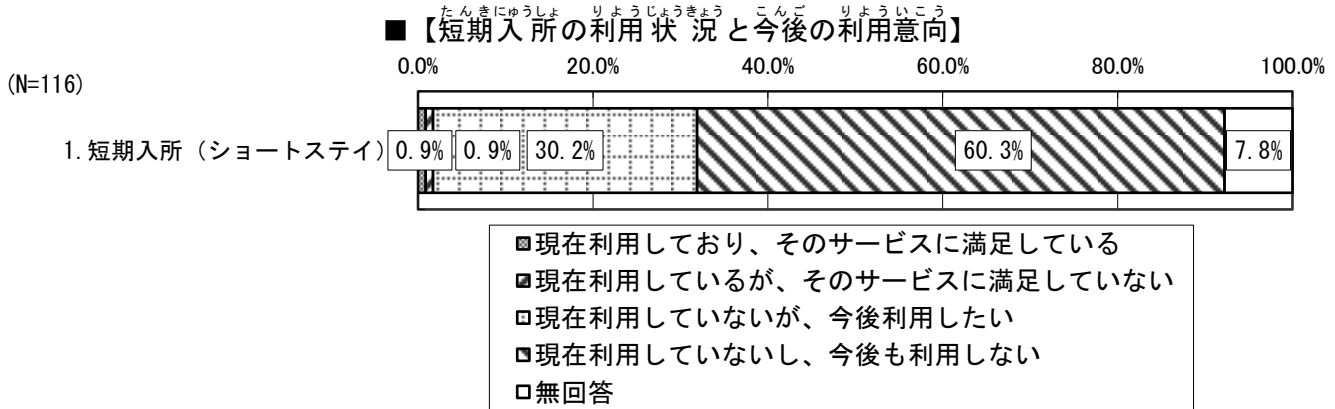
(1) サービスの利用状況と今後の利用意向

問29 あなたは、次のサービスを利用していますか。また、今後利用したいとおもいますか。①から⑮について、現在利用しているサービスはそのサービスの評価を、現在利用していないサービスはどのサービスを今後利用したいかを、回答（1・2・3・4のいずれか一つに○）してください。

短期入所

短期入所の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は1.8%となっています。

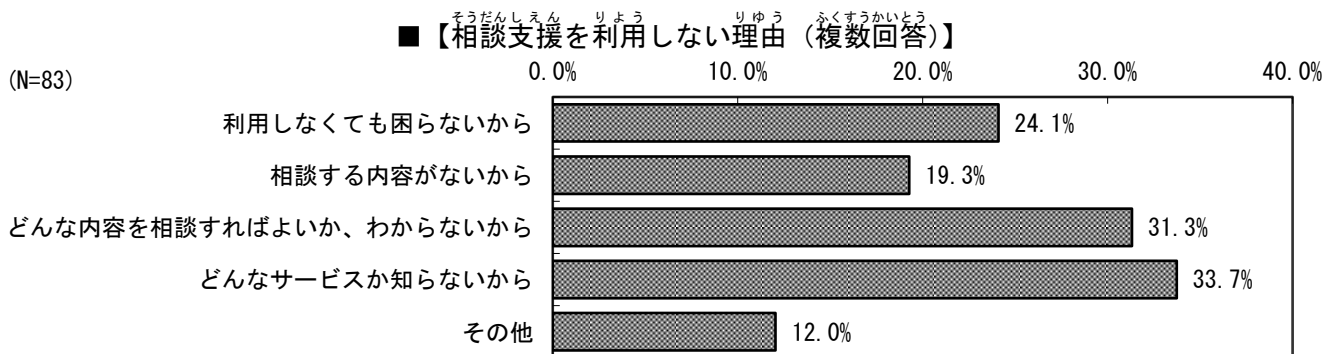
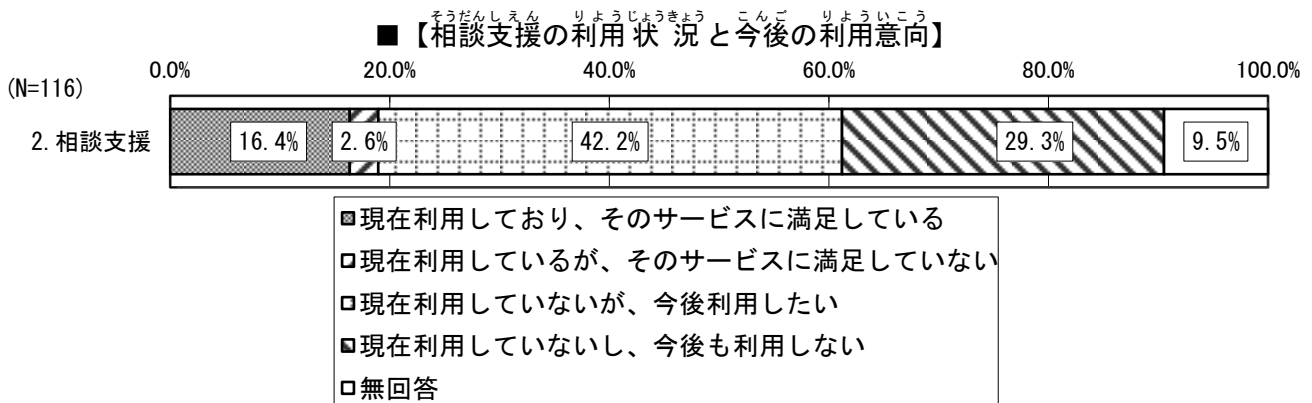
また、短期入所を現在利用していない理由については、「家族の支援があり、自宅で生活できるから」が71.4%と最も多く、次いで、「利用する必要性を感じないから」が22.9%となっています。



相談支援
相談支援

相談支援の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は19.0%となっています。

また、相談支援を現在利用していない理由については、「どんなサービスか知らないから」が33.7%と最も多く、次いで、「どんな内容を相談すればよいか、わからないから」が31.3%となっています。

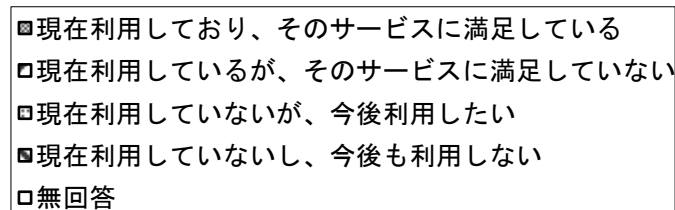
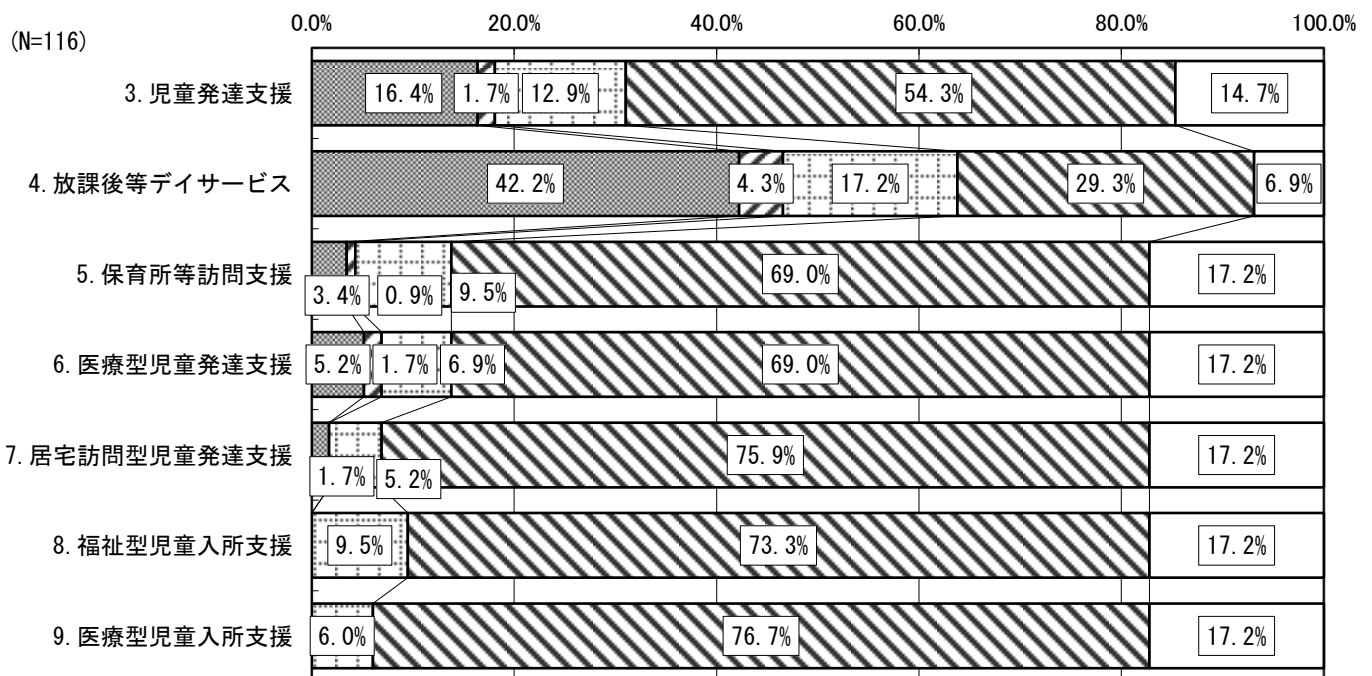


しょうがいじ 障害児サービス

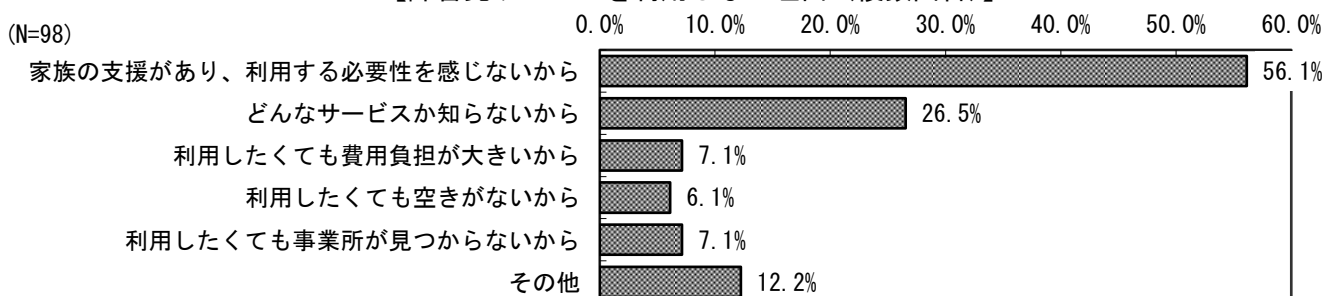
しょうがいじ 障害児サービスの利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は児童発達支援で18.1%、放課後等デイサービスで46.6%、保育所等訪問支援で4.3%、医療型児童発達支援6.9%、居宅訪問型児童発達支援で1.7%、福祉型児童入所支援と医療型児童入所支援は0.0%となっています。

また、しょうがいじ 障害児サービスを現在利用していない理由については、「家族の支援があり、利用する必要性を感じないから」が56.1%と最も多く、次いで、「どんなサービスが知らないから」が26.5%となっています。

■ 【しょうがいじ 障害児サービスの利用状況と今後の利用意向】



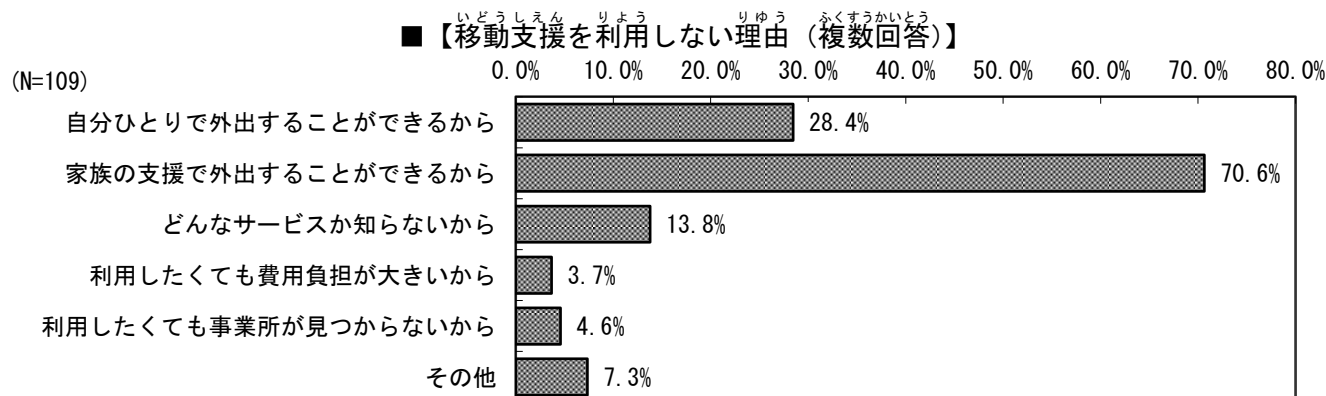
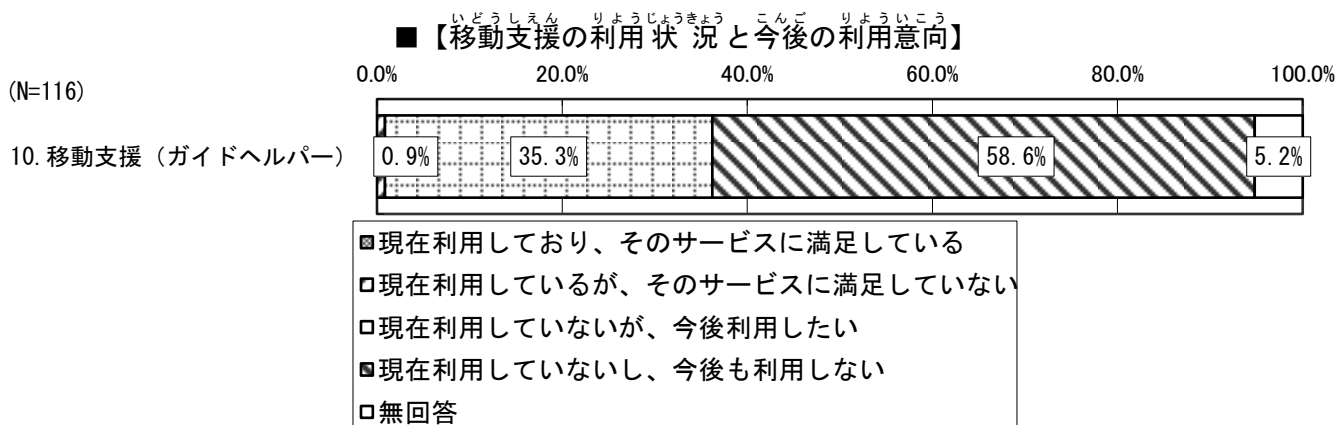
■ 【しょうがいじ 障害児サービスを利用しない理由（複数回答）】



移動支援（ガイドヘルパー）

移動支援の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は36.2%となっています。

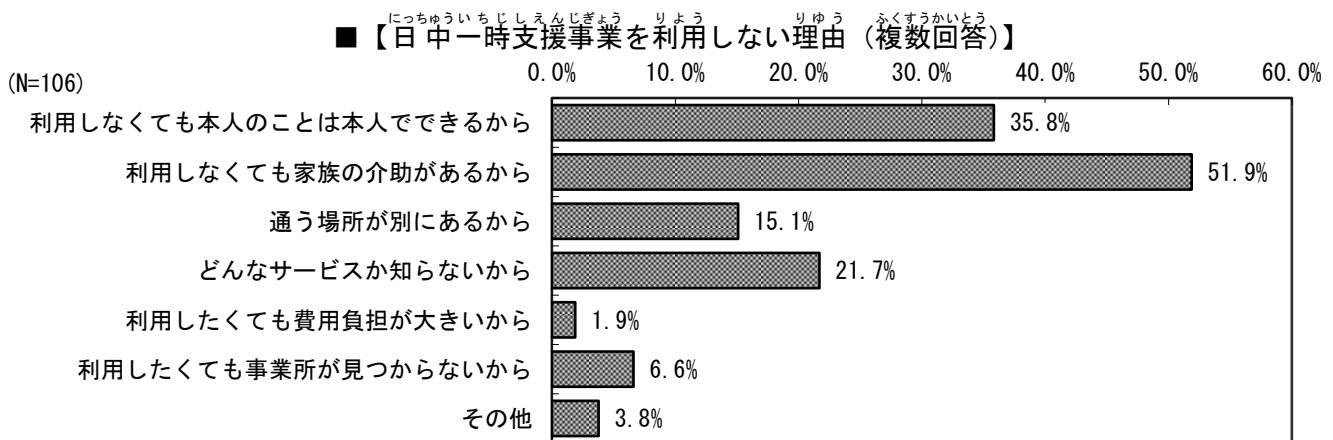
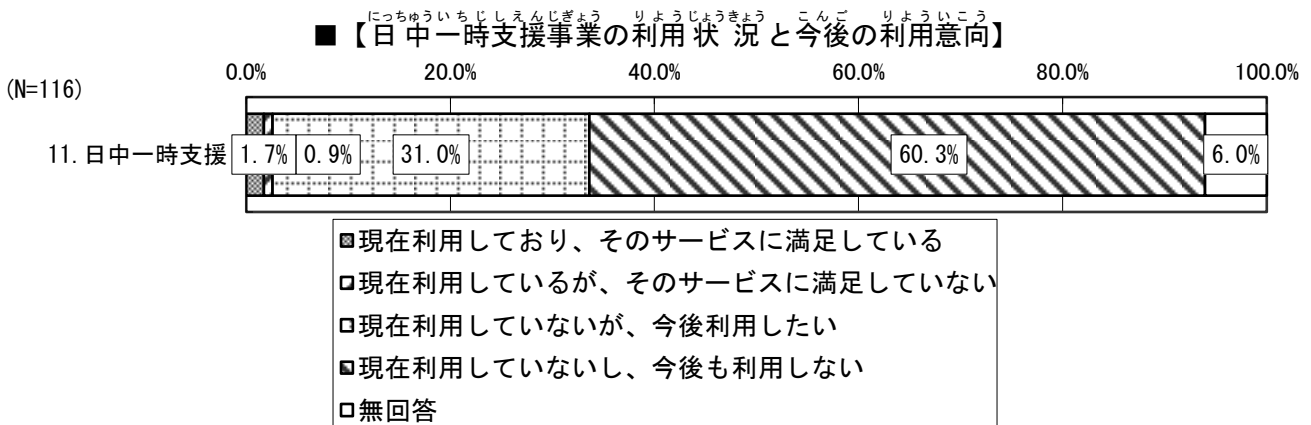
また、移動支援を現在利用していない理由については、「家族の支援で外出することができるから」が70.6%と最も多く、次いで、「自分ひとりで外出することができるから」が28.4%となっています。



日中一時支援事業

日中一時支援の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は、2.6%となっています。

また、日中一時支援を現在利用していない理由については、「利用しなくても家族の介助があるから」が51.9%と最も多く、次いで、「利用しなくても本人のことは本人ができるから」が35.8%となっています。

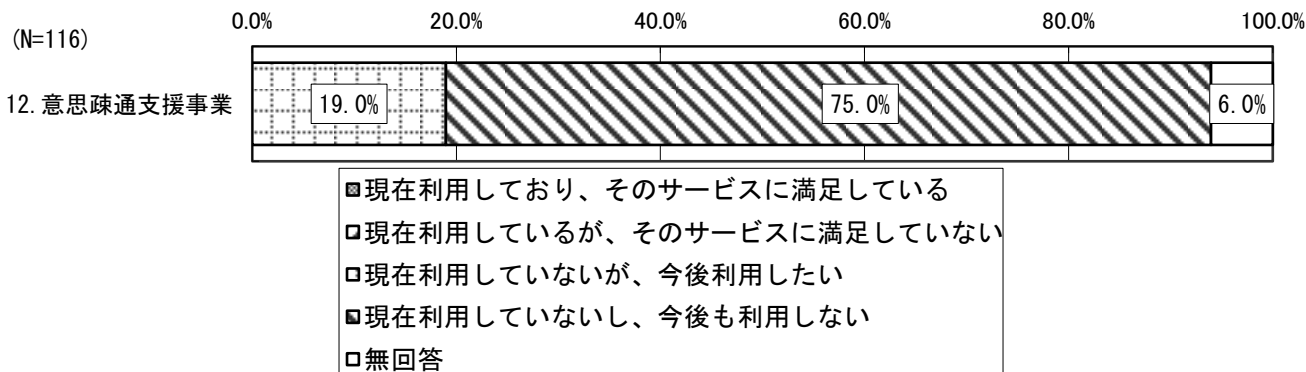


意思疎通支援事業

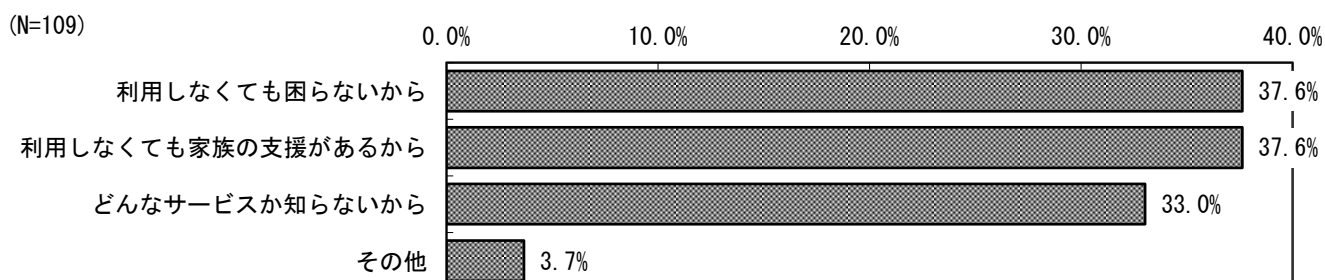
意思疎通支援事業の利用については、現在の利用はありません。

また、意思疎通支援事業を現在利用していない理由については、「利用しなくても困らないから」と「利用しなくても家族の支援があるから」がともに37.6%と最も多くなっています。

■【意思疎通支援事業の利用状況と今後の利用意向】



■【意思疎通支援事業を利用しない理由（複数回答）】

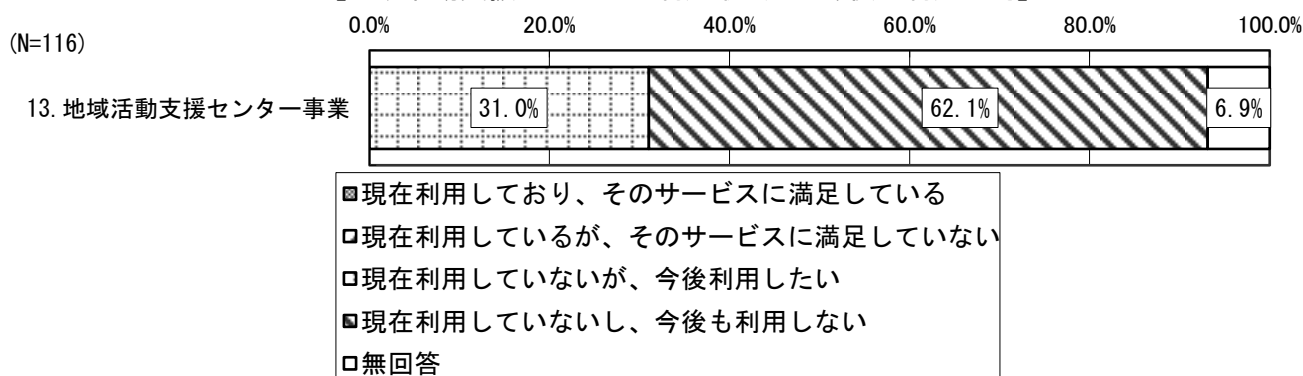


ちいきかつどうしえん
地域活動支援センター

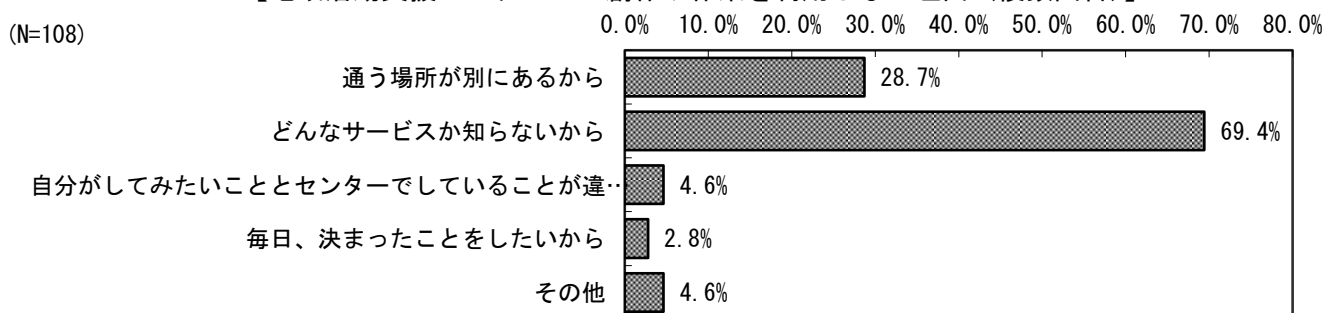
ちいきかつどうしえん じぎょう りよう げんざい りよう
 地域活動支援センター事業の利用については、現在の利用はありません。

ちいきかつどうしえん じぎょう げんざいりよう りゆう
 また、地域活動支援センター事業を現在利用していない理由については、「どんなサービスか知らないから」が 69.4%と最も多く、次いで、「通う場所が別にあるから」が 28.7%となっています。

■ 【地域活動支援センターの利用状況と今後の利用意向】



■ 【地域活動支援センターでの創作や作業を利用しない理由（複数回答）】



通学ガイドヘルパー

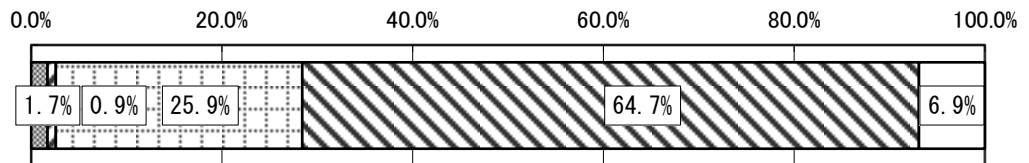
通学ガイドヘルパーの利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は、2.6%となっています。

また、通学ガイドヘルパーを現在利用していない理由については、「自分ひとりで通学することができるから」が48.6%と最も多く、次いで、「家族の支援で通学することができるから」が44.8%となっています。

■【通学ガイドヘルパーの利用状況と今後の利用意向】

(N=116)

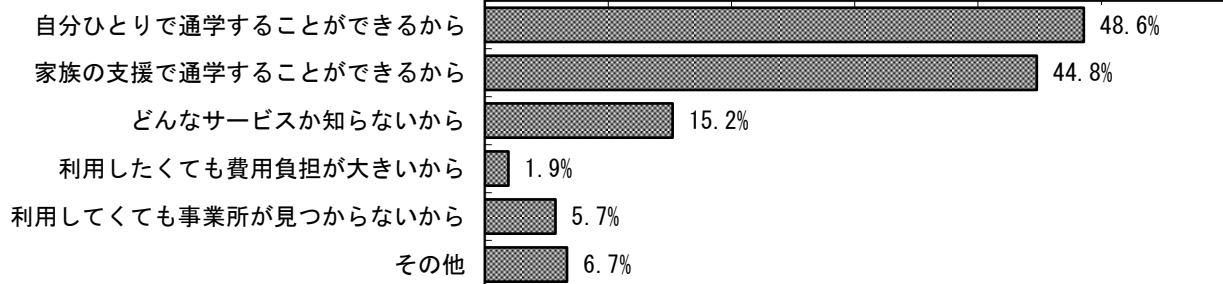
14. 障害児通学支援
(通学ガイドヘルパー)



- 現在利用しており、そのサービスに満足している
- 現在利用しているが、そのサービスに満足していない
- 現在利用していないが、今後利用したい
- 現在利用していないし、今後も利用しない
- 無回答

■【通学ガイドヘルパーを利用しない理由（複数回答）】

(N=105)



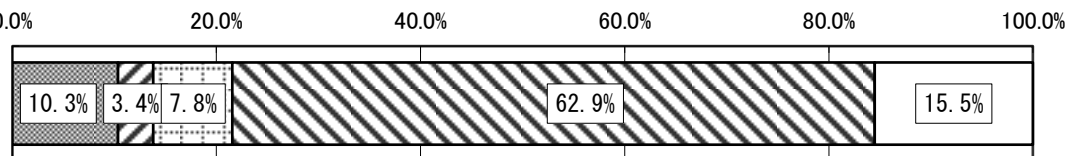
補装具・日常生活用具

補装具・日常生活用具の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は、13.7%となっています。

■【補装具・日常生活用具利用状況と今後の利用意向】

(N=116)

15. 補装具・日常生活用具



- 現在利用しており、そのサービスに満足している
- 現在利用しているが、そのサービスに満足していない
- 現在利用していないが、今後利用したい
- 現在利用していないし、今後も利用しない
- 無回答

(2) サービスに満足していない理由

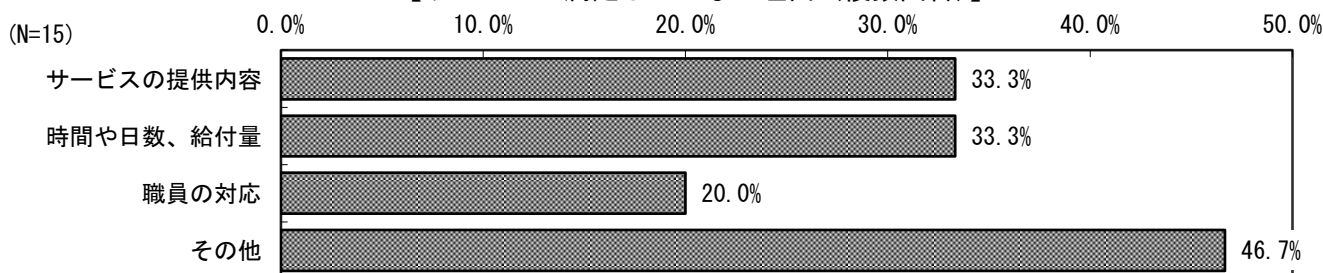
問30 問29で、一つでも「2. 現在利用しているがそのサービスに満足していない」と回答された方にお聞きします。満足していない理由について回答してください。
 (サービスの種類の番号を書き、あてはまる回答欄の番号に○)(あてはまるものすべてに○)

サービスを利用しているが満足していない方の、満足していないサービスについては「相談支援」と「放課後等デイサービス」がともに15.8%と最も多くなっています。
 サービスに満足していない理由については、「サービスの提供内容」と「時間や日数、給付量」がともに33.3%、「職員の対応」が20.0%となっています。

■【満足していないサービス】

	回答数	構成比
短期入所（ショートステイ）	1	5.3%
相談支援	3	15.8%
児童発達支援	1	5.3%
放課後等デイサービス	3	15.8%
保育所等訪問支援	1	5.3%
医療型児童発達支援	2	10.5%
居宅訪問型児童発達支援	0	0.0%
福祉型児童入所支援	0	0.0%
医療型児童入所支援	0	0.0%
移動支援（ガイドヘルパー）	0	0.0%
日中一時支援	1	5.3%
意思疎通支援事業	0	0.0%
地域活動支援センター事業	0	0.0%
障害児通学支援（通学ガイドヘルパー）	1	5.3%
補装具・日常生活用具	2	10.5%
無回答	4	21.1%
合計	19	100.0%

■【サービスに満足していない理由（複数回答）】



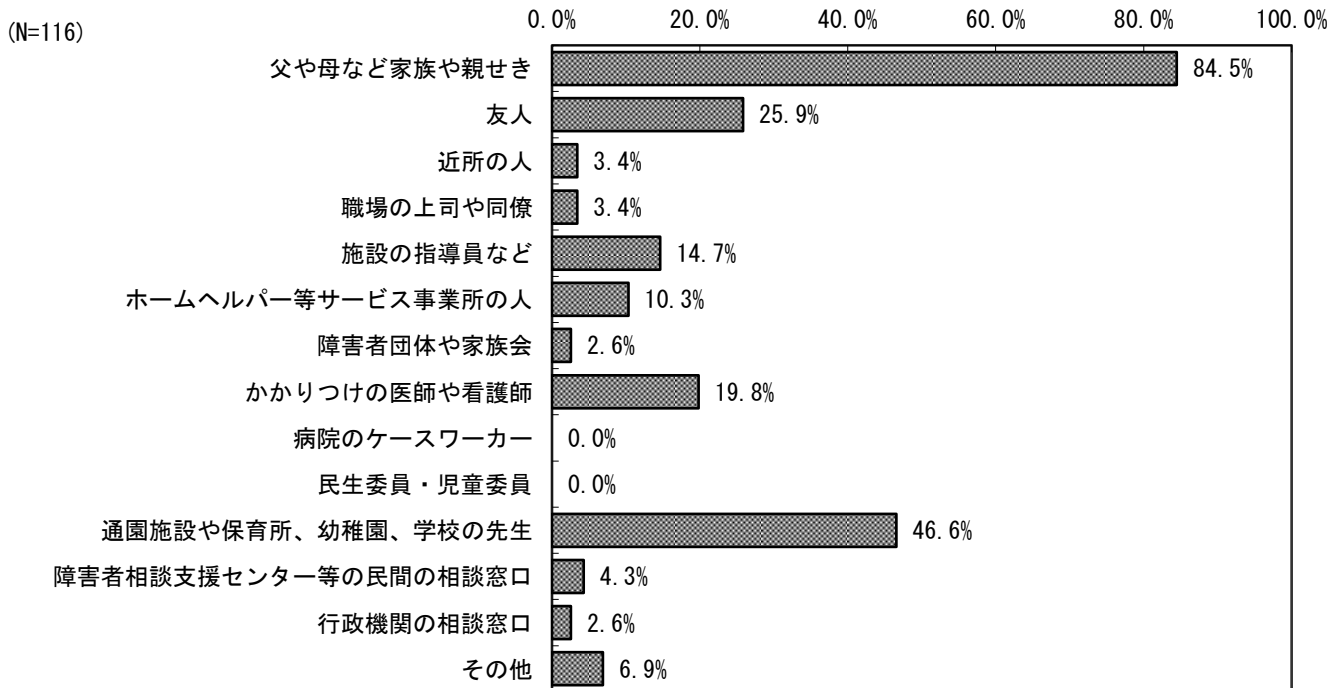
6 相談相手

(1) 悩みや困ったことを相談する相手

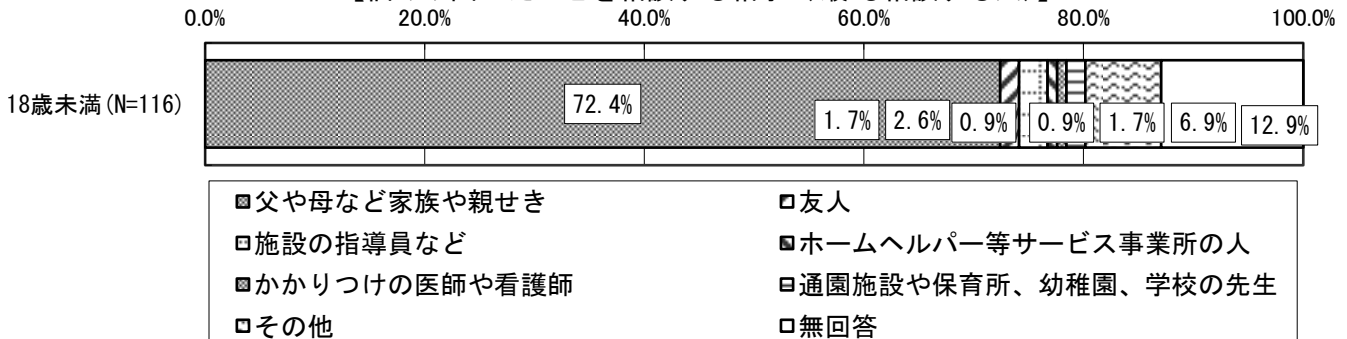
問31 あなたは、普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。
(あてはまるものすべてに○)

悩みや困ったことなどを相談する人については、「父や母など家族や親せき」が84.5%と最も多く、次いで、「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生」が46.6%、「友人」が25.9%となっています。

■【悩みや困ったことを相談する相手（複数回答）】



■【悩みや困ったことを相談する相手（最も相談する人）】



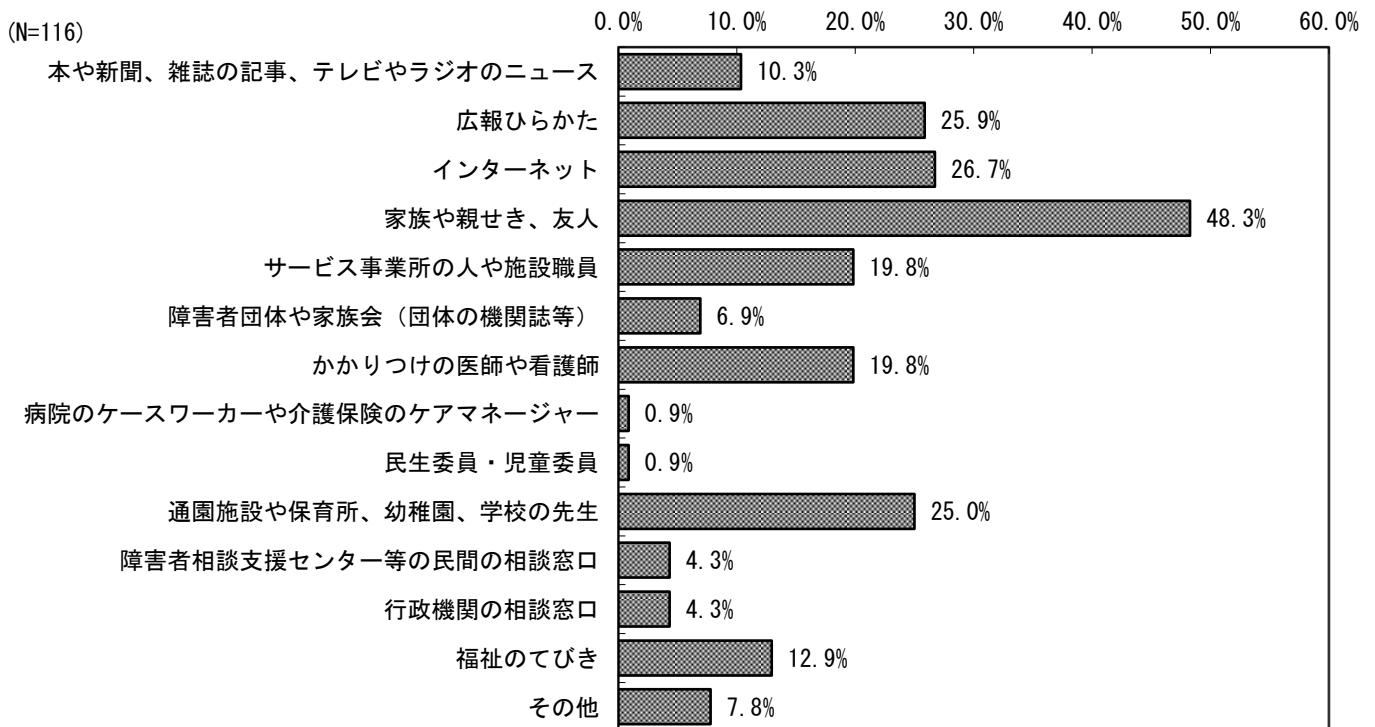
近所の人、職場の上司や同僚、障害者団体や家族会、病院のケースワーカー、民生委員・児童委員、障害者相談支援センター等の民間の相談窓口、行政機関の相談窓口は0件のため省略

(2) 障害や福祉サービス等に関する情報の入手先

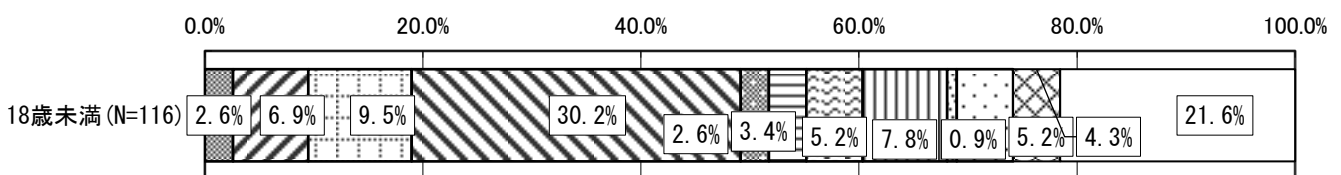
問32 あなたは障害のことや福祉サービス等に関する情報を、どこから知ることが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

障害や福祉サービス等に関する情報の入手先については、「家族や親せき、友人」が36.1%と最も多く、次いで、「インターネット」が26.7%、「広報ひらかた」が25.9%となっています。

■【障害や福祉サービス等に関する情報の入手先 (複数回答)】



■【障害や福祉サービス等に関する情報の入手先 (最も多いもの)】



- 本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース
- インターネット
- サービス事業所の人や施設職員
- かかりつけの医師や看護師
- 行政機関の相談窓口
- その他
- 広報ひらかた
- 家族や親せき、友人
- 障害者団体や家族会 (団体の機関誌等)
- 通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生
- 福祉のてびき
- 無回答

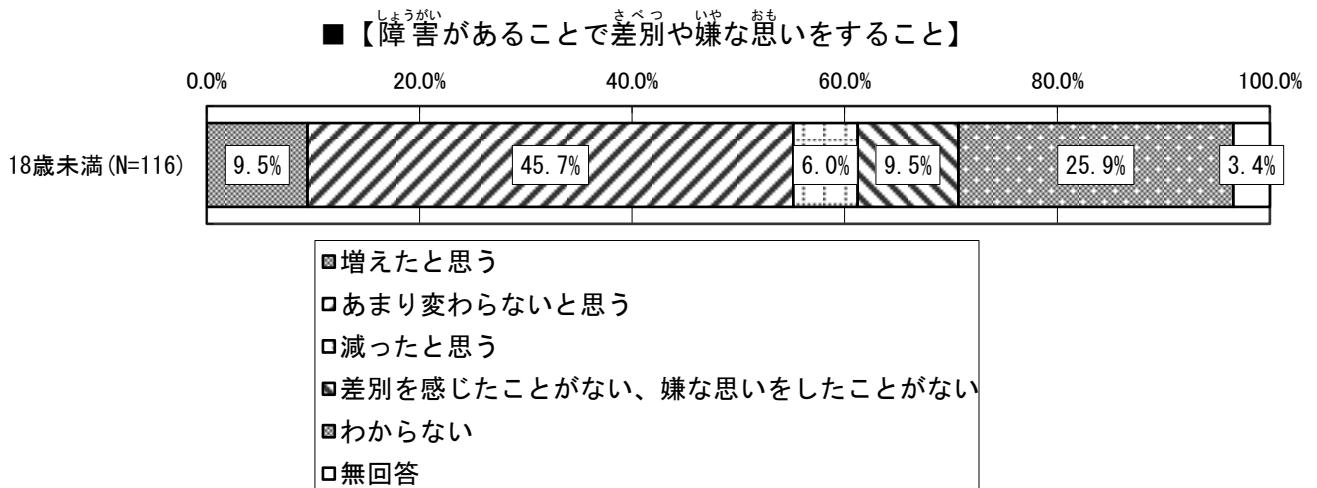
病院のケースワーカーや介護保険のケアマネージャー、民生委員・児童委員、障害者相談支援センター等の民間の相談窓口は0件のため省略

7 けんりようご 権利擁護

(1) 障害があることで差別や嫌な思いをすること

問33 あなたは、障害があることで差別や嫌な思いをすることは、この5年間で変わったように思いますか。(○は1つだけ)

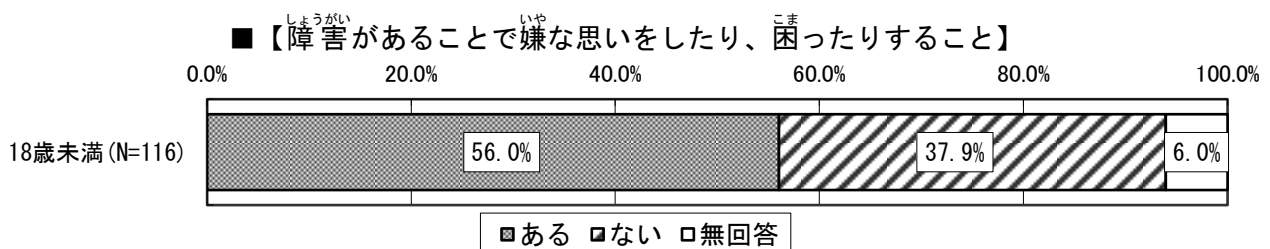
障害があることで差別や嫌な思いをすることについては、この5年間で「あまり変わらないと思う」が45.7%で最も多く、次いで、「わからない」が25.9%となっています。



(2) 障害があることで嫌な思いをしたり、困ったりすること

問34 あなたや保護者の方は、あなたに障害があることで嫌な思いをしたり、困ったりすることは、ありますか。(○は1つだけ)

障害があることで差別や嫌な思いをする(した)ことがあるかについては、「ある」が56.0%、「ない」が37.9%となっています。



(3) 嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容

問35 どのような場所で嫌な思いをしたり、困ったりしましたか。また、その嫌な思いをしたり、困ったりすることはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

障害があることで嫌な思いをしたり、困ったりすることがある方の、差別や嫌な思いをした内容については、外出先・余暇を楽しむときや公共交通機関の「じろじろ見られた」、学校での「無視されたり、仲間はずれにされる」、「自分だけ違う対応をされる」などが多くなっています。

■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答）】

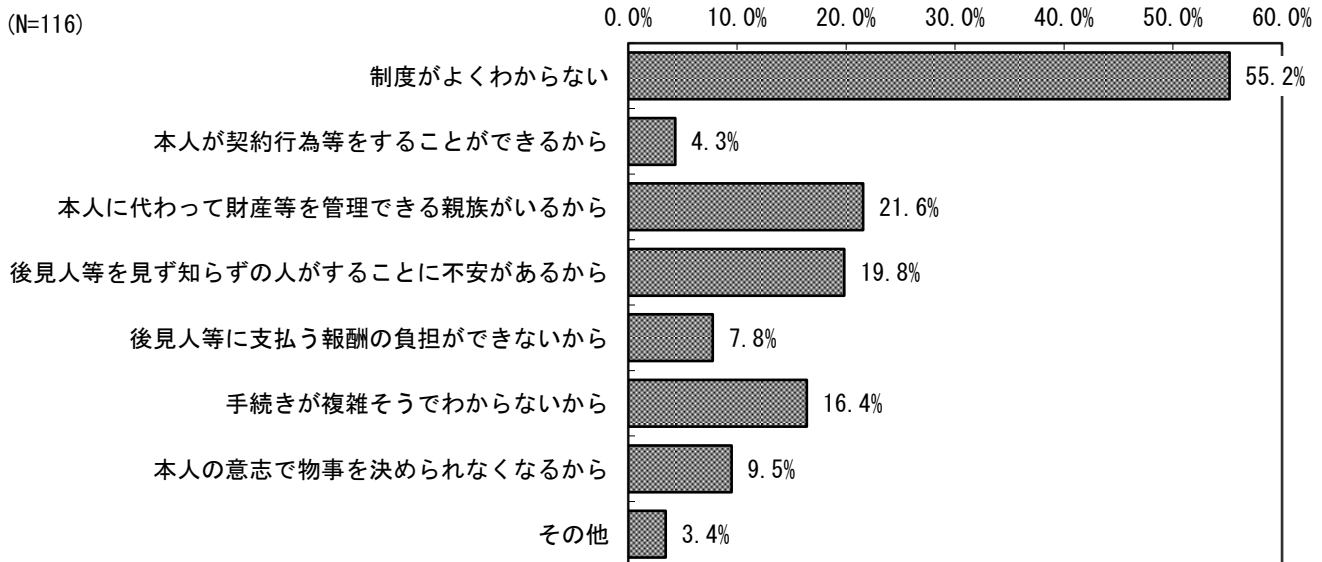
	1. 学校	2. 職場	3. 仕事を探すとき	4. 外出先・余暇を楽しむとき	5. 公共交通機関	6. 病院等の医療機関	7. 住んでいる地域	8. 福祉サービス（通所事業所・施設）など	9. 住まいを探すとき	10. その他
自分だけ違う対応をされる	23.1%	0.0%	0.0%	4.6%	1.5%	0.0%	1.5%	3.1%	0.0%	0.0%
暴言や嫌味を言われる、暴力を受ける	18.5%	3.1%	0.0%	7.7%	4.6%	1.5%	3.1%	0.0%	0.0%	3.1%
無視されたり、仲間はずれにされる	23.1%	0.0%	0.0%	4.6%	1.5%	0.0%	6.2%	0.0%	0.0%	0.0%
じろじろ見られた	16.9%	0.0%	1.5%	61.5%	41.5%	16.9%	20.0%	1.5%	0.0%	1.5%
自分の意見をきいてもらえなかった	20.0%	0.0%	0.0%	7.7%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	0.0%	0.0%
障害を理由に断られた	7.7%	0.0%	3.1%	6.2%	0.0%	0.0%	3.1%	1.5%	0.0%	0.0%
障害に配慮してもらえなかった	20.0%	0.0%	1.5%	16.9%	9.2%	6.2%	9.2%	0.0%	0.0%	3.1%
不親切・冷たい態度をとられた	23.1%	1.5%	0.0%	23.1%	20.0%	7.7%	6.2%	1.5%	0.0%	1.5%
その他	6.2%	1.5%	1.5%	7.7%	3.1%	1.5%	3.1%	1.5%	4.6%	1.5%
有効回答数	65	65	65	65	65	65	65	65	65	65

(4) 成年後見制度を利用の際の不安、または利用を考えていない理由

問36 成年後見制度を利用している場合や利用を考えておられる場合、不安に考えておられること、また、利用を考えておられない理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

成年後見制度の利用にあたって不安なこと・利用を考えない理由については、「制度がよくわからない」が55.2%と最も多く、次いで、「本人に代わって財産等を管理できる親族がいるから」が21.6%、「後見人等を見ず知らずの人がすることに不安があるから」が19.8%などとなっています。

■【成年後見制度を利用の際の不安、または利用を考えていない理由 (複数回答)】

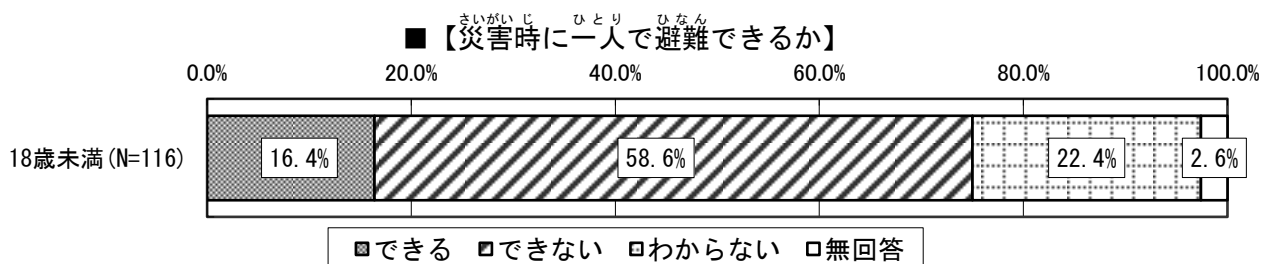


8 さいがいじ ひなんとう 災害時の避難等

(1) さいがいじ ひとり ひなん 災害時に一人で避難できるか

問37 あなたは、地震等の災害時に一人で避難できますか。(○は1つだけ)

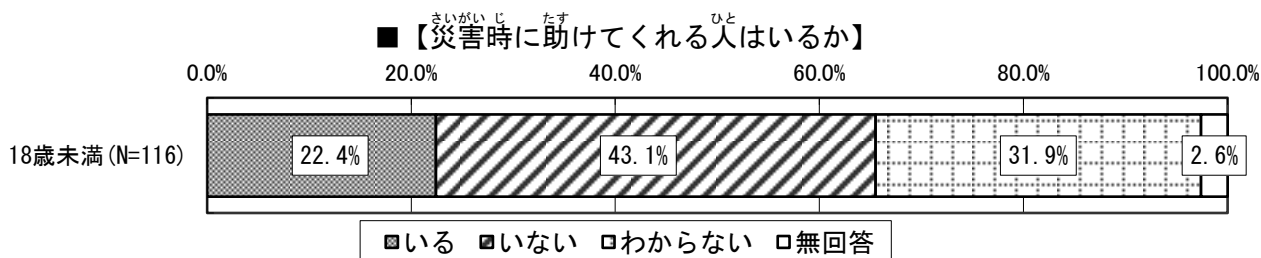
地震等の災害時に一人で避難できるかについては、「できる」が16.4%、「できない」が58.6%、「わからない」が22.4%となっています。



(2) さいがいじ たす ひと 災害時に助けてくれる人はいるか

問38 家族が不在の場合、災害時に避難する時、あなたを助けてくれる人はいますか。(○は1つだけ)

家族が不在の場合や一人暮らしの場合、災害時に避難する時、助けてくれる人がいるかについては、「いる」が22.4%、「いない」が43.1%、「わからない」が31.9%となっています。



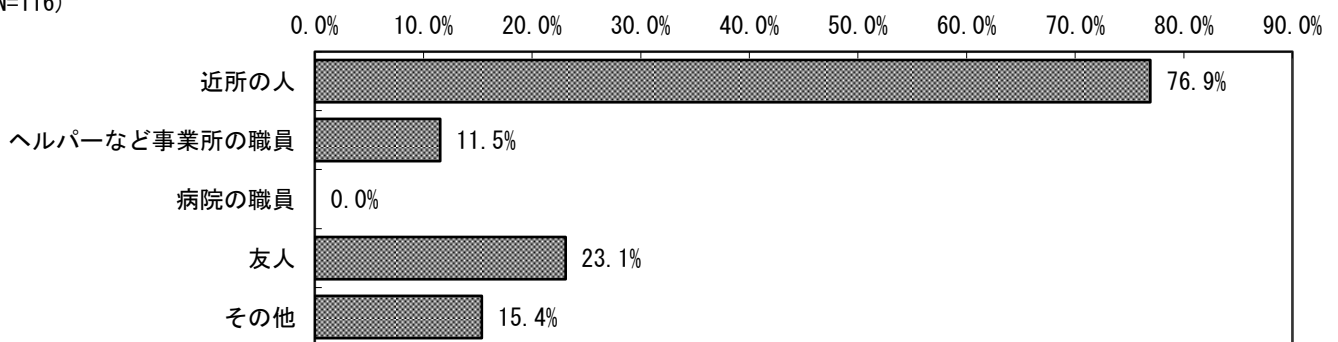
(3) 災害時に助けられる人

問39 助けられる人は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

助けられる人がいる方の、助けられる相手については、「近所の人」が76.9%と最も多く、次いで、「友人」が23.1%、「ヘルパーなど事業所の職員」が11.5%となっています。

■ 【災害時に助けられる人 (複数回答)】

(N=116)



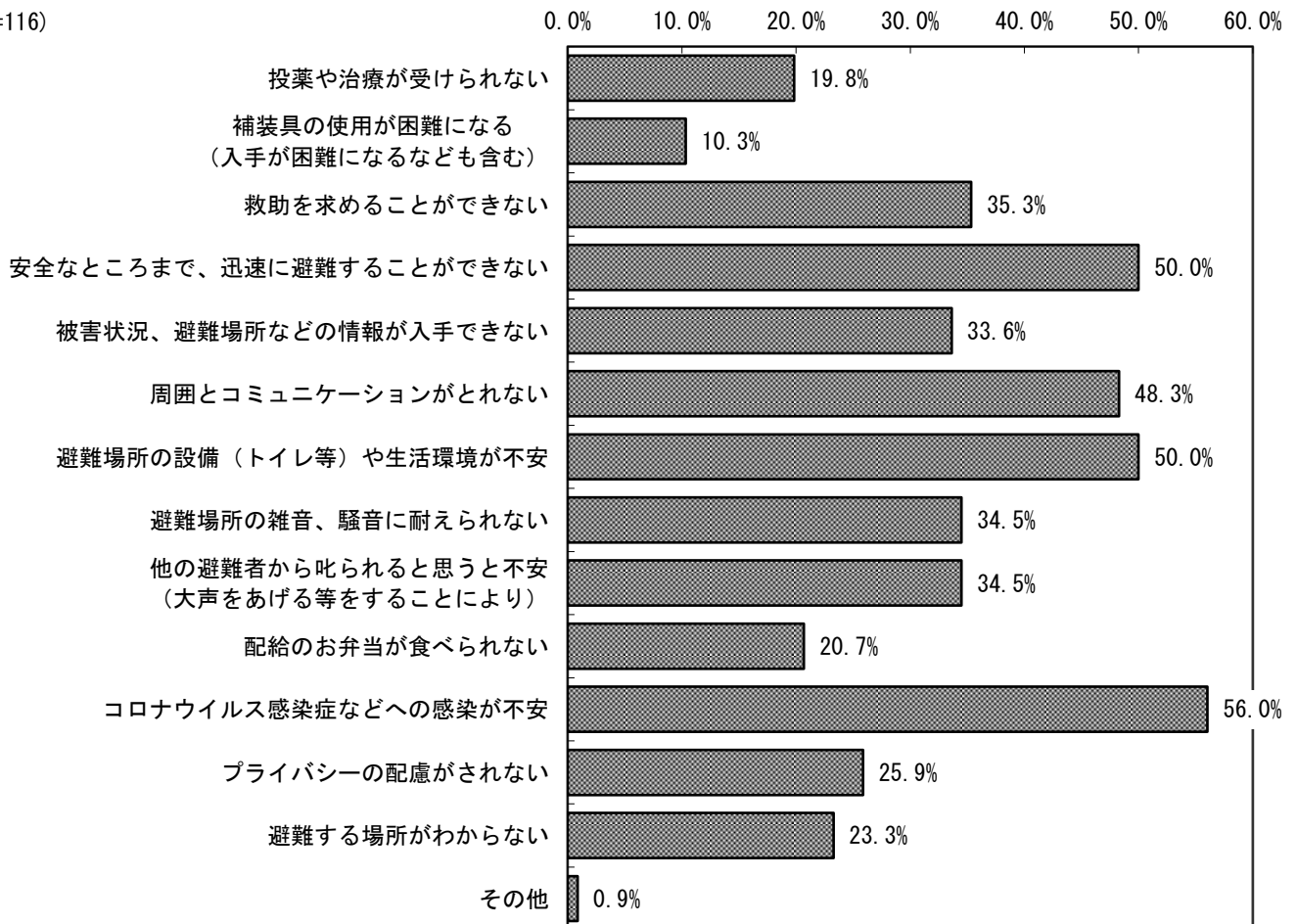
(4) 災害時の避難や避難生活で困ることや不安

問40 地震等の災害時に避難する時や避難生活で困ること、不安に思うことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

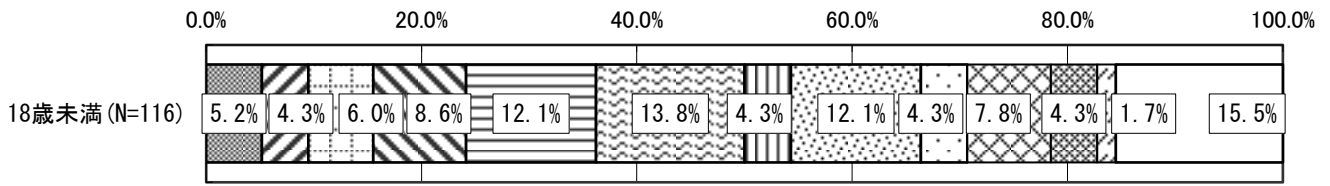
地震等の災害時に避難する時や避難生活で困ること、不安に思うことについては、「コロナウイルス感染症などへの感染が不安」が56.0%と最も多く、次いで、「安全なところまで、迅速に避難することができない」「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」がともに50.0%、「周囲とコミュニケーションがとれない」が48.3%となっています。

■【災害時の避難や避難生活で困ることや不安（複数回答）】

(N=116)



■ 【災害時の避難や避難生活で困ることや不安（最も困るもの）】



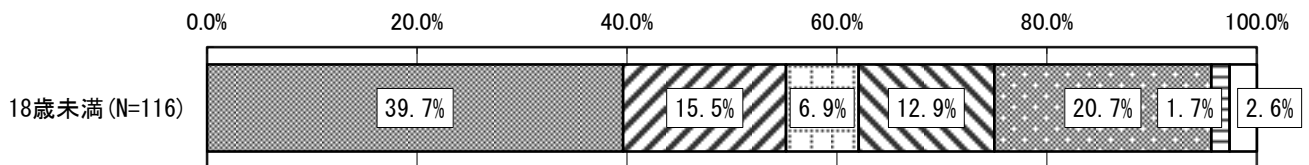
- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 投薬や治療が受けられない | <input type="checkbox"/> 補装具の使用が困難になる |
| <input type="checkbox"/> 救助を求めることができない | <input type="checkbox"/> 安全なところまで、迅速に避難することができない |
| <input type="checkbox"/> 被害状況、避難場所などの情報が入手できない | <input type="checkbox"/> 周囲とコミュニケーションがとれない |
| <input type="checkbox"/> 避難場所の設備や生活環境が不安 | <input type="checkbox"/> 避難場所の雑音、騒音に耐えられない |
| <input type="checkbox"/> 他の避難者から叱られると思うと不安 | <input type="checkbox"/> 配給のお弁当が食べられない |
| <input type="checkbox"/> コロナウイルス感染症などへの感染が不安 | <input type="checkbox"/> プライバシーの配慮がされない |
| <input type="checkbox"/> 避難する場所がわからない | <input type="checkbox"/> その他 |
| <input type="checkbox"/> 無回答 | |

(5) 災害時に自宅で過ごせなくなった場合の対処

問41 災害時に自宅で過ごせなくなった場合、あなたはどのようにされますか。(〇は1つだけ)

災害時に自宅で過ごせなくなった場合、どのようにするかについては、「避難所で過ごす」が39.7%と最も多く、次いで、「避難所で過ごせないので、車の中や公園などで過ごす」が15.5%、「遠方の知り合いを探す」が12.9%、「障害の施設で過ごせるよう探す」が6.9%となっています。一方で、「わからない」という回答も20.7%と多くみられます。

■ 【災害時に自宅で過ごせなくなった場合の対処】



- 避難所で過ごす
- 避難所で過ごせないので、車の中や公園などで過ごす
- 障害の施設で過ごせるよう探す
- 遠方の知り合いを探す
- わからない
- その他
- 無回答

(6) 避難場所があれば、役に立つ、障害特性に配慮していると思われる

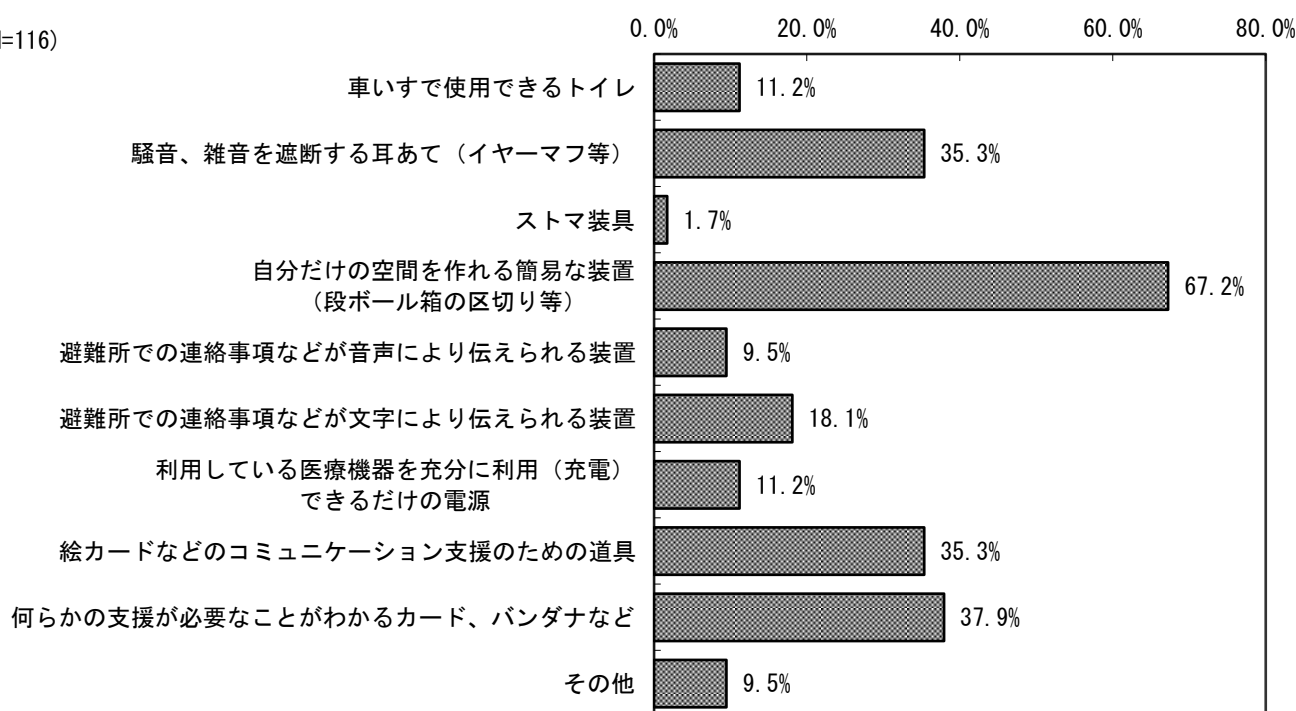
品物

問42 避難場所があれば、役に立つ、障害特性に配慮していると思われる品物がありますか。(食料など、長く保存できないものは除いて、お答えください。)(あてはまるものすべてに○)

避難場所があれば、役に立つ、障害特性に配慮していると思われる品物については、「自分だけの空間を作る簡易な装置(段ボール箱の区切り等)」が67.2%と最も多く、次いで、「何らかの支援が必要なことがわかるカード、バンドナなど」が37.9%、「騒音、雑音を遮断する耳あて(イヤーマフ等)」「絵カードなどのコミュニケーション支援のための道具」がともに35.3%となっています。

【避難場所があれば、役に立つ、障害特性に配慮していると思われる品物(複数回答)】

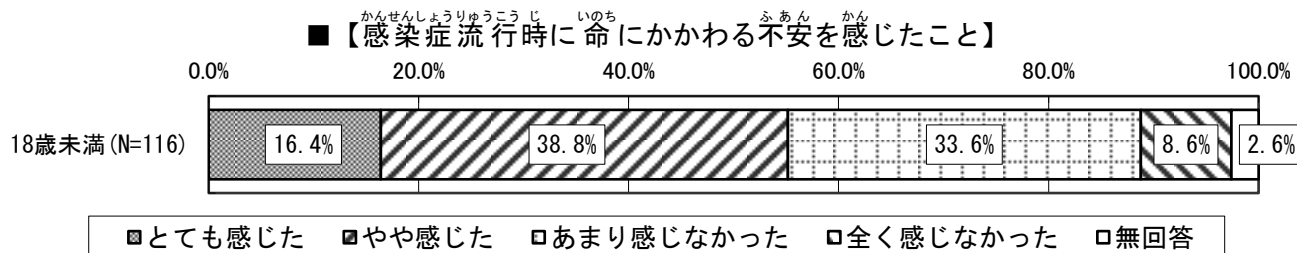
(N=116)



(7) 感染症流行時に命にかかわる不安を感じたこと

問43 新型コロナウイルスなど、感染症流行時、命にかかわる不安を感じたことはありましたか。(○は1つだけ)

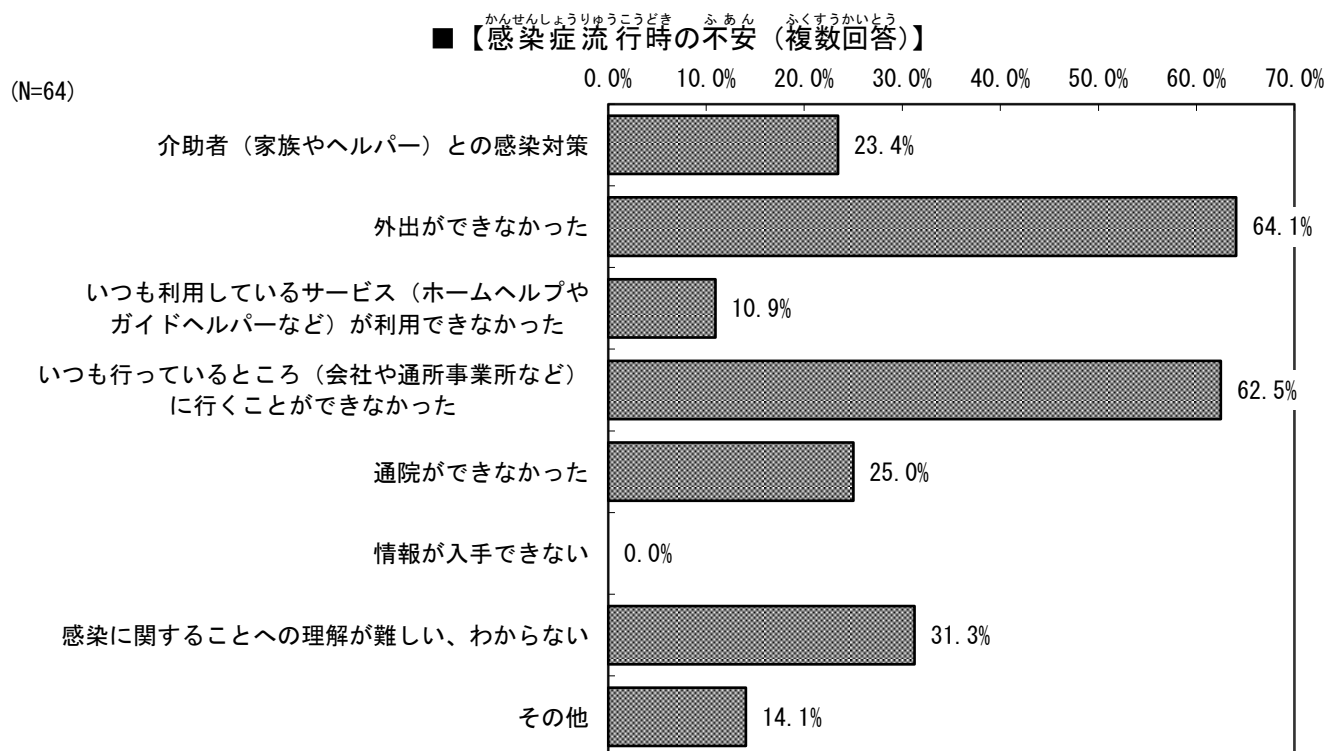
感染症流行時に命にかかわる不安を感じたことについては、「とても感じた」が16.4%、「やや感じた」が38.8%で、55.2%が不安を感じています。



(8) 感染症流行時の不安

問44 具体的にどのようなことに不安を感じましたか。(あてはまるものすべてに○)

感染症流行時に命にかかわる不安を感じた方の、具体的な不安については、「外出ができなかった」が64.1%と最も多く、次いで、「いつも行っているところ(会社や通所事業所など)に行くことができなかった」が62.5%となっています。

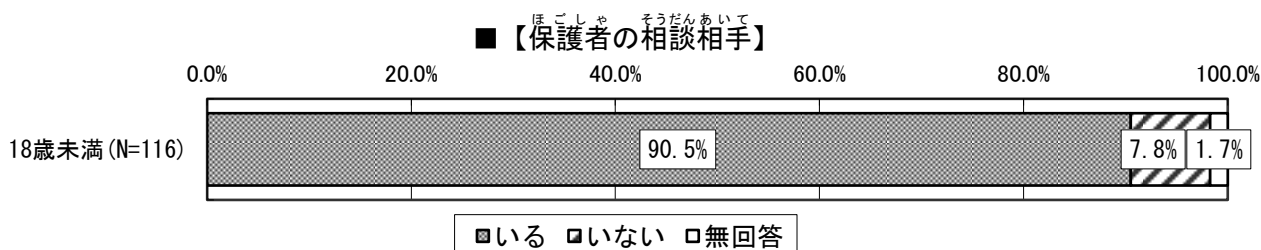


9 保護者への設問

(1) 保護者の相談相手

問45 お子さんの心身の発達への課題について相談できる方はいますか。(○は1つだけ)

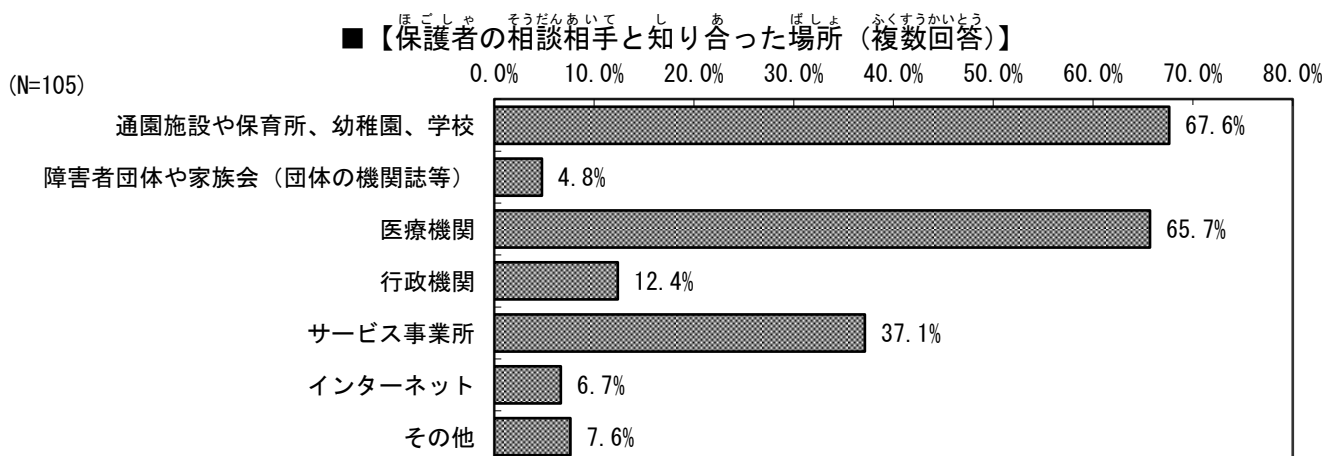
保護者の相談相手については、「いる」が90.5%となっています。



(2) 保護者の相談相手と知り合った場所

問46 その相談相手とはどこで知り合いましたか。(あてはまるものすべてに○)

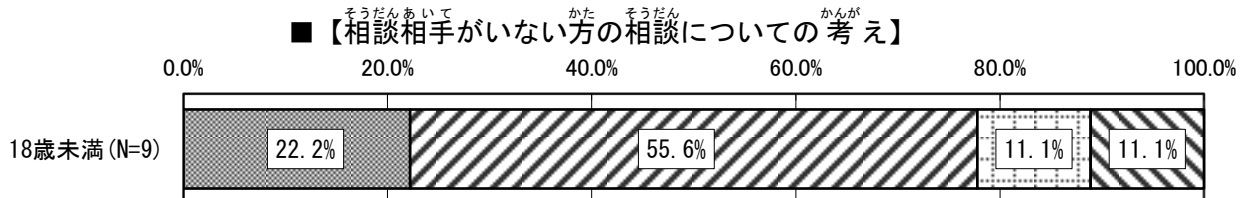
相談相手がいる保護者の、知り合った場所については、「通園施設や保育所、幼稚園、学校」が67.6%と最も多く、次いで「医療機関」が65.7%となっています。



(3) 相談相手がない方の相談についての考え

問47 相談についてどのようにお考えですか。(○はひとつだけ)

相談相手がない保護者の、相談についての考えは、「必要であると思うが、どのように相談相手を見つけたらよいかわからない」が55.6%で最も多くなっています。



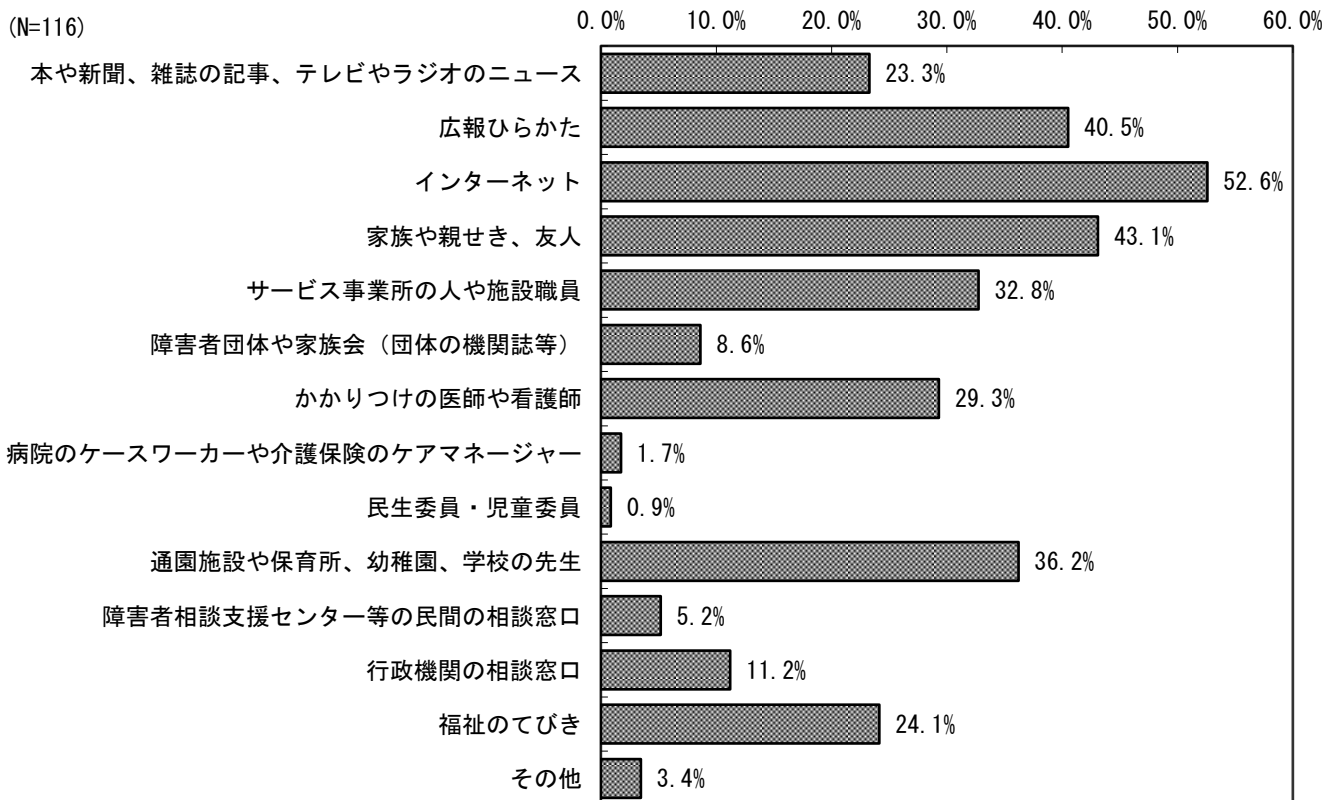
- 行政機関の相談窓口で十分
- 必要であると思うが、どのように相談相手を見つけたらよいかわからない
- 相談の必要はない
- その他

(4) 保護者の情報入手先

問48 障害のことや福祉サービス等に関する情報を、どこから知ることが多いですか。
(あてはまるものすべてに○)

保護者の情報入手先については、「インターネット」が52.6%と最も多く、次いで、「家族や親せき、友人」が43.1%、「広報ひらかた」が40.5%となっています。

■【保護者の情報入手先（複数回答）】



だい しょう 第4章

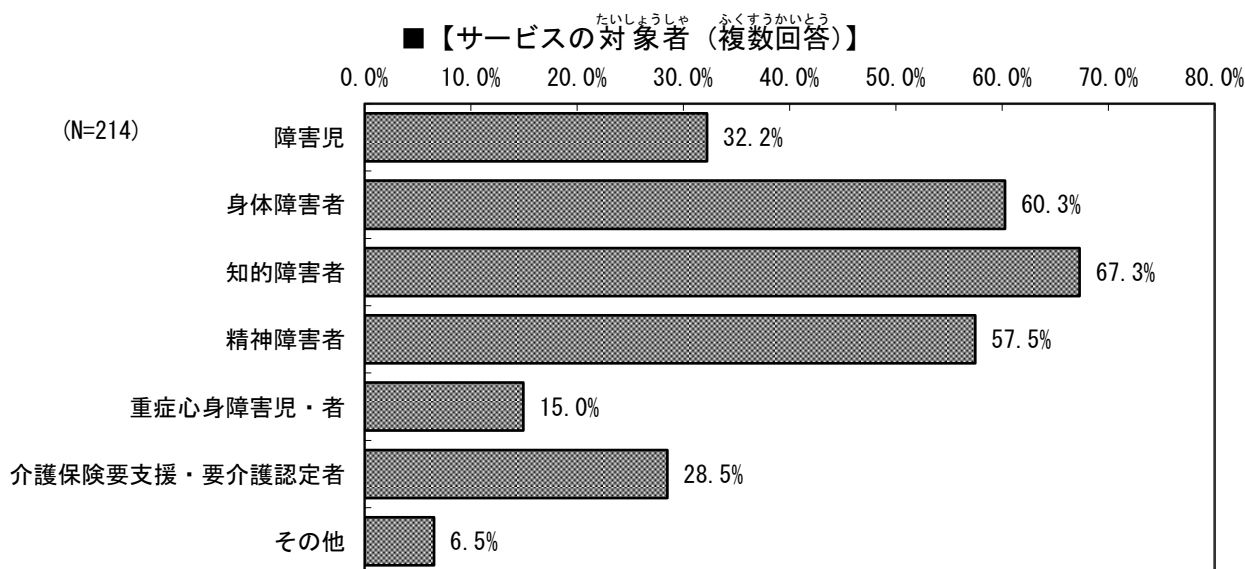
ていきょうじぎょうしょ ちょうさけっか 「サービス提供事業所」調査結果

1 ていきょう 提供しているサービスについて

(1) サービスのたいしょうしゃ 対象者

問2 現在、貴事業所が提供しているサービスの主な対象者に○印をつけてください
(複数回答可)。

サービスの対象者については、「知的障害者」が67.3%と最も多く、次いで、「身体障害者」が60.3%、「精神障害者」が57.5%となっています。



(2) 提供しているサービス

問3 次に掲げる各サービスについて、現在、貴事業所が提供している（事業者指定を受けている等）場合は、

①欄に○印をつけ、

②定員、

③令和2年6月の実利用人数、

④うち枚方市（が援護の実施者である利用者）の実人数、

⑤令和2年6月の延べ利用量、

⑥うち枚方市（同）の延べ利用量を各欄に記入してください。

① 提供しているサービスごとの定員、実利用人数、のべ利用量

■【提供しているサービス・定員・利用人数・利用量（合計）】

サービス名	①	②定員 (人)	③実利用人数 (令和2年6月実績)		⑤延べ利用量 (令和2年6月実績)	
			(人)	④うち枚方市	(時間・日)	⑥うち枚方市
居宅介護（ホームヘルプ）	76		1006	912	15750.1	14386.2
重度訪問介護	44		38	35	5081.5	4966.5
行動援護	1		3	2	138.5	125.5
重度障害者等包括支援	1		1	1	12	12
同行援護	27		94	81	2001.1	1707.6
短期入所	11	35	154	84	463	401
生活介護	35	1021	1327	874	18542	9481
療養介護	0					
施設入所支援	3	179	163	44	4838	1316
自立訓練（生活訓練）	2	20	22	22	360	360
自立訓練（機能訓練）	0					
就労移行支援	9	122	238	155	1456	1051
就労継続支援(A型)	8	155	212	92	2694.5	1728.5

サービス名	①	②定員 (人)	③実利用人数 (令和2年6月実績)		⑤延べ利用量 (令和2年6月実績)	
			(人)	④うち枚方市	(時間・日)	⑥うち枚方市
就労継続支援(B型)	34	630	1735	1520	10213.6	8395
就労定着支援	5	50	19	15	38	27
グループホーム	21	461	437	354	10530	8420
自立生活援助	0					
移動支援	44		470	424	9001.75	8358.75
地域活動支援センター	8		736	712	3158	2655
日中一時支援	11	85	59	56	390.5	363.5
地域相談支援	3		0	0	0	0
計画相談支援	13		157	132	113	93
児童発達支援	20	204	369	335	571	467
医療型児童発達支援	0					
居宅訪問型児童発達支援	0					
放課後等デイサービス	36	345	2428	2023	5147	4504
保育所等訪問支援	4		34	30	135	129
障害児相談支援	8		36	30	1	1
福祉型障害児入所施設	0					
医療型障害児入所施設	0					

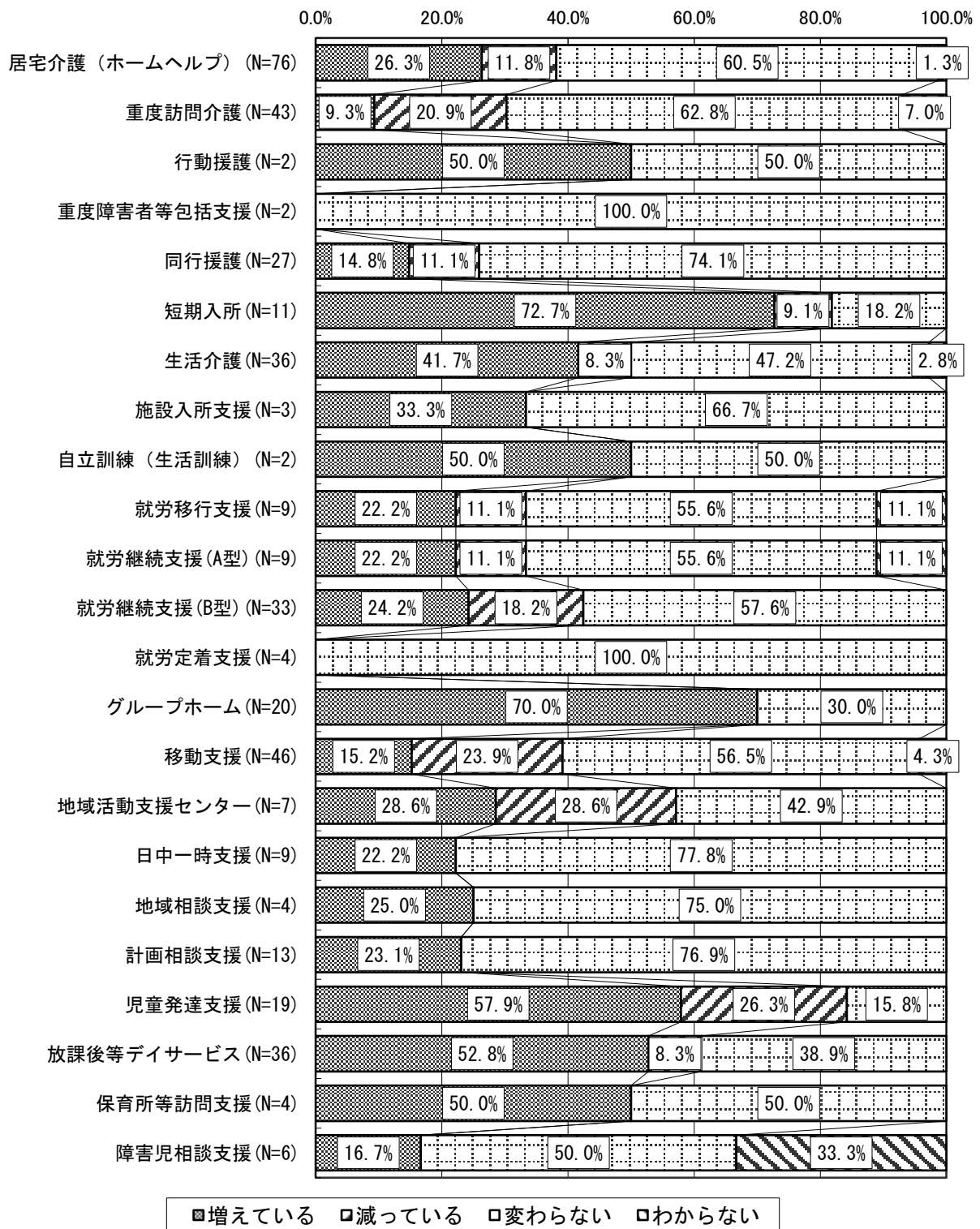
(3) 提供しているサービスごとの利用状況と今後の対策

問4 各サービスについて、①利用者ニーズの増減、②貴事業所が考えている利用者ニーズに対する方策、③その方策の実施予定時期、④定員の増減予定人数について、各選択肢から一つだけ選んで記入してください。

提供しているサービスごとの利用者ニーズの増減については、「増えている」が多いサービスは短期入所(72.7%)、グループホーム(70.0%)、児童発達支援(57.9%)、放課後等デイサービス(52.8%)、行動援護・自立訓練(生活訓練)・保育所等訪問支援(50.0%)などとなっています。

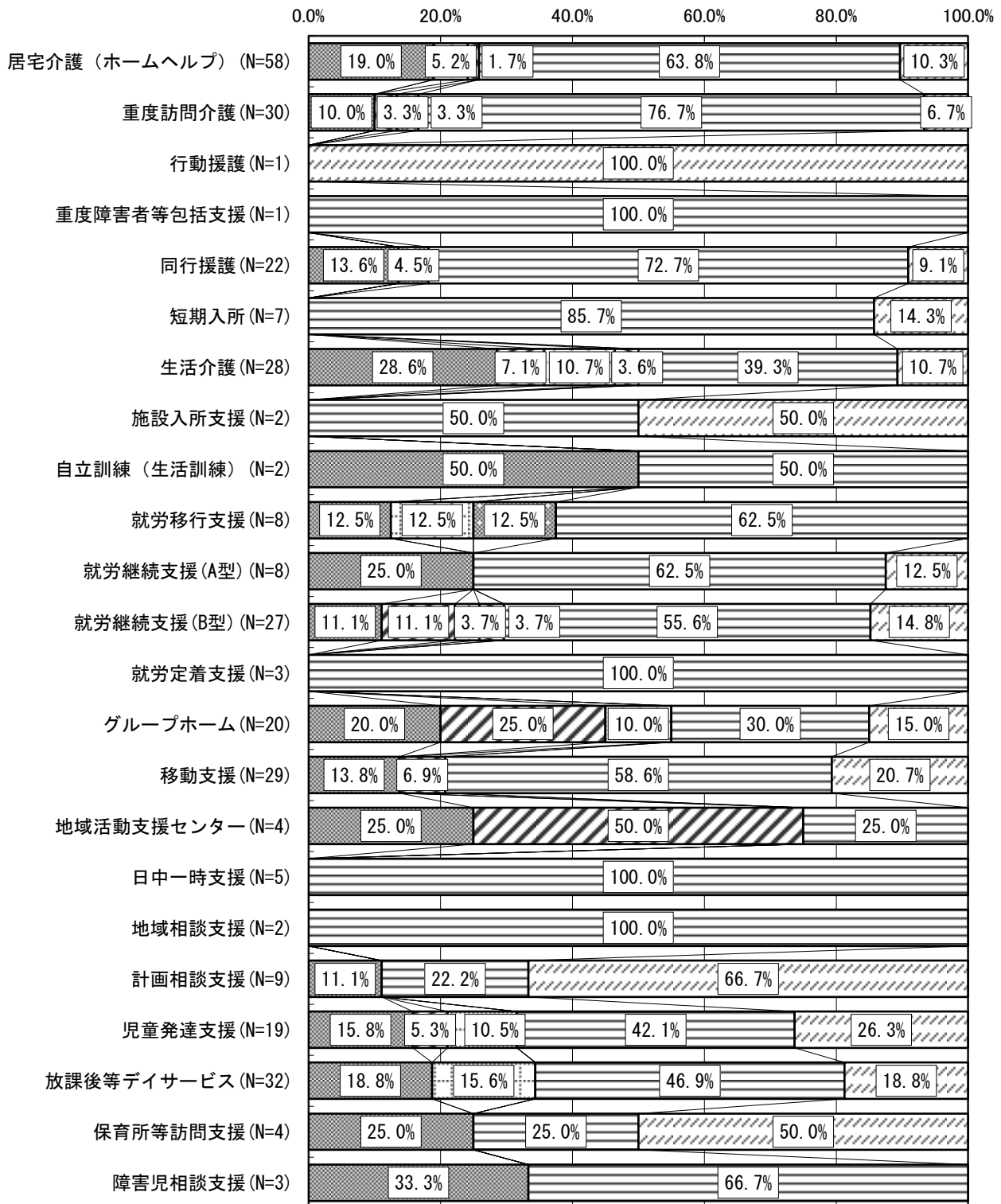
方策については、ある程度の件数のあるサービス(居宅介護(ホームヘルプ)、重度訪問介護、同行援護、生活介護、就労継続支援(B型)、グループホーム、移動支援、児童発達支援、放課後等デイサービス)では「対策なし」が最も多くなっています。

■ 【①利用者ニーズの増減】



がいとうじぎょうしよ
該当事業所がないサービスは省略しています。しょうりやく

■【②貴事業所が考えている利用者ニーズに対する方策】



■定員増 ■多機能化 □新規開設 □定員減 □廃止 □対策なし □その他

該当事業所がないサービスは省略しています。

(4) 新型コロナウイルス感染症の影響

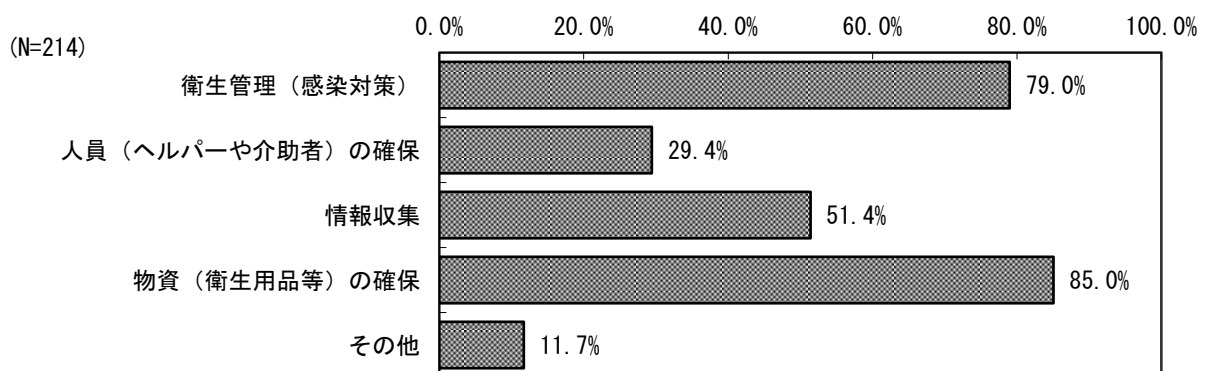
問5 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、各サービスについて、貴事業所の状況に該当する選択肢の番号に○をつけてください。

- ① 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、サービス提供をする上で困ったことはありましたか。
- ② 新型コロナウイルス感染症流行により、障害サービスの利用に変化はありましたか。

① サービス提供をする上で困ったこと

サービス提供をする上で困ったことについては、「物資（衛生用品等）の確保」が85.0%と最も多く、次いで、「衛生管理（感染対策）」が79.0%となっています。

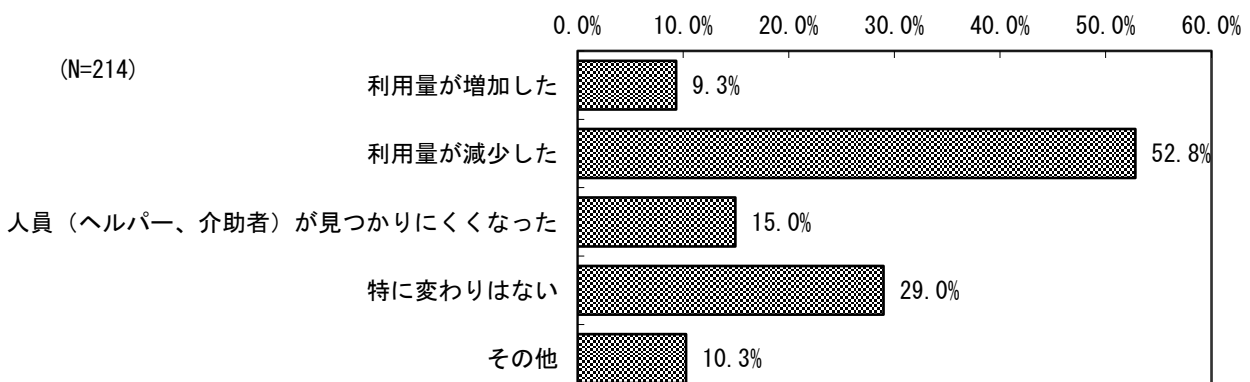
■【サービス提供をする上で困ったこと】



② 障害サービスの利用の変化

障害サービスの利用の変化については、「利用量が減少した」が52.8%と最も多くなっています。

■【障害サービスの利用の変化】



(5) 緊急利用の受け入れ実績と今後の対応状況

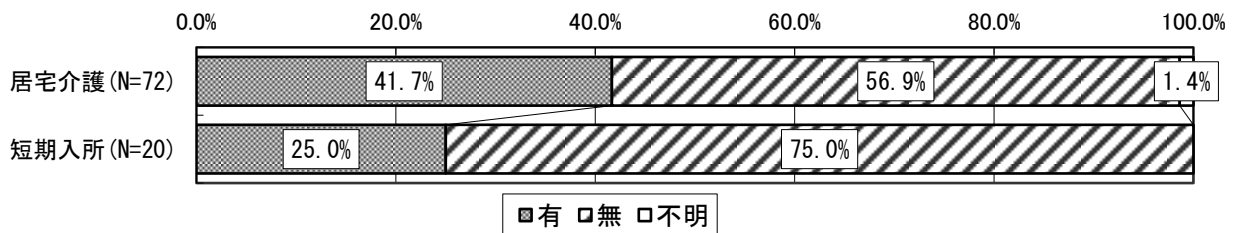
問6 緊急利用(居宅介護におけるケアプラン以外の対応など)について、①過去1年間の受け入れ実績の有無、②受け入れ実績がある場合は、その曜日及び時間帯、③今後の緊急利用の対応について、各選択肢から該当する番号一つだけに(②はいくつでも)〇印をつけてください。

緊急利用について、過去1年間の受け入れ実績については、実績有りは居宅介護で41.7%、短期入所で25.0%となっています。

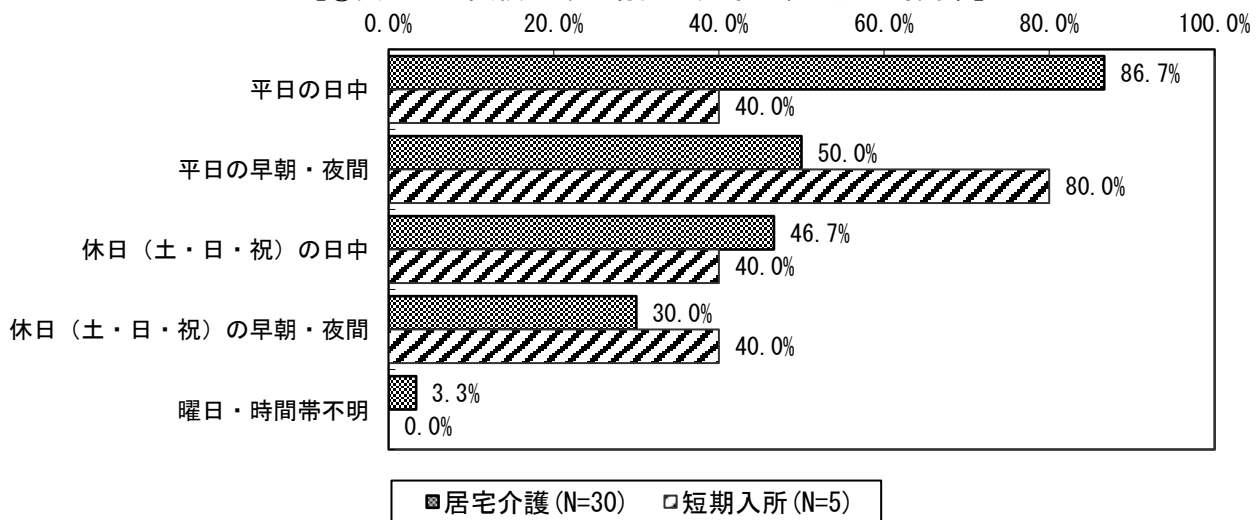
受け入れ曜日・時間帯については、居宅介護では「平日の日中」、短期入所では「平日の早朝・夜間」がそれぞれ最も多くなっています。

今後の緊急利用の対応については、居宅介護では「曜日・時間帯によっては受け入れ可能」、短期入所では「わからない」がそれぞれ最も多くなっています。

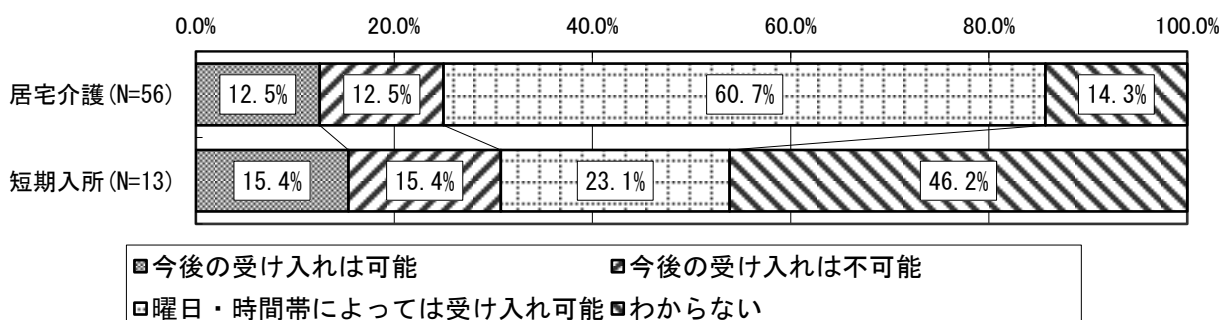
■【①過去1年間の受け入れ実績の有無】



■【②受け入れ実績がある場合は、その曜日及び時間帯】



■【③今後の緊急利用の対応】



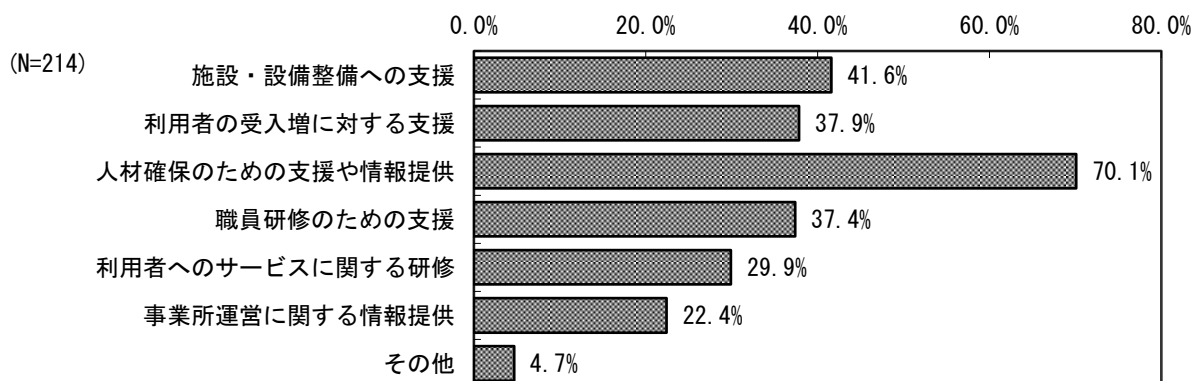
2 事業所の運営や支援について

(1) 利用者の増加等に対応するための対策

問7 今後、利用者ニーズの増加等に対応していくための施策として、何が必要かつ効果的だと思いますか。(〇は3つまで)

利用者の増加等に対応するための対策については、「人材確保のための支援や情報提供」が70.1%と最も多く、次いで、「施設・設備整備への支援」が41.6%、「利用者の受入増に対する支援」が37.9%、「職員研修のための支援」が37.4%などとなっています。

■【利用者の増加等に対応するための対策】

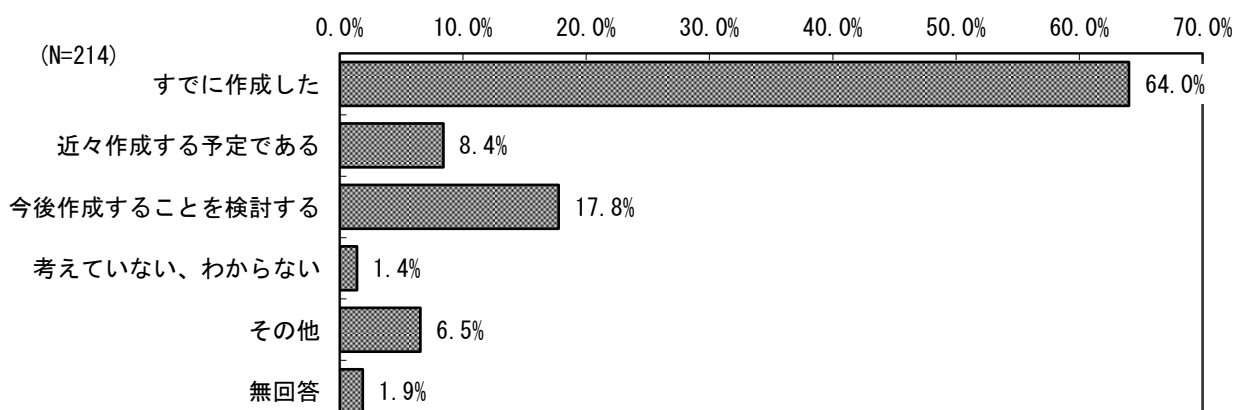


(2) 障害者虐待防止のためのマニュアル

問8 障害者虐待防止のためのマニュアルを作成していますか。(〇は1つだけ)

障害者虐待防止のためのマニュアルについては、「すでに作成した」が64.0%で最も多くなっています。

■【障害者虐待防止のためのマニュアル】

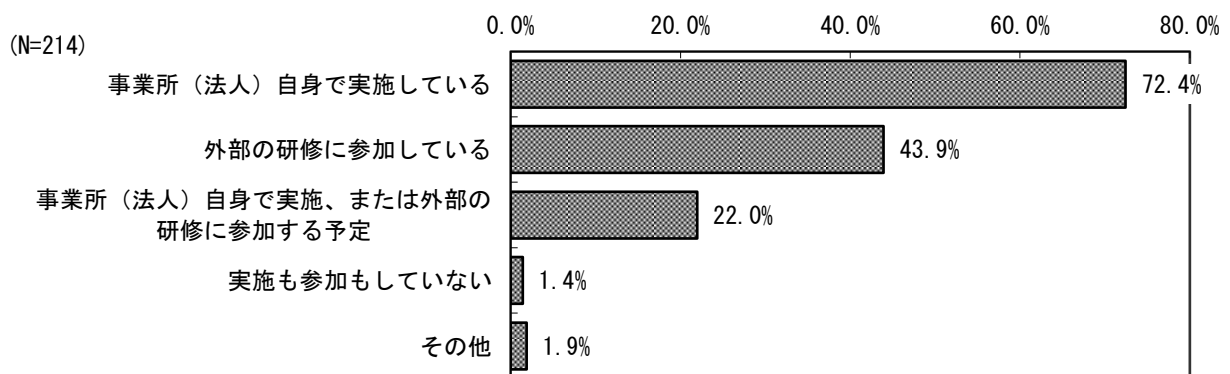


(3) 障害者虐待防止に向けた研修

問9 事業所として障害者虐待防止のための研修を実施していますか。
(〇はいくつでも)

障害者虐待防止に向けた研修については、「事業所（法人）自身で実施している」が72.4%と最も多く、次いで、「外部の研修に参加している」が43.9%となっています。

■【障害者虐待防止に向けた研修】

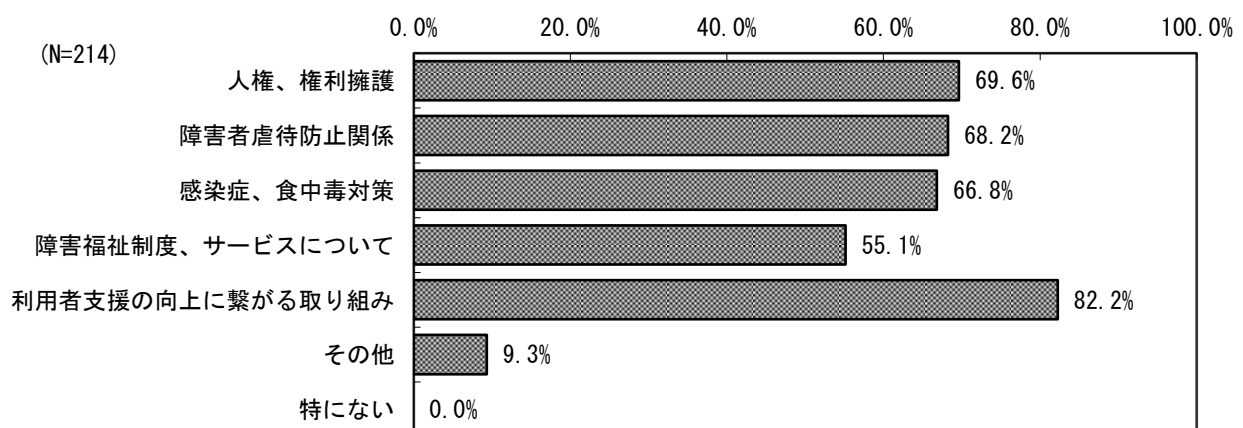


(4) 今後職員に実施したい研修

問10 事業所の職員に対して、どのような研修を実施したいと考えていますか。
(〇はいくつでも)

今後職員に実施したい研修については、「利用者支援の向上に繋がる取り組み」が82.2%と最も多く、次いで、「人権、権利擁護」が69.6%、「障害者虐待防止関係」が68.2%、「感染症、食中毒対策」が66.8%などとなっています。

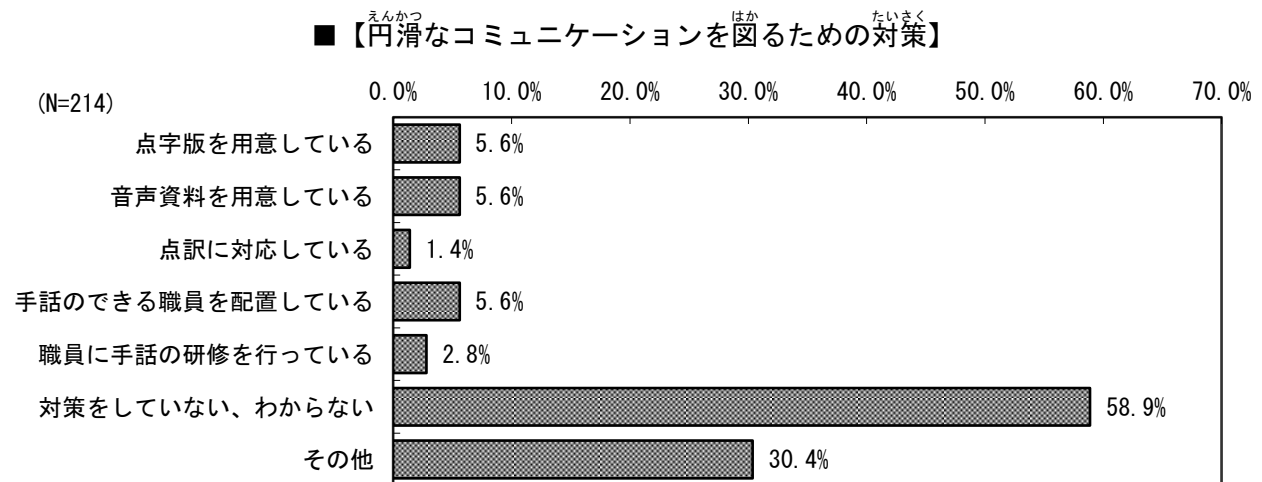
■【今後職員に実施したい研修】



(5) 円滑なコミュニケーションを図るための対策

問11 事業所として、視覚障害者や聴覚障害者の方と円滑なコミュニケーションを図るためにどのような対策をしていますか。(〇はいくつでも)

円滑なコミュニケーションを図るための対策については、「対策をしていない、わからない」が58.9%と5割以上を占めています。

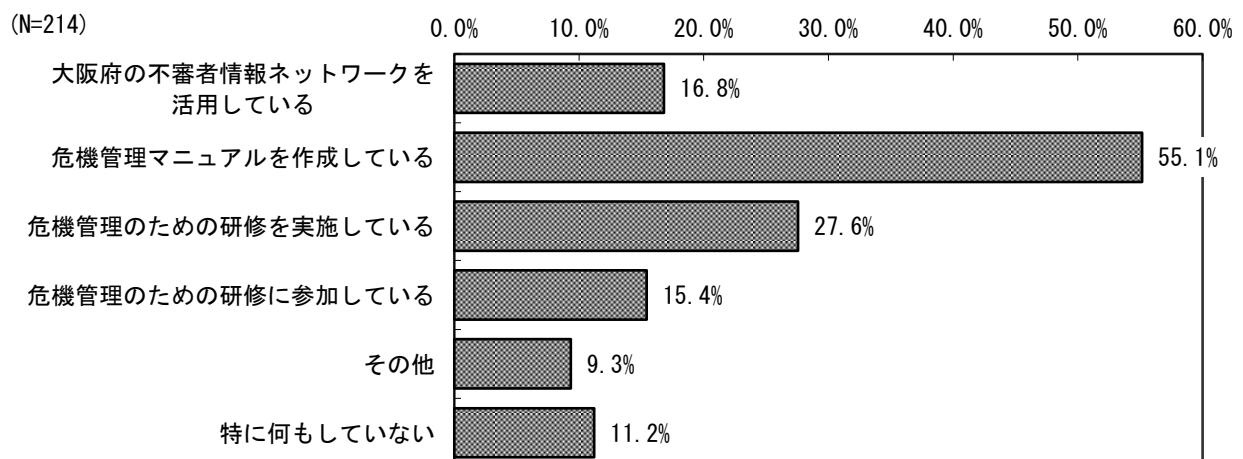


(6) 安全・安心の確保対策・危機管理対策の取組

問12 安全や安心の確保のための対策、危機管理の対策としてどんな取り組みをしていますか。(〇はいくつでも)

安全・安心の確保対策・危機管理対策の取組については、「危機管理マニュアルを作成している」が55.1%と最も多く、次いで、「危機管理のための研修を実施している」が27.6%となっています。

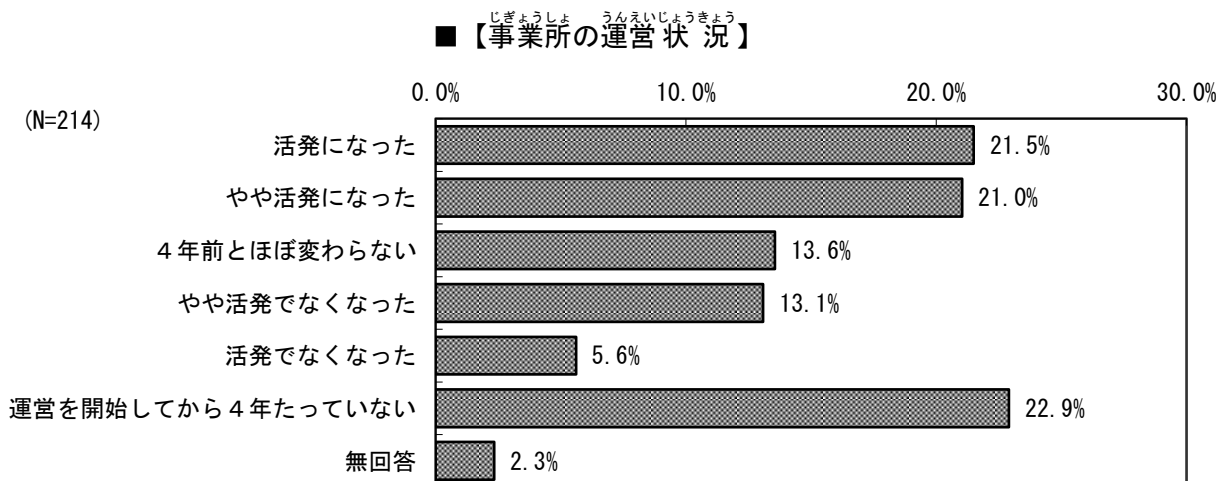
■ 【安全・安心の確保対策・危機管理対策の取組】



(7) 事業所の運営状況

問13 4年前と比べて、全体として、貴事業所の運営状況はどのように変わりましたか。(〇は1つだけ)

事業所の運営状況については、「運営を開始してから4年たっていない」が22.9%と最も多く、次いで「活発になった」が21.5%、「やや活発になった」が21.0%で、約4割が活発になったと回答しています。



(8) 自由意見

問14 枚方市の障害福祉施策やサービス事業所への支援に関して、ご意見がありましたら自由にお書きください。

自由意見をテーマ別に「枚方市障害者計画（第3次）改訂版」の基本目標に即して分類しました。

「生涯を通じて安心できるサービスの確保と提供」、「身近でわかりやすい相談窓口ときめ細かな情報提供」についての意見が、前回平成29年調査と同様に多くあげられています。

また、今回調査では、新型コロナウイルス感染症対策に関連して、「障害者が安心して暮らすまちづくり」についての意見が多くあげられています。感染症の発生にともなう事業の休業や利用者の利用困難については、他の基本目標でも指摘されています。

その他、人材の確保や情報提供、事業者間・行政との連携についての意見が、複数の基本目標で指摘されています。

■【自由意見の分類】

意見のテーマ	意見
市民啓発及び地域との交流の推進	私達の事業所は障害者が家族とともに地域生活が持続できるよう、支援することが重要な役割となっています。生活介護事業所なので、障害は知的、身体、精神など重複している場合もあり、軽度障害とは言えません。しかし、障害者が日中の多くを過ごす事業所の地域を、自分たちの生活の場として活動する中で、地域住民との交流や顔見知りが増えていった。自分たちで昼食を作るため、地域のスーパーへ食材を買いに行ったり、日常雑貨は100均へ、また、郵便局も自分たちで行くことで、そこで働く人と顔見知りになり、声掛けもして、買い物も支援してくれる。地域の防災訓練を初めとしていろいろな行事に参加し、地域住民として認知されるようになった。しかし、不動産屋より建物の老朽化で一方向的な退去要請があり困惑した。福祉指導課は「そういった問題は個別問題だから対応しない」と言われた。結局、この地域で事業を続けたいという私達の要望を受け止め対応してくれるのは地域住民である。本当は事業者、地域住民、福祉課が連携し、地域福祉のあり方を検討できる場だけでも作ってほしかった。

意見のテーマ	意見
	<p>近年、障害福祉分野にたくさんの事業者が参入し、利用者さんにとっては選択の幅が広がったが、“枚方らしさ”が失われつつあるように思います。たとえばふれあいフェスティバルに福祉とは関係のない民間事業者が出展されるようになった。くずはモールやビオルネ、T-SITE などの空き店舗、空きスペースなどを、市が主導となっただけ“枚方らしさ”を市内の福祉事業所が協力しあって何かできれば面白いのではと思います。また、人材不足の問題（特にグループホームなどの生活の場）を事業所だけの問題にせず、人材バンクなどを作り、市全体で問題解決できれば良いと思います。</p>
<p>障害者が安心できるまちづくり</p>	<p>コロナ対策で、例えば送迎加算のつかないサービスでも、臨時に加算をするか、もしくは補助金を出すなど、施設運営の負担増に対する援助をしてほしい。今年度、コロナの影響があまりに大きすぎて、様々な点で施設運営が厳しくなっており、行政の支援もお願いしたいです。</p> <p>福祉的就労の環境整備について、今回の新型コロナウイルス感染拡大防止により、枚方市立総合福祉会館ラポール1Fの委託事業である「喫茶、販売コーナー」の運営が、利用者のニーズにあったサービスの提供にいたっていないこと。少しでも支援の補填があれば検討の余地はあるが運営は厳しい状況である。今回の「感染」についての対策をどのように考えていくか、課題としても非常に難しい。市としての今後の取組として、来年度、委託事業の展開を検討されているのであれば、それなりの対応策を構築しておかなければ大変になると思われる。利用者のニーズとサービスの提供を考案したとき、「感染」対策として支援の方策を早急に策定してほしいものである。</p> <p>入所施設は365日稼働していることもあり、平日のみならず生活介護サービスも並行してサービス提供している実態がある。そのことに対する保障があればありがたい。新型コロナウイルスについて、方が一、当施設内でクラスターが発生した場合、枚方市としてどの程度対応していただけるのか知りたい。また、入所施設という観点から、体調不良者が出た場合、確実にPCR検査が受けられる医療機関の確保（前もっての情報提供）をお願いしたい。</p> <p>千葉県の障害者施設のクラスターを踏まえ、枚方市内の障害者支援施設（入所施設等）でクラスターが発生した場合、枚方市としてどの程度の協力を想定されているか。または、そのような体制づくりを今後協議される予定はあるか等、お聞きできればと思っております。施設として新型コロナウイルスが発生し、クラスターが生じた場合どのようなことが行政に望めるのか把握しておく必要があると感じています。</p>

意見のテーマ	意見
	<p>今後、新型コロナウイルスの第二波の影響を鑑みて、市のイベント等で使用しなかった予算を福祉の方へ再分配してほしい。このままでは福祉に関する各団体の存続が危ぶまれる。</p>
	<p>感染に対して情報を収集し対策を講じますが、専門家の方に現場を見ていただきアドバイスを受けてたいです。どうしても不安が残るので。</p>
	<p>新型コロナウイルス感染予防対策を当事業所では徹底しておりますが、利用者のプライベートまで管理できないため、休日の外出場所で陽性者が出た場合の対策や、感染リスクが高く通勤ができないため休まれる職員の人員体制の確保が困難になっています。</p>
	<p>新型コロナ感染症が流行してから、すぐに消毒液やマスクなどを送付していただきありがとうございました。事業所でもアルコール消毒液54リットル、マスクを300枚ほどを走り回って何とか用意することができ一安心していました。私どもの事業所では医療従事者の方、介護関係にお務めになられていますお子様が多くご利用になっておられます。私の考え方といたしましては、病気になる方々と向き合われるだけでも相当精神面でも大変であろうかと思ひ、せめてお子様を安心して預けることができ、お仕事に向き合ってくださいませよう、早い時間から開けるようにしてまいりました。お子様たちが安全に過ごしていただけるように、私達が予防対策としてできる限りのことは取り組んでまいりました。3ヶ所のドアや窓を開け換気確保、お子様の安全に配慮するため指導員1名をドア前に配置、1時間ごとのドアノブや器具用具の消毒等々。基本の手洗いやうがい、アルコール消毒、マスク着用に関して、職員はもちろんしっかりとやっておりますが、お子様の中には障害の特性上マスクの着用ができない方もいらっしゃいます。外出時のことも考え、装着できるように色々なことを試みて向き合っていますが、無理強いをすれば相当のストレスが溜まりますので、ほんの何秒間装着するのが現状です。このような状況の中、大阪でも陽性の方が増え続け、管理者としては今まで以上に取り組みを考えていかなければなりません。これからも長く続くであろう状況の中で、以下のことを切にご要望いたします。1. 高機能空調設備の補助（今年度に関しては6月に締め切られているようです）。2. 定期的なPCR検査の実施。お子様たちには家族があり、私たち指導員にも家族があり、高齢者も同居しております。全ての命を守っていくために、ご助力をお願いいたします。</p>
	<p>コロナウイルス拡大防止対策について、まずは一時的にも落ち着きを見せ、次の波が来る予測も立っているとおもいます。つきましては、次の波が来ている気がするのですが、枚方市から事業所に次の対策的なものがメールかなにかで来るのではと思っております。よろしくお願ひいたします。</p>

意見のテーマ	意見
	<p>コロナ禍でマスク、消毒、換気、ビニールカーテンなど考^{かんが}えうる^{よぼうさく}予防策はとっているつもりですが、場所が狭いため距離がとれず密になりがちです。これだけ市中で感染者が出ているので、いつ所内で陽性者が出てもおかしくないと思^{おも}いますが、その際^{さい}は一定期間閉所しなければいけ^りないと理解^{りかい}しています（濃厚接触者の特定、業者による消毒等）。閉所がコロナの終息まで何回も起きれば経営的に大丈夫かなという心配^{しんぱい}があります。</p> <p>この先^{さき}、色々なウイルスが発生してきたときに、ワクチン接種^{せつしゅく}に対する補助^ほ助^{じょ}をお願いします。</p>
障害児施策の充実	<p>私^{わたし}ども障害児の預^{あず}かりはコロナ自粛時^{じしゆくじ}にかなり苦^{くる}勞^{ろう}しました。事業所内^{じぎょうしょない}での3密の対策と子どもたちのストレス解消^{かいしょう}などのため、公園などを利用^{りよう}していましたが、子どもたちがこのような時期^{じき}に集^{あつ}まっていることを良^よく思^{おも}わない方々^{かたがた}（大人、高齢者）から注意^{ちゅうい}を受け、子どもたちも怖^{こわ}がるなどの事^{こと}案^{あん}が発生^{はっせい}しました。今^{こん}後^ごもコロナ時の子ども^{こども}の居場所^{いばしょ}の対^{たい}応^{おう}が必要^{ひつよう}になります^{なり}ますが、小学校^{しょうがっこう}のグラウンドのみの時間別^{じかんべつ}申し込^こみ利用^{りよう}なども難^{むずか}しいこと^{こと}でしょうが、ご配慮^{はいりょ}いただけたらと思^{おも}います。</p> <p>今^{こん}回^{かい}、コロナウイルスのため支援^{しえん}学校^{がっこう}がお休^{やす}みになってしまいました。その際^{さい}、家族^{かぞく}様^{さま}は仕^し事^{ごと}をしていて日中^{にちちゆう}の支^し援^{えん}が困^{こま}るとのこと^{こと}で、障^{しょう}害^{がい}福^{ふく}祉^し室^{しつ}への時間^{じかん}変^{へん}更^{こう}の願^{ねが}いに行^いかれたとのこと^{こと}でしたが、なかなか受^う付^けにも時間^{じかん}がかかり、時間^{じかん}を増^ふやしてもら^{もら}うにも難^{なん}色^{しよく}を示^{しめ}されたとのこと^{こと}でした。緊^{きん}急^{きゅう}事^じ態^{たい}の際^{さい}はもう少^{すこ}し早^{はや}くしてもら^{もら}えないかと思^{おも}います。デイサー^{だい}ビス^{びす}（生^{せい}活^{かつ}介^{かい}護^ご）もお休^{やす}みになってしまい、在^{ざい}宅^{たく}での支^し援^{えん}しかできない中^{なか}でご家^か族^{ぞく}も困^{こま}っておられ^{られ}ました。緊^{きん}急^{きゅう}時^じの際^{さい}というのをもう少^{すこ}しマニユアル^{まにゅある}化^かしておいてほしいです。</p> <p>新^{しん}型^{がた}コ^こロ^ろナ^なウ^うイ^いル^るス^す感^{かん}染^{せん}防^{ぼう}止^しのため、自^じ粛^{しゆく}され^{られ}て^ていた間^{あいだ}に代^{だい}替^{がい}え支^し援^{えん}とし^{して}行^いって^ていたオ^おン^んラ^らイ^いン^んでの報^{ほう}告^{こく}により、これ^これ^れま^まで通^{つう}所^{しょ}利^り用^{りよう}がで^でき^きな^なか^かつ^つた^た方^{かた}の利^り用^{りよう}再^{さい}開^{かい}が^がで^でき^きた^た。コ^こロ^ろナ^なを^をは^はじ^じめ^め、外^{そと}へ出^でる^るこ^こと^とへの不^ふ安^{あん}、不^ふ登^ふ校^{こう}にな^なって^てしま^まっ^つて^ている^る方^{かた}に^に対^{たい}する^す支^し援^{えん}とし^{して}、か^かな^なり^り有^{ゆう}効^{こう}な^なもの^{もの}と思^{おも}われ^れま^ます。緊^{きん}急^{きゅう}事^じ態^{たい}宣^{せん}言^{げん}の有^う無^むに^に関^かわ^わら^らず^ず、ひ^ひと^とつ^つの^の療^{りょう}育^{いく}方^{ほう}法^{ぽう}とし^{して}認^めて^てい^いっ^つて^てい^いた^ただ^だき^きたい^{たい}です。</p>
生涯を通じて安心できるサービスの確保と提供	<p>グ^ぐル^るー^ープ^ぷホ^ほー^ーム^むは^は何^{なに}せ^せ、人^{じん}材^{ざい}不^ぶ足^{そく}が^が通^{つう}年^{ねん}起^{おこ}っ^つて^てい^いま^ます。求^{きゅう}人^{じん}を^をか^かけて^ても^も来^きない^{ない}ため^{ため}、利^り用^{りよう}日^{にち}数^{すう}を^を減^へら^らし^して^てもら^{もら}わ^わざ^ざる^るを^をえ^えま^ませ^せん。重^{じゆう}度^どの^の利^り用^{りよう}者^{しゃ}は^は親^{おや}兄^{あや}弟^{てい}の^の支^さえ^えな^なし^しで^では^は運^{うん}営^{えい}で^でき^きない^{ない}のが^が実^{じつ}情^{じよう}です。365日^{にち}な^なん^んて^て夢^{ゆめ}です。</p> <p>日^{にち}中^{ちゆう}サ^さー^ービス^{びす}支^し援^{えん}型^{がた}も^もで^でき^きま^まし^した^たが、日^{にち}中^{ちゆう}に^に配^{はい}置^{ちゆう}で^でき^きる^るぐ^ぐら^らい^い人^{じん}材^{ざい}が^がい^いる^るの^のら^らば^ば、夜^や間^{かん}に^に回^{まわ}し^したい^{たい}です。70歳^{さい}過^かぎ^ぎの^の世^せ話^わ人^{にん}が^が夜^や間^{かん}何^{なん}度^ども^もお^おむ^むつ^つ交^{こう}換^{かん}、体^{たい}位^い交^{こう}換^{かん}、不^ふ眠^{みん}への^の支^し援^{えん}、パ^ぱニ^にック^くや^や強^{きやう}度^ど行^{こう}動^{どう}障^{しょう}害^{がい}への^の対^{たい}応^{おう}等^{とう}、本^{ほん}当^{とう}に^に尽^{じん}力^{りよく}を^をつ^つく^くし^して^てい^いま^ます。枚^{まい}方^{ほう}市^しには^は受^うけ^け皿^{めい}が^がな^なく、グ^ぐル^るー^ープ^ぷホ^ほー^ーム^むで^で受^うけ^け止^とめ^める^るに^には^は限^{げん}界^{かい}です。小^{しょう}規^き模^ぼで^でい^いい^いの^ので^で入^{にゅう}所^{しょ}施^せ設^{せつ}を^をつ^つく^くって^てほ^ほしい^いです。グ^ぐル^るー^ープ^ぷホ^ほー^ーム^むでも^も20床^{とく}を^を認^めて^てほ^ほしい^いです。</p>

意見のテーマ	意見
	<p>ヘルパーが少なく、仕事の依頼が来ても受けられません。ヘルパーは誰でも良いというわけではなく、人格、キャリア（資格）、人件費など、仕事を引き受けるにしても問題があります。ハローワークに登録しても、どういう人間にあたるかわからないので不安です（実際、紹介してもらったことはありませんが）。行政で研修等を行って中間紹介サービスはできないのでしょうか？利用者様もヘルパーの資質が一番不安なところだと思います。</p>
	<p>事業所へ専門知識を持ったサポートをお願いしたい。</p>
	<p>ニーズが多いのですが、短期入所や移動支援（特に土日）の受け入れ先を探すのに苦労しております（行動援護含む）。病院以外で医療の相談ができる場所があればと思います。</p>
	<p>重度訪問介護の時間が必要な人についていません。</p>
	<p>慢性的な人手不足で新たなサービス提供依頼に対応できないケースが多くなっています。事業所単位では解決できないので、行政の支援をお願いしたいです。通学支援のニーズは高いのですが、ヘルパー不足に加え、早朝や片道、場合によっては市外などのことから、そのニーズにこたえられません。通学支援は移動支援より必要性が高いと考えられますから、報酬額の大幅な引き上げにより、環境を整えることが可能と考えますがいかがでしょうか。</p>
	<p>職員の確保が難しい（特に男性）。給与面で課題があると思われるが、法人として前歴還算等の規程がないため、経験のある転職者等の採用が難しいため、転職者等への補助等があればありがたい。個々の利用者に合わせた研修（具体的な事例）が少なく思うため、実施してほしい。</p>
	<p>人材が不足しており、サービスを継続できなくなった場合、他の事業所を紹介するため探すが、どの事業所も人材不足のため断られることが多い。本当にサービスを継続できなくなったときはどうするのか悩んでいます。</p>
	<p>GHの人員確保のための施策を検討してほしい。GHの立地条件の規制緩和（枚方モデル）。</p>

意見のテーマ	意見
	<p>生活施設(グループホーム)については、枚方市の福祉計画においても拡充を自指すものとなっていますが、現状では支援者(パート世話人)の確保が非常に困難であり大変厳しい運営を迫られています。今後も需要が高まる中、ホームの建設が各法人または株式会社で進められていると思います。そんな中、株式会社のホームでは軽度の方のみを受け入れ、世話人の配置をなるべく少なく運営をしているところもあると聞くこともあります。枚方市全体の事業所で、枚方市の障害者で概ね支援の必要な生活が営まれる方を受け止めるとしたら、どのくらいのホームの数、支援者が必要なのかをあげ、それを分担してみてもいいと思います。ホームの数が増えれば支援者も必要とされます。入所施設についても一定数必要なのではと検討されます。</p>
	<p>視覚障害の方が、外出を強く希望されており、50時間で足りないといつも話されています。通院を何ヶ所か行かれていますので、同行援護の時間を増やしてほしいと常に希望されています。遠方になると往復で3時間かかります。</p>
	<p>1. 移動支援の報酬が低く、ガイドの労働改善がしにくい。せめて@2,000にはしてほしい。他市との差が大きい。夜朝手当をつけてほしい。ガイド内容に困ることがある。難波のパチンコ屋に行きたい(コロナ時)等、こちらではお断りしました。ガイドの身体介護は加算をつけてほしい。2. 通院時前後の買い物や飲食等の動向を臨機応変に対応していただければ、生活の質も上がると思います。3. ヘルパーの高齢化で長時間のガイドが難しい状態が出ており、枚方市として育成を進めていただきたいと思います。</p>
	<p>この数年、職員を募集しても中々決まらない状況が続いている。当然、事業所の課題ではあるのだが、他の事業所でもよく聞くことである。問7にもあったが「人材確保のための支援や情報提供」について、一緒に考えていただけるとありがたい。</p>
	<p>親が緊急で入院するときの入所や通所のサービスの強化(相談支援を活用して密に連携していかないといけない)。</p>
	<p>外出に行きたいけれど、どこの事業所も「ガイドヘルパーが不足して」と断られる利用者が多いと思います。ガイドヘルパーを増やしていく方法を考えていただくのと同時に、ヘルパーが安定した仕事を組んでいけるよう、それだけ多くの利用したい方々がいる需要の声を供給側に届けて、充実していただける仕組みを作って進めてほしいと思います。</p>

意見のテーマ	意見
	<p>施策：福祉の人材確保に関する件について、市としても積極的に取り組んでほしい。グループホーム事業所が増えてきているが、そのサービスの中身や基本的な利用者に対してのサービスの方針など不安定になってきているのではないかと感じている。サービスのつなぎ合わせではなく、トータルな生活を支える意識を事業所または市も含めて持ちながら連携しサービスの向上を目指して行くべきだと思います。</p>
	<p><就労継続支援B型事業所> ○利用人数により変動があり、安定運営が難しい。例えば、定員人数で運営していても他界されたり退所されるなどで、予測に反して人数減する場合に経費は変わらず必要で、家賃や人件費など変化がないのに、サービス費のみが減額され、非常に安定運営を阻害する。安定運営から職員配置にも寄与されるような仕組みがあればよいと思う。○コロナ禍もあり、販売やイベント等が全く無く、売上減はもちろん、障害当事者が活動する内容の減少にもつながり、非常に厳しい状況。枚方市において、行政として積極的に就労継続支援事業所の商品の買い上げや販売への協力を強く希望したい。</p> <p><地域活動支援センター（相談支援センター）> ○広報による情報の周知。知らない方も多く広報により広く周知。○枚方市役所職員の研修として、地域活動支援センター（相談支援センター）の実習活用してもらい、障害者の現状把握に役立て理解促進につなげる。</p> <p><障害者施策> ○タクシー券の月2枚は少なく、通院で終了してしまう方も多く増量を希望します。また、申請月により減少するのではなく、年間枚数発行すべきだと思います。○バス料金では精神障害者の割引適用を枚方市独自で行ってほしい。○何れも障害者の余暇や外出する機会の確保のためにも必要と感じます。また、障害者の多くが年金のみという方も多く、厳しい状態の方も多いため、支援策が必要だと思います。○自立生活の宿泊体験ルームの確保。既存の施設の障害者施設や、短期入所している所などで、宿泊体験したり宿泊できるホテル等の利用補助など、自立生活に向けた宿泊体験ルームがあれば、自立する一歩として活用しやすいのではないかと考える。○ネット申請の活用。必要な書類の簡素化、障害者当事者や高齢な保護者にも分かりやすくしてほしい。○短期入所。受け入れする事業所が少ない。また、重度の受け入れ可能な所も少ない。○就労関係。障害雇用枠にて就労されている方が、枚方市障害者就業・生活支援センターにつながっていない方に対して、会社（本人）への支援策。フォローアップ制度。安定就労や継続雇用するためにも必要。</p>

意見のテーマ	意見
就労支援の充実と 社会参加の促進	新型コロナウイルス感染で第2波の心配があるため、8月以降も在宅支援を希望されている人がいます。継続支援ができるようお願いいたします。就労移行では就労支援が厳しい状況にあります。
	他市に比べて優先調達に積極的ではないので、もっと市として優先調達に力を入れてほしい。
	手話の研修及び聴覚障害者の背景等の研修をしてほしい。特に手話の研修に関しては定期的に行ってほしい。聴覚障害者から手話を覚えてほしいとの要望があるが、現在手話だけでコミュニケーションを取ることが難しく、口話、筆談、身振り手振り等で対応している。就労支援事業に余裕があるときには、全員で手話の練習にも取り組んでいるが、聴覚障害者の要望に応えることができておらず、今後の対策も難しい。受注先の会社の機械化及び新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、就労支援事業収入が激減しており、工賃が下がることへの不安を払拭しきれないでいる。新型コロナウイルス感染拡大による影響の先行きが見えず対策も難しい。
	新型コロナウイルスによる工賃の減少が著しく起きた場合や、今後も感染が拡大し、現利用者や新規利用者の利用控えがこれ以上進んだ場合の事業収入の減少、それに伴う運営への影響。実際に感染者が出た場合の対応、感染防止のための物品など、常に大きな不安がある。
	現在、就労継続支援B型と生活介護の併用を行うことができないが、実際にどちらも必要な利用者様の声を多く聞きます。となりの交野市では併用は可能で、実際に併用し、弊社の事業所を使われている方もおられます。手続き上、大変だと思いますが、利用者様がより福祉サービスを使いやすくなるのが、市にとっても良いことだと思う。何卒、よろしく願いいたします。
	当作業所は、親元から離れた生活をされている方が9名中5名おられます。今回のコロナのときにあっても、その方たちの生活は続くため、支援が必要なので、作業所を開け対応しました。マスクなどの衛生用品をかうにしても、情報を得るといのが当事者の方一人では難しく、自作したりもしました。給付金に関しても一人では申請などが難しいため対応しました。当事者の方でもわかりやすいように配慮があればと思います。例えば、親元から離れた生活をされている人への支援などで対応している当事者への加算補助金などがあったりすれば、支援も増えたり地域で暮らしていける障害当事者の方は増えていくのではないかと思います。

意見のテーマ	意見
<p>身近でわかりやすい 相談窓口の充実と きめ細かな情報 提供</p>	<p>利用者確保のための情報提供や紹介をしていただけたら嬉しい。福祉サービス の不足や要望等発信していただけたら、単体では対応できなくても 支援の一助になることは増えると思います。また法人ファーストや事業者、 職員ファーストな考え方も多い中で、利用者ファーストな考えと競合を するのは大変だと思いますが、協力できる部分だけでも助け合える 地域共育的な環境が生まれると、市の福祉の質が上がると思います。</p>
	<p>就業生活支援センターとの接点がない。電話もつながらず対応が遅くなる。 相談支援専門員が支援している利用者が少なく、相談支援事業所（相談 支援専門員）との接点がなく、共に仕事ができない。</p>
	<p>相談支援事業所や児童発達支援事業所との情報交換の場があれば良いと 思います。よろしくお願いします。</p>
	<p>各情報を得るため、ホームページを確認するようになっておりますが、何か 重要な事柄が生じた折は見逃しが無いよう、メールでの促しをいただけ るとありがたいです。</p>
	<p>制度、施策の広報、説明等、力を入れてほしい。</p>
	<p>いろいろなことを含めて互いに協力できるようになればと思う。</p>
	<p>対利用者で事業所が困っていても、役所の相談窓口がなく担当者が不在。 窓口当番等で連絡が取れない。緊急時に困るので改善してほしい。</p>
	<p>問い合わせ先などホームページに載せてほしい（福祉協議会が移転など）。</p>
	<p>指標該当の判定の適正化。計画相談を全利用者につけ、情報交換がよりで きるようにしてほしい。</p>
	<p>福祉室を担当性にするのは良いのですが、全体的なサービスについての 質問（例えば今回のコロナでの在宅支援サービスの方法について）を、担当 でないと答えられないというのは市として違うと思う。福祉室職員全員 把握すべき内容と思う。</p>
	<p>困りの利用者様がいましたらご相談させてください。よろしくお願いた します。</p>
	<p>担当者様よりの折返しの電話がなく、状況報告、提供の相談に時間がか かる。</p>
	<p>施策はうまくいっているのでしょうか。施策に対し姿や効果をまるで実感 できない思いです。書類だけ見て作られる施策、現場を見ない議員や職員。 職員によって変わる対応や返答に悩まされます。コロナ禍で現場にいる 従事者、時短日延できる職員。簡易な方法で従事者を厚遇できる方法を盛 り込んでください。下支えしている方はボランティアではありません。 従事者のボランティア力に頼らざるを得ない状況が暴言、虐待の根幹で す。</p>

意見のテーマ	意見
	<p>今は障害、高齢、子育て、教育、自治などが統合された支援の形が考えられていると思いますが、そのために何が必要なのか、新しく必要となるものなどを、関係する人々で話し合える場に、現場で働くスタッフも参加できる機会がほしいです。</p>
	<p>障害福祉担当の職員が、事務仕事が多忙なせいと思われるが、なかなか現場を承知していただけていない気がする。相談支援センター等に委託することが悪いとは思わないが、現場から遠ざかると、本当に必要なニーズに目がいかなくなってしまうように感じる。枚方市として、福祉職採用を始めて相当たつが、未だに福祉職としての人材育成が確立されていない気がする。専門職としての技量と思想と倫理の基準を枚方市として作りつけていくことが必要。福祉職としての管理職（課長や部長）を作り、その人達を中心に人材育成を考えてほしい。</p>
	<p>相談支援事業所との契約をさせておらずセルフプランの方が多い。そのため、保護者の方がそれぞれの期間に報告しているケースが多くしんどくなっている。その方たちは相談支援のことを知らない方がほとんどであるため、受給者証の申請のときには情報提供しているのか知りたい。今後のご利用者にとって、相談支援とつながることで、受けられるサービスなどを知るチャンスだと思うので、当事業所としては、相談支援につなげていきたい気持ちはあるが、つながりがないため、相談支援の方々とつながる機会がほしいです。</p>
	<p>各事業所への情報提供が市からいただくことが少ないように感じます。特に今年度は集団指導もなく、たくさんの事業者が適正なサービスを提供できているのか、知らずに不適切な対応を行っているのではないかと不安もあります。定期的に適正なサービス提供ができるよう、枚方市からも情報発信していただけると助かります。</p>
	<p>もう少し横のつながりができ、話ができるようになったらと思います。</p>
	<p>障がい福祉サービスを分かりやすく一覧表になっているものがあると、保護者の方へ提案しやすくなる。</p>
	<p>「福祉のてびき」を配布されているのは、利用者様も事業所も分かりやすくて良く利用しているので、今後も継続してほしいです。</p>
その他	<p>中核市になり、市独自の施策や支援を、よりニーズに合わせて取り組むことが必要だと思う。柔軟、迅速、丁寧到他市を牽引するような市であってほしい。コロナウイルスへの対策は未知なものとの戦いの中、いろいろご尽力いただいているように思う。前例のない中、今後も現場で最前線を担う私達にぜひ後押しになるような助けを求めたい。特に人的な部分は小さい事業所ではまかなえない時がやってくるように思う。ぜひ、市として組織を作っていただけると心強い。</p>

意見のテーマ	意見
	<p>コロナ発生から、市、行政、国のアンケートの量が多すぎる。現状の把握が必要なのは理解しているが、現場は通常時よりも作業が増えていることをご理解いただきたい。</p>
	<p>受給者証の発行更新について、満18歳になった以降の更新で、受給者証の保護者欄にはご本人の氏名が明記されています。満18歳になった時点でこのように明記しますの説明もなく郵送され、保護者様は困惑しております。今後、郵送時に書面での説明でも良いのでお願いいたします。</p>
	<p>枚方市の福祉の迅速さに満足しています。</p>
	<p>十分満足しています。</p>

第5章

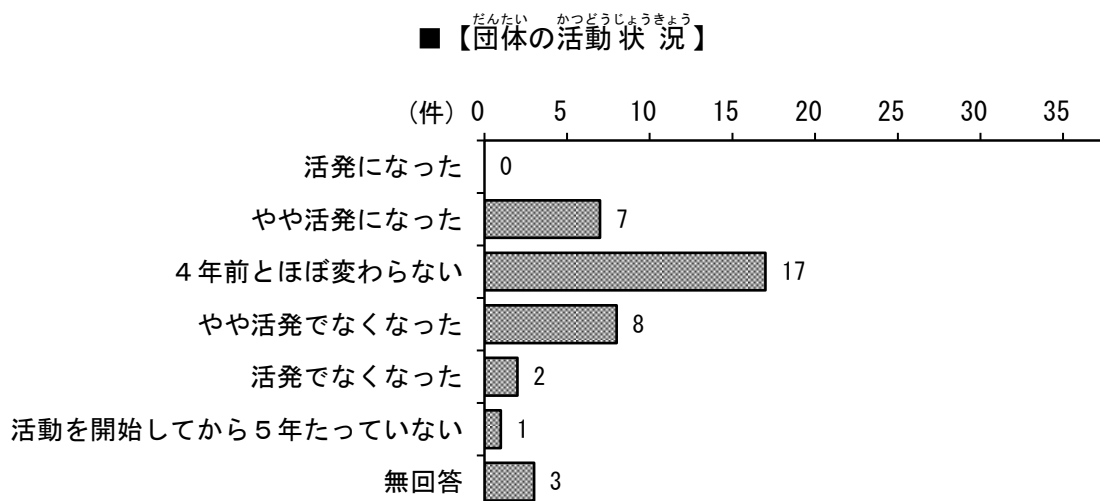
「障害者団体」調査結果

1 自由意見

(1) 団体の活動状況

4年前と比べて、貴団体の活動状況はどのように変わりましたか
(該当する番号1つに○)

団体の活動状況を見ると、「4年前とほぼ変わらない」が17件と最も多く、次いで、「やや活発でなくなった」が8件、「やや活発になった」が7件となっています。「活発になった」との回答は0件でした。



(2) 施策基本目標への意見

これら6つの施策基本目標それぞれについて、貴団体で取り組んでおられることや市で取り組むべき課題等、ご意見をお書きください。
(特にご意見がない項目は空欄のままで結構です)

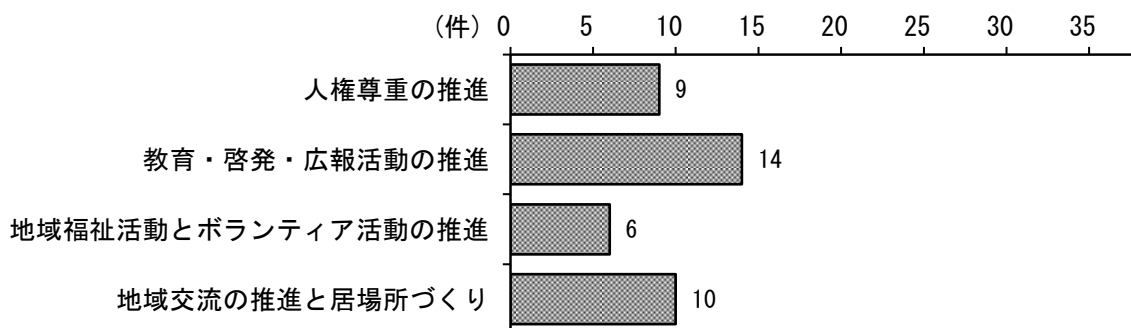
また、6つの施策基本目標それぞれの囲みの中に、計画記載の施策を〈選択肢〉として、いずれも大事な施策ですが、特に取り組むべき施策はどれか、該当する番号に○をしてください。

① 市民啓発及び地域との交流の推進

市民啓発及び地域との交流の推進において、特に取り組むべき施策として、「教育・啓発・広報活動の推進」が14件と最も多く、次いで、「地域交流の推進と居場所づくり」が10件となっています。

主な意見としては、優生思想的な背景のある事件への危惧や、地域との交流の活性化による理解の推進などについて複数の意見があげられています。

■【特に取り組むべき施策：市民啓発及び地域との交流の推進】



主な意見：市民啓発及び地域との交流の推進	
1年に一度のわりで市民参加の講演会を開催している。主に義務教育のあと定型発達児との交流の場（教育の場）が減ることへの危惧を感じる市民も多く、普通高校への道、コミュニケーション向上の道についての情報提供もしている。	
同じ障害を持つ人が近所にいなく、家にこもりがちになる。近くに障害を持っている人に理解をもつ人がいれば、一緒に行動を共にしたい。	
高次脳機能障がいの一一般の認知度はまだ低く、啓発広報活動をどう行うかを模索中です。第一歩として、社協からアドバイスを受けた校区福祉委員、民生委員の皆様への出前講座を計画したい。孤立化を防ぐために、いつでも立ち寄れる居場所づくりの検討。	
身体が不自由である難病であるため、駅に近い場所に交流会等の居場所を確保してほしい。	

<p style="text-align: center;">おも いけん しみんけいはつおよ ちいき こうりゅう すいしん 主な意見：市民啓発及び地域との交流の推進</p> <p>ぜんたいてき じんけんそんちよう ちいき とき たいりつ ふくししせつ しやうがいしよこじん はいじよ うご 全体的な人権尊重と地域のニーズは時に対立し、福祉施設や障害者個人の排除に動きやすい。繰 り返し教育啓発を続けることが必要。地域への働きかけは当然必要だが簡単ではない。当会でも 理事の1人にコミュニティの会長になってもらっていることと、地域ふれあいまつりに校区のコ ミュニティとして参加してもらっている程度。</p> <p>○団体として取り組んでいること 主に発達障害のお子さんをもつ保護者向けに勉強会を年数回、また年に一回程度一般の方にも 参加可能な発達障害の理解を深めるための講演会を開催し、啓発活動を行っています。</p> <p>○市への要望、希望 発達障害について学齢期の子どもたちが「学校で楽しく学ぶ機会」を増やしてほしい。小、中学校 で車イス体験などの授業がありますが、発達障害の体験学習はありません。</p> <p>しゃかい たいして、じんぞうびやう じつじよう ぞうきいしよく たいりかい にんしき もと ひらかた 社会に対して、腎臓病の実情と臓器移植について理解と認識を求めよう「枚方ふれあい・フェ スティバル」等に参加して、臓器移植普及推進キャンペーンを実施。大腎協（全腎協）を通じて 腎臓病の予防対策等の啓発活動。内部障害者は見た目では分かりづらい障害者です。「ヘルプカ ード」利用等で啓発していますが、一般の方に理解していただけるよう啓発活動に取り組んでほし い。</p> <p>しやうがい りかい きやうせい じつげん だいしよさまざま きかい にちじようてき も ひつよう かんが 障害への理解や共生の実現には、大小様々な機会を日常的に持つことが必要と考えます。もっ と知ってもらうことで、親として安心できる4項（地域交流の推進と居場所づくり）につながって ほしいと思います。</p> <p>きこえにくい じんこうないじ ぼちやうきしやう じやうけんしだい きこえることもという状態を、なかなか 聞こえにくい（人工内耳や補聴器使用で条件次第で聞こえることも）という状態を、なかなか一般 の人に理解してもらいにくい。普通に話せるため、耳元で大声を出されても聞き取れない。読み取 れない。そういう聞こえの障害を啓発してほしい。</p> <p>しえんがっこう いく い ちいき すこ さび おも 支援学校に行っているのですが、地域とのつながりがなく少し寂しいと思う。</p> <p>ひつよう じゆわつうやくしや よ たいせい ながねんしりつびやういん しゆわつうやく せつち しようぼう 必要なときに手話通訳者を呼べる体制になっていない。長年市立病院に手話通訳の設置を要望し ているが、人権意識の欠如と言わざるを得ない。</p> <p>ちくこうりゅう きぼう からだ じゆう うご かいいん ちいき ひとたち 地区交流を希望しているが、体が自由に動けない会員もいるため、地域の人達でボランティアで 応援してもらい参加できればと思います。</p> <p>ほんかい ほけんじよ いるいよう う あ じやうほうこうかん さげがい なや ひと ほんかい しやうかいおよ 受け入れ 本会と保健所、医療との打ち合わせや情報交換。酒害に悩む人の本会への紹介及び受け入れ。</p> <p>ねん まえ ひらかたし きんりん しちやうそん くら ふくし じゆうじつ しやうがい じどう てんこう 40年ほど前の枚方市は近隣の市町村に比べ福祉が充実していて、障害のある児童は転校してき た。それが年を経過する間に普通になってしまった。他市が追いつき枚方はそのまま。進歩なし。 障害者に市内で会わない。グループで歩いているのを見ない。食堂に入っても見かけない。</p> <p>かながわけん つく い えん さいきん あんらくしじけん また、いじめ問題の数々から考えて、人の命 神奈川県津久井やまゆり園や最近の安楽死事件。また、いじめ問題の数々から考えて、人の命 を軽視する風潮がはなはだしくなってきたと思います。これはひと々の意識の問題もあるかも知れませ んが、誰が有用で誰が無用か。生産性のある人間だけが価値があるのか。そうではないという教育 や啓発を大きな視点をもってすることが大切だと思います。障害者も高齢者もいずれは皆そうな っていくでしょうし、また、彼らの上に支給されるお金は社会へ還元されるものであって、彼らも 社会経済の中の一員なのでから。</p> <p>ゆうせいしやう つよ きんねん じゆうよう もんたい かんが むいしき うえ めせん 優生思想が強まっている近年、重要な問題と考えます。無意識のうちの「上から目線」がないか。 ひとひとの自己覚知を促す啓発を希望します。</p>
--

おも いけん しみんけいはつおよ ちいき こうりゅう すいしん
 主な意見：市民啓発及び地域との交流の推進

すべ ひつよう おも ちいき ふくしいいんかい かつどう こうれいしや ようじ たいしやう しょうがい
 全て必要と思います。地域で福祉委員会の活動をしていましたが、高齢者と幼児が対象で、障害
 のある人への対応はありません。知識のある人もいませんし、対応する力もありません。何もで
 きないと思います。

きょういく つう しょうがい こ ちゆうしん ちいき きまざま たちば ひと ちむ いっしょ かつどう
 教育を通じて障害のある子どもを中心に、地域で様々な立場の人たちに向けて一緒に活動した
 り知ってもらうために、集会やホームページを開いて啓発、交流の活動をしています。6つの施策
 はどれも大事ですが、これを基盤として力を入れることによっていずれの施策にもつながってい
 き、広がると思われま。

ちいき おや こうりゅう かつどうとう ともだちどうし たの ばしよ
 地域で親なしで交流、レクリエーション活動等、友達同士で楽しめる場所づくりができるように
 していきたい。

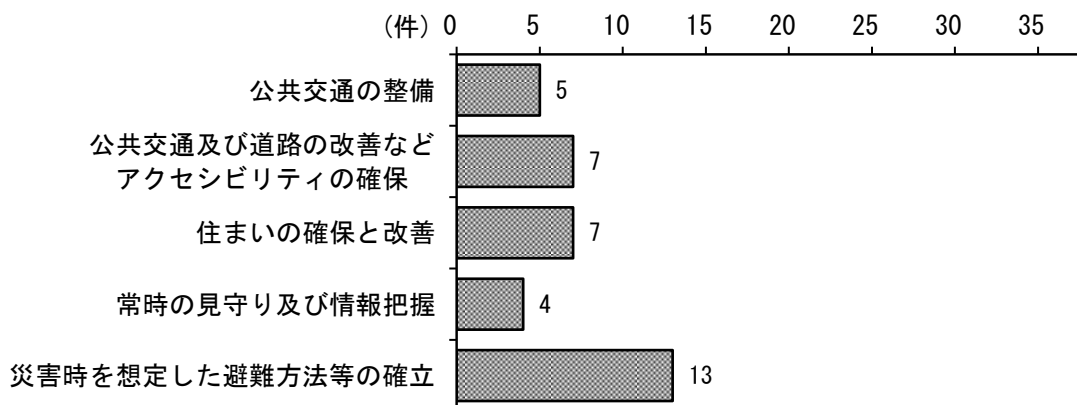
じぎやう じぎやう たい ぎやうせい たい きかん れんけい しょうがいしや かんれん けいはつかつどう じんざいいくせいとう おこな
 事業としては、他の行政や他の機関と連携し、障害者に関連する啓発活動や人材育成等を行って
 いる。障害者に拘わらず、人権に関する課題は多様化しており、かつ混在しており、それに伴っ
 た取組が求められると考える。一つ例をあげれば、災害の課題をみれば、避難訓練等への参加機会
 が少なく、障害や高齢者への理解促進の取組が求められる。また、地域におけるグループホーム
 の設置反対等、地域住民の取組は継続な取組が必要。

② 障害者が安心できるまちづくり

障害者が安心できるまちづくりにおいて、特に取り組むべき施策として、「災害時を想定した避難方法等の確立」が13件と最も多く、次いで、「公共交通及び道路の改善などアクセシビリティの確保」「住まいの確保と改善」がともに7件となっています。

主な意見としては、災害時の避難の事前準備の必要性や、グループホームの運営方針などについて複数の意見があげられています。

■【特に取り組むべき施策：障害者が安心できるまちづくり】



主な意見：障害者が安心できるまちづくり	
道路に段差があると、シルバーカーを押した時にスムーズに押しきれず、つかかって危険を伴うことがある。できるだけ避けるように通っているが、どうしてもない場所もあり不便をする。	
こだわりを持つ人がいるため、いつも不安に思っている。体育館への避難はできない人がいると思う。	
災害時、避難は困難が予測される。避難所はムリ。取り残される心配があります。	
枚方市駅の構内に大きいエレベーターを確保してほしい。今の分は端の方だし、中央口に近い所に大きな車いすが乗れるようにしてほしい。	
家族会の高齢化などにより災害時の避難等は困難になってきています。重い障害の人も多く、とても重要な項目です。どんな人にも安心して避難できる場所の確保をお願いします。	
市全体的にバリアフリー化を進めてほしい。	
住む場所の確保はいまだに大事。当会でも長期入院の障害者の退院に向けた働きかけを続けており、その経過の中でグループホームを持つに至っている。	

おも いけん しょうがいしゃ あんしん
主な意見：障害者が安心できるまちづくり

○市への要望、希望

住まいや障害者の暮らしに関して。障害者が支援を受けながら一人暮らしをする場合の住まいおよび、支援状況を情報提供していただきたいです。併せて施設入所待機人数が多数と聞いていますが、グループホームや施設等の供給量と需要人数はどれくらいなのか等の情報も提供していただきたいです。

※災害時に関して

災害が発生し避難した時、支援や配慮を受けるための手続きを事前に知りたいです。枚方市障害者避難マニュアル、同居する障害者家族が災害により入院、死亡した場合のマニュアル等を事前に提供してほしいです。事前に準備できることがあれば、本人だけでなく支援者の負担も軽減できると思います。

災害時の対応等について学習会を開催し、患者及び家族とともに病院スタッフも含め日頃から緊急時対応ができるよう啓発活動を実施。また、問題点なども検討し要望活動。大腎協を通じて「大規模災害発生時における医療の確保と暮らしに関わる要望書」及び「通院支援が必要な透析患者について、行政において施策を願う」要望を年1回枚方市長宛に提出しています。週3回通院が必要な私達にとって、交通機関による通院支援をご検討していただきたいです。災害時における避難方法や透析の確保。病状に伴う食事や不安事項への対応を切に願います。

知的障害者にとっての住まいの選択肢がまだまだ少なく、個々が望み生き生きと人生を送るための住み方が実現できるような福祉サービスをお願いします。そのためには常時の見守りへの人員拡充も必要だと思っています。

難聴者の一人暮らしの人に、災害のときにお知らせや広報の方法をきちんと決めておいたほうが良い。

精神障害者はバスなどの割引がない。

外出先から手話通訳を依頼する手段がない。

会員の皆様は高齢化で運動機能が低下しています。熊本県で大雨による被害を受け多くの死亡者が出ましたが、この場合、国の災害情報に従うのか悩んでいます。月1回の例会で説明をしていただければ助かります。

気軽に杖をついている人や歩行車を押している人が、バスの乗降ができていない。誰も手伝わない。障害を持っているものがバスを2～3分停めると5分以上停めていたのではと汗をかく。運転手さんを含めた人々の理解の問題。障害者は平気で乗っていない。他人の目を気にしてさっさとやりたい。勇気を出して公共交通を使いましょう。時間がかかるとやっぱり気になる。

土日にグループホームにすることができなくて、大きな荷物を持ってあちこち歩いている方を見ると辛くてなりません。帰る家庭がある方はいいですが、ご家族のいらっしゃる方、ガイドヘルパーさんと1日つぶす方法など、やはりおかしいと思います。自分の部屋（グループホーム）があるのに、そこでゆっくりとできないなんて、これが人間らしい生活と言えるのでしょうか。

大災害が予測される昨今、避難方法だけでなく、障害特性からこだわりがあったり、神経過敏であったり常動行動等々、また、車イス対応等地域の避難場所では過ごせない障害者、高齢者への対策が必要です。

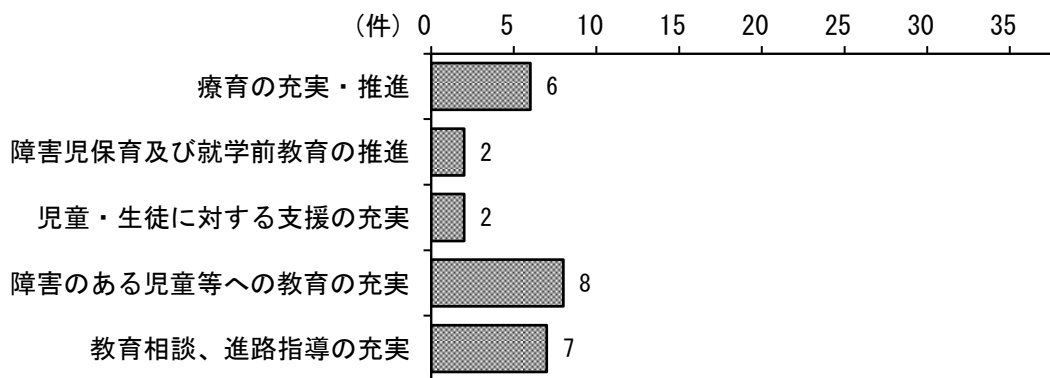
<p>おも いけん しょうがいしゃ あんしん 主な意見：障害者が安心してできるまちづくり</p>
<p>しょうがいしゃほんにん きぼう せいかつ ほしょう かんきょう との ひつよう ひと しえん 障害者本人の希望する生活を保障する環境を整える必要があります。そのために人と支援のための保障が必要と思います。安心して避難できる場所がほしい。</p>
<p>じょうほう かの 情報のバリアフリー化。</p>
<p>ハード面の方ではあまり取り組んでいませんが、行動にもつながる気持ちの面でのバリアフリー化については学校現場において要望したりしています。</p>
<p>ひとりで 公共交通を利用して安心して送り出せる環境整備をお願いしたい。</p>
<p>枚方市駅周辺のバリアフリー経路の整備。車イスが利用できるエレベーター設置。京阪鉄道ホームの転落防止柵の設置。道路の段差の解消。災害時、要支援者の避難。各部署が責任を持ち、医療的ケアの必要な高齢者から障害児、者への対応を。災害医療対策議会の中で福祉専門家が協力し連携を取り、密に避難計画を立て、福祉と防災の一体化を図り環境を整える。</p>
<p>電車の駅舎等のバリアフリー化などは一定進んではいるが、最近では交通バリアフリー法の改正等もあり、移動導線の見直し、エレベーターの拡幅や複数化、ホームドアの設置等、見直す点は多々ある。また、昨今新幹線には複数の車イススペースの設置が義務化されており、在来線車両の改善も計画的に行っていくべきだと考える。また、バス乗車に関しては、バス停のバリアフリー化等の取組が必要。それに関連し、歩道の拡幅や段差解消や無線電柱化、きめ細かい現状把握と改善が求められる。また、一次避難所である、学校のバリアフリー化はインクルージョン教育等も合わせて早急に行われる必要がある。</p>

③ 障害児施策の充実

障害児施策の充実において、特に取り組むべき施策として、「障害のある児童等への教育の充実」が8件と最も多く、次いで、「教育相談、進路指導の充実」が7件となっています。

主な意見としては、切れ目のない支援などについて複数の意見があげられています。

■【特に取り組むべき施策：障害児施策の充実】



主な意見：障害児施策の充実
義務教育終了後については、保護者の心配を拭えるような熱心な進路指導がされているかどうかは疑問です。成人した後も他地域へ行く可能性は低く、一生この枚方で暮らすことが想像できる人たちへ、もっと親身なフォローがいらいます。
枚方支援学校では今年から過密過大のため、高等部になると枚方の4地域の中学校区の生徒が交野支援学校四條畷校に通学しています。北河内地域に支援学校を新設して、枚方に住んでいるのに他市の支援学校に行くという悲しいことはやめて下さるよう府に要望してください。
個々の障害児に対する本人の状態にあった療育も必要だが、できるだけ多様な環境の中で障害児がそうでない生徒と共に成長すること。そのための手厚いサポートが必要と考える。不登校の子どもに対する働きかけと、その背景にある問題の見極めも大事な課題。同調圧力の強い日本の社会や学校の流れから違っていても、生きやすい社会とすることが重要だと思う。
医ケア児への対応事業所増加。支援学校卒業後の進路充实在が求められる。

おも いけん しょうがいじしやく じゅうじつ
主な意見：障害児施策の充実

○団体として取り組んでいること

毎年発達障害児の進路に関する情報交換会を行っています。進路に関することは障害の可能性を指摘されたときから、高校、大学まで継続して保護者の関心が高い。

○市への希望、要望

障害児相談支援を充実させていただきたい。支援学校から相談支援の利用を促されたが、相談支援側は現状では新規受け入れは難しいとのこと。障害児相談支援を提供する事業所の増加、受け入れ拡充の手立てをお願いしたいです。障害の診断を受けたばかりの保護者にとっては特に、セルフプランはかなり難しいと思います。

※学校教育に関して

学校側に児童が使える福祉サービスに対する知識を持ってもらい、福祉サービスを使いたい児童に対し、協力、連携をとるように周知徹底してほしいです。学校では、支援授業でも交流学級でもできないことをできるように「指導」することが基準で、障害特性によりハードルが高いことまで、少しでもできるように「指導」していて「支援」という視点が抜け落ちているように感じる。「できそうなこと」を「支援」し、「できないこと」は介助員を配置して支援するような教育体制を構築していただきたい。学校現場でも必要な支援の量に応じて介助員をつけたり、支援級の利用時間を決めてほしい。身体障害だけでなく、多動のお子さん等も介助員は必要だと思ひますし、支援学級利用時間も個々の障害状況に合わせて頂かないと、子ども本人がしんどい思いをすることになると思ひます。学校側で作成される個別支援計画、教育支援計画は保護者の要望等を聞いたうえで作成されていると思ひますが、どのような目標をもってどう支援していくのか等を保護者、福祉、教育の3者で共有できるような環境にしていきたいと思います。

※障害のある不登校児に対する教育、療育の充実

障害のある不登校児の居場所として、学校登校時間でも積極的に「放課後等デイサービス」「移動支援」等が利用できるようにしてほしいです。また、在宅支援なども検討していただきたい。障害のある不登校児に限らないが希望者には在宅にてオンライン授業が受けられるなど、学習する機会を作っていただきたい。

障害児者との関わりは、教育、療育、就学前、学童期等で分けることなく、一貫性のあるつながった支援が必要だと思ひます。また、教育現場では先生の専門性にかなりの差があることを感じました。関わってくださる先生で積み重ねたことが一瞬にして崩れないよう、一人ひとりに応じた指導を様々な障害児教育、療育の学びからお願いしたいです。

放課後等デイサービスは本当に助かっている。

障害児を持った親に対する教育や支援が必要（家庭環境の重要性）。障害児教育にあたっては、その児童の特性や特技を見極め、引き出し、伸ばすという視点が特に重要。年齢や障害の程度に応じて、義務や責任、感謝、社会貢献等の意識を醸成することも必要。

一番大切なことは、その子どもがどこの場所でも何をしたいと望んでいるのか。それを応援してやる。こっち側の思い込みで一方的に動いても本人のためにならないし不幸だ。好きなことをさせてやる。60歳以上のシルバーの男女の力を借りて、豊かな経験をさせてやる。全時間ボランティアでなく少々のお礼を。

おも いけん しょうがいじしやく じゅうじつ
主な意見：障害児施策の充実

しょうがい そうきはっけん そうきたいおう きわ だいじ しえん おも しょうがいにゆうようじ りょういく
障害の早期発見、早期対応は極めて大事なスタートの支援だと思ひます。障害乳幼児への療育だ
けでなく、親、保護者へのフォローや支援も重要です。親への支援の充実が障害児への虐待防止
につながります。

しゅわ りかい ふまゆう
手話への理解、普及。

よりじゅうどになればなるほど、ほいく りょういく きょういく はいりよ ひつよう
より重度になればなるほど、保育、療育、教育の配慮が必要となってきます。そして、当事者に
じょうほう すくなかつたり 届かず、しんろ せんたく が 狭められたり 誘導されることがあります。当事者以外
にも、よりおおくの いっぱんしみん に向けて じょうほう ていきよう、PR を 増やしてもらうように願ひます。

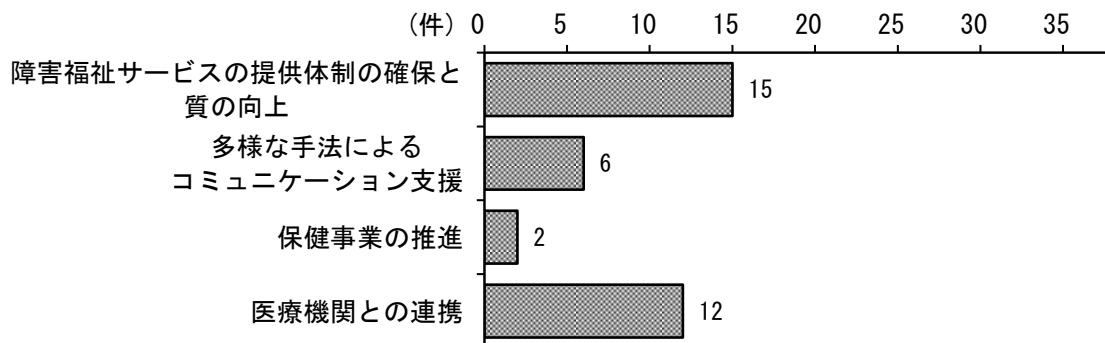
ひらかた しょうがいじきょういく きほん とも まな とも そだ りねん げんじよう かだい ぶんせき ひょうか
枚方の障害児教育の基本である「共に学び共に育つ」の理念の現状と課題を分析、評価するべき。
さべつかいしょうほう しこう ともな きょうせいきょういく こくさいてき すうせい
差別解消法の施行に伴い共生教育は国際的な趨勢であるが、枚方の現状は児福法関係のサービ
スの関連も含めて、決して即した状況となり得ていないといえる。結果的にそれは、障害当事者
かか じんざい そだ きかい うば ちいきせいかつしえん そがいよういん
と係わる人材を育てる機会を奪っており、地域生活支援の阻害要因ともいえる。医療的ケア児は
ねんねんぞうか けいこう うえ ざら けつ じゅうぶん い つうがく がっこうぎょうじ さい ほごしや
年々増加の傾向であるが、その受け皿は決して十分とは言えない。通学や学校行事の際に保護者
のつきそいを求めると、「他の者との平等」という基本的な理念のための具体策を検討する必要
がある。そのためにも、きょういく ふくし じんけんとう ぎょうせいまかんない れんけい もと おも
教育、福祉、人権等の行政機関内の連携が求められると思う。

④ 生涯を通じて安心できるサービスの確保と提供

生涯を通じて安心できるサービスの確保と提供において、特に取り組むべき施策として、「障害福祉サービスの提供体制の確保と質の向上」が15件と最も多く、次いで、「医療機関との連携」が12件となっています。

主な意見としては、人材確保の必要性や、地域の医療機関との連携などについて複数の意見があげられています。

■ 【特に取り組むべき施策：生涯を通じて安心できるサービスの確保と提供】



主な意見：生涯を通じて安心できるサービスの確保と提供
てんかん発作などを持っている人が何人かいるため、万が一のため、すぐ診察してもらえるように。
医療も障害者歯科のように専門で診てもらえる病院を紹介してほしい。診察が難しいので、専門的にあれば遠慮なく受診できる。
退院後、どのように地域の中で自立していけるか。そのことについて地元の医療機関と連携、情報交換が必要と考え、今年度の目標としたい。
必要な時に必要な支援を受けられるようにすることは大事だが、そのための人材確保と労働者の処遇の改善は急務。当会でも多くの人材が将来の不安等で現場を離れるに至っている。

主な意見：生涯を通じて安心できるサービスの確保と提供

○市への要望、希望

発達障害の方が過ごしやすい事業所が少ないように感じます。発達障害を伴わない知的障害の方と発達に偏りのある発達障害と知的障害を重複している方の支援は同じではないはずですが、知的障害のみの支援しか受けていないと感じることがあります。発達障害に特化した施設を福祉関係の方に見学していただき、専門家の指導を受けるなどして、質を向上させていただきたいです。

※歯科医療に関しては近隣の診療所で受診困難な障害者、児のための医療機関がありますが、歯科以外の科や検診についても受診が難しいことが多いです。医療機関から障害を理由に断られたという話も聞きました。障害理解のある医療機関の紹介や受け入れの促進、利用している福祉事業所等で検診を行える等の体制を整えて頂きたいです。

※不登校や引きこもりの方の中には、発達障害やうつなどの病気の可能性がある方が一定数いるという話を聞きましたが、本人を病院へ連れて行くことが非常に難しいので、精神科の訪問医療サービスのようものがほしいです。精神科の遠隔診療等も活用できるなら、そのようなサービスを促進していただきたいです。

「障害者医療費助成事業について現行の制度を継続」を願い守るため、大腎協（全腎協）を通じて毎年1回、国会請願、府議会請願署名活動と枚方市へ要望書提出を行っています。年々医療費の自己負担が増加してきています。これ以上、負担が増えないことを切に願います。

時代に応じて法律は変化していますが、親としてはもっと進化してほしいと思います。特に成人期以降の居場所や社会参加の機会が少なくなっていくと感じます。親亡き後も安心して生き生きと生活するために必要なサービスをお願いします。

通院や教育以外の趣味や習いごとでも、通訳派遣が認められれば社会参加しやすくなる。

老後を見通しての入所施設の必要性。グループホームの増設とその充実。土日祝を含めた日中も過ごせたり、緊急時に利用できるショートステイの必要性（入所機能を持つ拠点施設）。

精神障害者は精神科医療外の医療は3割負担となっている。

障害児が気軽に相談や出入りできる施設があると嬉しい。

IT機器を活用した電話リレーサービス及び遠隔手話通訳への取り組みがない。

家族がいるいないに関係なく老いと一人で住んで全て自立するのは難しい。若いときからご近所とコミュニケーションをとって助け合うことができれば理想。これが男も女もできない。若いときにボランティアの貯金をして老いたら、それを自分や家族のために使う方法。元気なときは人のために。困ったときは助けてもらう。

今回のコロナの問題で一番思ったことは、障害者が罹患した場合、どのような医療体制がとられるかということです。一人での入院は無理ですので、付添ができるのか、入院できる場所はどのくらいなのか、全く五里霧中の中で、たくさんの方から「不安、方が一の場合は2人で家にいる。方が一死んでもかまわない」という悲痛な声がたくさん聞こえてきました。

乳幼児定期検診を実施する保健所と、保健所がつなぐ専門性の高い医療機関との連携はとても重要です。また、その後続く保健医療の必要性を考えると、地域の身近な小児科開業医の力量UPも求められます。

主な意見：生涯を通じて安心できるサービスの確保と提供

医療については去年1週間ほど入院しました。本人の安全と安心のため、個室で24時間付き添いでしたが、自分の年齢を考えると、この先は無理かなと思いました。費用の面や人の保障を充実してもらって、安心して医療が受けられるようにしてほしい。

医療と連携することも大事ですが、みんなと同じ一人の人間として地域で生きて行けるように福祉サービスを充実させるよう、現場を支援できる体制を整えてほしいです。重度の方ほど重度訪問等の福祉サービスが使いにくい状況です。

相談支援センターの機能が果たされているのか、センター間の連携が機能しているのか、全く見えてこない。相談しづらいセンターばかりである。提供者と利用者との調整が整っていないくて、提供者の思いで利用を決められている。人材不足からくるもので、いくつもの事業所を利用しなければ支援者が見つからない。医療機関との連携は個人の問題であるが、学校を卒業すれば残り関係がなくなり、日中活動の場で機会をつくってほしい。

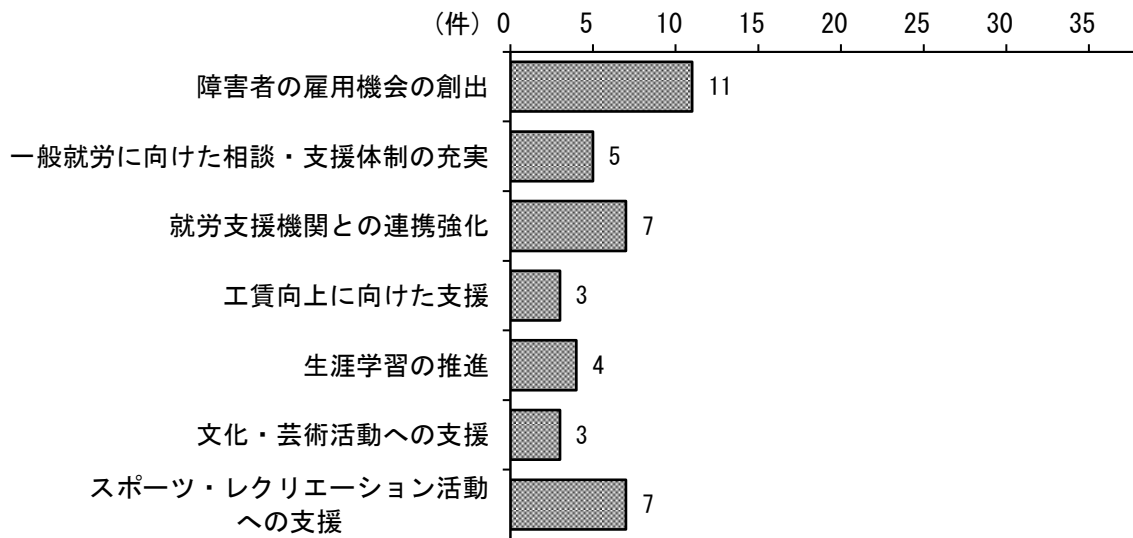
サービス提供体制の確保に関しては、人材育成が必須である。教育を基本とした意識作りと、公的な人材育成の仕組みが求められる。コミュニケーションは、手話を手始めとした個々人に応じた合理的な手法が求められる。医療との連携に関しては、医療機関への制度の基本的理解や人権意識等の啓発的な取組を行う必要性を感じる。

⑤ 就労支援の充実と社会参加の促進

就労支援の充実と社会参加の促進において、特に取り組むべき施策として、「障害者の雇用機会の創出」が11件と最も多く、次いで、「就労支援機関との連携強化」「スポーツ・レクリエーション活動への支援」がともに7件となっています。

主な意見としては、就労継続を支援するサポートの必要性や、将来の生活の安定を視野に入れた対策などについて複数の意見があげられています。

■ 【特に取り組むべき施策：就労支援の充実と社会参加の促進】



主な意見：就労支援の充実と社会参加の促進	
障害者の雇用は、知的に遅れの少ない人には多くの機会があるようだけれど、知的に遅れのあるものもフォロー1つで細かな仕事もできる。例えば老人への気長な話し相手、世話が上手な人も多い。週に2、3日等、働ける場や時間など、工夫を重ねれば人手不足、人材不足と諦めることも減るのではないかと思っている。	
親亡き後の、若者から老人までの作業所後の入所できる所を建ててほしい。行き場がなくて困っています。	
高次脳機能障がいには、できることとできないことの差が大きい。また、人により症状がまちまちであることから就労の難しさを痛感しています。企業の方を含めた一般の方への息の長い啓発広報活動が必要と思います。	
障害者として働くことは当然大事だが、そのために過剰なストレスにさらされ、状態を悪くする人もいることも確かである。障害を持ちながら、安定した生活を営むことがより大事と考える。	

おも いけん しゅうろうしえん じゅうじつ しゃかいさんか そくしん
主な意見：就労支援の充実と社会参加の促進

し ようぼう きぼう
○市への要望、希望

1かげつ ひつよう せいかつひ まんえん い
1ヶ月に必要な生活費は8万円と言われているようですが、就労支援B型利用者のほとんどが障害
ねんきん きゆう はんてい まん せんえんていど こうちん た まんえん み
年金2級と判定され、6万5千円程度、これに工賃を足しても8万円に満たないことが多いです。ま
た、つうしよ こうつうひ けいざいてき くる こうちん あ
た、通所のための交通費もかかるため、経済的に苦しいです。工賃が上がるような支援をお願い
たいです。

とうかい もくてき とうせきかんじや しゃかいふつき どりよく とうせきかんきょう かいぜん
当会の目的は透析患者の社会復帰への努力や、透析環境の改善であり、そのために透析に関する
ただしい ちしき も がくせんがく かいさい かんじや かぞく しんぼく ぶんか
正しい知識を持つための学習会を開催。患者、家族、スタッフ間の親睦を深めるために、旅行や
しょくじかい こうりゅうかい じっし げんざい
食事会などの交流会を実施。現在ラポールひらかたを学習会するとき利用していますが、駐車ス
ぺースが減ったため参加者が減ったりしています。安心で利用できる施設の充実を願います（文化
センターに期待）。いぜん りようじ ふくし りよう
以前、旅行時に福祉バスを利用していましたが、利用時間の短さや利用時の
けいかくしよていしゆつとう むづか りよう
計画書提出等の難しさから利用しなくなりました。もっと利用しやすくしてほしい。

しょうがい つう あんしん せいかつ おく ひつよう サービス りよう かつどう ねんきん
生涯を通じて安心できる生活を送るために、必要なサービス利用や活動をするには年金だけでは
むづか せいさんかつどう 機会 こうちんこうじょう
難しいので、生産活動の機会や工賃向上につながる仕組み作りをお願いしたいです。

しょうらいてき しごと うげざら ふあん しょうがいじむ
将来的にどんな仕事ができるのか、受皿があるのか不安。障害児向けのトランポリン、ダンスな
どの講座があると嬉しい。

ちてき せいしんしょうがいしゃ げいじゆつとう とくせい はつき かぞく おうえん けいぞく
知的、精神障害者は芸術等に特性を発揮するものもいるが、家族の応援がないと継続できない。
かぞく ち りかい
家族にその価値が理解できない。

げんざい しゆわつうやくはけん ふく
現在の手話通訳派遣には含まれていない。

じどう がくせい しえん ひつよう ねんれい けいか せいかつ なが しゅうろうしえん はたら ばしよづく
児童、学生の支援も必要ですが、年齢が経過してからの生活が長いので、就労支援、働く場所作
りが必要と思います。

たつきゆう ぎょうじ おこな ほんかい
卓球を行事として行っており、本会へのつながりにしている。

しゅうろう むづか じゅうど かた ばあい しょうがい かる かた ばあい まった ちが おも かる かた
就労の難しい重度の方の場合と、障害の軽い方の場合では全く違うと思いますが、軽い方
ばあい かあ ちが おお しゃるの少しのサポートがあればできることはたくさんあるが、職場
ではサポートしてくれる方がほとんどいないので、仕事を長く続けることができないということ
でした。

し かんかつきかん しょうがいしゃこうよう すず ほうていきじゆん おお こ さいよう はか びんかん けいはつ
市の管轄機関での障害者雇用を勧め、法定基準を大きく超える採用を量ることで、民間への啓発
につなげてほしい。また、採用後の就労継続のためにジョブコーチや支援員の拡充を図られたい。

①の施策と重なりますが、しょうがいがあっても地域で当たり前生きていくことができるよう、
しゅうろうさきょうう えい がわ しえん こうほうとう
就労先等受け入れ側を支援したり広報等でPRしてもらいながら、どんな人も一緒に受け入れてい
く土壌を培ってもらいたいです。

ひとりでグループホーム等、生活できるくらいの工賃向上の支援。生活介護、就Bでは今の現状
むり無理。

しょうがい ていど いっばんこうよう きぼう かた しえん あとお がた かぶしき ゆうげん かね
障害の程度により一般雇用を希望される方の支援の後押しを。A型については株式や有限、お金の
ある所に助成する必要なし。今大変なのは就Bで、工賃向上に向けた支援必要。就Bに在籍して
いる障害のある方は、なかなか外に出ることを望んでない方が多い。

おも いけん しゅうろうしえん じゅうじつ しゃかいさんか そくしん
主な意見：就労支援の充実と社会参加の促進

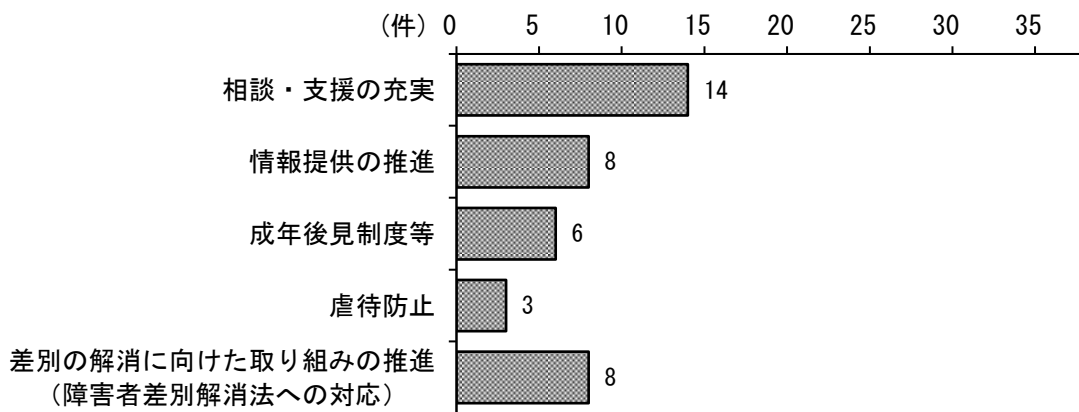
就労に関しては雇用促進法の改正等もあり、企業の雇用促進を図る取組が求められる。障害者の雇用にあたっては様々な助成制度があるが、制度の紹介や利用勧奨を積極的に行う取組が求められる。また、雇用促進機構の助成制度は、雇い入れ後10年までとされている。適用年数の有り方に関して、改善要望を自治体からも行うべきと考える。枚方市の雇用に関して、「通勤」や「職場内介助」等、合理的配慮を行っている事例を教えてください。

⑥ 身近でわかりやすい相談窓口の充実ときめ細かな情報提供

身近でわかりやすい相談窓口の充実ときめ細かな情報提供において、特に取り組むべき施策として、「相談・支援の充実」が14件と最も多く、次いで、「情報提供の推進」「差別の解消に向けた取り組みの推進（障害者差別解消法への対応）」がともに8件となっています。

主な意見としては、情報提供体制の課題や、差別や虐待を防ぐための啓発の必要性などについて複数の意見があげられています。

■ 【特に取り組むべき施策：身近でわかりやすい相談窓口の充実ときめ細かな情報提供】



主な意見：身近でわかりやすい相談窓口の充実ときめ細かな情報提供
会では入会前の人たちからの電話相談もしている。同じ立場の者として、親身になっているが、公の機関へのハードルが高く感じている人も多い。
成年後見制度を詳しく知りたい。
親亡き後のことは深刻です。老親をサポートする体制がほしい。
高次脳機能障害に限ったことではありませんが、親亡き後に備えた講習会等の実施を希望します。
情報がほしいです。会全体ではなく我が家個人の問題ですが、成年後見制度についてもっと知りたいと思っています。
ワンストップで相談に応じ、その人の背景を見抜き、必要なニーズを掘り起こす。そのような制度の創出や社会的アクションも行えるようなスーパー相談員、スーパーソーシャルワーカーの育成を地域健康福祉室の新たな体制の中で実現されることを願います。

<small>おも いけん みちか そうだんまどぐち じゅうじつ こま じょうほうていきょう</small> 主な意見：身近でわかりやすい相談窓口の充実ときめ細かな情報提供
<p>○市への要望、希望</p> <p>情報提供の推進について。「福祉の手引き」の「精神障害者保健福祉手帳の対象者」に、「知的障害を伴わない発達障害」といった記載がないので、知的障害を伴わない発達障害の方が利用できる福祉サービスが分かりにくいです。また、福祉サービスごとの項目だけではなく、時系列、年齢で分類された手引書や早見表、自分の子どもに該当する項目をチェックすると、利用可能な福祉サービス一覧が出てくるようなアプリ、といったかたちでの情報提供がほしいです。</p> <p>※障害福祉室でもらえる一覧表は、事業所名と連絡先しか載っていないので、事業所の特徴や利用できる時間帯、特に長期休暇などの情報も掲載してほしいです。</p>
<p>会報誌を発行し、医療福祉、生活に関する情報の提供や会の活動状況、会員の声を掲載し、会員同志のコミュニケーションを図っています。</p>
<p>家庭環境により成年後見制度への考え方も違うので、当団体開催の勉強会でも継続が難しく、個人的にいつでも何度でも相談できる場や、講演、勉強の機会も、もっとあればと思います。</p>
<p>ガイドヘルプへのコーディネート等を親がしているが、親も高齢になり、それらのことが困難になってきている。</p>
<p>集合住宅で役員、草刈りへの参加が難しい。</p>
<p>今、となとなさんで8年ほどに渡り相談していますが、あまり障害児のことを知らない感じで、相談しても解決につながらないことが多い。なぜか、母親が虐待していないかばかり気にしている様子が見られ、ちょっとウンザリしています。</p>
<p>保健所、医療へ本会のリーフレット配布。</p>
<p>障害者への差別は幼児の頃からの教育が大切。大きくなってからでは色々な考えが入ってくるから、子どもの時に理屈抜きで教え込まないと。</p>
<p>障害者が差別を受けたり虐待をされたときに、なかなか周りが気が付かず、気が付けないことが一番大きな問題かと思っています。作業所や施設、グループホームなどはかなりな閉鎖空間です。これを解消していくためには、地域に開かれたものにする必要があると思います。また、行政の方たちの施設への訪問などがあればと思っています。</p>
<p>障害児者への支援を進めるための法整備は、世界の潮流に従って進んできてはいるが、一方で優生思想や強者の思想が強まっていると思われる。相模原の事件や出生前診断をどのようにとらえ考えているのか。行政、市民ともに検討し総括する必要があると考える。とても重く難しい課題ではあるが、市としてもぜひ向き合ってほしい。</p>
<p>親が高齢になるにつれて相談したり SOS を受け止めてくれる場所が身近にあってほしい。親なき後を考える会の一番の望みはこれです。高齢者の地域包括支援センターのようなものがほしい。</p>
<p>この分野が、あまり市としても充実できていない気がします。行政に頼れず、当事者が自分達で動いて何とかするしかない状況になっています。本腰を入れて具体的に動いてくださることを期待します。</p>
<p>親の目の届かないところでは虐待等は、まだまだ多い。</p>
<p>相談者、相談を受ける側に専門職を設置すべき。成年後見は違ったアンケート調査されます。</p>

主な意見：身近でわかりやすい相談窓口の充実ときめ細かな情報提供

障害、高齢、子ども、ひきこもり、生活困窮、性的マイノリティーの課題等、多岐にわたる課題
に対応するため、地域にある相談支援機関の連携強化を図る取組が求められる。差別解消法の取組
として市民啓発をすすめてほしい。

(3) 補足意見

障害者の支援などの活動を担う人材を確保するために、貴団体で取り組んでおられることや市で取り組むべき課題等、ご意見をお書きください。

また、アルコールやギャンブルなどへの依存、成人のひきこもり、など従来の障害福祉施策の枠組みでは支援の届きにくい人たちの実態を把握するための、ご意見をお書きください。

新型コロナウイルス感染症の流行により、団体が活動する上で困ったことや、活動の変化などがありましたら、お教えてください。

(いずれも、特にご意見がない項目は空欄のままで結構です)

① 人材の確保

人材の確保については、主な意見として、若い世代に障害支援活動に興味を持ってもらうための取り組みや、資金確保の必要性などについて複数の意見があげられています。

主な意見：人材の確保
介護の現場は厳しい状況。介護する人、受ける人が安心できる体制。
世話人がなかなか居なくて困っています。社協の方から紹介できれば有り難い。
大阪府委託事業北河内高次脳機能障がい地域支援ネットワーク事業（H25～H30）の世話人様との関係を基点として発展させたい。
視覚障害者を正しく理解してもらうための啓発パンフレットを市民に配布。
苦慮しているところである。自治体とは言わないが、国として大幅な支援をしてもらいたいところである。
Activoを通じたボランティア募集と養成。年一回学生1000円でのガイド講習実施、相談支援従事者養成研修への講師等での協力。
病気に関する学習会の実施。
障害、福祉を勉強されている学生さんに、在学中から現場での支援や余暇活動への参加を学校を通して持てる機会を考えていただいたり、地域の教育機関へこちらからも何らかの形で接点を持ち、姿を見せしていくことも人材の確保につながればと思います。
要約筆記のボランティアも高齢化しているので、若い人が要約筆記に興味を持ってほしい。
家族の高齢化で活動できない。
アルコール専門病院からの紹介、保健所などからの紹介。市民センター等にリーフレット配布。
我々のグループは平均年齢が高く、支援していただいている方々も年齢が高い。ボランティアとして本当に助かっている元気な高齢者の方々の力を色々なグループが頼んでみる。
やはり障害者などの施設の職員さんの収入が少ないのが一番の問題かと思えます。もちろん施設運営者の雇用意識もあると思いますが。

<p>おも いけん じんざい かくほ 主な意見：人材の確保</p>
<p>グループホームの世話人や家事援助、移動支援の支援者が不足しているので、福祉人材の充足に努めてほしい。</p>
<p>人材の確保のために資金を出してください。無償やわずかな有償のボランティアに頼らないでください。ボランティアはあくまでボランティアです。恒常的でないし、専門の知識もありません。ろう者に通じる手話通訳の育成のため。</p>
<p>今はできませんが、会で集まり学校等で現場の意見や問題を聞き取って活動はしています。けれども、まずは障害の子どももみんなと一緒に地域で学べる、学んでいるという様子を、より多くの市民にお知らせしてもらおうことが人材確保につながると思います。</p>
<p>子ども達だけでは活動できず、親と一緒に活動している。</p>
<p>事業所が増えすぎて利用者もその人材も取り合いとなり、良いサービスを受けることができなくなっている。人材育成の取り組みをもっと内容的にも力を入れてください。</p>
<p>様々な研修の実施をしているが、啓発研修等の取組だけでは人材確保は難しく、教育や地域レベルでの取組を行うことが強く求められる。日常的に障害者と身近な関係性を持つことが困難な地域で、「よい人材」を育てることは難しいと思う。</p>

② **支援の届きにくい人たちの把握**

支援の届きにくい人たちの把握については、主な意見として、教育機関や医療と協力した情報の把握や、相談先を周知して相談に来てもらう取り組みなどについて複数の意見があげられています。

<p>おも いけん しえん とど ひと はあく 主な意見：支援の届きにくい人たちの把握</p>
<p>現場の状況を把握して、必要なサービスが必要な所に行きわたるようにしてほしい。最重度の障害者への医療的ケアが足らなすぎる。</p>
<p>高次脳機能障害と医師の診断がなされていない人を含め、孤立化、引きこもり化している方が多いのではないかと懸念しています。啓発広報活動及び居場所づくりの必要性。</p>
<p>病院等と相談し、長期入院患者の訪問相談を実施している。アディクションや引きこもりの問題については相談を行っている機関があるということ、市民や地域関係機関に繰り返し周知し広報に努めることが必要。</p>
<p>CSW、高齢者サポートセンター、日中事業所等にもヒアリング、連携して対応。</p>
<p>成人の引きこもりの方の中には不登校から引きこもりへと移行するケースや、アスペルガーや高機能自閉症の割合も多いと思いますので、学校の協力を得て、不登校気味の方への追跡調査、アスペルガーや高機能自閉症と診断された方の追跡調査を行うなどの情報収集を行ってみてはどうかと思います。</p>

<p>主な意見：支援の届きにくい人たちの把握</p>
<p>透析患者は増加しているにも関わらず、患者団体に未加入者も多く、各病院にそのような活動をしていることを知らない人も多い。各種情報が届いていないと思われま。正しい知識を持たぬまま、合併症など相談できず悩んでいる人もいるかも知れません。患者会の紹介等、各病院へ情報発信の場を提供していただければと思います。</p>
<p>コロナで患者と同居している。外出できないため、家庭内暴力などが心配。</p>
<p>どこにろう者がいるのか把握できない。</p>
<p>保健所、医療よりの情報及び民生委員の方からの情報。</p>
<p>家に引きこもっている人や、ギャンブルで家族が泣いているのは、99%男が原因。女の人や子どもが弱音をなかなか言わない。誰でも言えるような場所を作る。ギャンブルをやっている男は女や子どもの話を聞かない。</p>
<p>比較的障害の軽い人々への支援が難しいという意見もあります。保護者の方の意識も千差万別です。重度の方は日々の介護に追われ疲弊しておられます。どちらも声を上げにくいと言われる方は多いです。</p>
<p>アルコールやギャンブルだけでなく、薬物依存に対する見識を高める啓発。本人の意識や努力だけで改善するものではなく、障害であるという認識を啓発してほしい。LGBT についての市民への啓発、学校教育での取り組みを進めてほしい。教師の中にもまだまだ認識と理解は進んでいないと感じます。</p>
<p>保護者の活動で人と人がつながっていくことで、すくい上げられるかなと思いますが、一番の課題だと思っています。市、当事者、地域、教育機関、福祉、施設、いろいろな人達のつながりがあればと思います。そうすれば見つけられると思います。</p>
<p>障害に限定せず、様々な生きにくさを感じておられる人も拒まず、困っていることがあれば出してもらい一緒に考えていく体制ではありません。</p>
<p>地域で活動をしている方は様々ですが、枚方市にはまとまった団体がいくつもあり、この団体の紹介を行政がすべきです。ご自分の事業所の収益だけで動いてはいけません。</p>
<p>教育、医療、地域間等の連携がある程度、対等かつ恒常的に持つことが必要と思う。「問題」への対処的な動きでなく、普段の繋がりが大事だと感じる。</p>

③ 新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の影響については、主な意見として、活動やイベントの中止・縮小の状況や、居場所の確保の困難による精神的負担などについて複数の意見があげられています。

<p>主な意見：新型コロナウイルス感染症の影響</p>
<p>恒例の親睦バスツアーが、できなくなっています。</p>
<p>もし、作業所にコロナが入ってくると作業所が開けなくなります。その時の居場所、行き場所の確保を希望します。</p>

<p>おも いけん しんがた かんせんしやう えいきやう 主な意見：新型コロナウイルス感染症の影響</p>
<p>がつ れいかい ちゆうだん ちやうきか けねん 3月から例会は中断しています。長期化を懸念。</p>
<p>かげつ いちど かぞくかい みつ かぞくかいおよ りやうしや こうれいしや おお かい ひろ 2ヶ月に一度の家族会も密になるし、家族会及び利用者にも高齢者も多く会を開くことができませ ん。</p>
<p>ガイドヘルパーの利用が通常通りおこなってもらえなかったことを聞いた。市と事業者が対策を かんが 考 えてほしい。</p>
<p>しゅうろうけいぞく がた しえんしや かず きゆうふきん か ひじやうじたいせんげん だ 就労継続 B型など支援者の数で給付金が変わるサービスについては、非常事態宣言など出される と法人や事業所の存続にかかわる事態となる。福祉サービスは社会に重要なインフラの1つとし て位置づけ、持続していけるような制度を考 えてほしい。</p>
<p>かんせんぼうし たいさく しょうどく しょうどく や ソーシャルディスタンス、アクリルボード、たいおんけい いろいろこうにゆう てづく 感染防止対策で消毒やソーシャルディスタンス、アクリルボード、体温計など色々購入、手作り マスクの講座の実施など行う。営業時間を短縮し消毒を朝夕に実施。</p>
<p>げんざい らぽールひらかた とうかんせんかくだいぼうし ていいんすう へ りやう となつていますが、げんざい 現在ラポールひらかた等感染拡大防止のため、定員数を減らしての利用となっていますが、現在の 感染状況では利用に踏み切ることができません。ネット配信の講演会開催等も聞かれるようにな りましたが、当団体は知識が乏しく、こちらはまだ踏み切れていないのが現状です。また、感染 防止のため「集まって話をする」ことを控えているためメールやブログ等で情報提供を行って います。双方向でのやりとりが難しいのが現状です。</p>
<p>わたしちちうせきかんじや きそしつかん も じゅうじやうか ひと ひつどう りやう 私達透析患者は基礎疾患を持ち重症化しやすい人の筆頭でもあります。ラポール利用ができない こともありましたが、もちろんワクチンや治療薬が見つからない限り、活動は全面中止（行事であ る学習会、交流会など）でした。広報活動が唯一できることですが、それもラポール印刷室利用 停止の影響で、一時的に何もできませんでした。今後も難しく厳しい状況が続きます。</p>
<p>とうだんたい として、このご時世だからこそ少しでもつながれるよう、できる限りの活動を進めていま す。ただ、これも事業所全員が感染なく毎日通所出来ているからこそ、通所できなくなり本人は 陰性の場合の居場所が家庭のみになることは説明しづらく、これからが不安で心配です。</p>
<p>ラポールが3ヶ月使えなかったので、月1回の例会も休みにしました。電話ができないので、直接 会って話す機会が減ってしまいました。</p>
<p>家族会としての集まりがもてなかった。有料の大きい会場しか利用できなくなったが、日程を押 さえるのが難しくなり費用もかかることになった。イベントの中止やバザーもできなくなった。 工賃が2ヶ月ゼロになり、その後、半額の支給になった。</p>
<p>人数も多いので集まりができない。</p>
<p>4月から7月まで休会していた。</p>
<p>当会の会員の方は新型コロナウイルス感染の中、外出時は食事と通院でかなり精神的な負担が大 きく、体調を崩されている方もおられます。</p>
<p>例会場が人数規制のため、朋友（枚方市外）の参加ができていない。</p>
<p>「コロナで外出を控えろ」外出しなければ人にも会えない。ストレスが溜まる。全ての状況を 判断しないで横一線で会合もアカン。</p>
<p>万が一罹患したらどういった対応をなされるのでしょうか。病院は、不安だらけです。</p>
<p>今は活動休止状態です。</p>
<p>研修、教室が開けない。行事等が中止のため通訳依頼がない。</p>

<p>おも いけん しんがた かなせんしやう えいきやう 主な意見：新型コロナウイルス感染症の影響</p>
<p>はんとし かい ふ きやういくちやう かた まね がくしゆukai かげつ かいぐらいていれいかい こうこうじゆけん 半年に1回、府や教育庁の方も招いて学習会をしたり、1~2ヶ月に1回位定例会をして高校受験 とうについて べんきやう はな あ こうりゆう をしていましたが、その機会が作れず困っております。初めて オンラインでの会を催す予定です。</p>
<p>かつどう ダンス活動のためダンスができず、休活状態です。</p>
<p>しやうがい かた かぞく かなせん ばあい しやうがい かた たいおうきく ざいたく しせつがわ 障害のある方の家族に感染した場合、障害のある方の対応策はショート、在宅。ショートは施設側 が手をあげない、在宅はヘルパーが来ない、ではどうする。枚方市のコロナ報道はどうなっている のか、市民に分かる説明を。感染者の医療看護、介護にあたる人々とその家族の安心安全のための ほしやう かなせん ととき ほしやう 保障、感染した時の保障。</p>
<p>けいざいてき えいきやう すこ おく かたち で かん けいぞくてき こうてきえん もと じしゆく 経済的な影響が、少し遅れた形が出てくると感じる。継続的な公的支援が求められる。「自粛」が しょしきく あた えいきやう おお かん あし と ひつやう とりくみ おこな もら 諸施策に与える影響は大きいと感じる。足を止めることなく、必要な取組を行って貰いたい。</p>

(4) その他の意見

その他、ご自由にご意見をお書きください。

自由意見としては、新型コロナウイルス対策などに関わる行政の情報提供の要望や、行政との意見交換の場の必要性などについて複数の意見があげられています。

主な意見：その他の意見
<p>保育所、幼稚園等への入所前の子ども達を育てる若い母親たちにも支援が必要です。情報はネット等で知ってはいても、上手に活用できていない。上手に子どもの相手ができていない姿を見かけます。保健師等による子育ての見守りの機会を増やしてください。</p>
<p>障害者就労支援事業所の運営支援を行っているが、実質経営が難しいようである。パンの製造販売の減少、手作業（封筒貼りなど）の減少、工賃確保が難しい。</p>
<p>切羽詰まった時、安心して受け入れてもらえる市立の施設がほしい。病氣、親の入院、冠婚葬祭などの時に、突然に受け入れてくれる場所がないのは不安。最重度を理由に受け入れてもらえないし、あっても1ヶ月前の予定決まっているので急な対応の時は路頭に迷う。</p>
<p>当事者家族だけでは考え方の偏り、アイデアの不足を感じています。既に社協の協力は頂いていますが、年に数回でも行政の例会参加を頂きご意見を賜りたい。</p>
<p>①当会はある作業所利用者と家族を対象に年1回バスツアーを行っていて、大変好評です。しかし、福祉バスの利用可能時が今年度から水、金、土、日から金、日曜日になりました。充実させてほしい制度だと思っておりましたが、残念です。せめて金、土、日曜日としてほしいと考えます。</p> <p>②当会の会員も高齢化し、若い新しい会員を増やしたいと思っています。ひとりで悩んでいる家族がまだいると思われまます。家族会につながることで家族が元気になり、寝屋川の事件のようなことも防げると思っています。そこで、当会などの小さな家族会の家族集会についても、わかち合う会と同様に市の広報で家族集会の予定を載せていただきたいと思います。無理でしょうか。当会は8月、12月を除く毎月、ラポールで10名前後で家族集会を開いています。</p>
<p>5月総会後に新役員を決めましたが、会も開けず、メールをする方も少なかった。それで広く会員から意見を求めることもできませんでした。</p>

主な意見：その他の意見

※行政、福祉関係者、教育関係者へできるだけ生の声を届けたい。

・当団体は学齢期の障害児の保護者が多いため、このアンケート返答期間と夏休みが重なるため、もう少し前倒しにさせていただけたらありがたい。また、返答までの期間ももう少し長くさせていただけたらありがたいです。

・福祉に関わる方や教育に関わる方に、大阪府ペアレント・メンター事業などをご活用いただき、保護者による発達障害児の子育てに関する経験談を聞き、家族の求める支援を知っていただきたいです。また、福祉機関と教育機関での連携を強め、教育関係の方々へ障害のある方が成人後、どのような暮らしをしているのか、そのために子どもの頃に学ぶべきことは何か、などを考える機会をつくっていただきたいです。

・団体としてだけでなく、個人の思いや実態も枚方市福祉関係者に直接話ができる機会があればと思います。

・他市町村では、市内で活動している親の会などの様々な団体を市が把握して、定期的な連絡会を開催して意見交流を図り、行政に直接声をあげられる機会を作っている所があるようですが、枚方市もご検討いただけたらと思います。

※発達障害ならではの困りごとについて

・「発達障害の方の障害支援区分が実感よりも低いと感じる」「判定者によりムラがある」といった声を聞きます。改善をお願いしたいです。

・発達障害の方はコミュニケーションや対人関係の障害といった障害特性のため、特に知的に遅れの無い方、軽度の知的を伴っている方は、会話はできても困っていることを上手く説明できない。伝えるのもしんどい、伝えてもわかってもらえない、困っているように見えない、といったことがおきがち。上手くアセスメントできる支援者を増やしてほしいです。

当会では大腎協を通じ、毎年枚方市に「透析患者の医療と暮らしに関わる要望書」「大規模災害時発生時における透析患者の医療の確保と暮らしに関わる要望書」を提出しています。それらを熟考していただき、施策を講じていただけることを切に願います。

マスクを嫌がるため外出できない。作業所で販売等の機会が無くなったり、利用する人員を減らしたため、工賃が出なくなった。協力体制で長期に作業所を休んだため、身体的機能が悪くなった。また、生活リズムが崩れストレスも溜まった。外出できるところがなく、本人はコロナについて理解できず、イライラや不安で溜まっている。

家族会も活動できていないため、家族の困りごとなど聞いてやれない。患者の症状悪化が心配。

受給者証の利用負担や障害児手当など、年収によって金額が変わるのが納得できません。多い月だと月に10万円ほど変わってきます。兄弟のために貯金したくて働きたい人も、それができずに困っています。障害児を持つ大変さは年収に関係ないですし、もらえない人も本当にごく1部だと思しますので、年収制をやめてほしいです。全員平等にしてほしいです。

立派な基本理念を上げているが、現実的にはろう者にとって画餅でしかない。

主な意見：その他の意見

①一人住まいの高齢の方から聞くと、日常の会話をするのはヘルパーさんくらいで、ほとんど他の人と会話をすることがない。

②公民館、集会所で色々な行事をしていると聞いているが、情報が入らない。

③ひらかた広報で多くのグループ活動が載っているが、体調や交通の便が悪くて行けない人、足の悪い人や足の不自由な人は行動範囲が限られている。介護タクシー利用も限度がある。

④今回障害者団体アンケート依頼をいただきました。3ヶ年計画（令和2～5年度）の枚方市障害福祉計画が決まりましたなら、説明会等でお知らせください。

老人施設、入院患者等、一律に面会禁止。なぜ、面倒だから全て一律。内容や状況によって判断すれば良いのでは。扱いは皆同じ。老人は後何年いきるのか一日一日を大切に生きている。でも今までの健康状態は何も変わっていないのに面会中止。いつまで続く。誰に聞いても知らないと言う。

現状、経済状況が悪化する一方で、不安を抱える人達の割合が増え続けています。家にこもることで、問題が内在化し、表面的には大丈夫そうに見えていることもあるかと思えます。けれども何も解決されないまま時間が過ぎていくようであればまた「やまゆり園」のような事件が起こるのではないかと心配しています。社会の底辺にある方たちの支援として、社会全体の底上げが大切だと思えます。

以前、障害者のケアマネージメントの研修を受けた折に、障害者の方とのワークショップをしました。その時に知的障害の当事者の方から「療育手帳は僕たちのためにあるものです。でも僕たちにはその療育手帳がわかりません。ルビもふってないし、内容の意味もわかりません」との発言があり、頭をうたれました。また、別の場面で、女性4人でグループホームで生活している方にインタビューした際に、将来の希望をお尋ねしたところ、4人ともが（年齢は20代～40代）「結婚」と答えられました。その後、4人の方の親御さんとともに「それは無理無理」と否定されました。本人主体自己決定ということが言われる中、考えさせられる経験でした。

周りが連携をとって支える。調整するコーディネーターの役目の人がほしい（高齢者のケアマネジャーさんのような人、とりあえずこの人に相談するみたいな）。聞き取る力がいますが、本人の希望を大事にする。市、福祉施設、医療、家族、地域が困っている人を困むように力を出す。そういった仕組みがほしい。そうでないと親なき後が心配です。安心してあの世にいけません。

どんな取り組みをされても、これで良しにはならないはず。先手を打って頂き、見える施策を願いたい。いかなる状況においても第三者による命の選別を行わないこと。医療的ケアを必要とする障害のある方への、感染予防対策上必要とするアルコール、マスクの確保をお願いします。

福祉に携わる行政職員の人権意識啓発の取組を継続的にすすめてほしい。教育、労働、地域等で取り組むべき課題が、「福祉」問題に傾倒しすぎているように感じる。インクルージョンな地域は何か、あり方を考えるべき課題だと思う。

2 障害者福祉サービスについて

◆ 次の①～⑥の事項について、ご記入ください。

◆ 「不満な点や利用しづらい点」「こんなサービスがあればよいと思うこと」の欄には、障害福祉サービス等について、不満な点や利用しづらい点、こんなサービスがあればよいとお感じになっていることをお書きください。

◆ 「その他の補足意見」の欄には、その他、ご自由にご意見をお書きください。

(1) 不満な点や利用しづらい点

サービスの区分ごとにあげられた「不満な点や利用しづらい点」をみると、居住系サービス、地域生活支援事業についての意見が、前回平成29年調査と同様に多くあげられています。

とくに、グループホームの整備の必要性や、発達障害など障害特性を理解する必要性などが複数指摘されています。

サービスの区分	不満な点や利用しづらい点
①訪問系サービス [居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援]	ひとがよく変わるのは、こだわりのある人にとって苦痛。
	決定をいただいても人の確保が難しい。どこの事業所も人員不足で、必要なサービスが受けられない場合も多い。
	精神ヘルパーの不足を感じます。
	ガイドヘルパーが不足している。
	介護保険ほどではないが色々制限が多く、もっと障害者個々の事情に合わせて自由に使えるようにできないか。逆のことになるが、65歳の壁は高い。通院等介護については身体的介護の有無が精神の場合、あいまい。有無の基準が精神の場合、うまく反映されない。
	支援が必要なことは突然起こります。緊急の場合、すぐに対応して下さると嬉しいのですが。
居宅介護では続けて長時間利用できていなかったり、2時間以上あけないといけないなど縛りで使いづらい。常時介護が必要な人にとっては特に。だからと言って重訪だと単価も低く、入れる事業所が少なく行動援護も使えない。	
訪問系サービスは人材不足で、まともな支援ができていない。事業所の都合で計画を立てている。重度訪問のひとりの方にいくつもの事業が担当している。もう少し人間らしくお願いできないか。	
人材の不足。量的にも質的にも。	

サービスの区分	不満な点や利用しづらい点
<p>② 日中活動系 サービス</p> <p>[生活介護、自立訓練（機能訓練・生活訓練）、就労移行支援、就労継続支援（A型、B型）、療養介護、就労定着支援、自立生活援助]</p>	<p>精神障害者の場合、知的障害者の方々とは違って一斉に迎えに行くと就労も含めて日中を過ごしてもらい、一斉に送っていくということができにくい。そのため、効率の悪い動きに現場はなってしまう。生活介護の場合、精神障害者は5時間居るのは困難な方がとても多く、状態に合わせて短時間でもよい制度にならないか。</p> <p>障害者本人が単独で電車などを利用して移動する場合は長距離移動でないと補助がないので、普段利用する就労支援B型等の通所に単独で電車を扱う場合、交通費が経済的負担となる。生活介護等の終了時間が15時半ごろと早いので、支援家族の負担となっている。事業所スタッフの発達障害特性の理解がまだまだ進んでいないと感じる。</p> <p>生活介護での通所ですが、終業時間がどの事業所も早く、余暇活動も平日は十分にはできず、在宅に問題ない利用者であっても、他に関わりを持てる場があればと思います。</p> <p>1日の利用する時間が短い。以前より全体的に短縮されています。</p> <p>行動援助が必要であったり、医療的ケア対象者などの重度の人が利用できる事業所が少ない。送迎者や看護師やケアができる人材が少なく、対応できない場合もあり困る。</p> <p>就労B型に行っていますが交通費、昼食代で工賃代がなくなってしまう。毎月、家からマイナス補填という状態です。</p> <p>就Bの工賃、3000円下回れば報酬単価が下がる。就労移行支援と言っても一部の人が望んでいない。何年、何十年も就労移行支援Bに在籍。</p> <p>事業所の情報が少ない。</p>
<p>③ 居住系サービス</p> <p>[短期入所、共同生活援助（グループホーム）、施設入所支援]</p>	<p>枚方市には少ない。親なき後の生活に不安。</p> <p>短期入所の時、女性スタッフの確保が少ないため、預けたいときに預けられない。</p> <p>障害の程度が人それぞれにひとくりにされてしまうので、重度の子は利用しにくい。というか、受け入れてもらえない。手のかかる子ほど必要なサービスなのに。</p> <p>グループホームに入っているのですが、現在1万円の補助の家賃を払っています。しかし、親も高齢ですので家賃の補助を増やしてほしい。</p> <p>グループホームでは特に男性の世話人さんが不足していると聞きます。福祉の専門学校は増えているのに人材がいない。育てることも必要だと思います。</p> <p>精神障害者の場合、入退院を繰り返す方が多く、グループホームの部屋は入院中も確保せねばならない。しかし、収入は途絶えることになり経営的に苦しくなる。消防設備の基準が厳しくなり、新たに施設をつくる場合負担が大きい。国や自治体で支援等できないか。</p>

サービスの区分	不満な点や利用しづらい点
	<p>サテライト型の不足。ノウハウの共有ができていない。金銭管理、予定管理をはじめとした、IADL のサポート学習やトレーニングを行える事業所が必要。</p> <p>ショートステイを希望してもスタッフが揃わない等の理由で利用できない。ニーズに対して圧倒的に需要が足りないと感じる。</p> <p>短期入所できるところが少なすぎて、全く利用できないので、数を増やしてほしいです（利用したいときにできるのも希望）。グループホーム、施設入所支援も同様。</p> <p>グループホームを土日祝等、日中も必要なときに利用できるようにしてほしい。</p> <p>グループホームなど入れないところが多く、卒業後が少し不安。</p> <p>数年前の事例なので今はすでに改善されているかもしれないが、グループホームで週末には世話人さんが入らないので、昼食の用意をしてもらえないため、平日の活動で疲れていたり、特に用事がなくてもガイドヘルパーさんに連れ出してもらって、外で食事をするしかないこと。</p> <p>すべての施設が少ない。利用したくても利用できない。年に1度も利用できない。重度の人でも利用しやすいようにしてほしい。</p> <p>365日24時間自分の家として住み続けることができる場所の確保。</p> <p>障害の人だけが一般社会から離れて生活をするということに抵抗があり、利用しにくい。</p> <p>夕食の手作り食事がなかなかなく、冷凍を温める等の食事が多い。月の施設料が高い。</p> <p>事業所が運営しているショートはご自分の事業所利用者が常に利用しているため、外部の障害者は受け入れてもらえない。空きがないと言われている。グループホームは終の家ではない。</p> <p>短期入所の事業所致。緊急時の調整機能。高専賃の運営のあり方。</p>
<p>④地域生活支援事業 [相談支援、移動支援・通学支援(ガイドヘルパー)、日中一時支援、意思疎通支援、地域活動支援センターでの創作や作業、補装具・日常生活用具]</p>	<p>ヘルパーさんが少なく外出するのが困難です。</p> <p>目的地まで保護者が送迎しなくてははいけないので歩行が難しい人には不便。自宅→自宅のように、ガイドさんが送迎してくれるシステムがほしい。</p> <p>用具限度額と売価との差がある物に対する調整。</p> <p>ガイドヘルプについて。バスや電車で移動する場合、ヘルパーの運賃を利用者が負担せねばならず、結果として利用できにくい方もいる。</p> <p>計画作成を受けてくれる特定相談事業者及び相談員が不足している。相談員1名の体制では受けられる人数も最大40～50程度。支給決定者数の5割に計画が必要だと仮定して、約1800名分の計画を作成するには最低でも45～80名の相談員が必要。6支援センターは計画以外の業務がメインとなる。質の高い計画相談には一人当たり20～30ケースが限界。</p>

サービスの区分	不満な点や利用しづらい点
	<p>移動支援を使いたくても、発達障害特有のこだわりや新規場面の弱さがあるため、担当者が変わるのが当たり前の移動支援は利用しづらい。放課後等デイサービスで、発達障害の子どもたちのグループを作り遊んだりお出かけ等して、楽しく過ごせていたのだが、そういったグループでの余暇、外出サービスを提供してくれる成人サービスが見当たらない。移動支援などを利用しての個人の活動にシフトチェンジしなくてはならないのが残念。日中一時支援を行っている事業所が少ないと思う。児童デイサービスを利用している知的障害を伴わない発達障害児が高校卒業後、専門学校や大学へ進学すると、利用したい福祉サービスが見当たらず、児童相談支援終了後、継続して利用できる相談支援がなく、孤立してしまいがちになる。</p>
	<p>日中一時支援の日数を増やしてほしい。ガイドヘルパーさんの不足、また、急に使いたいときに見つからず困った。地域活動支援センターが近くなる、結局母親が車で連れていくことになるので利用していない。</p>
	<p>公的なことしか通訳派遣が認められていないので使いにくい。</p>
	<p>サービスが受けられるようにたくさんの時間数をもっているが、人手が少なすぎて利用できない。利用できるようガイドさんの支援が必要。</p>
	<p>障害児を育てていると、通学支援がないと両親は思うように働けない。介助者を市の負担で付けてやってほしい。親が毎日付き添うのは大変。</p>
	<p>本人の希望するのは短時間で2ヶ月に1回くらいですので、現在は家族で対応しています。こういう不定期のものが利用しにくいと感じています。</p>
	<p>移動支援、通学支援も医療的ケアが必要な人にとっては対応できるヘルパーが少なく、使えないことが多い。</p>
	<p>事業所の都合で一カ月の予定計画される。枚方市で補装具の判定でできるように。</p>
	<p>派遣系の事業は人材の不足。量的にも質的にも。日具に関しては、品目や対象、補助額のあり方を定期的に見直すべき。</p>
<p>⑤障害児支援 [児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援、医療型児童発達支援、福祉型児童入所支援、医療型児童入所支援、居宅訪問型児童発達支援、障害児相談支援事業]</p>	<p>緊急事態宣言が出て一斉休校になった際、放課後等デイサービスでも通所自粛があり、一部「在宅支援」が行われたようだが、どういう基準に基づきどのような内容で行ったのかが分かりにくい。放課後等デイサービス等を利用する場合、介助がどれだけ必要か、評価があるのですが、実状に合った評価になっていないと感じる。また、事業所ごとに区分があるようですが、区分2の事業所は重度障害児受け入れに消極的な所もあり利用しづらい。障害児向けのショートステイというサービスがあるようだが、情報がほとんど提供されていないことに不満を感じる。</p> <p>移動支援でヘルパーが運転する車が使えないこと。</p> <p>多動の児童は親が見るのも他人が見るのも大変。数の力で面倒をみる方法。</p>

サービスの区分	不満な点や利用しづらい点
	医療型や就学前の子どもが利用できる所が少ない。
<p>⑥以下の施設における障害児受入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所 ・幼稚園 ・認定こども園 ・留守家庭児童会室 	<p>入所できる障害児の親は、かなり働いていることが条件となっているのですか。大変な子育てに加え、働かなければ入れない施設を何とかしてください。0～3歳も集団の利点が多くあります。障害児ならなおさらです。</p> <p>留守家庭児童会室を利用したとき、低学年のうちには児童会の先生もよく見てくれたが、学年が上がるにつれて、マンパワーの問題が先生の目がだんだん届かなくなり、トラブルを起こしたり巻き込まれる。ものの管理ができなくなり紛失する機会が多くなることが起こっていることが不満。</p> <p>2年ほど保育所に通いましたが、障害児はとても肩身の狭い思いをしました。先生も厳しく誰にもなつかず、おしっこしたら「そのまま家が近いので帰れ」といわれ、怒られたこともありました。保育所にもあまり通えず、本当に孤独でした。</p> <p>子どもの怪我を恐れて行動にブレーキを。怪我をさせては駄目だが、親としっかり話し合っただけ思い切り体を動かす習慣を身につけさせる。</p> <p>対応する職員によっては受け入れを拒否されるような行動を取られたり、看護師の有無によって断られたりすることがあります。</p>

(2) こんなサービスがあればよいと思うこと

サービスの区分ごとにあげられた「こんなサービスがあればよいと思うこと」をみると、訪問系サービス、居住系サービスについての意見が多くあげられています。

とくに、緊急時に利用できるサービスや、送迎など人材の補助が複数指摘されています。

サービスの区分	こんなサービスがあればよいと思うこと
<p>①訪問系サービス [居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援]</p>	<p>断られながらも保護者自ら探す必要があるので、行政の紹介や割り振り、マッチングがあれば助かる。</p> <p>1ヶ月の利用時間を年間単位や、せめて3ヶ月単位で使えるようになれば良い。一割負担の限度額の軽減。</p> <p>市のホームページを通して、団体間で交流したり情報交換したりできるようなオンラインの創設。</p> <p>24時間手話通訳を頼める体制を作してほしい。遠隔手話通訳、電話リレーサービスを早急に実現させてほしい。</p> <p>会員の構成も高齢化し歩行もシルバーカーや車イスでの移動が多くなりました。月1回ラポールひらかたで例会をしていますが、タクシー利用なので半分割引があるとありがたい。</p>

サービスの区分	こんなサービスがあればよいと思うこと
	<p>身体的に障害のない老人も児童も運動不足。散歩やウォーキングに付き添って連れ出してくれるサービスがあると便利。一人では無理。いつも誰かがついていてくれる訳にはいかない。</p> <p>何かあったとき、一時的にすぐ避難できる場所と人材の確保。</p> <p>行動援護が必要な人や喀痰吸引等のケア必要者でも対応できる人材が特に不足している。資格取得の方法、時間、費用負担等を再考して、人材を一人でも増やせるよう基準の緩和も含め見直してほしい。</p> <p>今ありすぎて、何を使ってよいのか。</p> <p>家族支援的なサービスのあり方。</p>
<p>② 日中活動系サービス [生活介護、自立訓練 (機能訓練・生活訓練)、就労移行支援、就労継続支援(A型、B型)、療養介護、就労定着支援、自立生活援助]</p>	<p>通所時交通費の補助。京阪電車など民間の力を借りて、学割扱いとしてもらうなどのサービスがあればありがたい。事業所の時間の延長。または15時半以降は同じ場所、同じスタッフで日中一時サービスに切り替えて利用できるようなサービスがあればありがたい。発達障害に特化した事業所。または、発達障害理解が進んでいる事業所を積極的に利用したい。歯科検診は年に一回程度、市の取り組みで歯科医さんが事業所を巡回してくれませんが、小さな事業所では内科検診などの健康管理の機会がないので市民検診の受診がなかなか難しい人には各事業所で市民検診が受けられるようなサービスがあればありがたい。</p> <p>1時間以上乗ることはなくしてほしいので、送迎車の数を増やしてほしい。</p> <p>大掛かりなアンケートをとってサービスを提供できる人、受けたい人。どんなサービスが提供できるのか、また、どんなサービスを受けたいのか仲介してくれる人。</p> <p>泊まりを伴う活動や日帰りで外出する企画ができる事業所があればいいと思う。どんな障害の人も障害の程度で分かれずに、同じところで活動する事業所のようなものもあつたらと思う。</p>
<p>③ 居住系サービス [短期入所、共同生活援助(グループホーム)、施設入所支援]</p>	<p>短期入所を増やしてください。親が年をとってききましたので、通院や入院時など安心していけるようお願いします。</p> <p>最重度の子も安心して充実したサービスを受けられるように願いたい。人員確保など。</p> <p>今、世話に人があつせんが一番助かります。お願いします。</p> <p>人材育成の場所、機会。</p> <p>特徴がわかりやすいグループホーム。</p> <p>支援者さんとゲストハウスやキャンプ場のような場所で一泊できるような、ショートステイと移動支援を組み合わせたような宿泊体験のような支援があれば利用してみたい。</p>

サービスの区分	こんなサービスがあればよいと思うこと
	<p>将来の自立に向けての経験の場が短期入所と考えるので、グループホーム、施設入所、また、緊急時での親との分離等、いかなる環境でも少ないストレスで過ごす事ができるよう、多くの場を考慮していただきたいです。</p> <p>近いところに入所施設がほしい。緊急時に預けられるショートステイがほしい。</p> <p>患者がグループホーム、高齢の親が介護施設。スムーズにならないかな。</p> <p>もう少したくさん施設ができると嬉しいです。</p> <p>ろう者専用のグループホームが少ない。</p> <p>利用できる施設数。人手。</p> <p>老人2人暮らし、一人は施設で一人は家。連れて帰って自宅でゆっくりさせてやりたくても、連れて帰れない。そんなとき、手伝ってくれるか2人で泊まりに行ける場所があれば、身の回りの世話を頼める。</p> <p>入所施設解体論が発せられるが、障害者やその家族の状況によっては、入所施設が必要な人もいます。遠くの施設でなく、近くの地域にある入所施設が利用できれば良いと思う。</p> <p>重度の人も軽度の人も、障害の子どももそうでない人も、一緒に過ごすことのできる所をつくってほしい。</p> <p>親亡き後、グループホームは日中活動の活用している者にしか利用できない。終の棲家。</p>
<p>④地域生活支援事業 〔相談支援、移動支援・通学支援(ガイドヘルパー)、日中一時支援、意思疎通支援、地域活動支援センターでの創作や作業、補装具・日常生活用具〕</p>	<p>ガイドを利用する際、雨や天候によって使い勝手の悪い時もある。マンションのロビーはOKなど、規定を利用者目線にしてほしい。</p> <p>読書に使う音声機器で、必要な3級以上の人への対応。ICレコーダーの対応。</p> <p>相談事業所連絡会。計画作成希望者の振り分け会議。</p> <p>発達障害のある仲良しグループでの外出支援、移動支援を個人ではなくグループで利用できるようなイメージや、発達障害に特化した地域活動センターで、グループでの余暇活動ができるようなサービスがあれば利用したい。日中一時支援、移動支援などの地域生活支援事業と、生活介護、児童デイサービス等の事業を同じ場所、同じスタッフが行ってもらえるようなシステムになっていれば、新規場面が苦手な発達障害の方でも安心して移動支援や日中一時支援を利用できると思う。高校卒業後専門学校へ進学、就労した方へ継続的で総合的な相談支援、ケアマネジャーのようなイメージがあれば良いと思う。発達障害を主に支援する地域活動支援センターも作ってほしい。</p> <p>旅行や障害者親子キャンプ、泊りがけイベント等を企画してほしい。</p> <p>ガイドさんの報酬を増やす。</p>

サービスの区分	こんなサービスがあればよいと思うこと
	朝、手の空いている人を募って、グループを作って責任を持って学校まで付きそう。 自宅での見守り支援。
<p>⑤ 障害児支援 [児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援、医療型児童発達支援、福祉型児童入所支援、医療型児童入所支援、居宅訪問型児童発達支援、障害児相談支援事業]</p>	<p>障害対応を熟知している児童支援員がいる事業所や重度障害児の子たちにも障害の程度に合った方法でコミュニケーションを学ばせてくれる事業所を利用したい。</p> <p>放課後等デイサービスは本当にありがたいです。特に枚方市は日数も多い。障害児が気軽に遊びに行ける施設があれば嬉しい。図書館などに行くと「うるさい!」と怒られる。</p> <p>障害児支援に関しては、保健、医療、福祉、教育分野の連携が不可欠と考える。ケースバイケースでどの部門がイニシアティブをとるか様々だと思いが、必要なネットワークが構築されケース検討が成されることを願います。その場合のキーパーソンはどかが担うのか、また、4分野がそれぞれの専門性を活かしながら、対等の立場でチームを組んでほしいです。</p> <p>送迎の範囲を広げてもらえたり、市外の方も受け入れ可の事業所が増えてほしい。</p>
<p>⑥ 以下の施設における障害児受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所 ・ 幼稚園 ・ 認定こども園 ・ 留守家庭児童会室 	<p>留守家庭児童会室職員の待遇改善を。</p> <p>保育所における障害児受け入れはとても良いと思います。加配が5歳児のときには付かなかつたので、子ども次第でお願いしたいです。また、グレイズーンの子どもが障害児枠以外だった。</p> <p>病院に行つて遅れて行くと怒鳴られ、毎日毎日小言を言われ、やめてほしいのかと思ひました。〇〇保育所の〇〇先生ともうひとり、とても意地悪をされました。園長も先生の肩ばかり持ち、全然話を聞いてくれませんでした。</p> <p>社会に出た時、少しでも対応ができるよう、小さい頃から社会性を身につける訓練。一人で買い物、掃除、洗濯。野菜を洗う、料理を作る、食後の後片付け等、優しく指導してくれるところ。</p> <p>就学前であっても、クラブ活動や学童等学外であっても、介助員や看護師配置等、必要な支援をしてもらってどんな子どももみんなと一緒に育ってもらいたいです。</p>

(3) その他の補足意見

サービスの区分ごとにあげられた「その他の補足意見」をみると、訪問系サービス、居住系サービスについての意見が、前回平成29年調査と同様に多くあげられています。

とくに、施設の不足や、支援者の質の向上の必要性などが複数指摘されています。

サービスの区分	その他の補足意見
<p>①訪問系サービス [居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援]</p>	<p>どこの事業所が定員オーバーとか事前に把握して動きたい。けれども、最重度の子は体よく断られるので、最重度の人は何人入れる必要があるなど事業所に指導してほしい。</p> <p>個人的なことで申し訳ありません。17年家を空けることができずにいます。年に数回でも見守りサービスを受けたいと思い障害区分の認定を受けました。しかし、その後どう対処して良いのかわからずそのままになっています。</p> <p>通院するのに親が車で送迎。80歳過ぎて免許を返したいけど、通院のため運転をしている。</p> <p>どんな人でもいいという訳ではありません。一定の知識と人格を見極めて採用していただけると良いと思います。</p> <p>支援者の質の向上を求めます。事業所の乱立で利用者ヘルパーの取り合いになっている。</p>
<p>②日中活動系サービス [生活介護、自立訓練（機能訓練・生活訓練）、就労移行支援、就労継続支援（A型、B型）、療養介護、就労定着支援、自立生活援助]</p>	<p>大きな用事ではなく、ちょっと庭先の草引きとゴミを玄関先へ。障害者手帳がある者でないと頼めない。ちょっとした力仕事ができない。物が運べない。そんななんでも無い小さい用を助けてほしい。</p> <p>高齢化、重度化していくための施策を考えて。</p>
<p>③居住系サービス [短期入所、共同生活援助（グループホーム）、施設入所支援]</p>	<p>グループホームに入れたくても入れない人が多いです。施設建設、運営のために、市独自の補助金等お願いします。</p> <p>短期入所やグループホームが少なすぎる。レスパイトが必要な人に、必要なサービスが提供されていない。</p> <p>サービスを受け入れる施設がないこと。早く、多く、利用できる施設を作れるように支援が必要。</p> <p>グループホームを賃貸や新築で検討する際に、地域の住民からの反対運動が起こるケースが多い。差別解消法の遵守に向けて、市として啓発を図ってほしい。</p> <p>若くて元気なうちはグループホームが良いですが、親も本人も高齢になると、入所施設が必要かと思えます。障害者のための老人ホームのようなものが必要と思っています。グループホームの世話人さんの確保が大変と聞いています。</p>
<p>④地域生活支援事業 [相談支援、移動]</p>	<p>福祉に関わる方の人手不足。高齢者が多い。問題点の解決が必要だと思えます。</p>

サービスの区分	その他の補足意見
<p>支援・通学支援（ガイドヘルパー）、日中一時支援、意思疎通支援、地域活動支援センターでの創作や作業、補装具・日常生活用具]</p>	<p>相談支援というものがどう役に立っているのかが、あまりよく分からない。</p>
<p>⑤障害児支援 [児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援、医療型児童発達支援、福祉型児童入所支援、医療型児童入所支援、居宅訪問型児童発達支援、障害児相談支援事業]</p>	<p>管理者が変わり、その管理者に理解がない場合、環境の変化が生じそれまで積み上げてきたことを継続することが難しくなってしまったことがあります。事業所を変更したくても療育手帳A判定、中高生の年齢での児童デイサービス変更は難しいと感じる。放課後等デイサービス事業所の中に「重度であることへの理解者がいない」という理由で受け入れてくれない事業所があった。放課後等デイサービスは重度障害児を持つ家庭にはなくてはならない居場所のひとつなので、このようなことがあると困る。区分2と評価された事業所にもかかわらず、早く重度障害児を受け入れている事業所に加算をしてあげてほしい。サービス契約時作成の支援計画について、半年ごとに振り返りや保護者への報告が必要なはずだが、実施されていない事業者があると聞いた。</p> <p>当団体は市との委託契約で地域活動支援センター「皿型」を行っているが、障害者の活動の場としてはあまり周知されていないと考える。</p> <p>障害児支援は母親支援。とことん母親の心身の負担を軽くしてやる。</p>
<p>⑥以下の施設における障害児受入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所 ・幼稚園 ・認定こども園 ・留守家庭児童会室 	<p>親の理解を求める難しさも場合によりあるでしょうが、何より子どもの成長のためと一体になって育てていただきたいです。</p> <p>そのうち目眩がひどくなり治らなくなりました。そんな時でも優しい言葉をかけてくれませんでした。今も働いておられるのかわかりませんが、本当に地獄のような毎日でした。できればそういう先生には辞めていただきたいです。</p> <p>児童デイに傾倒している状況を分析するべき。留守家庭児童会も同様の支援策を講じ、選択に幅を広げるべき。</p>

